

Collaboration - Online Community
Management システム管理者ガイド

解説・手引・操作書

3020-3-H03-A0

■ 対象製品

P-2646-6364 Groupmax Collaboration Portal 07-91 (適用 OS : Windows Server 2012^{*}, Windows Server 2012 R2^{*}, Windows Server 2008 R2^{*}, Windows Server 2008 x64^{*}, Windows Server 2008 x86)

P-2746-E364 Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing 07-91 (適用 OS : Windows Server 2012^{*}, Windows Server 2012 R2^{*}, Windows Server 2008 R2^{*}, Windows Server 2008 x64^{*}, Windows Server 2008 x86)

P-2746-E464 Groupmax Collaboration Web Client - Mail/Schedule 07-91 (適用 OS : Windows Server 2012^{*}, Windows Server 2012 R2^{*}, Windows Server 2008 R2^{*}, Windows Server 2008 x64^{*}, Windows Server 2008 x86)

注※ WOW64 環境だけで使用できます。

■ 輸出時の注意

本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法の規制並びに米国輸出管理規則など外国の輸出関連法規をご確認の上、必要な手続きをお取りください。

なお、不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。

■ 商標類

Internet Explorer は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Oracle と Java は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。

Microsoft は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Microsoft Office および Excel は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

UNIX は、The Open Group の米国ならびに他の国における登録商標です。

Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windows Server は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

その他記載の会社名、製品名は、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

■ 発行

2015 年 4 月 3020-3-H03-A0

■ 著作権

All Rights Reserved. Copyright (C) 2004, 2015, Hitachi, Ltd.

変更内容

変更内容(3020-3-H03-A0) Groupmax Collaboration Portal 07-91, Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing 07-91, Groupmax Collaboration Web Client - Mail/Schedule 07-91

追加・変更内容	変更箇所
次の OS を対象製品の適用 OS に追加しました。 Windows Server 2012 R2	—

単なる誤字・脱字などはお断りなく訂正しました。

はじめに

このマニュアルは、Collaboration - Online Community Management の機能および使用方法について説明したものです。

■ 対象読者

Collaboration - Online Community Management を使用したシステムの環境を管理および運用する方（システム管理者またはシステムインテグレーター）を対象としています。なお、次に示す項目を熟知していることを前提としています。

- 使用する OS（Operating System）および Web ブラウザの操作
- Collaboration - Online Community Management の各機能および操作（マニュアル「Collaboration - Online Community Management ユーザーズガイド」をお読みください）

■ マニュアルの構成

このマニュアルは、次に示す章と付録から構成されています。

第 1 章 Collaboration - Online Community Management の概要

Collaboration - Online Community Management の概要およびシステム構成について説明しています。

第 2 章 Collaboration - Online Community Management の環境設定

Collaboration - Online Community Management を使用するために必要な環境設定について説明しています。

第 3 章 Collaboration - Online Community Management の運用

システム管理者およびシステム運用者に権限が与えられている機能に関する操作方法について説明しています。

第 4 章 [コミュニティ管理] ポートレットの画面

[コミュニティ管理] ポートレットの画面について説明しています。

第 5 章 運用コマンド

Collaboration - Online Community Management の運用（システム情報の設定、各アプリケーションの登録・削除、ユーザ・メンバに関する情報の管理など）で使用するコマンドについて説明しています。

第 6 章 プロパティファイルとバッチファイル

プロパティファイルおよびバッチファイルについて説明しています。

第 7 章 コマンド定義ファイル

各コマンドの実行によってデータベースに設定される値を定義しておくコマンド定義ファイルについて説明しています。

第 8 章 Collaboration - Online Community Management の障害対策

Collaboration - Online Community Management の障害対策について説明しています。

付録 A インストールディレクトリ構成

Collaboration - Online Community Management のインストールディレクトリ構成について説明しています。

付録 B モデルケースごとのデータベース容量

モデルケースごとの RD エリア、テーブル、およびインデクスの容量について説明しています。

付録 C データベース容量の見積もりで使用する値

データベース容量を見積もる際に使用する値について説明しています。

はじめに

付録 D 使用できる文字種

Collaboration - Online Community Management で使用できる文字種について説明しています。

付録 E Collaboration - Online Community Management の監査ログ

Collaboration - Online Community Management が対象としている監査事象, および監査ログが出力される操作とコマンドについて説明しています。

付録 F コマンド実行時に出力されるメッセージ

Collaboration - Online Community Management のコマンド実行時に出力されるメッセージについて説明しています。

付録 G 監査ログのメッセージ

監査ログに出力されるメッセージについて説明しています。

付録 H 用語解説

Collaboration - Online Community Management の用語について説明しています。

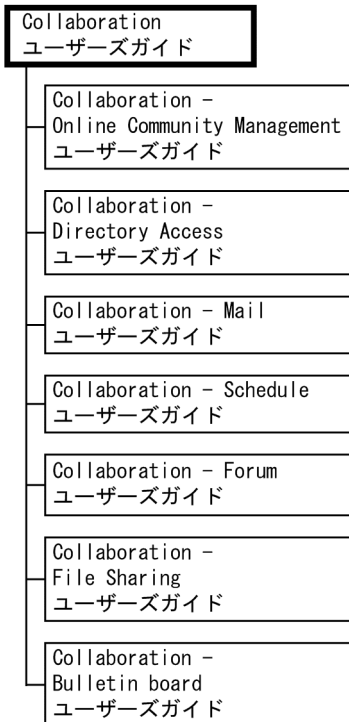
■ 関連マニュアル

Collaboration のマニュアル体系を次に示します。

- Collaborationがどのようなものか、イメージをつかみたいときに

Collaboration
ファーストステップガイド

- 機能概要や操作方法を知りたいときに

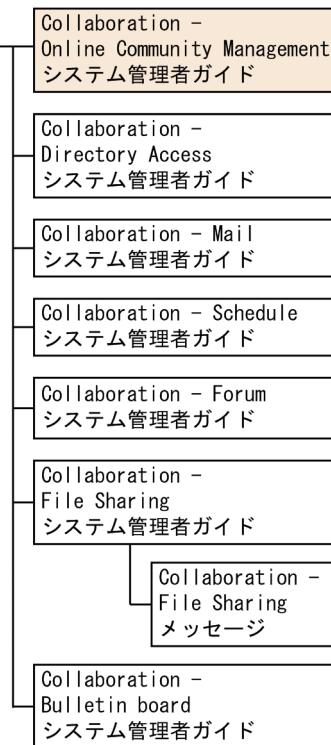


- システムの構築や環境設定の方法を知りたいときに

Collaboration
導入ガイド

- システムの移行方法を知りたいときに

Collaboration
移行ガイド



(凡例)

■ : Collaboration共通、またはCollaboration全体の情報を記載しているマニュアルを示します。

□ : Collaborationのコンポーネントごとの情報を記載しているマニュアルを示します。

Collaboration のマニュアルおよびその他の関連マニュアルを次に示します。必要に応じてお読みください。

Collaboration ファーストステップガイド (3020-3-H02)

Collaboration 製品を初めてお使いいただく方のためのご紹介マニュアルです。Collaboration でできることや、ポートレットの基本的な使用方法について説明しています。

Collaboration ユーザーズガイド (3020-3-H22)

Collaboration の概要、ログイン・ログアウトおよび画面のレイアウト変更の操作方法について説明しています。また、トップメニュー、ナビゲーションビュー、[新着情報] ポートレット、[リンク集] ポートレットの機能および操作方法について説明しています。

Collaboration 導入ガイド (3020-3-H01)

Collaboration 製品を導入するための、システム構築、環境設定、および運用方法について説明しています。

Collaboration 移行ガイド (3020-3-H44)

Collaboration のシステムの移行方法について説明しています。

エンドユーザ向けマニュアル

Collaboration - Online Community Management ユーザーズガイド (3020-3-H04)

コミュニティ管理の機能および操作方法について説明しています。

Collaboration - Directory Access ユーザーズガイド (3020-3-H06)

ユーザ検索の機能および操作方法について説明しています。

Collaboration - Mail ユーザーズガイド (3020-3-H08)

メールの機能および操作方法について説明しています。

Collaboration - Schedule ユーザーズガイド (3020-3-H10)

スケジュールの機能および操作方法について説明しています。

Collaboration - Forum ユーザーズガイド (3020-3-H12)

電子会議室の機能および操作方法について説明しています。

Collaboration - File Sharing ユーザーズガイド (3020-3-H15)

ファイル共有の機能および操作方法について説明しています。

Collaboration - Bulletin board ユーザーズガイド (3020-3-H24)

電子掲示板の機能および操作方法について説明しています。

システム管理者向けマニュアル

Collaboration - Directory Access システム管理者ガイド (3020-3-H05)

ユーザ検索を利用するための環境設定および運用方法について説明しています。

Collaboration - Mail システム管理者ガイド (3020-3-H07)

メールを利用するための環境設定および運用方法について説明しています。

Collaboration - Schedule システム管理者ガイド (3020-3-H09)

スケジュールを利用するための環境設定および運用方法について説明しています。

Collaboration - Forum システム管理者ガイド (3020-3-H11)

電子会議室を利用するための環境設定および運用方法について説明しています。

Collaboration - File Sharing システム管理者ガイド (3020-3-H13)

ファイル共有を利用するための環境設定および運用方法について説明しています。

Collaboration - File Sharing メッセージ (3020-3-H14)

ファイル共有のメッセージの形式、メッセージおよび対処方法について説明しています。

Collaboration - Bulletin board システム管理者ガイド (3020-3-H23)

電子掲示板を利用するための環境設定および運用方法について説明しています。

その他のマニュアル

Cosminexus V9 アプリケーションサーバ システム構築運用ガイド (3020-3-Y02)

Cosminexus のアプリケーションサーバの構築について説明しています。

Cosminexus V9 アプリケーションサーバ アプリケーション設定操作ガイド (3020-3-Y13)

Cosminexus のアプリケーションサーバの設定方法および操作方法について説明しています。

ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用) (3020-6-452)

HiRDB のシステムの構築方法、データベースの作成方法およびシステムとデータベースの設計方法について説明しています。

ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム定義 (Windows(R)用) (3020-6-453)

HiRDB のシステム定義について説明しています。

ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム運用ガイド (Windows(R)用) (3020-6-454)

HiRDB のシステム運用方法について説明しています。

ノンストップデータベース HiRDB Version 9 コマンドリファレンス(Windows(R)用) (3020-6-455)

HiRDB で使用するコマンドの文法について説明しています。

ノンストップデータベース HiRDB Version 9 UAP 開発ガイド (3020-6-456)

HiRDB のデータベース言語である SQL を使用して、ユーザアプリケーションプログラムを開発するための基礎技術、および HiRDB クライアントの環境設定について説明しています。

DABroker for Java™ Version 2 DABroker Driver for Java™ Technology (3020-6-056)

DABroker for Java の機能と使い方について説明しています。

■ 読書手順

このマニュアルは、利用目的に合わせて次の個所をお読みいただくことをお勧めします。

マニュアルを読む目的	記述箇所
Collaboration - Online Community Management の概要について知りたい	1 章
Collaboration - Online Community Management の環境設定について知りたい	2 章, 6 章, 7 章, 付録 A
[コミュニティ管理] ポートレットの操作方法について知りたい	3 章
[コミュニティ管理] ポートレットの画面について知りたい	4 章
Collaboration - Online Community Management の運用コマンドについて知りたい	5 章, 7 章
Collaboration - Online Community Management のプロパティファイルについて知りたい	6 章
Collaboration - Online Community Management のコマンド定義ファイルについて知りたい	7 章
Collaboration - Online Community Management の障害対策について知りたい	8 章
モデルケースごとの RD エリア, テーブル, およびインデクスの容量について知りたい。	付録 B
データベース容量を見積もる際に使用する値について知りたい	付録 C
Collaboration - Online Community Management で使用できる文字種について知りたい	付録 D
Collaboration - Online Community Management の監査ログについて知りたい	付録 E
Collaboration - Online Community Management のメッセージについて知りたい	付録 F
監査ログに出力されるメッセージについて知りたい	付録 G
Collaboration - Online Community Management の用語について知りたい	付録 H

■ このマニュアルでの表記

このマニュアルでは、製品名称を次に示す略称で表記しています。

正式名称	略称
J2EE(TM)	J2EE
Microsoft(R) Office Excel	Microsoft Excel
• Microsoft(R) Windows(R) Internet Explorer(R) 8	Internet Explorer

正式名称	略称
<ul style="list-style-type: none"> Microsoft(R) Windows(R) Internet Explorer(R) 9 Microsoft(R) Windows(R) Internet Explorer(R) 11 	Internet Explorer
<ul style="list-style-type: none"> Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise 32-bit 日本語版 Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard 32-bit 日本語版 	Windows Server 2008 x86
<ul style="list-style-type: none"> Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise 日本語版 Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard 日本語版 	Windows Server 2008 x64
<ul style="list-style-type: none"> Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Enterprise 日本語版 Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Standard 日本語版 	Windows Server 2008 R2
<ul style="list-style-type: none"> Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Datacenter 日本語版 Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Standard 日本語版 	Windows Server 2012
<ul style="list-style-type: none"> Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 R2 Datacenter 日本語版 Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 R2 Standard 日本語版 	Windows Server 2012 R2
次の製品のユティリティ機能 <ul style="list-style-type: none"> Groupmax Collaboration Portal Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing Groupmax Collaboration Web Client - Mail/Schedule 	Collaboration - Common Utility

このマニュアルでは、特に断りのない場合は、Windows Server 2008 R2、Windows Server 2008 x64、Windows Server 2008 x86、Windows Server 2012、および Windows Server 2012 R2 を総称して Windows と表記しています。

■ このマニュアルで使用する英略語

このマニュアルで使用する主な英略語を次に示します。

英略語	説明
GUI	<u>G</u> raphical <u>U</u> ser <u>I</u> nterface
LDAP	<u>L</u> ightweight <u>D</u> irectory <u>A</u> ccess <u>P</u> rotocol
OS	<u>O</u> perating <u>S</u> ystem
RAS	<u>R</u> eliability, <u>A</u> vailability, <u>S</u> erviceability
UAC	<u>U</u> ser <u>A</u> ccount <u>C</u> ontrol
UID	<u>U</u> ser <u>I</u> D
URL	<u>U</u> niform <u>R</u> esource <u>L</u> ocator
Web	World Wide <u>W</u> eb
WOW64	<u>W</u> indows <u>O</u> n <u>W</u> indows <u>6</u> 4

■ 操作方法の説明で使用する記号

このマニュアルでは、次に示す記号を使用して操作方法を説明しています。

記号	意味
[]	メニュー、コマンド、ウィンドウ、ダイアログの名称、ボタンおよびキーボードのキーを示します。
[A] - [B]	ーの前に示した [A] メニューから [B] コマンドを選択することを示します。
[]	ユーザが指定する内容を示します。

■ 構文の説明で使用する記号

このマニュアルでは、次に示す記号を使用して構文を説明しています。

記号	意味
	横に並べられた複数の項目に対する項目間の区切りを示し、「または」の意味を表します。 (例) A B A または B を指定することを示します。
{ }	この記号で囲まれている複数の項目のうちから一つを選択することを意味します。項目が横に並べられ、記号 で区切られている場合は、そのうちの一つを選択します。 (例) { A B C } A, B, または C のどれかを指定することを示します。
[]	この記号で囲まれている項目は省略してよいことを意味します。複数の項目が横に並べて記述されている場合は、すべてを省略するか、記号 { } と同じくどれか一つを選択します。 (例 1) [A] 「何も指定しない」か「A を指定する」ことを示します。 (例 2) [B C] 「何も指定しない」か「B または C を指定する」ことを示します。
出力ファイル名	文字列が斜体になっている項目は、可変の文字列を表します。

■ 図中で使用する記号

このマニュアルの図中で使用する記号を、次のように定義します。

● プログラム



● 画面の表示、マシンの中身



● ノートPC



● 作業項目の流れ



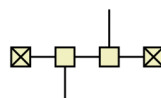
● データの流れ



● その他の流れ



● LAN



● ユーザ



■ このマニュアルでのマウスの操作方法の表記

このマニュアルでは、マウスの操作方法の表記を次のように定義しています。

マウスの操作	意味
クリック	右手用に設定したマウスの場合、左ボタンを押すことを示します。 左手用に設定したマウスの場合、右ボタンを押すことを示します。
右クリック	右手用に設定したマウスの場合、右ボタンを押すことを示します。 このマニュアルでは、右手用のマウスの設定に合わせた表記をしています。 左手用に設定したマウスの場合は、左ボタンを押す「左クリック」に読み替えてください。

■ 常用漢字以外の漢字の使用について

このマニュアルでは、常用漢字を使用することを基本としていますが、次に示す用語については、常用漢字以外の漢字を使用しています。

宛（あて） 個所（かしよ） 誰（だれ） 必須（ひつす）

■ KB（キロバイト）などの単位表記について

1KB（キロバイト）、1MB（メガバイト）、1GB（ギガバイト）、1TB（テラバイト）はそれぞれ 1,024 バイト、1,024² バイト、1,024³ バイト、1,024⁴ バイトです。

目次

1	Collaboration - Online Community Management の概要	1
1.1	Collaboration - Online Community Management とは	2
1.1.1	コミュニティとワークスペース, ワークスペースビュー	4
1.1.2	コミュニティで使用する役割	5
1.1.3	コミュニティテンプレート	6
1.1.4	コミュニティのユーザ	7
1.1.5	コミュニティメンバの登録	8
1.1.6	システム管理者とシステム運用者	9
1.1.7	コミュニティカテゴリ	10
1.1.8	他ポートレットとの連携	11
1.1.9	画面に表示される言語について	11
1.2	Collaboration - Online Community Management のシステム構成	12
2	Collaboration - Online Community Management の環境設定	13
2.1	Collaboration - Online Community Management の環境設定の流れ	14
2.2	データベースサーバの構築	15
2.2.1	データベース容量の見積もり	15
2.2.2	RD エリアの設計	15
2.2.3	RD エリアの容量計算	16
2.2.4	グローバルバッファの計算と目安	19
2.2.5	SQL オブジェクト用バッファ長の見積もり	20
2.2.6	HiRDB ファイルシステム領域の見積もり	20
2.2.7	テーブル定義ファイルの作成	21
2.2.8	テーブルの生成	21
2.3	インストール	25
2.4	環境変数グループの登録	26
2.5	J2EE Resources のデータベースへの指定	27
2.6	プロパティファイルの設定	28
2.7	データベースサーバの設定	30
2.7.1	システム情報 (システムポリシー) の登録	30
2.7.2	アプリケーション情報の登録	30
2.7.3	コミュニティテンプレート情報の登録	30
2.7.4	ワークスペーステンプレート情報の登録	31
2.7.5	共通の役割情報の登録	31
2.8	システム管理者の登録	32

3	Collaboration - Online Community Management の運用	33
3.1	メニューの表示	34
3.2	コミュニティテンプレートの参照	36
3.2.1	コミュニティテンプレート一覧の表示	36
3.2.2	コミュニティテンプレートの設定内容の参照	36
3.3	共通の役割の参照	37
3.3.1	共通の役割一覧の表示	37
3.3.2	共通の役割の設定内容の参照	37
3.4	コミュニティカテゴリの操作	38
3.4.1	コミュニティカテゴリの表示	38
3.4.2	コミュニティカテゴリの設定内容の表示	38
3.4.3	コミュニティカテゴリの作成	38
3.4.4	コミュニティカテゴリの変更	39
3.4.5	コミュニティカテゴリの削除	39
3.5	システムの管理者および運用者に関する操作	41
3.5.1	システム管理者および運用者一覧の表示	41
3.5.2	システム管理者および運用者の検索	41
3.5.3	システム管理者および運用者の登録	41
3.5.4	システム管理者および運用者の情報の参照	42
3.5.5	システム管理者および運用者の登録内容の変更	42
3.5.6	システム管理者および運用者の削除	43
3.6	ユーザに関する操作	44
3.6.1	ユーザの検索	44
3.6.2	ユーザの作成	44
3.6.3	ユーザ情報の参照	45
3.6.4	ユーザ情報の変更	45
3.6.5	ユーザの削除	46
3.7	システムポリシーに関する操作	47
3.7.1	システムポリシーの参照	47
3.7.2	システムポリシーの変更	47
4	[コミュニティ管理] ポートレットの画面	49
4.1	メニュー	50
4.2	コミュニティテンプレート関連の画面	52
4.2.1	[テンプレート一覧] 画面	52
4.2.2	[テンプレート情報] 画面 (基本情報)	53
4.2.3	[テンプレート情報] 画面 (コミュニティポリシー)	53
4.3	共通の役割関連の画面	55
4.3.1	[共通の役割一覧] 画面	55

4.3.2	[共通の役割情報] 画面	56
4.4	コミュニティカテゴリ関連の画面	57
4.4.1	[コミュニティカテゴリ] 画面	57
4.4.2	[コミュニティカテゴリ情報] 画面	58
4.4.3	[コミュニティカテゴリ作成] 画面	58
4.4.4	[コミュニティカテゴリ変更] 画面	60
4.5	システム管理者および運用者関連の画面	62
4.5.1	[システム管理者・運用者] 画面	62
4.5.2	[システム管理者・運用者検索] 画面	63
4.5.3	[システム管理者・運用者登録] 画面	64
4.5.4	[ユーザを探す] 画面 (簡易検索)	66
4.5.5	[ユーザを探す] 画面 (詳細検索)	68
4.5.6	[ユーザを探す] 画面 (ツリー表示)	70
4.5.7	コミュニティの一覧	72
4.5.8	コミュニティメンバの一覧	72
4.5.9	[システム管理者・運用者情報] 画面	75
4.5.10	[システム管理者・運用者変更] 画面	75
4.6	ユーザ操作関連の画面	77
4.6.1	[ユーザ検索] 画面	77
4.6.2	[一般ユーザ] 画面	78
4.6.3	[ユーザ作成] 画面	80
4.6.4	[ユーザ情報] 画面	81
4.6.5	[ユーザ変更] 画面	82
4.7	システムポリシー関連の画面	84
4.7.1	[システムポリシー] 画面	84
4.7.2	[システムポリシー変更] 画面	85

5

運用コマンド	87
5.1 コマンド一覧	88
5.2 各コマンドに共通の条件および規則	89
5.3 各コマンドの詳細	94
set_system (システム情報の設定)	94
set_application (アプリケーションの登録・削除)	97
set_template (コミュニティテンプレートの追加)	100
set_worktemplate (ワークプレーステンプレートの追加)	103
set_role (ロールの追加)	106
set_member (ユーザの一括登録・変更)	109
del_member (ユーザおよびメンバの一括削除)	112
del_record (レコードの削除)	115
get_community (コミュニティ情報一覧の出力)	119

6	プロパティファイルとバッチファイル	125
6.1	プロパティファイルの一覧	126
6.2	プロパティファイルの記述形式	132
6.3	プロパティファイルのサンプルファイル	133
6.4	バッチファイル	134
7	コマンド定義ファイル	137
7.1	コマンド定義ファイルの記述方法	138
7.2	各コマンド定義ファイルの詳細	140
7.2.1	システム情報定義ファイル (set_system.cfg)	140
7.2.2	アプリケーションリストファイル (set_application.cfg)	141
7.2.3	テンプレート定義ファイル (set_template.cfg)	143
7.2.4	ワークプレーステンプレート定義ファイル (set_worktemplate.cfg)	148
7.2.5	共通の役割定義ファイル (set_role.cfg)	150
7.2.6	登録・変更ユーザー一覧ファイル (set_member.cfg)	154
7.2.7	削除ユーザー一覧ファイル (del_member.cfg)	156
7.2.8	削除メンバー一覧ファイル	157
7.2.9	バックアップファイル	158
7.2.10	コミュニティ情報一覧ファイル	158
7.2.11	RD エリア用制御文ファイル (hptl_clb_ccm_rdarea_s.def/hptl_clb_ccm_rdarea_p.def)	159
7.2.12	テーブル定義ファイル (hptl_clb_ccm_table.sql)	159
8	Collaboration - Online Community Management の障害対策	161
8.1	バックアップとリストア	162
8.1.1	データベースの共通リソースのバックアップ	162
8.1.2	Collaboration - Online Community Management のデータのバックアップ	162
8.1.3	コミュニティ情報一覧の出力	162
8.1.4	リストア	162
8.2	RAS 用 Conf ファイルの設定	164
	付録	165
	付録 A インストールディレクトリ構成	166
	付録 B モデルケースごとのデータベース容量	168
	付録 B.1 モデルケースごとの RD エリアの容量	170
	付録 B.2 モデルケースごとのテーブルおよびインデクスのセグメント数	171
	付録 C データベース容量の見積もりで使用する値	187
	付録 C.1 容量見積もりの前提条件	187
	付録 C.2 値の説明で使用する記号	187

付録 C.3 ユーザ用 RD エリアの容量見積もりで使用する値	189
付録 C.4 表の格納ページ数の見積もりで使用する値	190
付録 C.5 インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する値	214
付録 D 使用できる文字種	228
付録 E Collaboration - Online Community Management の監査ログ	229
付録 E.1 監査ログが出力される操作	230
付録 E.2 監査ログが出力されるコマンド	232
付録 E.3 監査ログに出力されるオブジェクト情報と動作情報	234
付録 F コマンド実行時に出力されるメッセージ	237
付録 F.1 メッセージの形式	237
付録 F.2 メッセージ一覧	238
付録 G 監査ログのメッセージ	247
付録 G.1 監査ログのメッセージの記載形式	247
付録 G.2 監査ログのメッセージの詳細	248
付録 G.3 監査ログに出力される値の一覧	265
付録 H 用語解説	276

索引

1

Collaboration - Online Community Management の概 要

この章では、Collaboration - Online Community Management の概要およびシステム構成について説明します。

1.1 Collaboration - Online Community Management とは

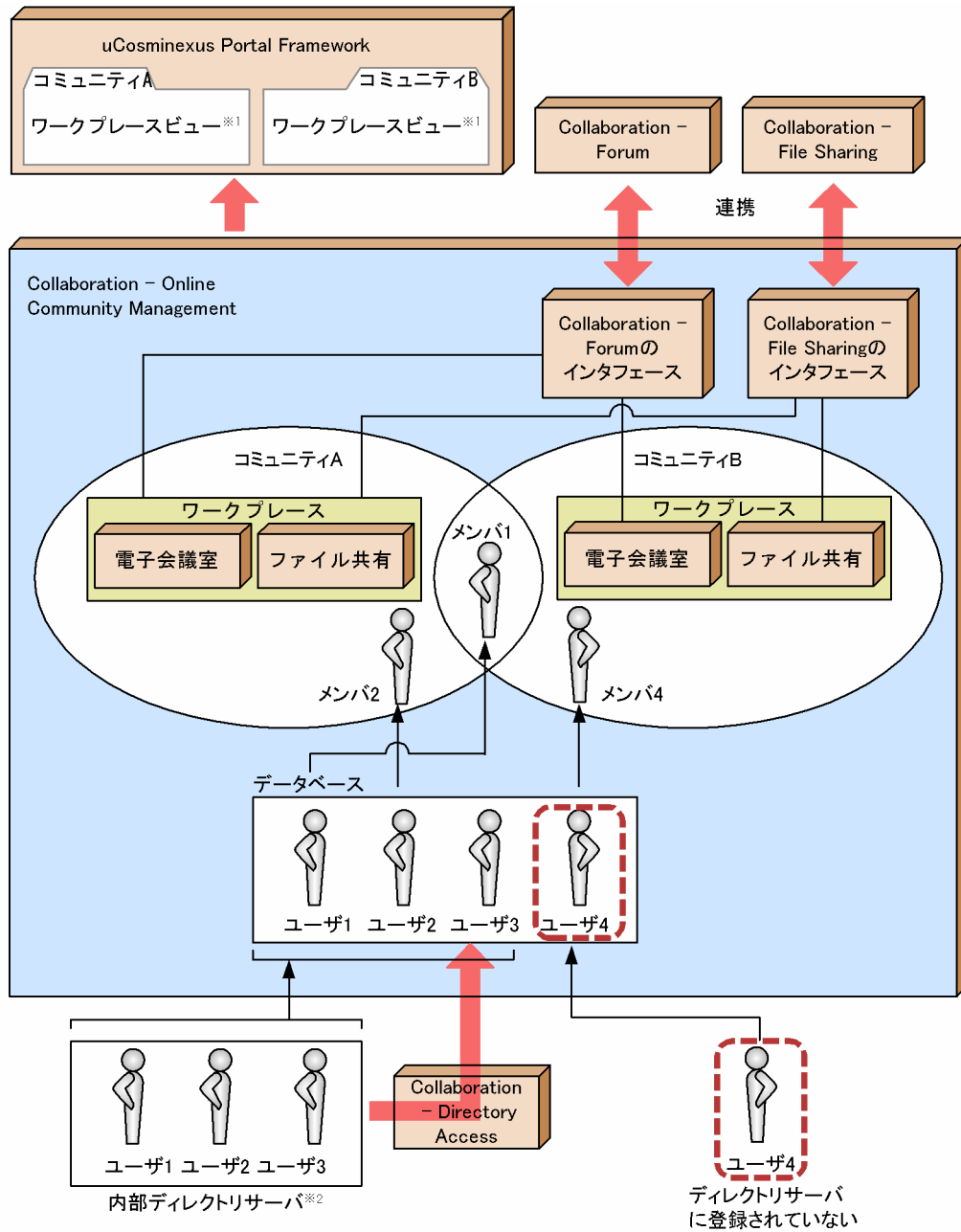
Collaboration は、同じ目的や問題意識を持つ人が既存の組織を越えて集まり、協働作業の場所で情報を共有・交換して業務を進めていくための製品です。Collaboration では、この「同じ目的を持つ人の集まり」をコミュニティ、「協働作業の場所」をワークスペースといいます。また、コミュニティに参加しているユーザをコミュニティメンバといいます。

Collaboration - Online Community Management は、このコミュニティ、ワークスペースやコミュニティメンバなどを管理するコンポーネントです。

Collaboration - Online Community Management を利用することで、円滑に人と人とのコミュニケーションを図れるだけでなく、Collaboration のそのほかのコンポーネントと連携することで、プロジェクトを迅速かつ効率的に進められます。

Collaboration - Online Community Management のシステムの概要を次に示します。

図 1-1 Collaboration - Online Community Management のシステムの概要



注※1 ワークスペースの情報を基に、Collaborationのアプリケーションを使いやすいようにレイアウトしたユーザインターフェースのことです。
 注※2 イン트라ネット内のディレクトリサーバのことです。

図の説明

- ユーザ 1～3：内部のディレクトリサーバに登録されている人です。Collaboration - Directory Access を使うと、ドラッグ&ドロップでユーザ情報を登録できます。コミュニティのメンバになります。
- ユーザ 4：ディレクトリサーバに登録されていない人です。ディレクトリサーバに登録されていなくても Collaboration - Online Community Management のデータベースに登録できるので、コミュニティのメンバになります。

- メンバ 1：ユーザ 1 が同時にコミュニティ A とコミュニティ B のメンバになった例です。
- メンバ 2：ユーザ 2 がコミュニティ A のメンバになった例です。
- メンバ 4：ユーザ 4 がコミュニティ B のメンバになった例です。

なお、外部の人とコラボレーションする場合は、内部の Collaboration 環境とは別に外部用の Collaboration 環境を構築し、外部の人とコラボレーションする人を登録するディレクトリサーバを設置します。このディレクトリサーバに、外部の人とやり取りする内部ディレクトリユーザを登録してください。

監査ログの出力

ユーザが [コミュニティ管理] ポートレットに対して実行した操作やコマンドの履歴が監査ログに出力されます。監査ログの概要や設定方法については、マニュアル「Collaboration 導入ガイド」を参照してください。

監査ログが出力される操作、および監査ログのメッセージについては、次の個所を参照してください。

- 付録 E Collaboration - Online Community Management の監査ログ
- 付録 G 監査ログのメッセージ

以降では、Collaboration - Online Community Management を使用する上で知っておいてほしい概念について説明します。

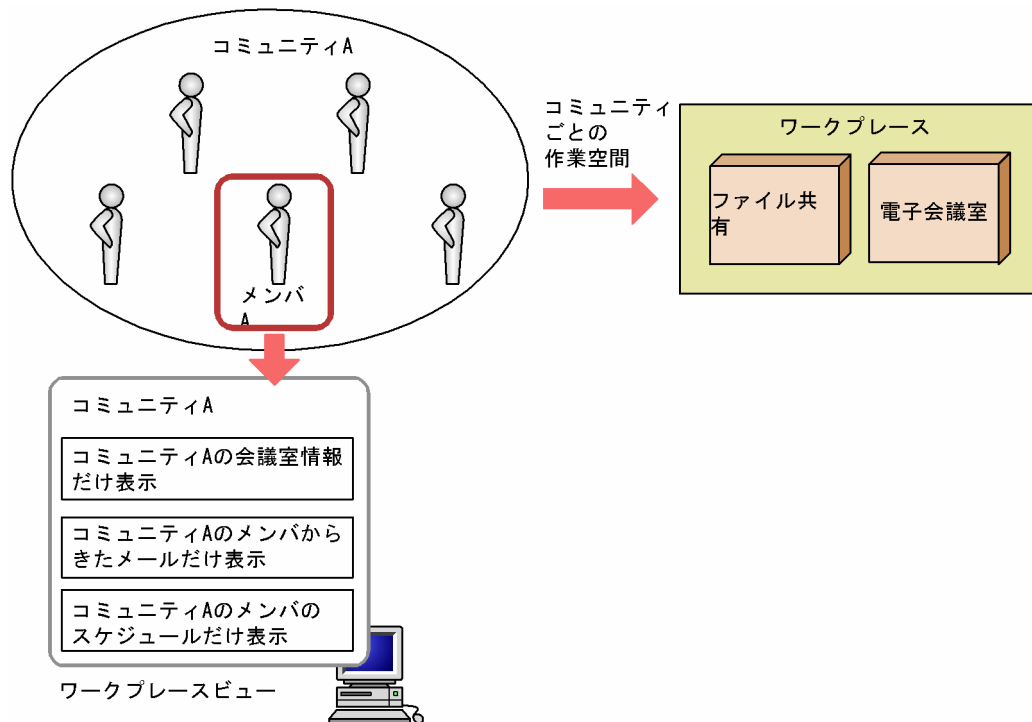
1.1.1 コミュニティとワークスペース, ワークスペースビュー

コミュニティごとに、専用のワークスペースを設定できます。ワークスペースには、コミュニティで使用できるアプリケーションが登録されています。

ワークスペースの情報を基に、アプリケーション（ポートレット）を使いやすいようにレイアウトしたユーザインタフェースをワークスペースビューといいます。

コミュニティ、ワークスペース、およびワークスペースビューの関係を次に示します。

図 1-2 コミュニティ、ワークスペース、およびワークスペースビューの関係



1.1.2 コミュニティで使用する役割

コミュニティ内の活動を円滑に進めるために、コミュニティメンバに役割を設定します。役割は、一人のメンバに複数設定できます。役割には、コミュニティを利用するための役割とコミュニティを管理するための役割があります。

コミュニティを利用するための役割

コミュニティを利用するための役割には、システム全体で共通の役割としてリーダー、メンバ、およびオブザーバがあります。また、これらの共通の役割のほかに、コミュニティ内だけで有効な役割を作成することもできます。ここで割り当てた役割によって、電子会議室やファイル共有でのアクセス権を制御できます。

コミュニティを管理するための役割

コミュニティを管理するための役割には、コミュニティ管理者およびコミュニティ運用者があります。コミュニティ管理者およびコミュニティ運用者は、コミュニティを運用する上でどのような権限をどのユーザが持つかを設定します。例えば、「コミュニティにメンバを登録できる権限をコミュニティ管理者およびコミュニティ運用者に持たせる」といった設定をします。このように、コミュニティを運用するための権限をどのユーザが持つかを設定したものをコミュニティポリシーといいます。

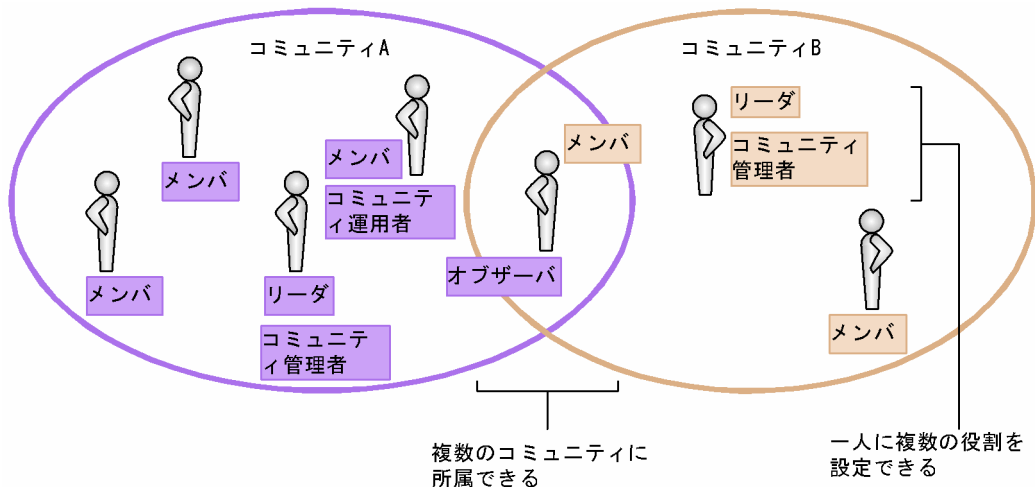
コミュニティ管理者およびコミュニティ運用者は、コミュニティポリシーを変更する権限を持ちます。また、コミュニティ管理者は、コミュニティ管理者およびコミュニティ運用者を任命する権限を持ちます。

コミュニティを作成したユーザが、最初のコミュニティ管理者となります。

なお、ログインユーザがコミュニティ管理者の場合、自分自身のコミュニティ管理者の役割を解除することはできません。

コミュニティでの役割の割り当てを次に示します。

図 1-3 コミュニティでの役割の割り当て



1.1.3 コミュニティテンプレート

Collaboration - Online Community Management では、コミュニティを新規に作成する場合のひな形としてコミュニティテンプレートを用意しています。コミュニティテンプレートには、コミュニティポリシーやワークスペースなどの必要な情報が設定されています。このため、コミュニティ名を設定するだけでコミュニティを作成できます。

コミュニティテンプレートには、次の種類があります。

管理者主導型

コミュニティ管理者がすべての権限を持ってコミュニティを運営するタイプです。メンバの追加および削除の権限もコミュニティ管理者およびコミュニティ運用者だけが持ちます。最初のコミュニティ管理者には、コミュニティの作成者が登録されます。

現場主導型

すべてのメンバが対等で、メンバ全員で運営するタイプです。メンバの追加および削除の権限をメンバ全員が持ちます。最初のコミュニティ管理者には、コミュニティの作成者が登録されます。

自由参加型

コミュニティへの参加や脱退が、個人に任されているタイプで、メンバではない人も自由に参加できます。メンバの追加および削除の権限をメンバ全員が持ちます。特別な場合を除き、コミュニティ管理者が何もしなくてもコミュニティは運営されます。最初のコミュニティ管理者には、コミュニティの作成者が登録されます。

それぞれのコミュニティテンプレートに設定されているコミュニティポリシーを次に示します。

表 1-1 コミュニティテンプレートに設定されているコミュニティポリシー

コミュニティポリシー	コミュニティテンプレート		
	管理者主導型	現場主導型	自由参加型
コミュニティにメンバを登録できる人	コミュニティ管理者 コミュニティ運用者	コミュニティ管理者 コミュニティ運用者 コミュニティメンバ	コミュニティ管理者 コミュニティ運用者 また、自分から参加できます。

コミュニティポリシー	コミュニティテンプレート		
	管理者主導型	現場主導型	自由参加型
コミュニティからメンバを削除できる人	コミュニティ管理者 コミュニティ運用者	コミュニティ管理者 コミュニティ運用者 コミュニティメンバ ただし、コミュニティ管理者 およびコミュニティ運用者 を削除することはできません。	コミュニティ管理者 コミュニティ運用者 また、自分から脱退できます。
コミュニティを公開する対象者	コミュニティメンバ	コミュニティメンバ	誰が見てもよい
コミュニティメンバに役割を割り当てられる人	コミュニティ管理者 コミュニティ運用者	コミュニティ管理者 コミュニティ運用者 コミュニティメンバ	コミュニティ管理者 コミュニティ運用者 コミュニティメンバ ただし、コミュニティメンバ の場合は自分に対してだけ できます。
コミュニティ内の役割を作成・変更・削除できる人	コミュニティ管理者 コミュニティ運用者	コミュニティ管理者 コミュニティ運用者	コミュニティ管理者 コミュニティ運用者

1.1.4 コミュニティのユーザ

Collaboration - Online Community Management では、次の種類のユーザをコミュニティのメンバとして登録できます。

内部ディレクトリユーザ

内部ディレクトリサーバ（社内ユーザ用のディレクトリサーバ）に登録されているユーザです。
内部ディレクトリサーバで認証してポータルにログインできます。

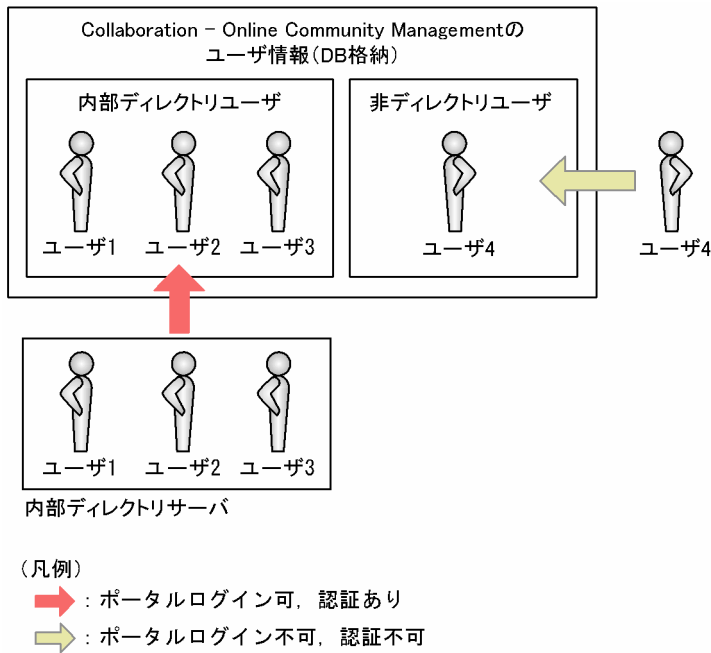
非ディレクトリユーザ

ディレクトリサーバに登録されていないユーザです。
システム管理者またはシステム運用者がユーザの情報を設定して、Collaboration - Online Community Management のデータベースに登録しておきます。
認証できないのでポータルにログインできませんが、Collaboration - Online Community Management のデータベースに登録できるので、コミュニティのメンバになれます。

Collaboration - Online Community Management では、ユーザを識別する ID として **ユニーク ID** を設定します。ユニーク ID は一意になるように設定します。例えば、内部ディレクトリユーザの場合は UID、非ディレクトリユーザの場合はメールアドレスなどを設定します。

Collaboration - Online Community Management で扱うユーザを次に示します。

図 1-4 Collaboration - Online Community Management で扱うユーザ



1.1.5 コミュニティメンバの登録

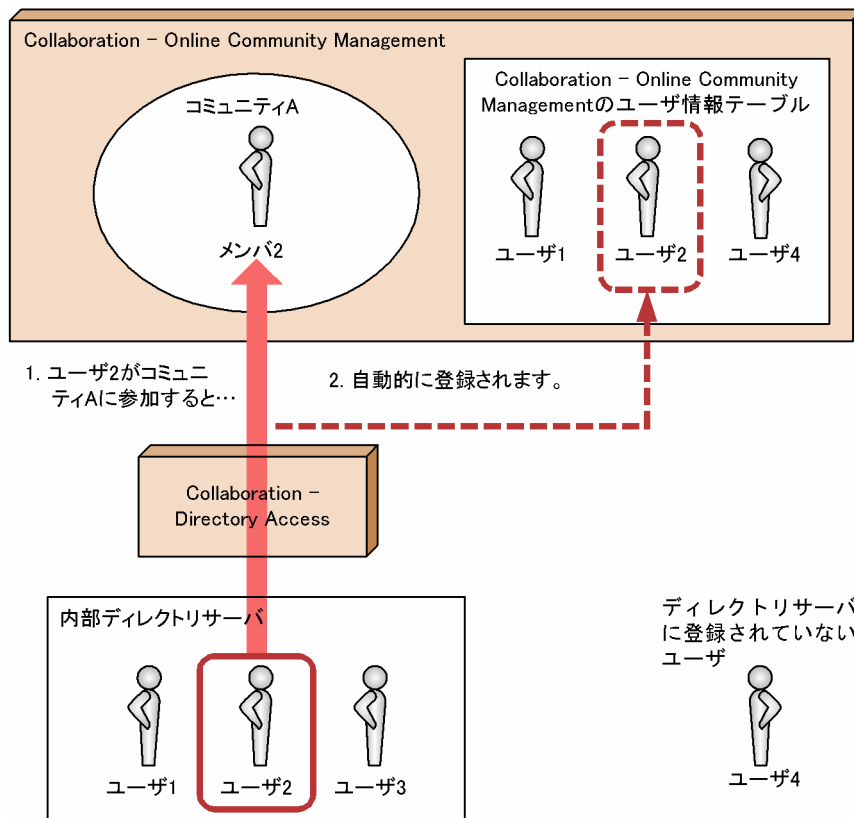
ディレクトリサーバに登録されているユーザを Collaboration - Directory Access を使ってコミュニティメンバとして登録すると, Collaboration - Online Community Management のデータベースサーバに登録されていないユーザも自動的に登録されます。

なお、一つのコミュニティには、ユーザを 1,000 人まで登録できます。1,000 人を超えて登録した場合は動作は保証されません。また、一つのコミュニティに多数のメンバを登録した場合は、主に次のような影響があります。

- コミュニティのメンバー一覧の表示やソートは、コミュニティに登録されているメンバ数に応じて時間が掛かります。
- 一度に複数のメンバをコミュニティに追加する場合は、メンバ数に応じて追加に時間が掛かります。
- [スケジュール] ポートレットのメンバの予定画面の表示は、コミュニティに登録されているメンバ数に応じて時間が掛かります。
- 宛先台帳やメールの宛先へのメンバの登録は、登録するメンバ数に応じて時間が掛かります。多数のメンバを登録した場合、時間が掛かるため処理を続行するかどうかを問い合わせるメッセージが表示されます。なお、一度にメールを送信できる数は、256 人までです。

コミュニティへの参加とユーザ登録の関係を次に示します。

図 1-5 コミュニティへの参加とユーザ登録の関係



1.1.6 システム管理者とシステム運用者

システムを管理するユーザとしてシステム管理者とシステム運用者があります。

システム管理者およびシステム運用者は、システムを管理する上で、どのような権限をどのユーザが持つかを設定します。例えば、「コミュニティを作成できる権限をシステム管理者およびシステム運用者に持たせる」といった設定をします。このように、システムを管理するための権限をどのユーザが持つかを設定したものをシステムポリシーといいます。

システム管理者およびシステム運用者は、システムポリシーを変更する権限を持ちます。また、システム管理者は、システム管理者およびシステム運用者を任命する権限を持ちます。

システム管理者およびシステム運用者として登録できるユーザは、Collaboration - Online Community Management のデータベースサーバに内部ディレクトリユーザとして登録されているユーザです。

Collaboration - Online Community Management のセットアップが完了したら、はじめにシステム管理者を登録する必要があります。[コミュニティ管理] ポートレットからシステム管理者およびシステム運用者を登録できるのはシステム管理者のため、システム管理者がまだ一人も登録されていない状態の場合は、コマンドを実行して最初のシステム管理者を登録します。最初のシステム管理者の登録は、「2. Collaboration - Online Community Management の環境設定」を参照してください。また、コマンドの詳細は「5. 運用コマンド」を参照してください。

2人目以降のシステム管理者やシステム運用者を登録する場合は、[コミュニティ管理] ポートレットから登録します。

1.1.7 コミュニティカテゴリ

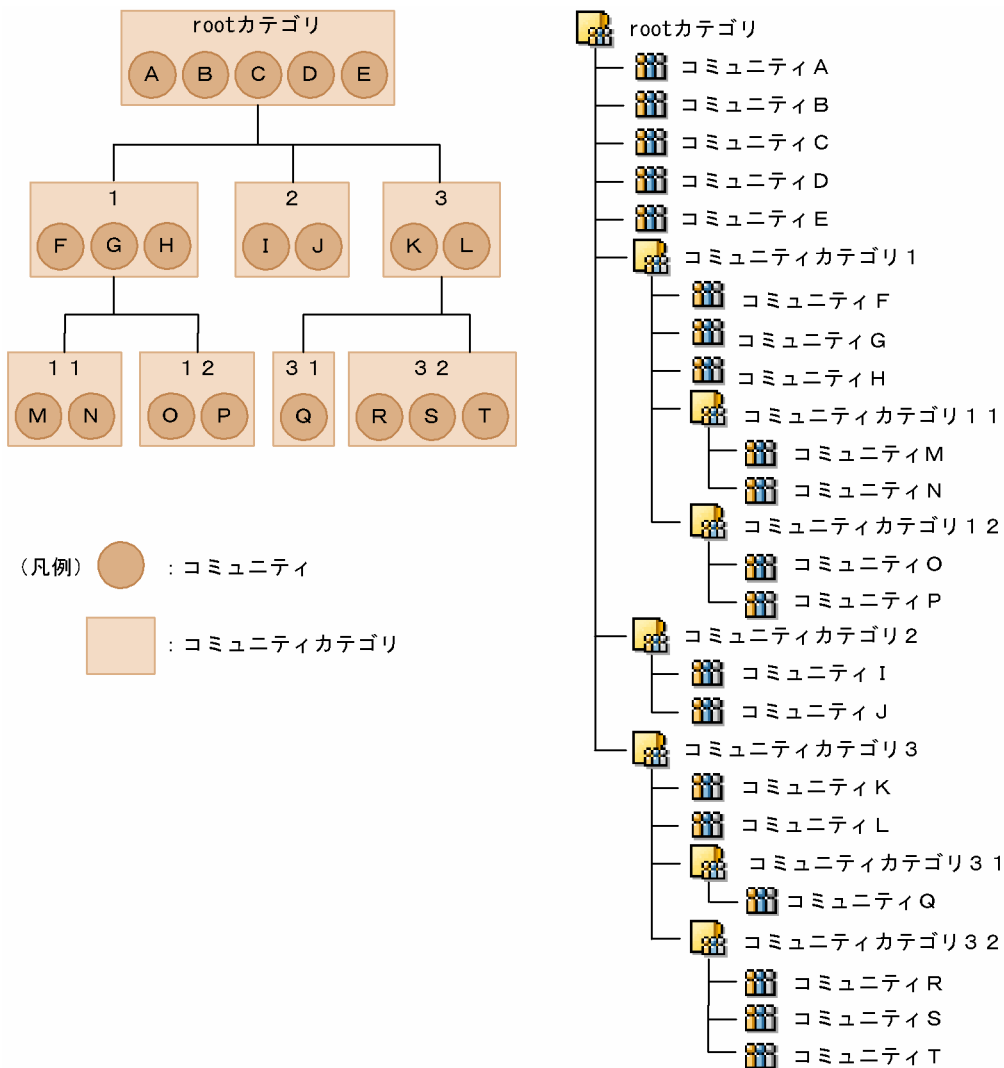
コミュニティが多くなった場合に、コミュニティを分類してツリー形式で表示すると見やすくなります。このようなコミュニティを分類したときの一まとまりをコミュニティカテゴリといいます。

コミュニティカテゴリは、システム管理者およびシステム運用者が設定します。設定されたコミュニティカテゴリは、Collaboration - Online Community Management を利用するすべてのユーザが参照できます。

コミュニティカテゴリの最上位は root カテゴリとなります。root カテゴリはツリー表示の際に見やすくするために、Collaboration - Online Community Management で用意しているカテゴリです。

コミュニティカテゴリの概念とそれに対応した画面のツリー表示を次に示します。

図 1-6 コミュニティカテゴリの概念と対応するツリー



1.1.8 他ポートレットとの連携

(1) Collaboration - Directory Access との連携

Collaboration - Directory Access と連携することで、ディレクトリサーバに登録されているユーザ情報を Collaboration - Online Community Management で利用できます。例えば、ディレクトリサーバの検索結果からユーザのアイコンをドラッグ&ドロップして、コミュニティメンバとして登録できます。

(2) Collaboration - Forum との連携

コミュニティの作成時に、そのコミュニティのワークスペースに電子会議室が作成されます。また、Collaboration - Online Community Management でコミュニティメンバに設定した役割ごとに電子会議室で使用できる機能などを制御できます。

さらに、コミュニティメンバの追加をメールで通知する機能があります。詳細は、マニュアル「Collaboration - Forum ユーザーズガイド」を参照してください。

(3) Collaboration - File Sharing との連携

コミュニティの作成時に、そのコミュニティのワークスペースにファイル共有が作成されます。また、Collaboration - Online Community Management でコミュニティメンバに設定した役割ごとにファイル共有で使用できる機能などを制御できます。

(4) Collaboration - Mail との連携

Collaboration - Mail と連携することで、宛先台帳に登録されているユーザ情報を Collaboration - Online Community Management で利用できます。例えば、宛先一覧からユーザのアイコンをドラッグ&ドロップして、コミュニティメンバとして登録できます。

1.1.9 画面に表示される言語について

Collaboration では、画面に表示される言語を切り替えて使用できます。

ただし、指定した言語の情報がない場合は、ほかの言語で表示されたり、「No Name」などと表示されたりします。

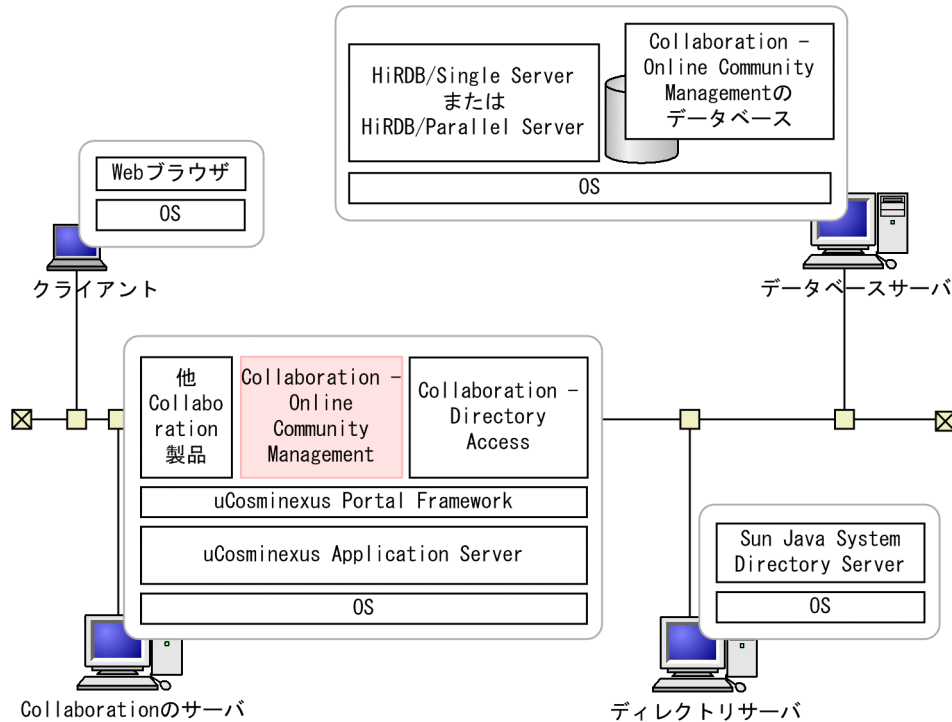
例えば、コミュニティ名が日本語でしか設定されていない場合、使用する言語に「英語」を指定していると、コミュニティ名の欄には日本語の名前が表示されるか、または「No Name」と表示されます。どのように表示されるかは、[環境設定] 画面での設定やシステムの設定によって異なります。

[環境設定] 画面の詳細は、マニュアル「Collaboration ユーザーズガイド」を参照してください。

1.2 Collaboration - Online Community Management のシステム構成

Collaboration - Online Community Management のシステム構成の例を次に示します。

図 1-7 システム構成の例



Collaboration 全体の構成例は、マニュアル「Collaboration 導入ガイド」を参照してください。また、Collaboration - Online Community Management で利用できる Web ブラウザは、マニュアル「Collaboration ユーザーズガイド」を参照してください。

前提プログラム

Collaboration - Online Community Management を利用するには、次のプログラムプロダクトが必要です。

- uCosminexus Portal Framework
- HiRDB/Single Server または HiRDB/Parallel Server

2

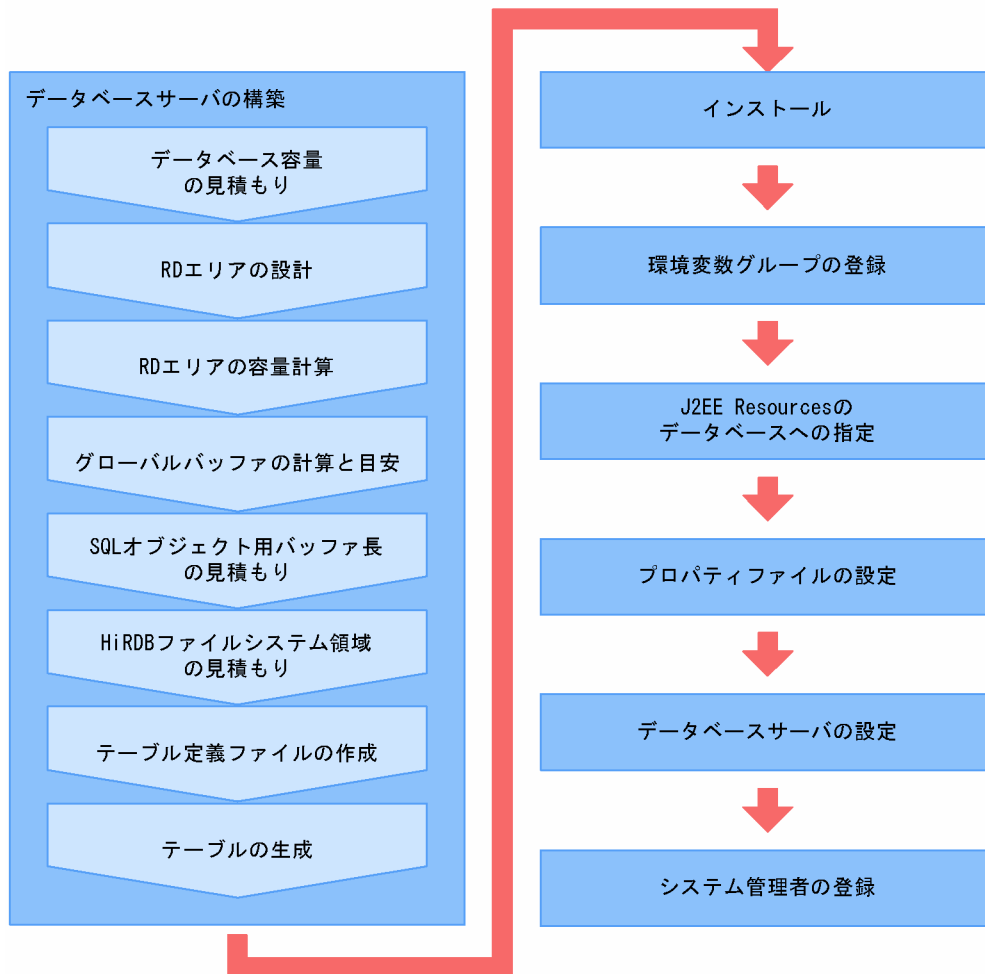
Collaboration - Online Community Management の環 境設定

この章では、Collaboration - Online Community Management を使用する
ために必要な環境設定について説明します。

2.1 Collaboration - Online Community Management の環境設定の流れ

Collaboration - Online Community Management を使用するために必要な環境設定の流れを次に示します。

図 2-1 Collaboration - Online Community Management の環境設定の流れ



なお、データベースは、UTF-8 で作成してください。

2.2 データベースサーバの構築

ここでは、Collaboration - Online Community Management のデータベースの構築について説明します。

2.2.1 データベース容量の見積もり

Collaboration - Online Community Management では次に示す条件ごとのモデルケースを提供しています。

- ユーザ数
 - 1,000 人
 - 5,000 人
 - 10,000 人
- コミュニティ数
 - 100 個
 - 500 個
 - 1,000 個

次の条件をすべて満たす場合は、「付録 B モデルケースごとのデータベース容量」に示すモデルケースを使用して、データベースを構築してください。

- ユーザ数が 10,000 人以下
- コミュニティ数が 1,000 個以下

これらの条件を一つでも満たさない場合は、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に「付録 C データベース容量の見積もりで使用する値」に示す値を代入して、データベース容量を見積もってください。

2.2.2 RD エリアの設計

RD エリアを設計する際には、次の点を考慮して設計してください。

- テーブルとインデックスは RD エリアを別にします。
- 容量が大きくなるテーブルは専用の RD エリアを設定します。このテーブルに対するインデックスの RD エリアも専用に設定します。
- 容量が大きくならないテーブルは複数のテーブルで同一の RD エリアを設定します。このテーブルに対するインデックスの RD エリアも同様とします。
- 頻繁にアクセスするテーブルは専用の RD エリアを設定します。

上記の内容を考慮してテーブルを分類した RD エリアを次に示します。

なお、RD エリアについては、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」および「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム運用ガイド (Windows(R)用)」を参照してください。

表 2-1 RD エリアごとのテーブル一覧

RD エリア	テーブル
CCMRDDATA1	メンバロールテーブル (TBL_MEMBERROLE)
CCMRDDATA2	メンバ情報テーブル (TBL_MEMBER)
CCMRDDATA3	コミュニティ情報テーブル (TBL_COMMUNITY)
CCMRDDATA4	システム情報テーブル (TBL_SYSTEM) システム条件リストテーブル (TBL_SYSLIST) カテゴリ情報テーブル (TBL_CATEGORY) コミュニティロールテーブル (TBL_COMMUROLE) ワークプレーステーブル (TBL_WORKPLACE) アプリケーションテーブル (TBL_APPLICATION) ユーザ情報テーブル (TBL_USER) テンプレートテーブル (TBL_TEMPLATE) ワークプレーステンプレートテーブル (TBL_WORKTEMPLATE) システムアプリケーションテーブル (TBL_SYSAPPLI) ID 管理テーブル (TBL_IDMANAGE) コミュニティ条件リストテーブル (TBL_COMMULIST) 通知情報テーブル (TBL_OUTBOX)
CCMRDIDX1	メンバロールテーブル用のインデックス
CCMRDIDX2	メンバ情報テーブル用のインデックス
CCMRDIDX3	コミュニティ情報テーブル用のインデックス
CCMRDIDX4	システム情報テーブル用のインデックス システム条件リストテーブル用のインデックス カテゴリ情報テーブル用のインデックス コミュニティロールテーブル用のインデックス ワークプレーステーブル用のインデックス アプリケーションテーブル用のインデックス ユーザ情報テーブル用のインデックス テンプレートテーブル用のインデックス ワークプレーステンプレートテーブル用のインデックス システムアプリケーションテーブル用のインデックス ID 管理テーブル用のインデックス コミュニティ条件リストテーブル用のインデックス 通知情報テーブル用のインデックス

2.2.3 RD エリアの容量計算

(1) ページサイズとセグメントのページ数

RD エリア用制御文ファイルに設定する RD エリアのページサイズとセグメントのページ数は、次のとおりです。

- ページサイズ：4096 バイト（ただし、CCMRDIDX3 は 12288 バイト）
page 4096 characters

page 12288 characters

- セグメントのページ数：20 ページ
- storage control segment 20 pages

RD エリア用制御文ファイルについては、「7.2.11 RD エリア用制御文ファイル (hptl_clb_ccm_rdarea_s.def/hptl_clb_ccm_rdarea_p.def)」も参照してください。

(2) RD エリア用制御文ファイルの例

1000 人規模の HiRDB/シングルサーバと HiRDB/パラレルサーバの制御文 (create rdarea 文) の例 (RD エリア用制御文ファイル) を次に示します。なお、create rdarea 文の詳細は、マニュアル「ノンス トップデータベース HiRDB Version 9 コマンドリファレンス (Windows(R)用)」を参照してください。

条件

- GMX : 50
- CMX : 200
- UMX : 1000
- MCA : 5
- RMX : 10
- MRA : 4

例の中で使用するキーワード

- CCM_USER_ID : 認可識別子
- CCM_SERVER_NAME : バックエンドユーザのサーバ名
- CCM_HIRDB_FILESYSTEM_AREA_NAME : HiRDB ファイルシステム領域名
- CCM_HIRDB_FILE_NAME : HiRDB ファイル名

【HiRDB/シングルサーバの場合】

1000 人規模の HiRDB/シングルサーバ用の RD エリア用制御文ファイルのサンプルを <Collaboration - Server インストールディレクトリ>#community#sample #hptl_clb_ccm_rdarea_s.def に用意しています。参考にしてください。

```
create rdarea CCMRDATA1
for user used by CCM_USER_ID
page 4096 characters
storage control segment 20 pages
file name " CCM_HIRDB_FILESYSTEM_AREA_NAME/CCM_HIRDB_FILE_NAME "
initial 1000 segments ;

create rdarea CCMRDATA2
for user used by CCM_USER_ID
page 4096 characters
storage control segment 20 pages
file name " CCM_HIRDB_FILESYSTEM_AREA_NAME/CCM_HIRDB_FILE_NAME "
initial 250 segments ;

create rdarea CCMRDATA3
for user used by CCM_USER_ID
page 4096 characters
storage control segment 20 pages
file name " CCM_HIRDB_FILESYSTEM_AREA_NAME/CCM_HIRDB_FILE_NAME "
initial 10 segments ;

create rdarea CCMRDATA4
for user used by CCM_USER_ID
page 4096 characters
storage control segment 20 pages
file name " CCM_HIRDB_FILESYSTEM_AREA_NAME/CCM_HIRDB_FILE_NAME "
initial 134 segments ;
```

```

create rdarea CCMRDIDX1
  for user used by CCM_USER_ID
  page 4096 characters
  storage control segment 20 pages
  file name " CCM_HIRDB_FILESYSTEM_AREA_NAME/CCM_HIRDB_FILE_NAME "
  initial 1000 segments ;

create rdarea CCMRDIDX2
  for user used by CCM_USER_ID
  page 4096 characters
  storage control segment 20 pages
  file name " CCM_HIRDB_FILESYSTEM_AREA_NAME/CCM_HIRDB_FILE_NAME "
  initial 250 segments ;

create rdarea CCMRDIDX3
  for user used by CCM_USER_ID
  page 12288 characters
  storage control segment 20 pages
  file name " CCM_HIRDB_FILESYSTEM_AREA_NAME/CCM_HIRDB_FILE_NAME "
  initial 10 segments ;

create rdarea CCMRDIDX4
  for user used by CCM_USER_ID
  page 4096 characters
  storage control segment 20 pages
  file name " CCM_HIRDB_FILESYSTEM_AREA_NAME/CCM_HIRDB_FILE_NAME "
  initial 84 segments ;

```

【HiRDB／パラレルサーバの場合】

1000 人規模の HiRDB／パラレルサーバ用の RD エリア用制御文ファイルのサンプルを
 <Collaboration - Server インストールディレクトリ>¥community¥sample
 ¥hptl_clb_ccm_rdarea_p.def に用意しています。参考にしてください。

```

create rdarea CCMRDATA1
  for user used by CCM_USER_ID
  server name CCM_SERVER_NAME
  page 4096 characters
  storage control segment 20 pages
  file name " CCM_HIRDB_FILESYSTEM_AREA_NAME/CCM_HIRDB_FILE_NAME "
  initial 1000 segments ;

create rdarea CCMRDATA2
  for user used by CCM_USER_ID
  server name CCM_SERVER_NAME
  page 4096 characters
  storage control segment 20 pages
  file name " CCM_HIRDB_FILESYSTEM_AREA_NAME/CCM_HIRDB_FILE_NAME "
  initial 250 segments ;

create rdarea CCMRDATA3
  for user used by CCM_USER_ID
  server name CCM_SERVER_NAME
  page 4096 characters
  storage control segment 20 pages
  file name " CCM_HIRDB_FILESYSTEM_AREA_NAME/CCM_HIRDB_FILE_NAME "
  initial 10 segments ;

create rdarea CCMRDATA4
  for user used by CCM_USER_ID
  server name CCM_SERVER_NAME
  page 4096 characters
  storage control segment 20 pages
  file name " CCM_HIRDB_FILESYSTEM_AREA_NAME/CCM_HIRDB_FILE_NAME "
  initial 134 segments ;

create rdarea CCMRDIDX1
  for user used by CCM_USER_ID
  server name CCM_SERVER_NAME
  page 4096 characters
  storage control segment 20 pages
  file name " CCM_HIRDB_FILESYSTEM_AREA_NAME/CCM_HIRDB_FILE_NAME "
  initial 1000 segments ;

create rdarea CCMRDIDX2
  for user used by CCM_USER_ID
  server name CCM_SERVER_NAME
  page 4096 characters
  storage control segment 20 pages

```

```

file name " CCM_HIRDB_FILESYSTEM_AREA_NAME/CCM_HIRDB_FILE_NAME "
initial 250 segments ;

create rdarea CCMRDIDX3
for user used by CCM_USER_ID
server name CCM_SERVER_NAME
page 12288 characters
storage control segment 20 pages
file name " CCM_HIRDB_FILESYSTEM_AREA_NAME/CCM_HIRDB_FILE_NAME "
initial 10 segments ;

create rdarea CCMRDIDX4
for user used by CCM_USER_ID
server name CCM_SERVER_NAME
page 4096 characters
storage control segment 20 pages
file name " CCM_HIRDB_FILESYSTEM_AREA_NAME/CCM_HIRDB_FILE_NAME "
initial 84 segments ;

```

2.2.4 グローバルバッファの計算と目安

グローバルバッファとは、ディスク上の RD エリアに格納されているデータを入出力するためのバッファの集まりです。したがって、RD エリアとグローバルバッファは必ず対にして割り当てます。グローバルバッファの容量はユーザ環境によって異なります。グローバルバッファは共用メモリ上に確保されるため、共有メモリの上限を考慮して設定する必要があります。また、グローバルバッファのバッファページ数を必要以上に設定すると、共用メモリが増加してシステムのディスク容量およびメモリを圧迫し、グローバルバッファを検索するためのオーバヘッドも大きくなります。したがって、バッファヒット率を考慮し、必要最低限の入出力性能が得られるように設定する必要があります。

グローバルバッファの詳細は、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」を参照してください。

(1) グローバルバッファページ数の計算方法

データ用 RD エリア (CCMRDDATA1~4)

同時データベースアクセス数の合計 $\times 12 \times m$

(m は係数で、目安は $m=2$ です。計算結果は小数点以下を切り上げます。)

注※ 同時データベースアクセス数とは、Collaboration - Online Community Management のポートレットからの同時アクセス数とファイル共有サーバからの同時アクセス数の合計で、次の式で求めます。

同時データベースアクセス数 = AP サーバ台数 $\times 12$ + ファイル共有サーバ台数 $\times 20$

なお、HiRDB の `pd_max_users` の値が同時データベースアクセス数よりも十分大きい値であることが前提です。

インデックス用 RD エリア (CCMRDIDX1~4)

CCMRDIDX1 用：想定ユーザ数 $\times 3 \times n$

CCMRDIDX2 用：想定ユーザ数 $\times 1.5 \times n$

CCMRDIDX3 用：想定ユーザ数 $\times 0.02 \times n$

CCMRDIDX4 用：想定ユーザ数 $\times 0.3 \times n$

(n は係数で、目安は $n=1$ です。計算結果は小数点以下を切り上げます。)

(2) 計算結果の例

同時実行ユーザ数が 500 人、想定ユーザ数が 1000 人、アプリケーションサーバ 2 台、およびファイル共有サーバ 1 台の場合のグローバルバッファページ数と共有メモリサイズを次に示します。

表 2-2 グローバルバッファページ数と共有メモリサイズの計算結果例

RD エリア	グローバルバッファ名	ページ長	係数 目安	グローバルバッファ ページ数	共有メモリサイ ズ(単位:MB)
CCMRDDATA1	CCMGBUFDATA1	4096	m=2	1056	4.13
CCMRDDATA2	CCMGBUFDATA2	4096	m=2	1056	4.13
CCMRDDATA3	CCMGBUFDATA3	4096	m=2	1056	4.13
CCMRDDATA4	CCMGBUFDATA4	4096	m=2	1056	4.13
CCMRDIDX1	CCMGBUFIDX1	4096	n=1	3000	11.72
CCMRDIDX2	CCMGBUFIDX2	4096	n=1	1500	5.86
CCMRDIDX3	CCMGBUFIDX3	12288	n=1	20	0.23
CCMRDIDX4	CCMGBUFIDX4	4096	n=1	300	1.17

2.2.5 SQL オブジェクト用バッファ長の見積もり

SQL オブジェクト用バッファ長は、HiRDB のシステム共通定義のオペランドです。

ここでは、SQL オブジェクト用バッファ長 (pd_sql_object_cache_size オペランド) のサイズの求め方について示します。

次の計算式で求めた値を、すでに設定されている値 (設定されていない場合はデフォルト値) より大きい場合だけ適用します。

SQL オブジェクト用バッファ長 (単位:KB)

$$= \uparrow (4420 + (585 \times 1 \text{ ユーザが所属するコミュニティ数の最大値})) \div 1024 \uparrow + 300$$

注 「↑」は小数点以下を切り上げていることを示します。

SQL オブジェクト用バッファ長については、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム定義 (Windows(R)用)」を参照してください。

2.2.6 HiRDB ファイルシステム領域の見積もり

ここでは、HiRDB ファイルシステム領域のサイズの求め方について示します。

「2.2.3 RD エリアの容量計算」で求めた各制御文 (create rdarea) のセグメント数 (initial の値) を合計します。これにセグメントのページ数 20 とページサイズ 4096 をかけます。さらに 1.5 をかけて 1,048,576 で割ったものを指定します。

「2.2.3 RD エリアの容量計算」で求めた 1000 人規模の場合の HiRDB ファイルシステム領域のサイズを次に示します。

HiRDB ファイルシステム領域のサイズ (単位:MB)

$$= (1000 + 250 + 10 + 134 + 1000 + 250 + 10 + 84) \times 20 \times 4096 \times 1.5 \div 1048576$$

$$= 2738 \times 20 \times 4096 \times 1.5 \div 1048576$$

$$= \uparrow 321 \uparrow$$

注 「↑」は小数点以下を切り上げていることを示します。

2.2.7 テーブル定義ファイルの作成

テーブル定義ファイルを<Collaboration - Server インストールディレクトリ>%community%sample %hptl_clb_ccm_table.sql に用意しています。Collaboration - Online Community Management 用のデータベースを作成する場合は、このファイルをそのまま利用してください。ただし、RD エリア名を変更する場合はこのファイルを修正してください。

なお、テーブル定義ファイルの内容は、「7.2.12 テーブル定義ファイル (hptl_clb_ccm_table.sql)」を参照してください。

2.2.8 テーブルの生成

ここでは、「2.2.3 RD エリアの容量計算」の RD エリア用制御文ファイル (HiRDB/シングルサーバの場合は hptl_clb_ccm_rdarea_s.def, HiRDB/パラレルサーバの場合は hptl_clb_ccm_rdarea_p.def), およびテーブル定義ファイル (hptl_clb_ccm_table.sql) を使って、Collaboration - Online Community Management のデータベーステーブルを作成する手順について説明します。Collaboration - Online Community Management のデータベーステーブルを作成するには、HiRDB の運用コマンドおよびユティリティを使用します。HiRDB の運用コマンドおよびユティリティの詳細は、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 コマンドリファレンス (Windows(R)用)」を参照してください。

ここで説明する手順は、前提 OS が Windows でも UNIX でも同じです。ただし、(2), (3), (6), (11) で指定するパス名にスペースが含まれる場合は、各 OS での規則に従って指定してください。

(1) 前提条件

- HiRDB で使用する文字コード種別は UTF-8 です。
- 実行するユーザは、HiRDB 管理者とします。ただし、(11) は HiRDB 管理者以外でも実行できます。
- HiRDB が起動できる状態にしておきます。
- RD エリア用制御文ファイルの認可識別子に指定したユーザに、定義系 SQL の GRANT で CONNECT 権限とスキーマ定義権限を与えておきます。そのほかの権限については必要に応じて設定します。
- HiRDB ファイルシステム領域名の中で使用するディレクトリを作成しておきます。
- RD エリア用制御文ファイル (hptl_clb_ccm_rdarea_s.def または hptl_clb_ccm_rdarea_p.def) は、実行環境に合わせて書き換えておきます。シングルサーバの場合、RD エリア用制御文ファイルとして hptl_clb_ccm_rdarea_s.def を流用します。パラレルサーバの場合、RD エリア用制御文ファイルとして hptl_clb_ccm_rdarea_p.def を流用します。
- クライアント環境定義として、PDHOST, PDNAMEPORT, および PDUSER を設定しておきます。ただし、PDUSER については RD エリア用制御文ファイルの認可識別子に指定したユーザを指定します。また、UNIX 版の HiRDB を使用している場合、PDLANG に UTF-8 が設定済みであることが条件です。

(2) ~ (11) に HiRDB が停止している場合の作業手順を示します。HiRDB が起動済みの場合、(4) は省略できます。

(2) HiRDB ファイルシステム領域を作成する

Collaboration - Online Community Management が使用する HiRDB ファイルシステム領域を HiRDB の運用コマンド pdfmkfs を使って作成します。pdfmkfs のオプションは、次のように指定します。

-n オプション

「2.2.6 HiRDB ファイルシステム領域の見積もり」で見積もった HiRDB ファイルシステム領域のサイズ (単位: MB) を指定します。

-l オプション

RD エリア用制御文ファイルのサンプルでは、八つの HiRDB ファイルを使っているので、8 以上の値を指定します。

-k オプション

「DB」を指定します。

-i オプション

-i をそのまま指定します。

ファイル名

RD エリア用制御文ファイルの file name オペランドで指定した「HiRDB ファイルシステム領域名」を指定します。

コマンドの入力例 (1000 人規模のため -n には 321 を設定しています)

```
pdfmkfs -n 321 -l 10 -k DB -i HiRDBファイルシステム領域名
```

(3) HiRDB ファイルシステム領域を確認する

HiRDB の運用コマンド pdfstatfs を使って、HiRDB ファイルシステム領域が作成できていることを確認します。

コマンドの入力例

```
pdfstatfs HiRDBファイルシステム領域名
```

(4) HiRDB を起動する

HiRDB の運用コマンド pdstart を使って、HiRDB を起動します。HiRDB/パラレルサーバを開始する場合、システムマネージャを定義したサーバマシンで pdstart を実行します。

コマンドの入力例

```
pdstart
```

(5) HiRDB が起動済みであることを確認する

HiRDB の運用コマンド pdls を使って、HiRDB が起動済みであることを確認します。

コマンドの入力例

```
pdls
```

(6) RD エリアを作成する

Collaboration - Online Community Management が使用する RD エリアをデータベース作成ユーティリティ (pdmod) を使って作成します。HiRDB/パラレルサーバの場合、システムマネージャを定義したサーバマシンで pdmod を実行します。

コマンドの入力例 (HiRDB/シングルサーバの場合)

```
pdmod -a <Collaboration - Serverインストールディレクトリ>/community/sample/hptl_clb_ccm_rdarea_s.def
```

コマンドの入力例 (HiRDB/パラレルサーバの場合)

```
pdmod -a <Collaboration - Serverインストールディレクトリ>/community/sample/hptl_clb_ccm_rdarea_p.def
```

(7) RD エリアを確認する

HiRDB の運用コマンド `pddbls` を使って、`hptl_clb_ccm_rdarea_s.def`、または `hptl_clb_ccm_rdarea_p.def` で指定した RD エリアが作成できていることを確認します。`pddbls` の `-r` オプションで「`CCMRD*`」と指定することで、Collaboration - Online Community Management で使用する「`CCMRD`」で始まる RD エリアの一覧を表示します。

コマンドの入力例

```
pddbls -r CCMRD*
```

(8) HiRDB を停止する

HiRDB の運用コマンド `pdstop` を使って、HiRDB を停止します。HiRDB/パラレルサーバを停止する場合、システムマネージャを定義したサーバマシンで `pdstop` を実行します。

コマンドの入力例

```
pdstop
```

(9) RD エリアにグローバルバッファを割り当てる

HiRDB のシステム共通定義の `pdbuffer` オペランドを使って、作成した RD エリアにグローバルバッファを割り当てます。`pdbuffer` オペランドの詳細は、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム定義 (Windows(R)用)」を参照してください。

`pdbuffer` オペランドの定義例 (1000 人規模で設定した場合)

```
pdbuffer -a CCMGBUFDATA1 -n 1056 -r CCMRDDATA1
pdbuffer -a CCMGBUFDATA2 -n 1056 -r CCMRDDATA2
pdbuffer -a CCMGBUFDATA3 -n 1056 -r CCMRDDATA3
pdbuffer -a CCMGBUFDATA4 -n 1056 -r CCMRDDATA4
pdbuffer -a CCMGBUFIDX1 -n 3000 -r CCMRDIDX1
pdbuffer -a CCMGBUFIDX2 -n 1500 -r CCMRDIDX2
pdbuffer -a CCMGBUFIDX3 -n 20 -r CCMRDIDX3
pdbuffer -a CCMGBUFIDX4 -n 300 -r CCMRDIDX4
```

(10) HiRDB を開始する

HiRDB の運用コマンド `pdstart` を使って、HiRDB を開始します。HiRDB/パラレルサーバを開始する場合、システムマネージャを定義したサーバマシンで `pdstart` を実行します。

コマンドの入力例

```
pdstart
```

(11) スキーマ、表、およびインデックスを作成する

Collaboration - Online Community Management が使用するスキーマ、表、およびインデックスをデータベース定義ユティリティ (`pddef`) を使って作成します。このときテーブル定義ファイルとして

hptl_clb_ccm_table.sql を流用します。また、ディクショナリ表を検索することで、作成されたスキーマ、表、およびインデックスを確認できます。ディクショナリ表の検索の詳細は、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 UAP 開発ガイド」を参照してください。

コマンドの入力例

```
pddef <Collaboration - Serverインストールディレクトリ>/community/sample/hptl_clb_ccm_table.sql
```

2.3 インストール

Collaboration - Online Community Management は、統合インストーラを使用してインストールします。統合インストーラについては、マニュアル「Collaboration 導入ガイド」を参照してください。

2.4 環境変数グループの登録

Collaboration - Online Community Management は、uCosminexus Portal Framework 上で動作する一つのアプリケーションです。このため、HiRDB に対する設定がほかのアプリケーションと干渉しないように、HiRDB の環境変数グループ（システムグループ）を登録します。Collaboration - Online Community Management の環境変数グループ名は「HPTLCLBCCM」とします。この環境変数グループを uCosminexus Application Server に引き継ぎます。環境変数グループに必ず設定する環境変数を次に示します。

なお、環境変数グループの詳細は、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 UAP 開発ガイド」を参照してください。

表 2-3 必ず設定する環境変数

項目	機能	設定
PDHOST	接続する HiRDB サーバのホスト名を指定します。	DB サーバのホスト名
PDUSER	ユーザ名およびパスワードを指定します。「ユーザ名/パスワード」の形式で指定してください。	認可識別子/パスワード
PDNAMEPORT	接続する HiRDB サーバのポート番号（システム定義の pd_name_port で指定した値）を指定します。	DB ポート番号
PDSWAITTIME	HiRDB サーバが HiRDB クライアントからの要求に対する応答を返してから、次に HiRDB クライアントから要求が来るまでの HiRDB サーバの最大待ち時間（秒）を指定します。	600
PDCWAITTIME	HiRDB クライアントから HiRDB サーバへ要求をしてから、応答が戻ってくるまでの HiRDB クライアントの最大待ち時間（秒）を指定します。	180
PDSWATCHTIME	HiRDB サーバが HiRDB クライアントからの要求に対する応答を返してから、次に HiRDB クライアントから要求が来るまでの HiRDB サーバの最大待ち時間（秒）を指定します。	0
PDCLTCNVMODE	HiRDB サーバと HiRDB クライアントの文字コード種別が異なる場合、文字コードを変換するかどうかを指定します。	NOUSE
PDBLKF	HiRDB サーバから HiRDB クライアントに検索結果を転送するとき、1 回の転送処理で送られる行数を指定します。	50
PDLOCKSKIP	無排他条件判定をやるかどうかを指定します。YES の場合は、無排他条件判定をします。	YES

2.5 J2EE Resources のデータベースへの指定

uCosminexus Portal Framework で Collaboration - Online Community Management が提供するポートレットを使用する場合は、環境変数グループのグループ名を Web アプリケーションの J2EE Resources のデータソースとして設定します。Collaboration - Online Community Management を動作させるには DB Connector の設定が必要です。リソースアダプタとして、uCosminexus Application Server の DB Connector を使用します。リソースアダプタへの組み込み方法については、マニュアル「Cosminexus V9 アプリケーションサーバ システム構築運用ガイド」を参照してください。

DB Connector の設定

Collaboration - Online Community Management を組み込んだ Collaboration システムを起動する前に Connector 属性ファイルを取得し、編集してください。編集後、Connector 属性ファイルのリソースアダプタに反映してください。詳細は、マニュアル「Cosminexus V9 アプリケーションサーバ アプリケーション設定操作ガイド」を参照してください。

コンフィグレーションプロパティ、および実行時プロパティの項目を設定してください。これらのプロパティで設定する項目を次に示します。そのほかの項目については環境に合わせて設定してください。

表 2-4 コンフィグレーションプロパティの設定項目

コンフィグレーションプロパティ名	コンフィグレーションプロパティの値
description	@DABENVGRP=HPTLCLBCCM
encodLang	UTF-8
networkProtocol	lib
databaseName	HIRDB
CallableStatementPoolSize	0

表 2-5 実行時プロパティの設定項目

実行時プロパティ名	実行時プロパティの値
MinPoolSize	webserver.connector.ajp13.max_threads に指定した数値の 2 倍の値
MaxPoolSize	MinPoolSize と同じ、または MinPoolSize よりも大きな値

2.6 プロパティファイルの設定

Collaboration - Online Community Management では、プロパティファイルにデータベースサーバ情報やトレースファイルの情報を設定します。Collaboration - Online Community Management のプロパティファイルには、**共通プロパティファイル** (hptl_clb_ccm.properties) と**コマンドプロパティファイル** (hptl_clb_ccm_cmd.properties) があります。それぞれのプロパティファイルで設定する情報は次のとおりです。

共通プロパティファイル (hptl_clb_ccm.properties)

- トレースレベル
- トレースファイルのサイズ (バイト)
- トレースファイルの出力先
- トレースファイルの面数
- データベースのユーザ ID (認可識別子)
- データベースのパスワード
- データベース接続先情報 URL
- ワークスペースビューの表示方法
- ディレクトリサーバから取得する電話番号の種類
- [コミュニティ管理] ポートレットの画面の初期サイズ (ピクセル)
- 会議室やリンク集などのポートレットから表示させるコミュニティメンバーの一覧の初期サイズ (ピクセル)
- [簡単コミュニティ作成] 画面や [コミュニティメンバー追加] 画面などのユーザ選択領域に初期表示させるタブ
- [コミュニティメンバー情報] 画面や [コミュニティメンバー情報変更] 画面などの [ユーザ情報の表示] アンカーの表示・非表示 (内部ディレクトリユーザの場合に設定できます。)
- 一般ユーザ作成・変更時のメールアドレスのチェック方法
- コミュニティメンバー一覧の初期表示の方法
- 役職の順位による並べ替えの方法

コマンドプロパティファイル (hptl_clb_ccm_cmd.properties)

- データベースサーバのホスト名
- データベース ID
- システム情報定義ファイルのパス
- 共通の役割定義ファイルのパス
- テンプレート定義ファイルのパス
- ワークスペーステンプレート定義ファイルのパス
- トレースファイル名
- トレースファイルの面数
- トレースファイルのサイズ (バイト)
- トレースレベル
- ログファイル名

- バックアップファイル名
- 1 トランザクションでロックを掛けるレコード数
- システムで扱うタイムゾーン
- get_community コマンドで-l オプションを省略した場合のコミュニティ情報一覧ファイル名

共通プロパティファイルとコマンドプロパティファイルの詳細は、「6. プロパティファイルとバッチファイル」を参照してください。

2.7 データベースサーバの設定

ここでは、Collaboration - Online Community Management のデータベースサーバに登録する情報について説明します。

登録する情報は、各コマンドを使用して登録します。

各コマンドのコマンドプロンプトのカレントディレクトリは次のようになります。

```
<Collaboration - Server インストールディレクトリ>%community%command%bin
```

また、登録する情報のサンプルファイルを次のディレクトリに用意しています。

```
<Collaboration - Server インストールディレクトリ>%community%command%sys%
```

各コマンドの詳細は「5. 運用コマンド」を参照してください。また、サンプルファイルの詳細は、「7. コマンド定義ファイル」を参照してください。

2.7.1 システム情報（システムポリシー）の登録

set_system コマンドを使用して、システム情報（システムポリシー）を登録します。

コマンドの実行例

```
set_system -f <Collaboration - Serverインストールディレクトリ>%community%command%sys
%set_system.cfg
```

システム情報は、サンプルファイル (set_system.cfg.sam) の内容を変更しないで、ファイル名を「set_system.cfg」に変更してそのまま登録してください。正しく登録されたかどうかは、すべての設定が完了したあとに最初のシステム管理者でログインして、[システムポリシー] 画面で確認してください。

2.7.2 アプリケーション情報の登録

set_application コマンドを使用して、アプリケーション情報を登録します。

コマンドの実行例

```
set_application -f <Collaboration - Serverインストールディレクトリ>%community%command%sys
%set_application.cfg
```

アプリケーション情報は、サンプルファイル (set_application.cfg.sam) の内容を変更しないで、ファイル名を「set_application.cfg」に変更してそのまま登録してください。正しく登録されたかどうかは、すべての設定が完了したあとに最初のシステム管理者でログインして、[コミュニティ詳細設定] 画面（ワークスペース）に使用できるアプリケーションとして「電子会議室」と「ファイル共有」が表示されていることを確認してください。

Groupmax Collaboration Web Client - Mail/Schedule では、アプリケーション情報は、サンプルファイル (set_application_ms.cfg.sam) の内容を変更しないで、ファイル名を「set_application_ms.cfg」に変更してそのまま登録してください。正しく登録されたかどうかは、すべての設定が完了したあとに最初のシステム管理者でログインして、[コミュニティ詳細設定] 画面（ワークスペース）に使用できるアプリケーションが表示されていないことを確認してください。

2.7.3 コミュニティテンプレート情報の登録

set_template コマンドを使用して、コミュニティテンプレート情報を登録します。

コマンドの実行例

```
set_template -f <Collaboration - Serverインストールディレクトリ>%community%command%sys
%set_template.cfg
```

コミュニティテンプレートの情報はコマンドからしか設定できません。サンプルファイルを利用する場合は、サンプルファイル (set_template.cfg.sam) の内容を使用する環境に合わせて変更し、ファイル名を「set_template.cfg」に変更して UTF-8 形式で保存してください。正しく登録されたかどうかは、すべての設定が完了したあとに最初のシステム管理者でログインして、[テンプレート一覧] 画面および [テンプレート情報] 画面で確認してください。

! 注意事項

コミュニティテンプレート情報は、ワークプレーステンプレート情報とセットで登録する必要があります。したがって、ワークプレーステンプレート情報の登録が完了していないと、正しく動作しないので注意してください。ワークプレーステンプレート情報の登録の詳細は「2.7.4 ワークプレーステンプレート情報の登録」を参照してください。

2.7.4 ワークプレーステンプレート情報の登録

set_worktemplate コマンドを使用して、ワークプレーステンプレート情報を登録します。

コマンドの実行例

```
set_worktemplate -f <Collaboration - Serverインストールディレクトリ>%community%command%sys
%set_worktemplate.cfg
```

ワークプレーステンプレート情報は、サンプルファイル (set_worktemplate.cfg.sam) の内容を変更しないで、ファイル名を「set_worktemplate.cfg」に変更して UTF-8 形式で保存してください。正しく登録されたかどうかは、すべての設定が完了したあとに最初のシステム管理者でログインして、[テンプレート一覧] 画面および [テンプレート情報] 画面で確認してください。

! 注意事項

ワークプレーステンプレート情報は、コミュニティテンプレート情報とセットで登録する必要があります。したがって、コミュニティテンプレート情報の登録が完了していないと、正しく動作しないので注意してください。コミュニティテンプレート情報の登録の詳細は、「2.7.3 コミュニティテンプレート情報の登録」を参照してください。

2.7.5 共通の役割情報の登録

set_role コマンドを使用して、共通の役割情報を登録します。

コマンドの実行例

```
set_role -f <Collaboration - Serverインストールディレクトリ>%community%command%sys
%set_role.cfg
```

共通の役割情報は、サンプルファイル (set_role.cfg.sam) の内容を変更しないで、ファイル名を「set_role.cfg」にして UTF-8 形式で保存してください。正しく登録されたかどうかは、すべての設定が完了したあとに最初のシステム管理者でログインして、[共通の役割一覧] 画面および [共通の役割情報] 画面で確認してください。

2.8 システム管理者の登録

Collaboration - Online Community Management のデータベースサーバの設定が終了したら、`set_member` コマンドを使用して、最初のシステム管理者を登録します。

コマンドプロンプトのカレントディレクトリは、<Collaboration - Server インストールディレクトリ> %community%command%bin です。

コマンドの実行例

```
set_member -u <Collaboration - Serverインストールディレクトリ>%community%command%sys  
%set_member.cfg
```

最初のシステム管理者はコマンドからしか設定できません。サンプルファイルを利用する場合は、サンプルファイル (`set_member.cfg.sam`) の内容を使用する環境に合わせて変更し、ファイル名を「`set_member.cfg`」に変更して保存してください。コマンドを使用して最初のシステム管理者を設定したあとは、そのシステム管理者でポータルにログインしてその後の作業を行います。したがって、ここでシステム管理者として登録するユーザはポータルにログインできるユーザ、つまり内部ディレクトリサーバに登録されているユーザを設定してください。正しく登録されたかどうかは、すべての設定が完了したあとに最初のシステム管理者でログインして、[システムポリシー変更] 画面で変更操作ができること、および [ユーザ情報] 画面でシステム管理者の UID とディレクトリサーバが正しく設定されていることを確認してください。

3

Collaboration - Online Community Management の運 用

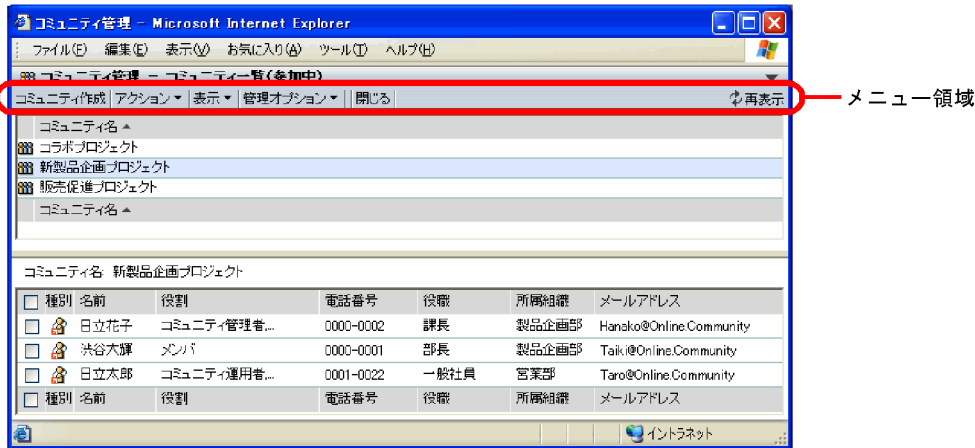
この章では、システム管理者およびシステム運用者に権限が与えられている機能に関する操作方法について説明します。

なお、3.2 節以降の操作説明は、[コミュニティ管理] ポートレットが表示されていることを前提としています。

3.1 メニューの表示

次に示すメニュー領域から、各メニューを実行できます。

図 3-1 メニュー領域



[表示▼] メニューおよび [管理オプション▼] メニューの各サブメニューを次に示します。これらのメニューは、ログインユーザがシステム管理者またはシステム運用者の場合に表示されます。

なお、[アクション▼] メニューのサブメニューについては、マニュアル「Collaboration - Online Community Management ユーザーズガイド」で説明しています。

[表示▼] メニューのサブメニュー

- コミュニティ一覧（参加中）－リスト
- コミュニティ一覧（参加中）－ツリー
- コミュニティ一覧（参照可）－リスト
- コミュニティ一覧（参照可）－ツリー
- システム管理者・運用者一覧（全員）
- システム管理者・運用者一覧（検索結果）
- コミュニティ一覧（検索結果）－リスト
- コミュニティ一覧（検索結果）－ツリー
- メンバー一覧
- コミュニティ内役割一覧

[管理オプション▼] メニューのサブメニュー

- テンプレート一覧
- 共通の役割一覧
- コミュニティカテゴリ
- システム管理者・運用者
- 一般ユーザ
- システムポリシー

各サブメニューの詳細は、「4.1 メニュー」を参照してください。

このほか、[コミュニティ管理]ポートレットの画面にあるメンバ名を右クリックすると表示されるメニューがあります。このメニューについては、マニュアル「Collaboration - Online Community Management ユーザーズガイド」で説明しています。

操作の一覧

このマニュアルで取り上げる操作とその操作を実行できるユーザを次に示します。

表 3-1 操作と実行できるユーザ

操作の対象	操作	実行できるユーザ
コミュニティテンプレート	コミュニティテンプレートを参照する	システム管理者 システム運用者
共通の役割	共通の役割を参照する	
コミュニティカテゴリ	コミュニティカテゴリを参照する	
	コミュニティカテゴリを作成する	
	コミュニティカテゴリを変更する	
	コミュニティカテゴリを削除する	
システム管理者およびシステム運用者	システム管理者およびシステム運用者の一覧を参照する	
	システム管理者およびシステム運用者を検索する	
	システム管理者およびシステム運用者を登録する	システム管理者
	システム管理者およびシステム運用者の情報を参照する	システム管理者 システム運用者
	システム管理者およびシステム運用者の登録内容を変更する	システム管理者
	システム管理者およびシステム運用者を削除する	システム管理者
ユーザ	ユーザを検索する	システム管理者 システム運用者
	ユーザを作成する	
	ユーザ情報を参照する	
	ユーザ情報を変更する	
	ユーザを削除する	
システムポリシー	システムポリシーを参照する	
	システムポリシーを変更する	

3.2 コミュニティテンプレートの参照

ここでは、Collaboration - Online Community Management であらかじめ用意してあるコミュニティテンプレートの参照方法について説明します。

3.2.1 コミュニティテンプレート一覧の表示

Collaboration - Online Community Management であらかじめ用意してあるコミュニティテンプレートの一覧を [テンプレート一覧] 画面で確認できます。

操作

1. メニュー領域から [管理オプション▼] - [テンプレート一覧] を選択します。
[テンプレート一覧] 画面が表示されます。
[テンプレート一覧] 画面の詳細は、「4.2.1 [テンプレート一覧] 画面」を参照してください。

3.2.2 コミュニティテンプレートの設定内容の参照

コミュニティテンプレートに設定されている基本情報およびコミュニティポリシーの内容を確認できます。

操作

1. メニュー領域から [管理オプション▼] - [テンプレート一覧] を選択します。
[テンプレート一覧] 画面が表示されます。
2. テンプレート情報を参照したいテンプレートのテンプレート名アンカーをクリックします。
[テンプレート情報] 画面 (基本情報) が表示されます。[テンプレート情報] 画面 (基本情報) には、コミュニティテンプレートの基本情報が表示されています。
[テンプレート情報] 画面 (基本情報) の詳細は、「4.2.2 [テンプレート情報] 画面 (基本情報)」を参照してください。
3. [コミュニティポリシーの表示] アンカーをクリックします。
[テンプレート情報] 画面 (コミュニティポリシー) が表示されます。
[テンプレート情報] 画面 (コミュニティポリシー) の詳細は、「4.2.3 [テンプレート情報] 画面 (コミュニティポリシー)」を参照してください。

3.3 共通の役割の参照

ここでは、共通の役割の参照方法について説明します。共通の役割は、新規作成、設定内容の変更、および削除はできません。

3.3.1 共通の役割一覧の表示

全コミュニティで利用する役割の一覧を [共通の役割一覧] 画面で確認できます。

操作

1. メニュー領域から [管理オプション▼] - [共通の役割一覧] を選択します。
[共通の役割一覧] 画面が表示されます。
[共通の役割一覧] 画面の詳細は、「4.3.1 [共通の役割一覧] 画面」を参照してください。

3.3.2 共通の役割の設定内容の参照

共通の役割に設定されている基本情報の内容を [共通の役割情報] 画面で確認できます。

操作

1. メニュー領域から [管理オプション▼] - [共通の役割一覧] を選択します。
[共通の役割一覧] 画面が表示されます。
2. 設定内容を参照したい役割アンカーをクリックします。
[共通の役割情報] 画面が表示されます。
[共通の役割情報] 画面の詳細は、「4.3.2 [共通の役割情報] 画面」を参照してください。

3.4 コミュニティカテゴリの操作

ここでは、コミュニティカテゴリの作成や変更など、コミュニティカテゴリに関する操作について説明します。

3.4.1 コミュニティカテゴリの表示

作成されているコミュニティカテゴリを [コミュニティカテゴリ] 画面で確認できます。

操作

1. メニュー領域から [管理オプション▼] - [コミュニティカテゴリ] を選択します。
[コミュニティカテゴリ] 画面が表示されます。[+] アイコンまたはコミュニティカテゴリ名をクリックすることで、下位のコミュニティカテゴリを表示できます。
[コミュニティカテゴリ] 画面の詳細は、[4.4.1 [コミュニティカテゴリ] 画面] を参照してください。

3.4.2 コミュニティカテゴリの設定内容の表示

root カテゴリ以外のコミュニティカテゴリに設定されている基本情報の内容を [コミュニティカテゴリ情報] 画面で確認できます。

操作

1. メニュー領域から [管理オプション▼] - [コミュニティカテゴリ] を選択します。
[コミュニティカテゴリ] 画面が表示されます。[+] アイコンまたはコミュニティカテゴリ名をクリックすることで、下位のコミュニティカテゴリを表示できます。
2. 設定内容を参照したいコミュニティカテゴリを選択します。
3. [詳細表示] メニューを選択します。
別ウィンドウに [コミュニティカテゴリ情報] 画面が表示されます。
[コミュニティカテゴリ情報] 画面の詳細は、[4.4.2 [コミュニティカテゴリ情報] 画面] を参照してください。

3.4.3 コミュニティカテゴリの作成

コミュニティカテゴリの作成は、システムポリシーで権限を与えられたユーザが実行できます。

操作

1. メニュー領域から [管理オプション▼] - [コミュニティカテゴリ] を選択します。
[コミュニティカテゴリ] 画面が表示されます。
2. [カテゴリ作成] メニューを選択します。
[コミュニティカテゴリ作成] 画面が表示されます。
[コミュニティカテゴリ作成] 画面の詳細は、[4.4.3 [コミュニティカテゴリ作成] 画面] を参照してください。
3. コミュニティカテゴリ名を入力します。
コミュニティカテゴリ名は、必ず入力してください。
4. 必要に応じてコミュニティカテゴリ英語名を入力します。

5. 必要に応じて登録するカテゴリを選択します。

下位のコミュニティカテゴリ名を選択する場合は、[+] アイコンまたはコミュニティカテゴリ名をクリックして、下位のコミュニティカテゴリを表示させます。

6. [選択 ▶] ボタンをクリックします。

選択したカテゴリがカテゴリ確定領域に表示されます。

別のカテゴリに変更する場合は、[取消] メニューを選択してカテゴリ確定領域のカテゴリを削除してから、カテゴリ選択領域でカテゴリを選択します。

なお、カテゴリを選択しない場合は、root カテゴリ下にコミュニティカテゴリが作成されます。

7. [作成] メニューを選択します。

コミュニティカテゴリが作成され、[コミュニティカテゴリ] 画面に戻ります。

3.4.4 コミュニティカテゴリの変更

コミュニティカテゴリは、システムポリシーで権限を与えられたユーザが変更できます。

操作

1. メニュー領域から [管理オプション▼] - [コミュニティカテゴリ] を選択します。

[コミュニティカテゴリ] 画面が表示されます。[+] アイコンまたはコミュニティカテゴリ名をクリックすることで、下位のコミュニティカテゴリを表示できます。

2. 設定内容を変更したいコミュニティカテゴリを選択します。

3. [詳細表示] メニューを選択します。

別ウィンドウに [コミュニティカテゴリ情報] 画面が表示されます。

4. [編集] メニューを選択します。

[コミュニティカテゴリ変更] 画面が表示されます。

[コミュニティカテゴリ変更] 画面の詳細は、「4.4.4 [コミュニティカテゴリ変更] 画面」を参照してください。

5. 必要に応じて設定内容を変更します。

6. [更新] メニューを選択します。

[コミュニティカテゴリ変更] 画面が閉じ、変更した内容が [コミュニティカテゴリ] 画面に反映されます。

3.4.5 コミュニティカテゴリの削除

コミュニティカテゴリの削除は、システムポリシーで権限を与えられたユーザが実行できます。

なお、root カテゴリは削除できません。また、下位のコミュニティカテゴリがある場合は、コミュニティカテゴリは削除できません。

操作

1. メニュー領域から [管理オプション▼] - [コミュニティカテゴリ] を選択します。

[コミュニティカテゴリ] 画面が表示されます。[+] アイコンまたはコミュニティカテゴリ名をクリックすることで、下位のコミュニティカテゴリを表示できます。

2. 削除したいコミュニティカテゴリを選択します。

3. [詳細表示] メニューを選択します。

別ウィンドウに [コミュニティカテゴリ情報] 画面が表示されます。

[コミュニティカテゴリ情報] 画面の詳細は、「4.4.2 [コミュニティカテゴリ情報] 画面」を参照してください。

4. [カテゴリ削除] メニューを選択します。

コミュニティカテゴリの削除を確認するメッセージが表示されます。

5. [OK] ボタンをクリックします。

コミュニティカテゴリが削除され、[コミュニティカテゴリ] 画面に戻ります。

3.5 システムの管理者および運用者に関する操作

ここでは、システム管理者および運用者の登録や変更などシステム管理者および運用者に関する操作について説明します。

3.5.1 システム管理者および運用者一覧の表示

すでに登録されているシステム管理者および運用者の一覧を [システム管理者・運用者] 画面で確認できます。

操作

1. メニュー領域から [管理オプション▼] - [システム管理者・運用者] を選択します。
[システム管理者・運用者] 画面が表示されます。
[システム管理者・運用者] 画面の詳細は、「4.5.1 [システム管理者・運用者] 画面」を参照してください。

3.5.2 システム管理者および運用者の検索

ユニーク ID や名前などを検索条件として、システム管理者および運用者を検索できます。

検索条件として指定した文字列で始まるものが検索されます。また、検索条件を複数入力した場合は、AND 条件で検索されます。

操作

1. メニュー領域から [管理オプション▼] - [システム管理者・運用者] を選択します。
[システム管理者・運用者] 画面が表示されます。
2. [システム管理者・運用者検索] メニューを選択します。
別ウィンドウに [システム管理者・運用者検索] 画面が表示されます。
[システム管理者・運用者検索] 画面の詳細は、「4.5.2 [システム管理者・運用者検索] 画面」を参照してください。
3. 検索条件を入力します。
検索条件は、一つ以上入力してください。
4. [検索] メニューを選択します。
検索が開始され、[システム管理者・運用者] 画面に検索結果が表示されます。

3.5.3 システム管理者および運用者の登録

システム管理者および運用者の登録は、システム管理者が実行できます。

システム管理者および運用者を合わせて 200 人まで登録できます。

操作

1. メニュー領域から [管理オプション▼] - [システム管理者・運用者] を選択します。
[システム管理者・運用者] 画面が表示されます。
2. [システム管理者・運用者登録] メニューを選択します。
[システム管理者・運用者登録] 画面が表示されます。

[システム管理者・運用者登録] 画面の詳細は、「4.5.3 [システム管理者・運用者登録] 画面」を参照してください。

3. 登録するのはシステム管理者かシステム運用者かを選択します。

4. 登録するユーザを選択し、[選択▶] ボタンをクリックします。

選択したユーザがユーザ確定領域に表示されます。

- ディレクトリサーバに登録されているユーザから選択する場合

[ユーザ検索] アンカーをクリックしてください。[ユーザを探す] 画面が表示されます。[ユーザを探す] 画面の詳細は、「4.5.4 [ユーザを探す] 画面 (簡易検索)」, 「4.5.5 [ユーザを探す] 画面 (詳細検索)」 および 「4.5.6 [ユーザを探す] 画面 (ツリー表示)」を参照してください。

- コミュニティメンバから選択する場合

[コミュニティ] アンカーをクリックしてください。コミュニティの一覧が表示されます。コミュニティの一覧の詳細は、「4.5.7 コミュニティの一覧」 および 「4.5.8 コミュニティメンバの一覧」を参照してください。

5. [登録] メニューを選択します。

選択したユーザがシステム管理者または運用者として設定され、[システム管理者・運用者] 画面に戻ります。

3.5.4 システム管理者および運用者の情報の参照

すでに登録されているシステム管理者および運用者の詳細を参照できます。

操作

1. メニュー領域から [管理オプション▼] - [システム管理者・運用者] を選択します。

[システム管理者・運用者] 画面が表示されます。

2. 詳細を参照したいユーザの名前の部分をクリックします。

[システム管理者・運用者情報] 画面が表示されます。

[システム管理者・運用者情報] 画面の詳細は、「4.5.9 [システム管理者・運用者情報] 画面」を参照してください。

3.5.5 システム管理者および運用者の登録内容の変更

すでに登録されているシステム管理者および運用者の登録内容を変更できます。

登録内容の変更は、システム管理者が実行できます。

操作

1. メニュー領域から [管理オプション▼] - [システム管理者・運用者] を選択します。

[システム管理者・運用者] 画面が表示されます。

2. 変更するユーザの名前の部分をクリックします。

[システム管理者・運用者情報] 画面が表示されます。

3. [編集] メニューを選択します。

[システム管理者・運用者変更] 画面が表示されます。

[システム管理者・運用者変更] 画面の詳細は、「4.5.10 [システム管理者・運用者変更] 画面」を参照してください。

4. 「管理者」または「運用者」を選択します。

5. 「更新」メニューを選択します。

「システム管理者・運用者変更」画面が閉じ、変更した内容が「システム管理者・運用者情報」画面に反映されます。

3.5.6 システム管理者および運用者の削除

すでに登録されているシステム管理者および運用者を削除できます。

システム管理者および運用者の削除は、システム管理者が実行できます。

操作

1. メニュー領域から「管理オプション▼」－「システム管理者・運用者」を選択します。

「システム管理者・運用者」画面が表示されます。

2. 削除するユーザの名前の部分をクリックします。

「システム管理者・運用者情報」画面が表示されます。

3. 「削除」メニューを選択します。

システム管理者・運用者の削除を確認するメッセージが表示されます。

4. 「OK」ボタンをクリックします。

システム管理者および運用者が削除され、「システム管理者・運用者」画面に戻ります。

3.6 ユーザに関する操作

ここでは、Collaboration - Online Community Management のデータベースサーバのユーザ情報テーブルに登録されているユーザに関する操作について説明します。

3.6.1 ユーザの検索

Collaboration - Online Community Management のデータベースサーバのユーザ情報テーブルに登録されているユーザの中から、ユニーク ID や名前などを検索条件として、ユーザを検索できます。

検索条件として指定した文字列で始まるものが検索されます。また、検索条件を複数入力した場合は、AND 条件で検索されます。

内部ディレクトリユーザを検索する場合は、ユニーク ID/UID だけを指定してください。

ディレクトリサーバに登録されていないユーザ（非ディレクトリユーザ）を検索する場合は、ユニーク ID/UID 以外の項目も指定できます。

操作

1. メニュー領域から [管理オプション▼] - [一般ユーザ] を選択します。
[一般ユーザ] 画面が表示されます。
[一般ユーザ] 画面の詳細は、[4.6.2 [一般ユーザ] 画面] を参照してください。
2. [一般ユーザ] 画面で [ユーザ検索] メニューを選択します。
[ユーザ検索] 画面が表示されます。
[ユーザ検索] 画面の詳細は、[4.6.1 [ユーザ検索] 画面] を参照してください。
3. [ユーザ検索] 画面で検索条件を入力します。
検索条件は、一つ以上入力してください。
4. [検索] メニューを選択します。
検索が開始され、[一般ユーザ] 画面に検索結果が表示されます。

3.6.2 ユーザの作成

新しくユーザを作成して Collaboration - Online Community Management のデータベースサーバのユーザ情報テーブルに登録できます。ディレクトリサーバに登録されていないユーザ（非ディレクトリユーザ）に登録する場合に利用できます。

操作

1. メニュー領域から [管理オプション▼] - [一般ユーザ] を選択します。
[一般ユーザ] 画面が表示されます。
2. [一般ユーザ] 画面で [ユーザ作成] メニューを選択します。
[ユーザ作成] 画面が表示されます。
[ユーザ作成] 画面の詳細は、[4.6.3 [ユーザ作成] 画面] を参照してください。
3. [ユーザ作成] アンカーをクリックします。
ユーザ情報を入力するテキストボックスが表示されます。
4. ユーザ情報を入力します。

ユニーク ID は必ず入力してください。

5. [選択 ▶] ボタンをクリックします。

作成したユーザが候補としてユーザ確定領域に表示されます。

6. [作成] メニューを選択します。

ユーザが作成され、[一般ユーザ] 画面に戻ります。

3.6.3 ユーザ情報の参照

Collaboration - Online Community Management のデータベースサーバのユーザ情報テーブルに登録されているユーザ情報を参照できます。

操作

1. メニュー領域から [管理オプション▼] - [一般ユーザ] を選択します。

[一般ユーザ] 画面が表示されます。

2. [一般ユーザ] 画面で [ユーザ検索] メニューを選択します。

[ユーザ検索] 画面が表示されます。

3. [ユーザ検索] 画面で、ユーザ情報を参照したいユーザの検索条件を入力し、[検索] メニューを選択します。

検索が開始され、[一般ユーザ] 画面に検索結果が表示されます。

4. ユーザ情報を参照したいユーザの名前部分のアンカーをクリックします。

[ユーザ情報] 画面が表示されます。

[ユーザ情報] 画面の詳細は、「4.6.4 [ユーザ情報] 画面」を参照してください。

3.6.4 ユーザ情報の変更

ディレクトリサーバに登録されていないユーザ (非ディレクトリユーザ) のユーザ情報に変更があった場合は、システム管理者がユーザ情報テーブルのユーザ情報を変更する必要があります。

なお、大量のユーザ情報を変更する場合は、set_member コマンドを使用してください。

操作

1. メニュー領域から [管理オプション▼] - [一般ユーザ] を選択します。

[一般ユーザ] 画面が表示されます。

2. [一般ユーザ] 画面で [ユーザ検索] メニューを選択します。

[ユーザ検索] 画面が表示されます。

3. [ユーザ検索] 画面で、ユーザ情報を変更したいユーザの検索条件を入力し、[検索] メニューを選択します。

検索が開始され、[一般ユーザ] 画面に検索結果が表示されます。

4. ユーザ情報を変更したいユーザの名前部分のアンカーをクリックします。

[ユーザ情報] 画面が表示されます。

5. [編集] メニューを選択します。

[ユーザ変更] 画面が表示されます。

[ユーザ変更] 画面の詳細は、「4.6.5 [ユーザ変更] 画面」を参照してください。

6. 必要に応じて設定内容を変更します。

7. [更新] メニューを選択します。

変更した内容が反映され, [一般ユーザ] 画面に戻ります。

3.6.5 ユーザの削除

Collaboration - Online Community Management のデータベースサーバのユーザ情報テーブルに登録されているユーザを削除できます。

操作

1. メニュー領域から [管理オプション▼] - [一般ユーザ] を選択します。

[一般ユーザ] 画面が表示されます。

2. [一般ユーザ] 画面で [ユーザ検索] メニューを選択します。

[ユーザ検索] 画面が表示されます。

3. [ユーザ検索] 画面で, 削除したいユーザの検索条件を入力し, [検索] メニューを選択します。

検索が開始され, [一般ユーザ] 画面に検索結果が表示されます。

4. 削除したいユーザのチェックボックスをチェックします。

ユーザは, 複数選択できます。

5. [ユーザ削除] メニューを選択します。

ユーザの削除を確認するメッセージが表示されます。

6. [OK] ボタンをクリックします。

選択したユーザが削除されます。

3.7 システムポリシーに関する操作

ここでは、システムポリシーに関する操作について説明します。

3.7.1 システムポリシーの参照

システムポリシーの設定内容を参照できます。

操作

1. メニュー領域から [管理オプション▼] - [システムポリシー] を選択します。
[システムポリシー] 画面が表示されます。
[システムポリシー] 画面の詳細は、「4.7.1 [システムポリシー] 画面」を参照してください。

3.7.2 システムポリシーの変更

システムポリシーの設定内容を変更できます。

操作

1. メニュー領域から [管理オプション▼] - [システムポリシー] を選択します。
[システムポリシー] 画面が表示されます。
2. [システムポリシー] 画面で、[編集] メニューを選択します。
[システムポリシー変更] 画面が表示されます。
[システムポリシー変更] 画面の詳細は、「4.7.2 [システムポリシー変更] 画面」を参照してください。
3. 必要に応じて基本情報を変更します。
4. [更新] メニューを選択します。
変更した内容が反映され、[システムポリシー] 画面に戻ります。

4

【コミュニティ管理】ポートレットの画面

この章では、【コミュニティ管理】ポートレットの画面について説明します。画面の各項目に入力できる文字種については、「付録D 使用できる文字種」を参照してください。

4.1 メニュー

メニュー領域の [表示▼] メニューおよび [管理オプション▼] メニューの各サブメニューについて説明します。

[表示▼] メニューのサブメニュー

コミュニティー一覧 (参加中) - リスト

[コミュニティー一覧 (参加中)] 画面がリスト形式で表示されます。

コミュニティー一覧 (参加中) - ツリー

[コミュニティー一覧 (参加中)] 画面がツリー形式で表示されます。

コミュニティー一覧 (参照可) - リスト

[コミュニティー一覧 (参照可)] 画面がリスト形式で表示されます。

コミュニティー一覧 (参照可) - ツリー

[コミュニティー一覧 (参照可)] 画面がツリー形式で表示されます。

システム管理者・運用者一覧 (全員)

このメニューは、[システム管理者・運用者 (検索結果)] 画面に、検索結果が表示されている場合に選択できます。

[システム管理者・運用者] 画面が表示され、すべてのシステム管理者・運用者が表示されます。

システム管理者・運用者一覧 (検索結果)

このメニューは、[システム管理者・運用者 (検索結果)] 画面に、検索結果が表示されている場合に活性化されて表示されます。

活性化されている場合は、検索結果が表示されていることを示します。

コミュニティー一覧 (検索結果) - リスト

このメニューは、[コミュニティー一覧 (検索結果)] 画面がツリー形式で表示されている場合に選択できます。

コミュニティーの検索結果がリスト形式で表示されます。

コミュニティー一覧 (検索結果) - ツリー

このメニューは、[コミュニティー一覧 (検索結果)] 画面がリスト形式で表示されている場合に選択できます。

コミュニティーの検索結果がツリー形式で表示されます。

メンバー一覧

このメニューは、コミュニティー一覧からコミュニティが選択されている場合に、選択できます。

コミュニティメンバーの一覧が表示されます。

コミュニティ内役割一覧

このメニューは、コミュニティー一覧からコミュニティが選択されている場合に、選択できます。

コミュニティ内役割の一覧が表示されます。

[管理オプション▼] メニューのサブメニュー

[テンプレート一覧]

[テンプレート一覧] 画面が表示されます。

[共通の役割一覧]

[共通の役割一覧] 画面が表示されます。

[コミュニティカテゴリ]

[コミュニティカテゴリ] 画面が表示されます。

[システム管理者・運用者]

[システム管理者・運用者] 画面が表示されます。

[一般ユーザ]

[一般ユーザ] 画面が表示されます。

[システムポリシー]

[システムポリシー] 画面が表示されます。

4.2 コミュニティテンプレート関連の画面

ここでは、コミュニティテンプレート进行操作する場合に使用する画面について説明します。

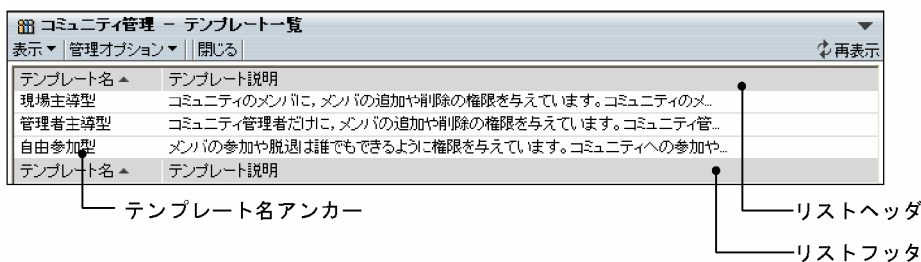
4.2.1 [テンプレート一覧] 画面

[テンプレート一覧] 画面では、Collaboration - Online Community Management で持っているコミュニティテンプレートの一覧を確認できます。操作の手順については、次の個所を参照してください。

- [3.2.1 コミュニティテンプレート一覧の表示]

[テンプレート一覧] 画面の各項目について説明します。

図 4-1 [テンプレート一覧] 画面



[表示▼] メニュー

コミュニティ一覧を表示させるためのサブメニューが表示されます。メニューの詳細は、「4.1 メニュー」を参照してください。

[管理オプション▼] メニュー

テンプレート一覧や共通の役割一覧などを表示させるためのサブメニューが表示されます。メニューの詳細は、「4.1 メニュー」を参照してください。

[閉じる] メニュー

[テンプレート一覧] 画面が閉じます。

[再表示] アンカー

[テンプレート一覧] 画面が再表示されます。

リストヘッダとリストフッタ

[テンプレート名] アンカーおよび [テンプレート説明] アンカーが表示されます。各アンカーをクリックすると、その項目をキーとして文字コード順に並べ替わります。クリックするごとに昇順と降順が切り替わります。

テンプレート名アンカー

別ウィンドウに [テンプレート情報] 画面 (基本情報) が表示されます。[テンプレート情報] 画面 (基本情報) の詳細は、「4.2.2 [テンプレート情報] 画面 (基本情報)」を参照してください。

[テンプレート名の表示について]

テンプレート名は 20 文字まで表示されます。テンプレート名が 20 文字を超える場合、21 文字以降はカットされ、「...」が表示されます。

[テンプレートの説明の表示について]

テンプレートの説明は 40 文字まで表示されます。テンプレートの説明が 40 文字を超える場合、41 文字以降はカットされ、「...」が表示されます。

4.2.2 [テンプレート情報] 画面 (基本情報)

[テンプレート情報] 画面 (基本情報) では、コミュニティテンプレートに設定されている基本情報の内容を確認できます。操作の手順については、次の個所を参照してください。

- [3.2.2 コミュニティテンプレートの設定内容の参照]

[テンプレート情報] 画面 (基本情報) の各項目について説明します。

図 4-2 [テンプレート情報] 画面 (基本情報)

[閉じる] メニュー

[テンプレート情報] 画面 (基本情報) が閉じます。

基本情報

選択したコミュニティテンプレートに設定されている次の情報が表示されます。

テンプレート名, 登録するカテゴリ, テンプレート説明

[コミュニティポリシーの表示] アンカー

[テンプレート情報] 画面 (コミュニティポリシー) が表示されます。[テンプレート情報] 画面 (コミュニティポリシー) の詳細は、「4.2.3 [テンプレート情報] 画面 (コミュニティポリシー)」を参照してください。

4.2.3 [テンプレート情報] 画面 (コミュニティポリシー)

[テンプレート情報] 画面 (コミュニティポリシー) では、コミュニティテンプレートに設定されているコミュニティポリシーの内容を確認できます。操作の手順については、次の個所を参照してください。

- [3.2.2 コミュニティテンプレートの設定内容の参照]

[テンプレート情報] 画面 (コミュニティポリシー) の各項目について説明します。

図 4-3 [テンプレート情報] 画面 (コミュニティポリシー)

[閉じる] メニュー

[テンプレート情報] 画面 (コミュニティポリシー) が閉じます。

[基本情報] アンカー

[テンプレート情報] 画面 (基本情報) が表示されます。[テンプレート情報] 画面 (基本情報) の詳細は、[4.2.2 [テンプレート情報] 画面 (基本情報)] を参照してください。

コミュニティポリシーの表示

選択したコミュニティテンプレートに設定されているコミュニティポリシーが表示されます。

4.3 共通の役割関連の画面

ここでは、共通の役割を操作する場合に使用する画面について説明します。

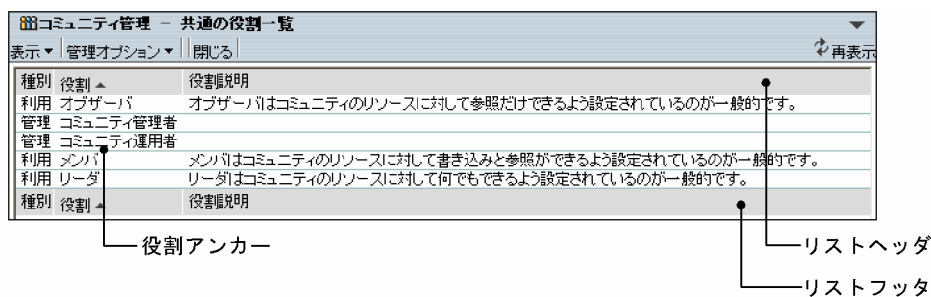
4.3.1 [共通の役割一覧] 画面

[共通の役割一覧] 画面では、全コミュニティで利用する役割の一覧を確認できます。操作の手順については、次の個所を参照してください。

- [3.3.1 共通の役割一覧の表示]

[共通の役割一覧] 画面の各項目について説明します。

図 4-4 [共通の役割一覧] 画面



[表示▼] メニュー

コミュニティ一覧を表示させるためのサブメニューが表示されます。メニューの詳細は、「4.1 メニュー」を参照してください。

[管理オプション▼] メニュー

テンプレート一覧や共通の役割一覧などを表示させるためのサブメニューが表示されます。メニューの詳細は、「4.1 メニュー」を参照してください。

[閉じる] メニュー

[共通の役割一覧] 画面が閉じます。

[再表示] アンカー

[共通の役割一覧] 画面が再表示されます。

リストヘッダとリストフッタ

[種別] アンカー、[役割] アンカーおよび [役割説明] アンカーが表示されます。クリックするごとに文字コード順に昇順と降順が切り替わります。[種別] アンカーの場合、昇順は「利用、管理」の順、降順は「管理、利用」の順です。

なお、[種別] の「利用」はコミュニティを利用するための役割（リーダーやメンバなど）を、「管理」はコミュニティを管理するための役割（コミュニティ管理者およびコミュニティ運用者）を表します。

役割アンカー

別ウィンドウに [共通の役割情報] 画面が表示されます。

【役割名の表示について】

役割名は 20 文字まで表示されます。役割名が 20 文字を超える場合、21 文字以降はカットされ、「...」が表示されます。

【役割の説明の表示について】

役割の説明は 50 文字まで表示されます。役割の説明が 50 文字を超える場合、51 文字以降はカットされ、[...] が表示されます。

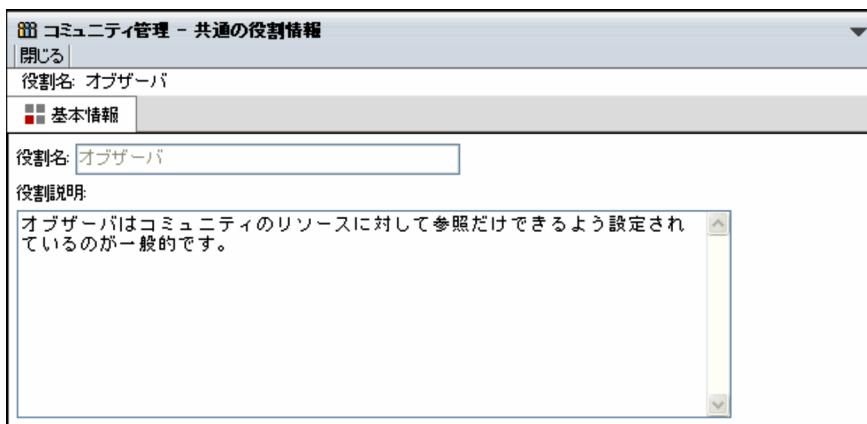
4.3.2 [共通の役割情報] 画面

[共通の役割情報] 画面では、共通の役割に設定されている基本情報の内容を確認できます。操作の手順については、次の個所を参照してください。

- 「3.3.2 共通の役割の設定内容の参照」

[共通の役割情報] 画面の各項目について説明します。

図 4-5 [共通の役割情報] 画面



【閉じる】メニュー

[共通の役割情報] 画面が閉じます。

基本情報

選択した役割に設定されている次の情報が表示されます。

役割名、役割説明

4.4 コミュニティカテゴリ関連の画面

ここでは、コミュニティカテゴリを操作する場合に使用する画面について説明します。

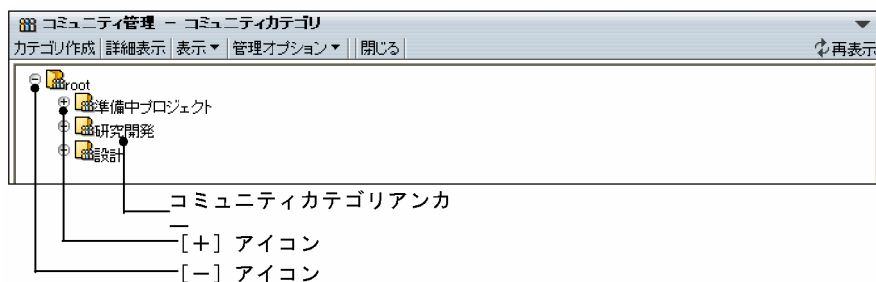
4.4.1 [コミュニティカテゴリ] 画面

[コミュニティカテゴリ] 画面では、作成されているコミュニティカテゴリをツリー形式で確認できます。操作の手順については、次の個所を参照してください。

- [3.4.1 コミュニティカテゴリの表示]

[コミュニティカテゴリ] 画面の各項目について説明します。

図 4-6 [コミュニティカテゴリ] 画面



[カテゴリ作成] メニュー

[コミュニティカテゴリ作成] 画面が表示されます。[コミュニティカテゴリ作成] 画面の詳細は、[4.4.3 [コミュニティカテゴリ作成] 画面] を参照してください。

[詳細表示] メニュー

[コミュニティカテゴリ情報] 画面が表示されます。[コミュニティカテゴリ情報] 画面の詳細は [4.4.2 [コミュニティカテゴリ情報] 画面] を参照してください。

[表示▼] メニュー

コミュニティ一覧を表示させるためのサブメニューが表示されます。メニューの詳細は、[4.1 メニュー] を参照してください。

[管理オプション▼] メニュー

テンプレート一覧や共通の役割一覧などを表示させるためのサブメニューが表示されます。メニューの詳細は、[4.1 メニュー] を参照してください。

[閉じる] メニュー

[コミュニティカテゴリ] 画面が閉じます。

[再表示] アンカー

[コミュニティカテゴリ] 画面が再表示されます。

[+] アイコンと [-] アイコン

[+] アイコンをクリックすると下位のコミュニティカテゴリが表示されます。また、[-] アイコンをクリックすると下位のコミュニティカテゴリが閉じます。

コミュニティカテゴリアンカー

下位のコミュニティカテゴリが閉じている状態でクリックすると、下位のコミュニティカテゴリが表示されます。もう一度クリックすると、下位のコミュニティカテゴリが閉じます。

【コミュニティカテゴリ名の表示について】

コミュニティカテゴリ名は 50 文字まで表示されます。コミュニティカテゴリ名が 50 文字を超える場合、51 文字以降はカットされ、「...」が表示されます。

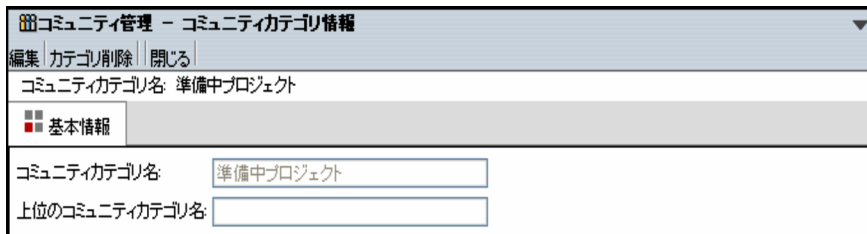
4.4.2 [コミュニティカテゴリ情報] 画面

[コミュニティカテゴリ情報] 画面では、root カテゴリ以外のコミュニティカテゴリに設定されている基本情報の内容を確認できます。操作の手順については、次の個所を参照してください。

- [3.4.2 コミュニティカテゴリの設定内容の表示]
- [3.4.5 コミュニティカテゴリの削除]

[コミュニティカテゴリ情報] 画面の各項目について説明します。

図 4-7 [コミュニティカテゴリ情報] 画面



【編集】メニュー

[コミュニティカテゴリ変更] 画面が表示されます。[コミュニティカテゴリ変更] 画面の詳細は、[4.4.4 [コミュニティカテゴリ変更] 画面] を参照してください。

【カテゴリ削除】メニュー

表示されているコミュニティカテゴリが削除されます。

【閉じる】メニュー

[コミュニティカテゴリ情報] 画面が閉じます。

基本情報

選択したコミュニティカテゴリに設定されている次の情報が表示されます。

コミュニティカテゴリ名、上位のコミュニティカテゴリ名（選択したコミュニティカテゴリが登録されているコミュニティカテゴリの名称です。ただし、上位のコミュニティカテゴリが root カテゴリの場合は、表示されません。）

4.4.3 [コミュニティカテゴリ作成] 画面

[コミュニティカテゴリ作成] 画面では、コミュニティカテゴリを作成できます。操作の手順については、次の個所を参照してください。

- [3.4.3 コミュニティカテゴリの作成]

[コミュニティカテゴリ作成] 画面の各項目について説明します。

図 4-8 [コミュニティカテゴリ作成] 画面

**[作成] メニュー**

設定した内容でコミュニティカテゴリが登録されます。[コミュニティカテゴリ作成] 画面が閉じ、[コミュニティカテゴリ] 画面に戻ります。[コミュニティカテゴリ] 画面には、作成したコミュニティカテゴリが反映されます。

[閉じる] メニュー

コミュニティカテゴリの作成が中断され、[コミュニティカテゴリ作成] 画面が閉じます。

[コミュニティカテゴリ名] テキストボックス

作成するコミュニティカテゴリの名前を半角換算 255 文字以内で入力します。全角および半角を混在して入力できます。必ず入力してください。

[コミュニティカテゴリ英語名] テキストボックス

必要に応じて、コミュニティカテゴリの英語名を半角 255 文字以内で入力します。

カテゴリ選択領域

既存のカテゴリがツリー形式で表示されます。

[選択] ボタン

作成したコミュニティカテゴリを登録するカテゴリを選択し、[選択] ボタンをクリックすると、選択したカテゴリがカテゴリ確定領域に表示されます。すでにカテゴリ確定領域にカテゴリ名が表示されている状態で別のカテゴリを選択し、[選択] ボタンをクリックした場合は、上書きされます。

カテゴリ確定領域

登録先カテゴリとして決定したコミュニティカテゴリ名が表示されます。

この領域にコミュニティカテゴリ名が表示されていない状態でコミュニティカテゴリを作成した場合、作成したコミュニティカテゴリは root カテゴリに登録されます。

[取消] メニュー

カテゴリ確定領域に表示されているコミュニティカテゴリが削除されます。

4.4.4 [コミュニティカテゴリ変更] 画面

[コミュニティカテゴリ変更] 画面では、コミュニティカテゴリの設定内容を変更できます。操作の手順については、次の個所を参照してください。

- [3.4.4 コミュニティカテゴリの変更]

[コミュニティカテゴリ変更] 画面の各項目について説明します。

図 4-9 [コミュニティカテゴリ変更] 画面



[更新] メニュー

変更した内容が反映され、[コミュニティカテゴリ変更] 画面が閉じます。

[閉じる] メニュー

コミュニティカテゴリの設定内容の変更が中断され、[コミュニティカテゴリ変更] 画面が閉じます。

[コミュニティカテゴリ名] テキストボックス

コミュニティカテゴリの名前を半角換算 255 文字以内で入力します。全角および半角を混在して入力できます。必ず入力してください。

[コミュニティカテゴリ英語名] テキストボックス

必要に応じて、コミュニティカテゴリの英語名を半角 255 文字以内で入力します。

カテゴリ選択領域

既存のカテゴリがツリー形式で表示されます。カテゴリ名をクリックして登録先カテゴリを選択します。

[選択 ▶] ボタン

コミュニティカテゴリの登録先カテゴリを選択し、[選択 ▶] ボタンをクリックすると、選択したカテゴリがカテゴリ確定領域に表示されます。すでにカテゴリ確定領域にカテゴリ名が表示されている状態で別のカテゴリを選択し、[選択 ▶] ボタンをクリックした場合は、上書きされます。

カテゴリ確定領域

登録先カテゴリとして決定したコミュニティカテゴリ名が表示されます。

デフォルトでは、変更前のコミュニティカテゴリ名が表示されます。ただし、登録先が root カテゴリの場合は、デフォルトでは何も表示されません。

[取消] メニュー

カテゴリ確定領域に表示されているコミュニティカテゴリが削除されます。

4.5 システム管理者および運用者関連の画面

ここでは、システム管理者および運用者を操作する場合に使用する画面について説明します。

4.5.1 [システム管理者・運用者] 画面

[システム管理者・運用者] 画面では、すでに登録されているシステム管理者および運用者を確認できます。操作の手順については、次の個所を参照してください。

- [3.5.1 システム管理者および運用者一覧の表示]

[システム管理者・運用者] 画面の各項目について説明します。

図 4-10 [システム管理者・運用者] 画面

種別	名前	電話番号	役職	所属組織	メールアドレス
運用者	日立太郎	0001-0022	一般社員	営業部	Taro@Online.Community
管理者	日立花子	0000-0002	課長	製品企画部	Hanako@Online.Community
種別	名前	電話番号	役職	所属組織	メールアドレス

Annotations in the image:

- 名前アンカー (Name anchor) points to the '名前' column header.
- リストヘッダ (List header) points to the first row header.
- リストフッタ (List footer) points to the last row of the table.

[システム管理者・運用者登録] メニュー

このメニューは、システム管理者がログインした場合に表示されます。

別ウィンドウに [システム管理者・運用者登録] 画面が表示されます。[システム管理者・運用者登録] 画面の詳細は、[4.5.3 [システム管理者・運用者登録] 画面] を参照してください。

[システム管理者・運用者検索] メニュー

別ウィンドウに [システム管理者・運用者検索] 画面が表示されます。[システム管理者・運用者検索] 画面の詳細は、[4.5.2 [システム管理者・運用者検索] 画面] を参照してください。

[表示▼] メニュー

コミュニティ一覧やシステム管理者・運用者一覧などを表示させるためのサブメニューが表示されます。メニューの詳細は、[4.1 メニュー] を参照してください。

[管理オプション▼] メニュー

テンプレート一覧や共通の役割一覧などを表示させるためのサブメニューが表示されます。メニューの詳細は、メニューの詳細は、[4.1 メニュー] を参照してください。

[閉じる] メニュー

[システム管理者・運用者] 画面が閉じます。

[再表示] アンカー

[システム管理者・運用者] 画面が再表示されます。

リストヘッダとリストフッタ

[種別] アンカー、[名前] アンカー、[電話番号] アンカー、[役職] アンカー、[所属組織] アンカー および [メールアドレス] アンカーが表示されます。クリックするごとに文字コード順に昇順と降順が切り替わります。[種別] アンカーの場合、昇順は「管理者、運用者」の順、降順は「運用者、管理者」の順です。

名前アンカー

個々のシステム管理者および運用者の名前の部分をクリックすると、別ウィンドウに [システム管理者・運用者情報] 画面が表示されます。

【システム管理者・運用者の名前の表示について】

- システム管理者・運用者の名前は 20 文字まで表示されます。システム管理者・運用者の名前が 20 文字を超える場合、21 文字以降はカットされ、「...」が表示されます。
- ディレクトリサーバのユーザを Collaboration - Online Community Management のデータベースに登録したあとに、このユーザがディレクトリサーバから削除された場合、「No Data」と表示されます。「No Data」をクリックした場合、ユーザ情報が存在しない旨のメッセージが表示されません。

【システム管理者・運用者の電話番号、役職、所属組織の表示について】

それぞれ 20 文字まで表示されます。20 文字を超える場合、21 文字以降はカットされ、「...」が表示されます。

【システム管理者・運用者のメールアドレスの表示について】

メールアドレスは 40 文字まで表示されます。メールアドレスが 40 文字を超える場合、41 文字以降はカットされ、「...」が表示されます。

4.5.2 [システム管理者・運用者検索] 画面

[システム管理者・運用者検索] 画面では、ユニーク ID や名前などを検索条件として、システム管理者および運用者を検索できます。

検索条件として指定した文字列で始まるものが検索されます。また、検索条件を複数入力した場合は、AND 条件で検索されます。

操作の手順については、次の個所を参照してください。

- 「3.5.2 システム管理者および運用者の検索」

[システム管理者・運用者検索] 画面の各項目について説明します。

図 4-11 [システム管理者・運用者検索] 画面

コミュニティ管理 - システム管理者・運用者検索	
検索	閉じる
検索条件を入力してください *	
ユニークID/UID:	<input type="text"/>
名前:	<input type="text"/>
役職:	<input type="text"/>
所属組織:	<input type="text"/>
電話番号:	<input type="text"/>
メールアドレス:	<input type="text"/>
英語名:	<input type="text"/>
英語役職:	<input type="text"/>
英語所属組織:	<input type="text"/>

[検索] メニュー

入力した検索条件を満たすシステム管理者および運用者が検索されます。検索後、[システム管理者・運用者検索] 画面が閉じ、検索結果が [システム管理者・運用者 (検索結果)] 画面に表示されます。

[閉じる] メニュー

システム管理者および運用者の検索が中断され、[システム管理者・運用者] 画面が閉じます。

[ユニーク ID/UID] テキストボックス

検索条件としてシステム管理者または運用者のユニーク ID の先頭からの一部または全部を半角 255 文字以内で入力します。

[名前] テキストボックス

検索条件としてシステム管理者または運用者の名前の先頭からの一部または全部を半角換算 255 文字以内で入力します。全角および半角を混在して入力できます。

[役職] テキストボックス

検索条件として役職の先頭からの一部または全部を半角換算 255 文字以内で入力します。全角および半角を混在して入力できます。

[所属組織] テキストボックス

検索条件として所属組織名の先頭からの一部または全部を半角換算 255 文字以内で入力します。全角および半角を混在して入力できます。

[電話番号] テキストボックス

検索条件として電話番号の先頭からの一部または全部を半角 255 文字以内で入力します。

[メールアドレス] テキストボックス

検索条件としてメールアドレスの先頭からの一部または全部を半角換算 255 文字以内で入力します。

[英語名] テキストボックス

検索条件としてシステム管理者または運用者の英語名の先頭からの一部または全部を半角 255 文字以内で入力します。

[英語役職] テキストボックス

検索条件として役職の英語名の先頭からの一部または全部を半角 255 文字以内で入力します。

[英語所属組織] テキストボックス

検索条件として所属組織の英語名の先頭からの一部または全部を半角 255 文字以内で入力します。

4.5.3 [システム管理者・運用者登録] 画面

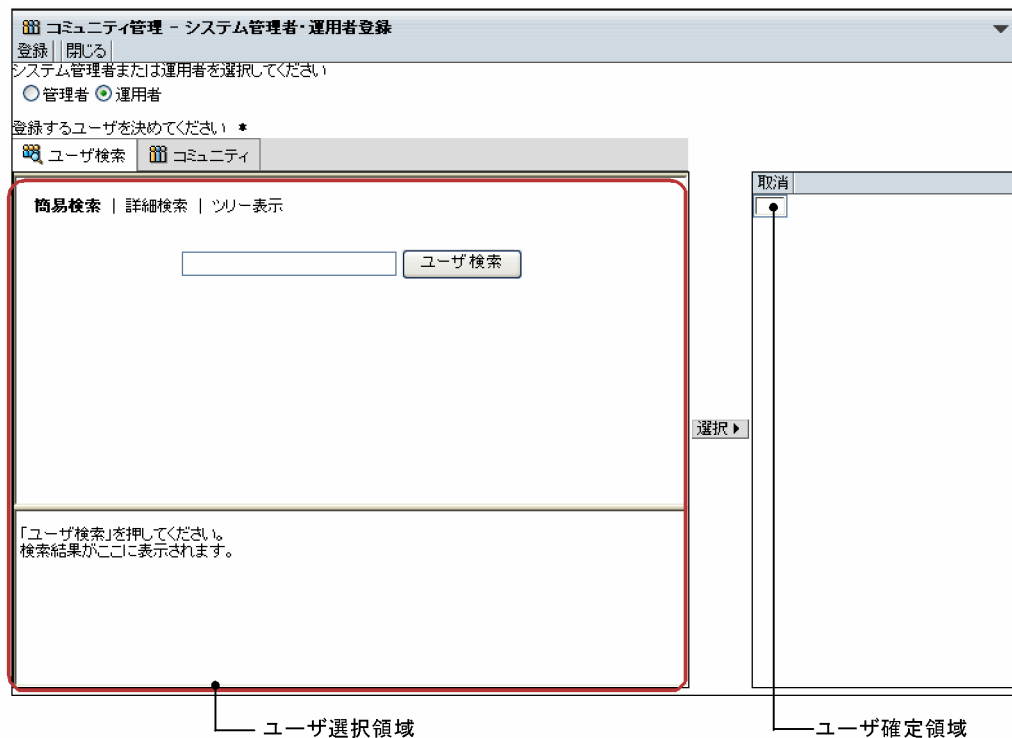
[システム管理者・運用者登録] 画面では、システム管理者および運用者を登録できます。

操作の手順については、次の個所を参照してください。

- 「3.5.3 システム管理者および運用者の登録」

[システム管理者・運用者登録] 画面の各項目について説明します。

図 4-12 [システム管理者・運用者登録] 画面

**[登録] メニュー**

選択したユーザがシステム管理者または運用者として反映され、[システム管理者・運用者] 画面に戻ります。

[閉じる] メニュー

システム管理者および運用者の登録が中断され、[システム管理者・運用者] 画面が閉じます。

[管理者] ラジオボタン

システム管理者を登録する場合に選択します。

[運用者] ラジオボタン

システム運用者を登録する場合に選択します。

[ユーザ検索] アンカー

ユーザ選択領域に [ユーザを探す] 画面が表示されます。[ユーザを探す] 画面では、ディレクトリサーバに登録されているユーザからシステム管理者または運用者として登録するユーザを選択できます。[ユーザを探す] 画面の詳細は、[4.5.4 [ユーザを探す] 画面 (簡易検索)]、[4.5.5 [ユーザを探す] 画面 (詳細検索)] および [4.5.6 [ユーザを探す] 画面 (ツリー表示)] を参照してください。

[コミュニティ] アンカー

ユーザ選択領域にコミュニティの一覧が表示されます。コミュニティの一覧では、既存のコミュニティに参加しているユーザからシステム管理者または運用者として登録するユーザを選択できます。コミュニティの一覧の詳細は、[4.5.7 コミュニティの一覧] を参照してください。

[選択 ▶] ボタン

検索結果表示領域で選択したユーザが候補としてユーザ確定領域に表示され、選択状態になります。すでにユーザ確定領域にユーザ名が表示されている状態で別のユーザを選択し、[選択 ▶] ボタンをクリックした場合は、上書きされます。

[取消] メニュー

ユーザ確定領域で選択したユーザが削除されます。

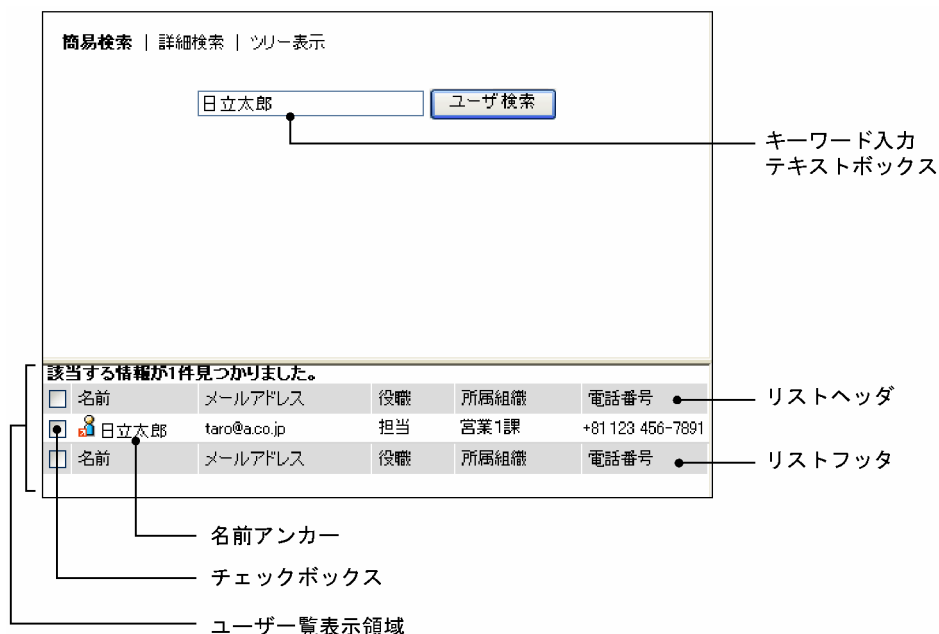
4.5.4 [ユーザを探す] 画面 (簡易検索)

[ユーザを探す] 画面 (簡易検索) では、キーワードを指定し、条件を満たすユーザをディレクトリサーバから検索し、その検索結果から選択できます。操作の手順については、次の個所を参照してください。

- [3.5.3 システム管理者および運用者の登録]

[ユーザを探す] 画面 (簡易検索) の各項目について説明します。

図 4-13 [ユーザを探す] 画面 (簡易検索)



[詳細検索] アンカー

ユーザを検索する [ユーザを探す] 画面 (詳細検索) に切り替わります。

[ユーザを探す] 画面 (詳細検索) の詳細は、「4.5.5 [ユーザを探す] 画面 (詳細検索)」を参照してください。

[ツリー表示] アンカー

組織を選択する [ユーザを探す] 画面 (ツリー表示) に切り替わります。

[ユーザを探す] 画面 (ツリー表示) の詳細は、「4.5.6 [ユーザを探す] 画面 (ツリー表示)」を参照してください。

キーワード入力テキストボックス

検索条件としてキーワードを半角換算 255 文字以内で入力します。

複数のキーワードを検索条件とする場合は、スペースで区切って入力してください。キーワードを複数指定した場合は、「AND」条件になります。

なお、Collaboration - Directory Access の環境設定によっては、役職の英語名、および所属組織の英語名を検索条件として使用できない場合があります。

[ユーザ検索] ボタン

条件を満たすユーザが検索されます。検索結果はユーザー一覧表示領域に表示されます。

リストヘッダとリストフッタ

[名前] アンカー, [メールアドレス] アンカー, [役職] アンカー, [所属組織] アンカー, [電話番号] アンカー, [電話番号 2] アンカーが表示されます。ただし, 表示される項目は Collaboration - Directory Access の環境設定によって異なります。

各アンカーをクリックすると, その項目をキーとして文字コード順に並べ替わります。クリックするごとに昇順と降順が切り替わります。

リストヘッダおよびリストフッタのチェックボックス

このチェックボックスにチェックを付けると, すべてのチェックボックスにチェックが付きます。このチェックボックスのチェックを外すと, すべてのチェックが外れます。

チェックボックス

ユーザを選択する場合にチェックを付けます。選択を解除する場合は, チェックを外します。

名前アンカー

ユーザの名前アンカーをクリックすると [ユーザ検索] ポートレットが開き, [ユーザ詳細] 画面が表示されます。

ユーザの名前アンカーを右クリックすると次のメニューが表示されます。ただし, ご利用の環境によっては表示されないメニューもあります。

[メールを送信]

右クリックしたユーザ宛ての [メール作成] 画面が表示されます。右クリックしたユーザの宛先は [To] に設定されます。

[メール作成] 画面については, マニュアル「Collaboration - Mail ユーザーズガイド」を参照してください。

[スケジュールを表示]

右クリックしたユーザの [一週間の予定] 画面が表示されます。

[一週間の予定] 画面については, マニュアル「Collaboration - Schedule ユーザーズガイド」を参照してください。

[コンタクトリストに追加]

右クリックしたユーザがコンタクトリストに追加されます。コンタクトリストに追加されたユーザは, ナビゲーションビューの [コンタクト] タブに表示されます。

コンタクトリストおよび [コンタクト] タブについては, マニュアル「Collaboration ユーザーズガイド」を参照してください。

[ユーザ詳細を表示]

右クリックしたユーザの [ユーザ詳細] 画面が表示されます。

[ユーザ詳細] 画面については, マニュアル「Collaboration - Directory Access ユーザーズガイド」を参照してください。

! 注意事項

- テキストボックスに指定した値の大文字と小文字を区別するかどうかは, システム導入時の環境設定で決まります。
- 検索対象はツリー表示画面の最上位組織の配下にあるすべてのユーザです。ツリー表示画面で [よく使う組織] ドロップダウンリストを使用してツリーを表示した状態から簡易検索画面に表示を切り替えた場合も同じです。

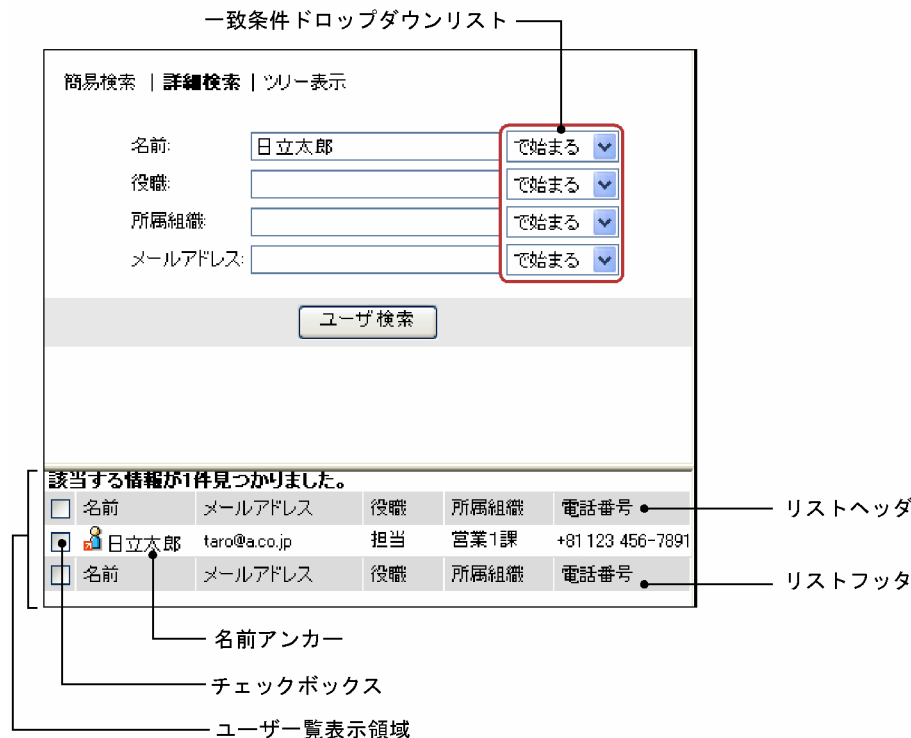
4.5.5 [ユーザを探す] 画面 (詳細検索)

[ユーザを探す] 画面 (詳細検索) では、条件を満たすユーザをディレクトリサーバから検索し、その検索結果から選択できます。操作の手順については、次の個所を参照してください。

- [3.5.3 システム管理者および運用者の登録]

[ユーザを探す] 画面 (詳細検索) の各項目について説明します。

図 4-14 [ユーザを探す] 画面 (詳細検索)



[簡易検索] アンカー

キーワードを指定して検索する [ユーザを探す] 画面 (簡易検索) に切り替わります。

[ユーザを探す] 画面 (簡易検索) の詳細は、「4.5.4 [ユーザを探す] 画面 (簡易検索)」を参照してください。

[ツリー表示] アンカー

組織を選択する [ユーザを探す] 画面 (ツリー表示) に切り替わります。

[ユーザを探す] 画面 (ツリー表示) の詳細は、「4.5.6 [ユーザを探す] 画面 (ツリー表示)」を参照してください。

[名前] テキストボックス

検索条件としてユーザの名前の一部または全部を半角換算 255 文字以内で入力します。

[名前 (英語)] テキストボックス

検索条件としてユーザの英語名の一部または全部を半角 255 文字以内で入力します。

このテキストボックスは、通常は表示されないようになっています。Collaboration - Directory Access の環境設定で、このテキストボックスを表示するよう設定されている場合に表示されます。

[役職] テキストボックス

検索条件として役職名の一部または全部を半角換算 255 文字以内で入力します。

[所属組織] テキストボックス

検索条件として所属組織名の一部または全部を半角換算 255 文字以内で入力します。

[メールアドレス] テキストボックス

検索条件として、メールアドレスの一部または全部を半角換算 255 文字以内で入力します。

一致条件ドロップダウンリスト

一致条件をリストボックスから選択します。デフォルトでは「で始まる」が選択されています。

[と等しい]

テキストボックスに入力した値と完全に一致するユーザが検索されます。

[で始まる]

テキストボックスに入力した値で始まるユーザが検索されます。

[を含む]

テキストボックスに入力した値を含むユーザが検索されます。

[ユーザ検索] ボタン

条件を満たすユーザが検索されます。検索結果はユーザー一覧表示領域に表示されます。

リストヘッダとリストフッタ

[名前] アンカー、[メールアドレス] アンカー、[役職] アンカー、[所属組織] アンカーおよび [電話番号] アンカー、[電話番号 2] アンカーが表示されます。ただし、表示される項目は Collaboration - Directory Access の環境設定によって異なります。

各アンカーをクリックすると、その項目をキーとして文字コード順に並べ替わります。クリックするとに昇順と降順が切り替わります。

リストヘッダおよびリストフッタのチェックボックス

このチェックボックスにチェックを付けると、すべてのチェックボックスにチェックが付きます。このチェックボックスのチェックを外すと、すべてのチェックが外れます。

チェックボックス

ユーザを選択する場合にチェックを付けます。選択を解除する場合は、チェックを外します。

名前アンカー

ユーザの名前アンカーをクリックすると [ユーザ検索] ポートレットが開き、[ユーザ詳細] 画面が表示されます。

ユーザの名前アンカーを右クリックすると次のメニューが表示されます。ただし、ご利用の環境によっては表示されないメニューもあります。

[メールを送信]

右クリックしたユーザ宛ての [メール作成] 画面が表示されます。右クリックしたユーザの宛先は [To] に設定されます。

[メール作成] 画面については、マニュアル「Collaboration - Mail ユーザーズガイド」を参照してください。

[スケジュールを表示]

右クリックしたユーザの [一週間の予定] 画面が表示されます。

[一週間の予定] 画面については、マニュアル「Collaboration - Schedule ユーザーズガイド」を参照してください。

[コンタクトリストに追加]

右クリックしたユーザがコンタクトリストに追加されます。コンタクトリストに追加されたユーザは、ナビゲーションビューの [コンタクト] タブに表示されます。

コンタクトリストおよび [コンタクト] タブについては、マニュアル「Collaboration ユーザーズガイド」を参照してください。

[ユーザ詳細を表示]

右クリックしたユーザの [ユーザ詳細] 画面が表示されます。

[ユーザ詳細] 画面については、マニュアル「Collaboration - Directory Access ユーザーズガイド」を参照してください。

! 注意事項

- テキストボックスに指定した値の大文字と小文字を区別するかどうかは、システム導入時の環境設定で決まります。
- 検索対象はツリー表示画面の最上位組織の配下にあるすべてのユーザです。ツリー表示画面で [よく使う組織] ドロップダウンリストを使用してツリーを表示した状態から詳細検索画面に表示を切り替えた場合も同じです。

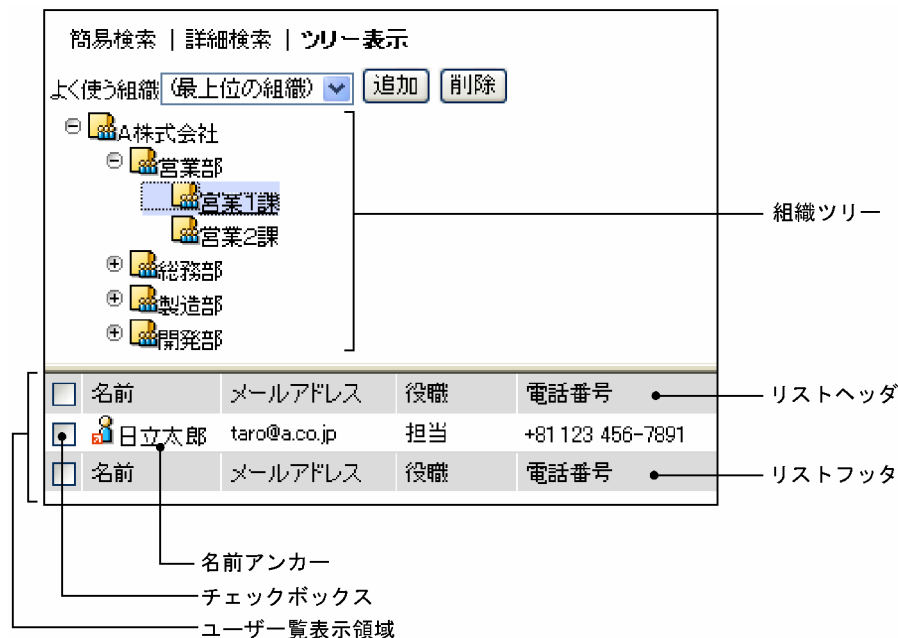
4.5.6 [ユーザを探す] 画面 (ツリー表示)

[ユーザを探す] 画面 (ツリー表示) では組織を選択し、そこに所属しているユーザから選択できます。操作の手順については、次の個所を参照してください。

- 「3.5.3 システム管理者および運用者の登録」

[ユーザを探す] 画面 (ツリー表示) の各項目について説明します。

図 4-15 [ユーザを探す] 画面 (ツリー表示)



[簡易検索] アンカー

キーワードを指定して検索する [ユーザを探す] 画面 (簡易検索) に切り替わります。

[ユーザを探す] 画面（簡易検索）の詳細は、「4.5.4 [ユーザを探す] 画面（簡易検索）」を参照してください。

[詳細検索] アンカー

ユーザを検索する [ユーザを探す] 画面（詳細検索）に切り替わります。

[ユーザを探す] 画面（詳細検索）の詳細は、「4.5.5 [ユーザを探す] 画面（詳細検索）」を参照してください。

[よく使う組織] ドロップダウンリスト

ツリー表示のトップに表示する組織をリストから選択します。デフォルトは「最上位の組織」となります。

[追加] ボタン

ツリー表示で選択中の組織が「よく使う組織」として追加されます。最大 10 個追加できます。

[削除] ボタン

選択している組織が「よく使う組織」から削除されます。

組織ツリー

[+] アイコンまたは所属名称をクリックすると下位組織が表示されます。[-] アイコンまたは所属名称をクリックすると、下位組織が閉じます。最下位の組織をクリックすると、その組織に所属しているユーザがユーザー一覧表示領域に表示されます。

リストヘッダとリストフッタ

[名前] アンカー、[メールアドレス] アンカー、[役職] アンカー、[電話番号] アンカー、[電話番号 2] アンカーが表示されます。ただし、表示される項目は Collaboration - Directory Access の環境設定によって異なります。

各アンカーをクリックすると、その項目をキーとして文字コード順に並べ替わります。クリックするごとに昇順と降順が切り替わります。

リストヘッダおよびリストフッタのチェックボックス

このチェックボックスにチェックを付けると、すべてのチェックボックスにチェックが付きます。このチェックボックスのチェックを外すと、すべてのチェックが外れます。

チェックボックス

ユーザを選択する場合にチェックを付けます。選択を解除する場合は、チェックを外します。

名前アンカー

ユーザの名前アンカーをクリックすると [ユーザ検索] ポートレットが開き、[ユーザ詳細] 画面が表示されます。

ユーザの名前アンカーを右クリックすると次のメニューが表示されます。ただし、ご利用の環境によっては表示されないメニューもあります。

[メールを送信]

右クリックしたユーザ宛ての [メール作成] 画面が表示されます。右クリックしたユーザの宛先は [To] に設定されます。

[メール作成] 画面については、マニュアル「Collaboration - Mail ユーザーズガイド」を参照してください。

[スケジュールを表示]

右クリックしたユーザの [一週間の予定] 画面が表示されます。

[一週間の予定] 画面については、マニュアル「Collaboration - Schedule ユーザーズガイド」を参照してください。

[コンタクトリストに追加]

右クリックしたユーザがコンタクトリストに追加されます。コンタクトリストに追加されたユーザは、ナビゲーションビューの [コンタクト] タブに表示されます。

コンタクトリストおよび [コンタクト] タブについては、マニュアル「Collaboration ユーザーズガイド」を参照してください。

[ユーザ詳細を表示]

右クリックしたユーザの [ユーザ詳細] 画面が表示されます。

[ユーザ詳細] 画面については、マニュアル「Collaboration - Directory Access ユーザーズガイド」を参照してください。

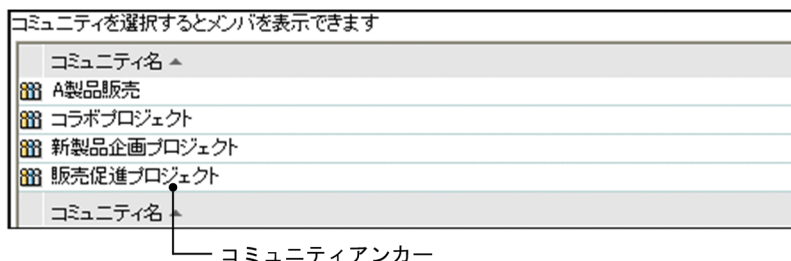
4.5.7 コミュニティの一覧

コミュニティの一覧には、ログインユーザが参照できるコミュニティが表示されます。この画面からコミュニティを選択し、そのコミュニティに参加しているメンバからユーザを選択できます。操作の手順については、次の個所を参照してください。

- 「3.5.3 システム管理者および運用者の登録」

コミュニティの一覧の各項目について説明します。

図 4-16 コミュニティの一覧

**コミュニティアンカー**

各コミュニティの名前の部分をクリックするとコミュニティメンバの一覧が表示されます。コミュニティメンバの一覧の詳細は、「4.5.8 コミュニティメンバの一覧」を参照してください。

[コミュニティ名] アンカー

コミュニティ名をキーとして文字コード順に並べ替わります。クリックするごとに昇順と降順が切り替わります。

【コミュニティ名の表示について】

- コミュニティ名は 50 文字まで表示されます。コミュニティ名が 50 文字を超える場合、51 文字以降はカットされ、「...」が表示されます。
- コミュニティに名前が設定されていない場合は、「No Name」が表示されます。

4.5.8 コミュニティメンバの一覧

コミュニティメンバの一覧では、コミュニティメンバからユーザを選択できます。操作の手順については、次の個所を参照してください。

- 「3.5.3 システム管理者および運用者の登録」

コミュニティメンバの一覧の各項目について説明します。

図 4-17 コミュニティメンバーの一覧

種別	名前	役割	電話番号	役職	所属組織	メールアドレス
<input type="checkbox"/>	日立花子	コミュニティ管理者...	0000-0002	課長	製品企画部	Hanako@Online.Community
<input type="checkbox"/>	渋谷大輝	メンバー	0000-0001	部長	製品企画部	Taiki@Online.Community
<input checked="" type="checkbox"/>	日立太郎	コミュニティ運用者...	0001-0022	一般社員	営業部	Taro@Online.Community

[戻る] メニュー

コミュニティの一覧に戻ります。コミュニティの一覧の詳細は「4.5.7 コミュニティの一覧」を参照してください。

リストヘッダとリストフッタ

[種別] アンカー, [名前] アンカー, [役割] アンカー, [電話番号] アンカー, [役職] アンカー, [所属組織] アンカーおよび [メールアドレス] アンカーが表示されます。クリックするごとに文字コード順に昇順と降順が切り替わります。[種別] アンカーの場合, 昇順は「内部ディレクトリユーザ, 非ディレクトリユーザ」の順, 降順は「非ディレクトリユーザ, 内部ディレクトリユーザ」の順です。

各アンカーをクリックすると, チェックボックスのチェックが外れます。必要に応じて再度チェックを付けてください。

リストヘッダおよびリストフッタのチェックボックス

このチェックボックスにチェックを付けると, すべてのチェックボックスにチェックが付きます。このチェックボックスのチェックを外すと, すべてのチェックが外れます。

チェックボックス

ユーザを選択する場合にチェックを付けます。選択を解除する場合は, チェックを外します。

「名前」欄に「No Data」が表示されている場合は, チェックボックスは表示されません。

[種別] アンカー

コミュニティメンバーの種別がアイコンで表示されます。このアイコンは, [システム管理者・運用者登録] 画面のユーザ確定領域などにドラッグ&ドロップできます。

ただし, 内部ディレクトリユーザで内部ディレクトリサーバから削除されたメンバーは, アイコンが表示されません。

名前アンカー

コミュニティメンバーの名前アンカーをクリックすると [ユーザ検索] ポートレットが開き, [ユーザ詳細] 画面が表示されます。

コミュニティメンバーの名前アンカーを右クリックすると, 次のメニューが表示されます。ただし, ご利用の環境によっては表示されないメニューもあります。

[メールを送信]

右クリックしたユーザ宛ての [メール作成] 画面が表示されます。右クリックしたユーザの宛先は「To」に設定されます。

[メール作成] 画面については, マニュアル「Collaboration - Mail ユーザーズガイド」を参照してください。

[スケジュールを表示]

右クリックしたユーザの [一週間の予定] 画面が表示されます。

【一週間の予定】画面については、マニュアル「Collaboration - Schedule ユーザーズガイド」を参照してください。

【コンタクトリストに追加】

右クリックしたユーザがコンタクトリストに追加されます。コンタクトリストに追加されたユーザは、ナビゲーションビューの【コンタクト】タブに表示されます。

コンタクトリストおよび【コンタクト】タブについては、マニュアル「Collaboration ユーザーズガイド」を参照してください。

【ユーザ詳細を表示】

右クリックしたユーザの【ユーザ詳細】画面が表示されます。

【ユーザ詳細】画面については、マニュアル「Collaboration - Directory Access ユーザーズガイド」を参照してください。

【コミュニティ名の表示について】

- コミュニティ名は 30 文字まで表示されます。コミュニティ名が 30 文字を超える場合、31 文字以降はカットされ、「...」が表示されます。
- コミュニティに名前が設定されていない場合は、何も表示されません。

【コミュニティメンバの名前の表示について】

- コミュニティメンバの名前は 20 文字まで表示されます。コミュニティメンバの名前が 20 文字を超える場合、21 文字以降はカットされ、「...」が表示されます。
- コミュニティメンバに名前が設定されていない場合は、「No Name」が表示されます。
- ディレクトリサーバのユーザを Collaboration - Online Community Management のデータベースに登録したあとに、このユーザがディレクトリサーバから削除された場合、「No Data」と表示されます。「No Data」をクリックした場合、ユーザ情報が存在しない旨のメッセージが表示されません。

【コミュニティメンバの役割名の表示について】

- 役割名は 20 文字まで表示されます。役割名が 20 文字を超える場合、21 文字以降はカットされ、「...」が表示されます。
- 役割は、一人のメンバに対して複数設定できます。二つ以上の役割が設定されている場合は、最初の役割名だけが表示され、役割名のあとに「...」が表示されます。表示される役割名は、コミュニティ管理者、コミュニティ運用者、リーダー、メンバ、オブザーバの順となります。例えば、一人のメンバにコミュニティ管理者とリーダーが設定されていた場合、「コミュニティ管理者,...」と表示されます。

役割名の表示例

設定されている役割が 1 個で役割名が 20 文字を超える場合：「*役割名*...」

設定されている役割が 2 個以上で最初の役割名が 20 文字を超える場合：「*役割名*.....」

設定されている役割が 2 個以上で最初の役割名が 20 文字以下の場合：「*役割名*,...」

【コミュニティメンバの電話番号、役職、所属組織の表示について】

それぞれ 20 文字まで表示されます。20 文字を超える場合、21 文字以降はカットされ、「...」が表示されます。

【コミュニティメンバのメールアドレスの表示について】

メールアドレスは 40 文字まで表示されます。メールアドレスが 40 文字を超える場合、41 文字以降はカットされ、「...」が表示されます。

4.5.9 [システム管理者・運用者情報] 画面

[システム管理者・運用者情報] 画面では、システム管理者および運用者の情報を参照できます。

操作の手順については、次の個所を参照してください。

- [3.5.4 システム管理者および運用者の情報の参照]

なお、システム管理者・運用者一覧から [No Data] を選択した場合、ユーザ情報は表示されません。

[システム管理者・運用者情報] 画面の各項目について説明します。

図 4-18 [システム管理者・運用者情報] 画面

[編集] メニュー

このメニューは、システム管理者がログインした場合には表示されます。

[システム管理者・運用者変更] 画面が表示されます。[システム管理者・運用者変更] 画面の詳細は、[4.5.10 [システム管理者・運用者変更] 画面] を参照してください。

[削除] メニュー

このメニューは、システム管理者がログインした場合には表示されます。

システム管理者またはシステム運用者が削除され、[システム管理者・運用者情報] 画面が閉じます。

[閉じる] メニュー

[システム管理者・運用者情報] 画面が閉じます。

[管理者] ラジオボタンおよび [運用者] ラジオボタン

選択したユーザがシステム管理者であるかシステム運用者であるかが表示されます。

ユーザ情報の表示

選択したシステム管理者またはシステム運用者に設定されている次の情報が表示されます。

ユニーク ID/UID, 名前, 役職, 所属組織, 電話番号, メールアドレス, 英語名, 英語役職, 英語所属組織

4.5.10 [システム管理者・運用者変更] 画面

[システム管理者・運用者変更] 画面では、システム管理者および運用者を変更できます。

操作の手順については、次の個所を参照してください。

- 「3.5.5 システム管理者および運用者の登録内容の変更」

[システム管理者・運用者変更] 画面の各項目について説明します。

図 4-19 [システム管理者・運用者変更] 画面

コミュニティ管理 - システム管理者・運用者変更

更新 | 閉じる

管理者 運用者

ユニークID/UID:

名前:

役職:

所属組織:

電話番号:

メールアドレス:

英語名:

英語役職:

英語所属組織:

[更新] メニュー

変更した内容が反映され、[システム管理者・運用者変更] 画面が閉じます。

[閉じる] メニュー

[システム管理者・運用者変更] 画面が閉じます。

[管理者] ラジオボタン

運用者から管理者に変更する場合に選択します。

[運用者] ラジオボタン

管理者から運用者に変更する場合に選択します。

ユーザ情報の表示

選択したシステム管理者またはシステム運用者に設定されている次の情報が表示されます。

ユニーク ID/UID, 名前, 役職, 所属組織, 電話番号, メールアドレス, 英語名, 英語役職, 英語所属組織

4.6 ユーザ操作関連の画面

ここでは、ユーザの操作に使用する画面について説明します。

4.6.1 [ユーザ検索] 画面

[ユーザ検索]画面では、Collaboration - Online Community Management のデータベースサーバのユーザ情報テーブルに登録されているユーザの中からユニーク ID や名前などを検索条件として、ユーザを検索できます。

検索条件として指定した文字列で始まるものが検索されます。また、検索条件を複数入力した場合は、AND 条件で検索されます。

内部ディレクトリユーザを検索する場合は、ユニーク ID/UID だけを指定してください。

ディレクトリサーバに登録されていないユーザ（非ディレクトリユーザ）を検索する場合は、ユニーク ID/UID 以外の項目も指定できます。

操作の手順については、次の個所を参照してください。

- [3.6.1 ユーザの検索]

[ユーザ検索] 画面の各項目について説明します。

図 4-20 [ユーザ検索] 画面

[検索] メニュー

入力した検索条件を満たすユーザが検索されます。検索後、[ユーザ検索]画面が閉じ、検索結果が[一般ユーザ]画面に表示されます。

[閉じる] メニュー

ユーザの検索が中断され、[ユーザ検索]画面が閉じます。

[ユニーク ID/UID] テキストボックス

検索条件としてユニーク ID の先頭からの一部または全部を半角 255 文字以内で入力します。

[名前] テキストボックス

検索条件としてユーザの名前の先頭からの一部または全部を半角換算 255 文字以内で入力します。全角および半角を混在して入力できます。

[役職] テキストボックス

検索条件として役職の先頭からの一部または全部を半角換算 255 文字以内で入力します。全角および半角を混在して入力できます。

[所属組織] テキストボックス

検索条件として所属組織名の先頭からの一部または全部を半角換算 255 文字以内で入力します。全角および半角を混在して入力できます。

[電話番号] テキストボックス

検索条件として電話番号の先頭からの一部または全部を半角 255 文字以内で入力します。

[メールアドレス] テキストボックス

検索条件としてメールアドレスの先頭からの一部または全部を半角換算 255 文字以内で入力します。

[英語名] テキストボックス

検索条件としてユーザの英語名の先頭からの一部または全部を半角 255 文字以内で入力します。

[英語役職] テキストボックス

検索条件として役職の英語名の先頭からの一部または全部を半角 255 文字以内で入力します。

[英語所属組織] テキストボックス

検索条件として所属組織の英語名の先頭からの一部または全部を半角 255 文字以内で入力します。

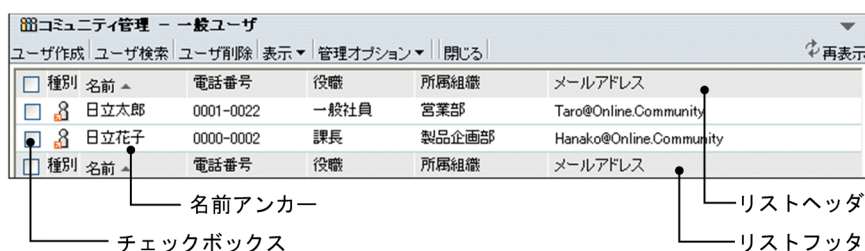
4.6.2 [一般ユーザ] 画面

[一般ユーザ] 画面には、[ユーザ検索] 画面での検索結果が表示されます。操作の手順については、次の箇所を参照してください。

- [3.6.1 ユーザの検索]
- [3.6.5 ユーザの削除]

[一般ユーザ] 画面の各項目について説明します。

図 4-21 [一般ユーザ] 画面

**[ユーザ作成] メニュー**

[ユーザ作成] 画面が表示されます。[ユーザ作成] 画面の詳細は「4.6.3 [ユーザ作成] 画面」を参照してください。

[ユーザ検索] メニュー

[ユーザ検索] 画面が表示されます。[ユーザ検索] 画面の詳細は「4.6.1 [ユーザ検索] 画面」を参照してください。

【ユーザ削除】メニュー

チェックボックスでチェックされたユーザが削除されます。

【表示▼】メニュー

コミュニティ一覧を表示させるためのサブメニューが表示されます。メニューの詳細は、「4.1 メニュー」を参照してください。

【管理オプション▼】メニュー

テンプレート一覧や共通の役割一覧などを表示させるためのサブメニューが表示されます。メニューの詳細は、「4.1 メニュー」を参照してください。

【閉じる】メニュー

【一般ユーザ】画面が閉じます。

【再表示】アンカー

【一般ユーザ】画面が再表示されます。

リストヘッダとリストフッタ

【名前】アンカー、【電話番号】アンカー、【役職】アンカー、【所属組織】アンカーおよび【メールアドレス】アンカーが表示されます。各アンカーをクリックすると、その項目をキーとして文字コード順に並べ替わります。クリックするごとに昇順と降順が切り替わります。

各アンカーをクリックすると、チェックボックスのチェックが外れます。必要に応じて再度チェックを付けてください。

リストヘッダおよびリストフッタのチェックボックス

このチェックボックスにチェックを付けると、すべてのチェックボックスにチェックが付きます。このチェックボックスのチェックを外すと、すべてのチェックが外れます。

チェックボックス

ユーザを選択する場合にチェックを付けます。選択を解除する場合は、チェックを外します。

【種別】アンカー

コミュニティメンバの種別がアイコンで表示されます。このアイコンは、【システム管理者・運用者登録】画面のユーザ確定領域などにドラッグ&ドロップできます。

ただし、内部ディレクトリユーザで内部ディレクトリサーバから削除されたメンバは、アイコンが表示されません。

名前アンカー

各ユーザの名前の部分をクリックすると、【ユーザ情報】画面が表示されます。

【ユーザの名前の表示について】

- ユーザの名前は 20 文字まで表示されます。ユーザの名前が 20 文字を超える場合、21 文字以降はカットされ、「...」が表示されます。
- ディレクトリサーバのユーザを Collaboration - Online Community Management のデータベースに登録したあとに、このユーザがディレクトリサーバから削除された場合、「No Data」と表示されます。「No Data」をクリックした場合、ユーザ情報が存在しない旨のメッセージが表示されます。

【ユーザの電話番号、役職、所属組織の表示について】

それぞれ 20 文字まで表示されます。20 文字を超える場合、21 文字以降はカットされ、「...」が表示されます。

【ユーザのメールアドレスの表示について】

メールアドレスは 40 文字まで表示されます。メールアドレスが 40 文字を超える場合、41 文字以降はカットされ、「...」が表示されます。

4.6.3 [ユーザ作成] 画面

[ユーザ作成] 画面では、新しくユーザを作成して Collaboration - Online Community Management のデータベースサーバのユーザ情報テーブルに登録できます。ディレクトリサーバに登録されていないユーザ（非ディレクトリユーザ）を登録する場合に利用できます。操作の手順については、次の個所を参照してください。

- [3.6.2 ユーザの作成]

[ユーザ作成] 画面の各項目について説明します。

図 4-22 [ユーザ作成] 画面

【作成】メニュー

[ユーザ作成] 画面が閉じ、[一般ユーザ] 画面に作成したユーザが表示されます。

【閉じる】メニュー

ユーザの作成が中断され、[ユーザ作成] 画面が閉じます。

【ユーザ検索】アンカー

[ユーザを探す] 画面が表示されます。[ユーザを探す] 画面では、ディレクトリサーバに登録されているユーザから選択できます。[ユーザを探す] 画面の詳細は、[4.5.4 [ユーザを探す] 画面（簡易検索）]、[4.5.5 [ユーザを探す] 画面（詳細検索）] および [4.5.6 [ユーザを探す] 画面（ツリー表示）] を参照してください。

[ユニーク ID/UID] テキストボックス

ユニーク ID を半角 255 文字以内で入力します。ディレクトリサーバに登録されていないユーザの場合、メールアドレスなど一意であるものを入力します。ユニーク ID は必ず入力してください。

[名前] テキストボックス

名前を半角換算 255 文字以内で入力します。全角および半角を混在して入力できます。

[役職] テキストボックス

役職名を半角換算 255 文字以内で入力します。全角および半角を混在して入力できます。

[所属組織] テキストボックス

所属組織の名称を半角換算 255 文字以内で入力します。全角および半角を混在して入力できます。

[電話番号] テキストボックス

電話番号を半角 255 文字以内で入力します。

[メールアドレス] テキストボックス

メールアドレスを半角換算 255 文字以内で入力します。

[英語名] テキストボックス

ユーザの英語名を半角 255 文字以内で入力します。

[英語役職] テキストボックス

役職の英語名を半角 255 文字以内で入力します。

[英語所属組織] テキストボックス

所属組織の英語名を半角 255 文字以内で入力します。

[選択 ▶] ボタン

入力したユーザが候補としてユーザ確定領域に表示され、選択状態になります。すでにユーザ確定領域に表示されているユーザと同じ名前のユーザを選択し、[選択 ▶] ボタンをクリックした場合は、すでにあるものが優先されます。

[取消] メニュー

ユーザ確定領域で選択したユーザが削除されます。

4.6.4 [ユーザ情報] 画面

[ユーザ情報] 画面では、Collaboration - Online Community Management のデータベースサーバのユーザ情報テーブルに登録されているユーザの情報を参照できます。操作の手順については、次の個所を参照してください。

- [3.6.3 ユーザ情報の参照]

なお、ユーザー一覧から [No Data] を選択した場合、ユーザ情報は表示されません。

[ユーザ情報] 画面の各項目について説明します。

図 4-23 [ユーザ情報] 画面

コミュニティ管理 - ユーザ情報	
編集	閉じる
ユニークID/UID:	manual01
名前:	日立 花子
役職:	課長
所属組織:	製品企画部
電話番号:	0000-0002
メールアドレス:	Hanako@Online.Community
英語名:	
英語役職:	
英語所属組織:	

[編集] メニュー

このメニューは、Collaboration - Online Community Management のデータベースサーバのユーザ（非ディレクトリユーザ）情報の場合に表示されます。

[ユーザ変更] 画面が表示されます。

[閉じる] メニュー

[ユーザ情報] 画面が閉じます。

ユーザ情報の表示

選択したユーザに設定されている次の情報が表示されます。

ユニーク ID/UID, 名前, 役職, 所属組織, 電話番号, メールアドレス, 英語名, 英語役職, 英語所属組織

4.6.5 [ユーザ変更] 画面

[ユーザ変更]画面では、Collaboration - Online Community Management のデータベースサーバのユーザ情報を変更できます。操作の手順については、次の個所を参照してください。

- [3.6.4 ユーザ情報の変更]

[ユーザ変更] 画面の各項目について説明します。

図 4-24 [ユーザ変更] 画面

ユニークID/UID:	manual01
名前:	日立 花子
役職:	課長
所属組織:	製品企画部
電話番号:	0000-0002
メールアドレス:	Hanako@Online.Community
英語名:	
英語役職:	
英語所属組織:	

[更新] メニュー

変更した内容がデータベースに反映され、[ユーザ情報] 画面に戻ります。

[閉じる] メニュー

ユーザ情報の変更が中断され、[ユーザ変更] 画面が閉じます。

[ユニーク ID/UID] テキストボックス

ユニーク ID または UID が表示されます。ユニーク ID または UID は変更できません。

[名前] テキストボックス

非ディレクトリユーザの場合に入力できます。名前を半角換算 255 文字以内で入力します。全角および半角を混在して入力できます。

[役職] テキストボックス

非ディレクトリユーザの場合に入力できます。役職名を半角換算 255 文字以内で入力します。全角および半角を混在して入力できます。

[所属組織] テキストボックス

非ディレクトリユーザの場合に入力できます。所属組織の名称を半角換算 255 文字以内で入力します。全角および半角を混在して入力できます。

[電話番号] テキストボックス

非ディレクトリユーザの場合に入力できます。電話番号を半角 255 文字以内で入力します。

[メールアドレス] テキストボックス

非ディレクトリユーザの場合に入力できます。メールアドレスを半角換算 255 文字以内で入力します。

[英語名] テキストボックス

非ディレクトリユーザの場合に入力できます。ユーザの英語名を半角 255 文字以内で入力します。

[英語役職] テキストボックス

非ディレクトリユーザの場合に入力できます。役職の英語名を半角 255 文字以内で入力します。

[英語所属組織] テキストボックス

非ディレクトリユーザの場合に入力できます。所属組織の英語名を半角 255 文字以内で入力します。

4.7 システムポリシー関連の画面

ここでは、システムポリシーの操作に使用する画面について説明します。

4.7.1 [システムポリシー] 画面

[システムポリシー] 画面では、システムポリシーの設定内容を確認できます。操作の手順については、次の個所を参照してください。

- [3.7.1 システムポリシーの参照]

[システムポリシー] 画面の各項目について説明します。

図 4-25 [システムポリシー] 画面



[編集] メニュー

[システムポリシー変更] 画面が表示されます。

[表示▼] メニュー

コミュニティ一覧を表示させるためのサブメニューが表示されます。メニューの詳細は、「4.1 メニュー」を参照してください。

[管理オプション▼] メニュー

テンプレート一覧や共通の役割一覧などを表示させるためのサブメニューが表示されます。メニューの詳細は、「4.1 メニュー」を参照してください。

[閉じる] メニュー

[システムポリシー変更] 画面が閉じます。

[再表示] アンカー

[システムポリシー変更] 画面が再表示されます。

基本情報

設定されているシステムポリシーが表示されます。

4.7.2 [システムポリシー変更] 画面

[システムポリシー変更] 画面では、システムポリシーの設定内容を変更できます。操作の手順については、次の個所を参照してください。

- [3.7.2 システムポリシーの変更]

[システムポリシー変更] 画面の各項目について説明します。

図 4-26 [システムポリシー変更] 画面

[更新] メニュー

変更した内容が反映され、[システムポリシー] 画面に戻ります。

[キャンセル] メニュー

システムポリシーの変更が中断され、[システムポリシー] 画面に戻ります。

[コミュニティを作成できる人]

コミュニティを作成する権限を持つユーザを選択します。

[コミュニティを変更できる人]

コミュニティを変更する権限を持つユーザを選択します。

[コミュニティを削除できる人]

コミュニティを削除する権限を持つユーザを選択します。

[コミュニティを削除できる条件]

コミュニティを削除できる条件を選択します。

[コミュニティカテゴリを作成, 変更, 削除できる人]

コミュニティカテゴリの作成, 変更, および削除の権限を持つユーザを選択します。

[一覧に表示できる数の上限] テキストボックス

コミュニティ一覧やメンバー一覧など、一覧表示の場合に一度に表示できるレコード数を 1~10,000 の範囲で指定します。デフォルトは 1000 です。必ず入力してください。

[ツリーに表示するコミュニティ数の上限] テキストボックス

ツリー表示の場合に一度に表示するコミュニティの数を 1~10,000 の範囲で指定します。デフォルトは 1000 です。必ず入力してください。

[ツリーに表示するカテゴリ数の上限] テキストボックス

ツリー表示の場合に一度に表示するカテゴリの数を 1~10,000 の範囲で指定します。デフォルトは 1000 です。必ず入力してください。

! 注意事項

ツリーに表示するコミュニティ数の上限およびカテゴリ数の上限は、実際に作成されると予測されるコミュニティ数およびカテゴリ数の最大値を指定してください。大き過ぎる値を設定すると、表示性能が悪くなります。

5

運用コマンド

この章では、Collaboration - Online Community Management の運用（システム情報の設定、各アプリケーションの登録・削除、ユーザ・メンバに関する情報の管理など）で使用するコマンドについて説明します。

5.1 コマンド一覧

Collaboration - Online Community Management の運用で使用するコマンドの一覧を次に示します。

表 5-1 Collaboration - Online Community Management の運用コマンド一覧

分類	コマンド名	用途	機能
初期設定	set_system	システム情報の設定	システムポリシーなどのシステム情報をデータベースに設定します。
	set_application	アプリケーションの登録・削除	コミュニティで使用できるアプリケーションをデータベースに設定します。またはデータベースから削除します。
	set_template	コミュニティテンプレートの追加	テンプレート名やテンプレートの説明などのコミュニティテンプレートの定義内容をデータベースに設定します。
	set_worktemplate	ワークプレーステンプレートの追加	テンプレート名や英語名などのワークプレーステンプレートの定義内容をデータベースに設定します。
	set_role	ロール（役割）の追加	システムに共通の役割の定義内容をデータベースに設定します。
運用中の管理	set_member	ユーザの一括登録・変更	ユーザを一括して登録または変更します。 最初のシステム管理者は、このコマンドで登録します。
	del_member	ユーザおよびメンバの一括削除	ユーザおよびコミュニティメンバを一括して削除します。
	del_record	レコードの削除	削除フラグが設定されているレコードをテーブルから完全に削除します。
	get_community	コミュニティ情報一覧の出力	データベースのコミュニティ情報の一覧を出力します。

5.2 各コマンドに共通の条件および規則

各コマンドに共通の条件や規則などについて説明します。

コマンドごとに異なる機能については、「5.3 各コマンドの詳細」を参照してください。

(1) コマンドの実行条件

コマンドを実行するために必要な条件を次に示します。

- HiRDB が起動している
- 「2.2 データベースサーバの構築」に従ってテーブルが作成されている
- 次に示す環境変数が設定されている

PATH の設定

- Cosminexus Driver for Java ライブラリの格納場所
例：C:\Program Files\Hitachi\Cosminexus\DAB\Lib
- Java の格納場所
例：C:\Program Files\Hitachi\Cosminexus\jdk\bin
- データベースクライアントライブラリの格納場所
例：C:\Program Files\Hitachi\HiRDB\utl

CLASSPATH の設定

- JDBC ドライバの絶対パス名
例：C:\Program Files\Hitachi\Cosminexus\DAB\JdbcDbspv.jar
- HNTRLib2 の絶対パス名
例：C:\Program Files\Hitachi\HNTRLib2\classes\hntrlib2j.jar
- Collaboration - Online Community Management 用 jar の絶対パス名
例：C:\Program Files\Hitachi\Collaboration\community\command\lib\hptl_clb_ccm_cmd.jar
- Collaboration - Online Community Management コマンド用プロパティファイル格納場所のディレクトリの絶対パス名
例：C:\Program Files\Hitachi\Collaboration\community\command\conf

なお、異なるディレクトリに同じ名称のディレクトリやファイルが存在し、それらが共に PATH や CLASSPATH に設定されていた場合、OS の制御によって、どちらが優先されるかが決まります。したがって、同じディレクトリ名およびファイル名が設定されている場合は注意が必要です。

これらの環境変数の設定例を記述したバッチファイルを次のディレクトリに用意してあります。

```
<Collaboration - Serverインストールディレクトリ>\community\command\sample\sample.bat
```

(2) オプションの指定方法

オプションを指定する際の規則

各コマンドのオプションは、次の規則に従って指定できます。

- 複数指定できます。複数ある場合、どのような順でも指定できます。
- 同一オプションを複数指定した場合、最後に指定したオプションが有効になります。
- 省略できます。

- オプションの文字列は、大文字と小文字が区別されます。ただし、Windows 版の場合、ファイル名の大文字と小文字は区別されません。
- ディレクトリ名およびファイル名に半角スペースが含まれる場合は、ファイルのパス全体を「」（半角引用符）で囲みます。

例："C:¥¥Program△files・・・”

注：△は半角スペースを示します。

- コマンドの引数や定義ファイル中に定義するファイル名に使用できる文字を次に示します。下記以外の文字を指定した場合、動作は保証されません。

半角英数字

全角文字

「¥」（半角円記号）

「”」（半角引用符）

「:」（半角コロン）

半角スペース

！ 注意事項

ファイル名は、使用する OS のファイルシステムの規則に従って指定してください。OS のファイルシステムで許可されていないファイル名を指定した場合、動作は保証されません。

オプションの指定方法の表示

オプションの指定を誤ってコマンドを実行すると、オプションの指定方法が標準エラー出力に出力されます。

(3) -o オプションに指定する出力ファイル

ファイル名の規則

-o オプションには、出力ファイルのファイル名を絶対パス、またはコマンドを実行するディレクトリからの相対パスで指定します。ファイル名は、220 バイト以内の文字列で指定します。ただし、絶対パスで表したときに 220 バイト以内の文字列になるように指定してください。

-o オプションに指定したディレクトリおよび出力ファイルが存在しない場合

指定したディレクトリおよび出力ファイルが新規に作成されます。

-o オプションに指定したファイルがすでに存在する場合

次のファイル名で、出力ファイルが新規に作成されます。

aaa_bbb_yyyyMMdd_HHmms.ccc

文字列の意味

aaa：-o オプションに指定したファイル名から拡張子を除いた文字列

bbb：コマンド名

yyyy：実行日付（年）

MM：実行日付（月）

dd：実行日付（日）

HH：実行時刻（時）

mm：実行時刻（分）

ss：実行時刻（秒）

ccc：-o オプションに指定したファイル名の拡張子

例

-o オプションに指定した出力ファイルのファイル名が「output.log」、コマンドの実行日時が「2003年12月31日20:32:10」の場合、新規に作成される出力ファイルのファイル名は、次のようになります。

`output_コマンド名_20031231_203210.log`

-o オプションに指定した出力ファイルに出力される情報

-o オプションに指定した出力ファイルには、標準出力に出力されるデータおよび標準エラー出力に出力されるデータが出力されます。

(4) -e オプションに指定するログファイル

ファイル名の規則

-e オプションには、ログファイルのファイル名を絶対パス、またはコマンドを実行するディレクトリからの相対パスで指定します。ファイル名は、220バイト以内の文字列で指定します。ただし、絶対パスで表したときに220バイト以内の文字列になるように指定してください。

-e オプションに指定したディレクトリおよびファイルが存在しない場合

指定したディレクトリおよびファイルが新規に作成されます。

-e オプションに指定したログファイルがすでに存在する場合

次のファイル名で、ログファイルが新規に作成されます。

`aaa_bbb_yyyyMMdd_HHmms.ccc`

文字列の意味

`aaa` : -e オプションに指定したファイル名から拡張子を除いた文字列

`bbb` : コマンド名

`yyyy` : 実行日付 (年)

`MM` : 実行日付 (月)

`dd` : 実行日付 (日)

`HH` : 実行時刻 (時)

`mm` : 実行時刻 (分)

`ss` : 実行時刻 (秒)

`ccc` : -e オプションに指定したファイル名の拡張子

例

-e オプションに指定したログファイルのファイル名が「error.log」、コマンドの実行日時が「2003年12月31日20:32:10」の場合、新規に作成されるログファイルのファイル名は、次のようになります。

`error_コマンド名_20031231_203210.log`

-e オプションを省略した場合

コマンドプロパティファイル (hptl_clb_ccm_cmd.properties) の hptl_clb_ccm_cmd_logfile キーに指定された値が、ログファイルのファイル名となります。ただし、この値と同じファイル名のファイルがすでに存在するときは、ログファイルのファイル名は、次のようになります。

`aaa_bbb_yyyyMMdd_HHmms.ccc`

文字列の意味

`aaa` : コマンドプロパティファイル (hptl_clb_ccm_cmd.properties) の hptl_clb_ccm_cmd_logfile キーに指定された値から、拡張子を除いた文字列

`bbb` : コマンド名

`yyyy` : 実行日付 (年)

MM : 実行日付 (月)

dd : 実行日付 (日)

HH : 実行時刻 (時)

mm : 実行時刻 (分)

ss : 実行時刻 (秒)

ccc : コマンドプロパティファイル (hptl_clb_ccm_cmd.properties) の hptl_clb_ccm_cmd_logfile キーに指定された値の拡張子

例

hptl_clb_ccm_cmd_logfile キーに指定したログファイルのファイル名が「error.log」、コマンドの実行日時が「2003年12月31日20:32:10」の場合、新規に作成されるログファイルのファイル名は、次のようになります。

error_コマンド名_20031231_203210.log

-e オプションが省略されていて hptl_clb_ccm_cmd_logfile キーが指定されていない場合

プログラムのデフォルトである「error.log」がファイル名となります。ただし、カレントディレクトリに「error.log」という名前のファイルがすでに存在する場合は、「error_コマンド名_実行日付_実行時刻.log」となります。

例

コマンドの実行日時が「2003年12月31日20:32:10」の場合、新規に作成されるログファイルのファイル名は、次のようになります。

error_コマンド名_20031231_203210.log

(5) コマンドの実行方法

コマンドを実行する際は、Collaboration - Online Community Management をインストールしたマシンで実行します。set_member コマンドの-s オプションを指定する場合は、Collaboration - Online Community Management, Collaboration - Directory Access, および Collaboration - Common Utility をインストールしたマシン上で実行します。

コマンドの実行時にはデータベースと接続するために、ユーザ名およびパスワードを入力する必要があります。Windows のコマンドプロンプトで入力するユーザ名およびパスワードに使える文字は ASCII 文字の英大文字、数字および英小文字だけです。

手順

- 1.Windows のコマンドプロンプトでコマンドを実行します。
- 2.「Database User Name : 」と表示されるのでユーザ名を入力して、[Enter] キーを押します。
ユーザ名に「” (半角引用符)」を使用する場合は、エスケープ文字として「¥ (半角円記号)」を付けます。例えば、ユーザ名として「"root"」を入力する場合は、「¥"root¥」と入力します。
- 3.「Password:」と表示されるのでパスワードを入力し、[Enter] キーを押します。
パスワードは、入力しても画面には表示されません。パスワードの場合もユーザ名と同様に「” (半角引用符)」を使用する場合は、エスケープ文字として「¥」を付けます。

(6) コマンドに共通の注意事項

- コマンドの中断

キー割り込みなどによって強制終了された場合の戻り値などの動作は保証されません。なお、強制終了された場合は、データベースのコネクションが保持されたままの状態となることがあるので注意が必要です。

- コマンドの二重実行

Collaboration - Online Community Management で提供しているコマンドを二重に実行するとエラーになり、コマンドの実行が中止されます。例えば、set_member コマンドの実行中に同じ set_member コマンドを実行したり、set_member コマンドの実行中に set_application コマンドを実行したりするとエラーになります。

- ユーザアカウント制御 (UAC)

ユーザアカウント制御 (UAC) が有効に設定されている場合、コマンドの実行時にユーザアカウント制御のダイアログが表示されることがあります。コマンドは管理者権限で実行する必要があるため、ダイアログの [続行] ボタンをクリックしてコマンドを実行してください。

5.3 各コマンドの詳細

Collaboration - Online Community Management の運用で使用する各コマンドの機能、形式、オプション、戻り値、実行結果、出力メッセージ、使用例および注意事項について説明します。

set_system (システム情報の設定)

機能

システムポリシーなどのシステム情報をデータベースのシステム情報テーブル (TBL_SYSTEM) および ID 管理テーブル (TBL_IDMANAGE) に設定します。2 回目以降の実行時には、設定内容を上書きします。ID 管理テーブルには、初回のときだけ値を設定します。

形式

```
set_system [-o 出力ファイル名] [-q] [-e ログファイル名] [-f システム情報定義ファイル名]
```

オプション

-o 出力ファイル名

指定したファイルに標準出力データを出力します。ただし、出力メッセージのうち、KDCM00071-E~KDCM00076-E は出力しません。

出力ファイル名の指定方法の詳細は、「5.2 (3) -o オプションに指定する出力ファイル」を参照してください。

-q

標準出力および標準エラー出力への出力を抑制します。

-e ログファイル名

指定したログファイルに、次の情報を出力します。

- SQL クエリ発行直前および発行直後の SQL クエリ文字列
- SQL クエリ発行時のエラーメッセージ

ログファイル名の指定方法の詳細は、「5.2 (4) -e オプションに指定するログファイル」を参照してください。

-f システム情報定義ファイル名

システム情報定義ファイル (set_system.cfg) に定義されている内容をデータベースのシステム情報テーブル (TBL_SYSTEM) に設定します。

ファイル名の指定方法

システム情報定義ファイルのファイル名は、絶対パス、またはコマンドを実行するディレクトリからの相対パスで指定します。ファイル名は、220 バイト以内の文字列で指定します。ただし、絶対パスで表したときに 220 バイト以内の文字列になるように指定してください。

ファイルの記述形式

システム情報定義ファイルの記述形式については、「7.2.1 システム情報定義ファイル (set_system.cfg)」を参照してください。

サンプルファイルの利用

システム情報定義ファイルには、サンプルファイル (set_system.cfg.sam) を利用します。サンプルファイルの内容を変更しないで、ファイル名を「set_system.cfg」に変更して保存してください。

-f オプションを省略した場合

デフォルトのシステム情報定義ファイルに定義されている内容が設定されます。デフォルトのシステム情報定義ファイル名は、コマンドプロパティファイル (hptl_clb_ccm_cmd.properties) の hptl_clb_ccm_cmd_set_system_config キーに指定された値となります。

-f オプションを省略し hptl_clb_ccm_cmd_set_system_config キーを指定していない場合

システム情報定義ファイル名は、プログラムのデフォルトである「set_system.cfg」となります。

戻り値

set_system コマンドの戻り値を次に示します。

表 5-2 set_system コマンドの戻り値

戻り値	意味
0	正常終了しました。
1	ユーザによる強制終了が発生したか、またはコマンド用 jar が見つかりません。
2	指定したシステム情報定義ファイル、または hptl_clb_ccm_cmd.properties が見つかりません。出力ファイル、またはログファイルを生成できません。
12	出力ファイル名、ログファイル名、またはシステム情報定義ファイル名が長過ぎます。
13	システム情報定義ファイルの書式にエラーがあります。
14	システム情報定義ファイル、または hptl_clb_ccm_cmd.properties の属性値が適切な範囲にありません。
21	データベースからの応答がありません。
22	データベースへの接続に失敗しました。
23	SQL クエリの実行に失敗しました。
24	JDBC ドライバがインストールされていません。または、パスが通っていません。
31	入出力処理中にエラーが発生しました。
32	トレース処理中にエラーが発生しました。
33	コマンドの書式が違います。
34	システム情報の取得に失敗しました。
35	null が指定されました。
36	内部矛盾が発生しました。
39	次の意味が考えられます。 <ul style="list-style-type: none"> • コマンドが実行できる状態ではありません。 • 環境変数が設定されていません。 • システムコールでエラーが発生しました。

実行結果

指定した値がデータベースのシステム情報テーブル (TBL_SYSTEM) に設定され、ID 管理テーブル (TBL_IDMANAGE) にレコードが追加されます。ただし、すでにレコードがある場合は何もされません。

ID 管理テーブル (TBL_IDMANAGE) に追加されるレコードを次に示します。

idassort	idnumber
COM	9
CTG	0
ROL	1000
WPL	0
CAP	0
MEM	0
TMP	0
WTP	0

使用例

set_system コマンドの使用例を紹介します。ここでは、次のような環境を想定しています。

- ソフトウェア環境
set_system コマンドを実行できる環境
- コマンドプロンプトのカレントディレクトリ
<Collaboration - Server インストールディレクトリ>%community%command%bin
- システム情報定義ファイル
C:%Program Files%Hitachi%Collaboration%community%command%sys%set_system.cfg

システム情報定義ファイルの内容をシステム情報テーブルに登録する場合

システム情報定義ファイルの内容をデータベースのシステム情報テーブル (TBL_SYSTEM) に登録する場合、set_system コマンドを次のように実行します。

```
set_system -e "C:%Program Files%Hitachi%Collaboration%community%command%log%set_system.log"
-f "C:%Program Files%Hitachi%Collaboration%community%command%sys%set_system.cfg"
```

この実行例では、set_system コマンドを実行すると、エラーログがある場合は -e オプションで指定したログファイル (set_system.log) に出力されます。

実行例は改行されているように表示されていますが、実際に実行するときは、1 行で記述する必要があります。

標準出力に何も出力しない場合

ログをデフォルトのログファイルに出力する場合、set_system コマンドを次のように実行します。

```
set_system -q
```

この実行例は、あらかじめコマンドプロパティファイル (hptl_clb_ccm_cmd.properties) の hptl_clb_ccm_cmd_logfile キーの設定値に、ログファイルとして C:%Program Files%Hitachi%Collaboration%community%log%error_set_system.log を指定していることを想定しています。

注意事項

- set_system コマンドの実行中にエラーが発生した場合、必ず、set_system コマンドが正常終了するまで再実行して、データベースのシステム情報テーブル (TBL_SYSTEM) および ID 管理テーブル (TBL_IDMANAGE) に値を設定してください。
- set_system コマンドは、システム情報定義ファイルに不正な属性記述子が記述されている場合、メッセージ (KDCM00002-W) を出力して正常終了します。メッセージで提示された属性記述子を含むレコードはデータベースに登録されていないため、メッセージが出なくなるまで再実行してください。

set_application (アプリケーションの登録・削除)

機能

コミュニティで使用できるアプリケーションをデータベースのシステムアプリケーションテーブル (TBL_SYSAPPLI) に設定します。またはシステムアプリケーションテーブル (TBL_SYSAPPLI) およびアプリケーションテーブル (TBL_APPLICATION) から削除します。

設定する場合、2 回目以降の実行時には、設定内容を上書きします。上書きする際に、対応するアプリケーション情報がアプリケーションテーブル (TBL_APPLICATION) にある場合は、同時に更新します。

形式

set_application [-o 出力ファイル名] [-q] [-e ログファイル名] {-f | -d} アプリケーションリスト
ファイル名

オプション

-o 出力ファイル名

指定したファイルに標準出力データを出力します。ただし、出力メッセージのうち、KDCM00071-E～KDCM00076-E は出力しません。

出力ファイル名の指定方法の詳細は、「5.2 (3) -o オプションに指定する出力ファイル」を参照してください。

-q

標準出力および標準エラー出力への出力を抑制します。

-e ログファイル名

指定したログファイルに、次の情報を出力します。

- SQL クエリ発行直前および発行直後の SQL クエリ文字列
- SQL クエリ発行時のエラーメッセージ

ログファイル名の指定方法の詳細は、「5.2 (4) -e オプションに指定するログファイル」を参照してください。

-f アプリケーションリストファイル名

アプリケーションリストファイル (set_application.cfg) に定義されている内容をデータベースのシステムアプリケーションテーブル (TBL_SYSAPPLI) に設定します。

ファイル名の指定方法

アプリケーションリストファイルのファイル名は、絶対パス、またはコマンドを実行するディレクトリからの相対パスで指定します。ファイル名は、220 バイト以内の文字列で指定します。ただし、絶対パスで表したときに 220 バイト以内の文字列になるように指定してください。

ファイルの記述形式

アプリケーションリストファイルの記述形式については、「7.2.2 アプリケーションリストファイル (set_application.cfg)」を参照してください。

サンプルファイルの利用

アプリケーションリストファイルには、サンプルファイル (set_application.cfg.sam) を利用します。サンプルファイルの内容を変更しないで、ファイル名を「set_application.cfg」に変更して保存してください。

なお、Groupmax Collaboration Web Client - Mail/Schedule では、サンプルファイル (set_application_ms.cfg.sam) を利用してください。

-d アプリケーションリストファイル名

データベースのシステムアプリケーションテーブル (TBL_SYSAPPLI) に削除フラグを設定します。このとき、アプリケーションリストファイル (set_application.cfg) を指定します。

ファイル名の指定方法

アプリケーションリストファイルのファイル名は、絶対パス、またはコマンドを実行するディレクトリからの相対パスで指定します。ファイル名は、220 バイト以内の文字列で指定します。ただし、絶対パスで表したときに 220 バイト以内の文字列になるように指定してください。

ファイルの記述形式

アプリケーションリストファイルの記述形式については、「7.2.2 アプリケーションリストファイル (set_application.cfg)」を参照してください。

サンプルファイルの利用

アプリケーションリストファイルに、サンプルファイル (set_application.cfg.sam) を使用する場合、サンプルファイルの内容を使用する環境に合わせて変更し、ファイル名「set_application.cfg」で保存してください。

なお、Groupmax Collaboration Web Client - Mail/Schedule では、サンプルファイル (set_application_ms.cfg.sam) を利用してください。

戻り値

set_application コマンドの戻り値を次に示します。

表 5-3 set_application コマンドの戻り値

戻り値	意味
0	正常終了しました。
1	ユーザによる強制終了が発生したか、またはコマンド用 jar が見つかりません。
2	指定したアプリケーションリストファイル、または hptl_clb_ccm_cmd.properties が見つかりません。 出力ファイル、またはログファイルを生成できません。
3	必要なオプションが指定されていません。
4	排他のオプションが重複して指定されています。
12	出力ファイル名、ログファイル名、またはアプリケーションリストファイル名が長過ぎます。
13	アプリケーションリストファイルの書式にエラーがあります。
14	アプリケーションリストファイル、または hptl_clb_ccm_cmd.properties の属性値が適切な範囲にありません。
21	データベースからの応答がありません。

戻り値	意味
22	データベースへの接続に失敗しました。
23	SQL クエリの実行に失敗しました。
24	JDBC ドライバがインストールされていません。または、パスが通っていません。
25	存在しないレコードを指定しました。
31	入出力処理中にエラーが発生しました。
32	トレース処理中にエラーが発生しました。
33	コマンドの書式が違います。
34	システム情報の取得に失敗しました。
35	null が指定されました。
36	内部矛盾が発生しました。
39	次の意味が考えられます。 <ul style="list-style-type: none"> • コマンドが実行できる状態ではありません。 • 環境変数が設定されていません。 • システムコールでエラーが発生しました。

実行結果

指定した値が、データベースのシステムアプリケーションテーブル (TBL_SYSAPPLI) に設定され、アプリケーションテーブル (TBL_APPLICATION) の対応する情報が更新されます。

または、システムアプリケーションテーブル (TBL_SYSAPPLI) およびアプリケーションテーブル (TBL_APPLICATION) に削除フラグが設定されます。

使用例

set_application コマンドの使用例を紹介します。ここでは、次のような環境を想定しています。

- ソフトウェア環境
set_application コマンドを実行できる環境
- コマンドプロンプトのカレントディレクトリ
<Collaboration - Server インストールディレクトリ>%community%command%bin
- アプリケーションリストファイル
C:%Program Files%Hitachi%Collaboration%community%command%sys%set_application.cfg

アプリケーションリストファイルの内容をシステムアプリケーションテーブルに登録する場合

アプリケーションリストファイルの内容をシステムアプリケーションテーブル (TBL_SYSAPPLI) に登録する場合、set_application コマンドを次のように実行します。

```
set_application
-e "C:%Program Files%Hitachi%Collaboration%community%command%log%set_application.log"
-f "C:%Program Files%Hitachi%Collaboration%community%command%sys%set_application.cfg"
```

この実行例では、set_application コマンドを実行すると、エラーログがある場合は-e オプションで指定したログファイル (set_application.log) に出力されます。

実行例は改行されているように表示されていますが、実際に実行するときは、1 行で記述する必要があります。

標準出力に何も出力しない場合

ログをデフォルトのログファイルに出力する場合、set_application コマンドを次のように実行します。

```
set_application -q -f "C:¥Program
Files¥Hitachi¥Collaboration¥community¥command¥sys¥set_application.cfg"
```

この実行例は、あらかじめコマンドプロパティファイル (hptl_clb_ccm_cmd.properties) の hptl_clb_ccm_cmd_logfile キーの設定値に、ログファイルとして C:¥Program Files¥Hitachi ¥Collaboration¥community¥log¥error_set_application.log を指定していることを想定しています。

注意事項

- set_application コマンドの実行中にエラーが発生した場合、必ず、set_application コマンドが正常終了するまで再実行して、システムアプリケーションテーブル (TBL_SYSAPPLI) およびアプリケーションテーブル (TBL_APPLICATION) に値を設定してください。
- set_application コマンドは、アプリケーションリストファイルに不正な属性記述子が記述されている場合、メッセージ (KDCM00002-W) を出力して正常終了します。メッセージで提示された属性記述子を含むレコードはデータベースに登録されていないため、メッセージが出なくなるまで再実行してください。

set_template (コミュニティテンプレートの追加)

機能

コミュニティテンプレートの定義内容をデータベースのテンプレートテーブル (TBL_TEMPLATE) に設定します。2 回目以降の実行時には、設定内容を上書きします。

形式

```
set_template [-o 出力ファイル名] [-q] [-e ログファイル名] [-f テンプレート定義ファイル名]
```

オプション

-o 出力ファイル名

指定したファイルに、標準出力データを出力します。ただし、出力メッセージのうち、KDCM00071-E~KDCM00076-E は出力しません。

出力ファイル名の指定方法の詳細は、「5.2 (3) -o オプションに指定する出力ファイル」を参照してください。

-q

標準出力および標準エラー出力への出力を抑制します。

-e ログファイル名

指定したログファイルに、次の情報を出力します。

- SQL クエリ発行直前および発行直後の SQL クエリ文字列
- SQL クエリ発行時のエラーメッセージ

ログファイル名の指定方法の詳細は、「5.2 (4) -e オプションに指定するログファイル」を参照してください。

-f テンプレート定義ファイル名

テンプレート定義ファイル (set_template.cfg) に定義されている内容をデータベースのテンプレートテーブル (TBL_TEMPLATE) に設定します。

ファイル名の指定方法

テンプレート定義ファイルのファイル名は、絶対パス、またはコマンドを実行するディレクトリからの相対パスで指定します。ファイル名は、220 バイト以内の文字列で指定します。ただし、絶対パスで表したときに 220 バイト以内の文字列になるように指定してください。

ファイルの記述形式

テンプレート定義ファイルの記述形式については、「7.2.3 テンプレート定義ファイル (set_template.cfg)」を参照してください。

サンプルファイルの利用

テンプレート定義ファイルに、サンプルファイル (set_template.cfg.sam) を使用する場合、サンプルファイルの内容を使用する環境に合わせて変更し、ファイル名「set_template.cfg」で保存してください。

-f オプションを省略した場合

デフォルトのテンプレートファイルに定義されている内容が設定されます。デフォルトのテンプレートファイル名は、コマンドプロパティファイル (hptl_clb_ccm_cmd.properties) の hptl_clb_ccm_cmd_set_template_config キーに指定された値となります。

-f オプションを省略し hptl_clb_ccm_cmd_set_template_config キーを指定していない場合

テンプレートファイル名は、プログラムのデフォルトである「set_template.cfg」となります。

戻り値

set_template コマンドの戻り値を次に示します。

表 5-4 set_template コマンドの戻り値

戻り値	意味
0	正常終了しました。
1	ユーザによる強制終了が発生したか、またはコマンド用 jar が見つかりません。
2	指定したテンプレート定義ファイル、または hptl_clb_ccm_cmd.properties ファイルが見つかりません。 出力ファイル、またはログファイルを生成できません。
12	出力ファイル名、ログファイル名、またはテンプレート定義ファイル名が長過ぎます。
13	テンプレート定義ファイルの書式にエラーがあります。
14	テンプレート定義ファイル、または hptl_clb_ccm_cmd.properties の属性値が適切な範囲にありません。
21	データベースからの応答がありません。
22	データベースへの接続に失敗しました。
23	SQL クエリの実行に失敗しました。
24	JDBC ドライバがインストールされていません。または、パスが通っていません。

戻り値	意味
31	入出力処理中にエラーが発生しました。
32	トレース処理中にエラーが発生しました。
33	コマンドの書式が違います。
34	システム情報の取得に失敗しました。
35	null が指定されました。
36	内部矛盾が発生しました。
39	次の意味が考えられます。 <ul style="list-style-type: none"> • コマンドが実行できる状態ではありません。 • 環境変数が設定されていません。 • システムコールでエラーが発生しました。

実行結果

指定した値がデータベースのテンプレートテーブル (TBL_TEMPLATE) に設定されます。

使用例

set_template コマンドの使用例を紹介します。ここでは、次のような環境を想定しています。

- ソフトウェア環境
set_template コマンドを実行できる環境
- コマンドプロンプトのカレントディレクトリ
<Collaboration - Server インストールディレクトリ>%community%command%bin
- テンプレート定義ファイル
C:%Program Files%Hitachi%Collaboration%community%command%sys%set_template.cfg

テンプレート定義ファイルの内容をテンプレートテーブルに登録する場合

テンプレート定義ファイルの内容をデータベースのテンプレートテーブル (TBL_TEMPLATE) に登録する場合、set_template コマンドを次のように実行します。

```
set_template
-e "C:%Program Files%Hitachi%Collaboration%community%command%log%set_template.log"
-f "C:%Program Files%Hitachi%Collaboration%community%command%sys%set_template.cfg"
```

この実行例では、set_template コマンドを実行すると、エラーログがある場合は-e オプションで指定したログファイル (set_template.log) に出力されます。

実行例は改行されているように表示されていますが、実際に実行するときは、1行で記述する必要があります。

標準出力に何も出力しない場合

ログをデフォルトのログファイルに出力する場合、set_template コマンドを次のように実行します。

```
set_template -q
```


この実行例は、あらかじめコマンドプロパティファイル (hptl_clb_ccm_cmd.properties) の hptl_clb_ccm_cmd_logfile キーの設定値に、ログファイルとして C:%Program Files%Hitachi %Collaboration%community%log%error_set_template.log を指定していることを想定しています。

注意事項

- set_template コマンドの実行中にエラーが発生した場合、必ず、set_template コマンドが正常終了するまで再実行して、データベースのテンプレートテーブル (TBL_TEMPLATE) に値を設定してください。
- set_template コマンドは、テンプレート定義ファイルに不正な属性記述子が記述されている場合、メッセージ (KDCM00002-W) を出力して正常終了します。メッセージで提示された属性記述子を含むレコードはデータベースに登録されていないため、メッセージが出なくなるまで再実行してください。
- コミュニティテンプレート情報はワークプレーステンプレート情報とセットで登録しなければなりません。したがって、ワークプレーステンプレート情報の登録が完了していないと、正しく動作しないので注意してください。ワークプレーステンプレート情報の詳細は「2.7.4 ワークプレーステンプレート情報の登録」を参照してください。

set_worktemplate (ワークプレーステンプレートの追加)

機能

ワークプレーステンプレートの定義内容をデータベースのワークプレーステンプレートテーブル (TBL_WORKTEMPLATE) に設定します。2 回目以降の実行時には、設定内容を上書きします。

形式

set_worktemplate [-o 出力ファイル名] [-q] [-e ログファイル名] [-f ワークプレーステンプレート定義ファイル名]

オプション

-o 出力ファイル名

指定したファイルに標準出力データを出力します。ただし、出力メッセージのうち、KDCM00071-E～KDCM00076-E は出力しません。

出力ファイル名の指定方法の詳細は、「5.2 (3) -o オプションに指定する出力ファイル」を参照してください。

-q

標準出力および標準エラー出力への出力を抑制します。

-e ログファイル名

指定したログファイルに、次の情報を出力します。

- SQL クエリ発行直前および発行直後の SQL クエリ文字列
- SQL クエリ発行時のエラーメッセージ

ログファイル名の指定方法の詳細は、「5.2 (4) -e オプションに指定するログファイル」を参照してください。

-f ワークプレーステンプレート定義ファイル名

ワークプレーステンプレート定義ファイル (set_worktemplate.cfg) に定義されている内容をデータベースのワークプレーステンプレートテーブル (TBL_WORKTEMPLATE) に設定します。

ファイル名の指定方法

ワークプレーステンプレート定義ファイルのファイル名は、絶対パス、またはコマンドを実行するディレクトリからの相対パスで指定します。ファイル名は、220バイト以内の文字列で指定します。ただし、絶対パスで表したときに220バイト以内の文字列になるように指定してください。

ファイルの記述形式

ワークプレーステンプレート定義ファイルの記述形式については、「7.2.4 ワークプレーステンプレート定義ファイル (set_worktemplate.cfg)」を参照してください。

サンプルファイルの利用

ワークプレーステンプレート定義ファイルには、サンプルファイル (set_worktemplate.cfg.sam) を利用します。サンプルファイルの内容を変更しないで、ファイル名を「set_worktemplate.cfg」に変更して保存してください。

-f オプションを省略した場合

デフォルトのワークプレーステンプレート定義ファイルに定義されている内容が設定されます。デフォルトのワークプレーステンプレート定義ファイル名は、コマンドプロパティファイル (hptl_clb_ccm_cmd.properties) の hptl_clb_ccm_cmd_set_worktemplate_config キーに指定された値となります。

-f オプションを省略し hptl_clb_ccm_cmd_set_worktemplate_config キーを指定していない場合

ワークプレーステンプレート定義ファイル名は、プログラムのデフォルトである「set_worktemplate.cfg」となります。

戻り値

set_worktemplate コマンドの戻り値を次に示します。

表 5-5 set_worktemplate コマンドの戻り値

戻り値	意味
0	正常終了しました。
1	ユーザによる強制終了が発生したか、またはコマンド用 jar が見つかりません。
2	指定したワークプレーステンプレート定義ファイル、または hptl_clb_ccm_cmd.properties が見つかりません。 出力ファイル、またはログファイルを生成できません。
12	出力ファイル名、ログファイル名、またはワークプレーステンプレート定義ファイル名が長過ぎます。
13	ワークプレーステンプレート定義ファイルの書式にエラーがあります。
14	ワークプレーステンプレート定義ファイル、または hptl_clb_ccm_cmd.properties の属性値が適切な範囲にありません。
21	データベースからの応答がありません。
22	データベースへの接続に失敗しました。
23	SQL クエリの実行に失敗しました。
24	JDBC ドライバがインストールされていません。または、パスが通っていません。
31	入出力処理中にエラーが発生しました。
32	トレース処理中にエラーが発生しました。
33	コマンドの書式が違います。

戻り値	意味
34	システム情報の取得に失敗しました。
35	null が指定されました。
36	内部矛盾が発生しました。
39	次の意味が考えられます。 <ul style="list-style-type: none"> • コマンドが実行できる状態ではありません。 • 環境変数が設定されていません。 • システムコールでエラーが発生しました。

実行結果

指定した値がデータベースのワークプレーステンプレートテーブル (TBL_WORKTEMPLATE) に設定されます。

使用例

set_worktemplate コマンドの使用例を紹介します。ここでは、次のような環境を想定しています。

- ソフトウェア環境
set_worktemplate コマンドを実行できる環境
- コマンドプロンプトのカレントディレクトリ
<Collaboration - Server インストールディレクトリ>%community%command%bin
- ワークプレーステンプレート定義ファイル
C:%Program Files%Hitachi%Collaboration%community%command%sys%set_worktemplate.cfg

ワークプレーステンプレート定義ファイルの内容をワークプレーステンプレートテーブルに登録する場合
ワークプレーステンプレート定義ファイルの内容をデータベースのワークプレーステンプレートテーブル (TBL_WORKTEMPLATE) に登録する場合、set_worktemplate コマンドを次のように実行します。

```
set_worktemplate
-e "C:%Program Files%Hitachi%Collaboration%community%command%log%set_worktemplate.log"
-f "C:%Program Files%Hitachi%Collaboration%community%command%sys%set_worktemplate.cfg"
```

この実行例では、set_worktemplate コマンドを実行すると、エラーログがある場合は-e オプションで指定したログファイル (set_worktemplate.log) に出力されます。

実行例は、改行されているように表示されていますが、実際に実行するときは、1行で記述する必要があります。

標準出力に何も出力しない場合

ログをデフォルトのログファイルに出力する場合、set_worktemplate コマンドを次のように実行します。

```
set_worktemplate -q
```

この実行例は、あらかじめコマンドプロパティファイル (hptl_clb_ccm_cmd.properties) の hptl_clb_ccm_cmd_logfile キーの設定値に、ログファイルとして C:%Program Files%Hitachi

¥Collaboration¥community¥log¥error_set_worktemplate.log を指定していることを想定しています。

注意事項

- set_worktemplate コマンドの実行中にエラーが発生した場合、必ず、set_worktemplate コマンドが正常終了するまで再実行して、データベースのワークプレーステンプレートテーブル (TBL_WORKTEMPLATE) に値を設定してください。
- set_worktemplate コマンドは、ワークプレーステンプレート定義ファイルに不正な属性記述子が記述されている場合、メッセージ (KDCM00002-W) を出力して正常終了します。メッセージで提示された属性記述子を含むレコードはデータベースに登録されていないため、メッセージが出なくなるまで再実行してください。
- ワークプレーステンプレート情報はコミュニティテンプレート情報とセットで登録しなければなりません。したがって、コミュニティテンプレート情報の登録が完了していないと、正しく動作しないので注意してください。コミュニティテンプレート情報の登録の詳細は、「2.7.3 コミュニティテンプレート情報の登録」を参照してください。

set_role (ロールの追加)

機能

システムに共通の役割の定義内容をデータベースのコミュニティロールテーブル (TBL_COMMUROLE) に設定します。2 回目以降の実行時には、設定内容を上書きします。上書きする際に、対応するロール情報がメンバロールテーブル (TBL_MEMBERROLE) にある場合は、同時に更新します。

形式

```
set_role [-o 出力ファイル名] [-q] [-e ログファイル名] [-f 共通の役割定義ファイル名]
```

オプション

-o 出力ファイル名

指定したファイルに、標準出力データを出力します。ただし、出力メッセージのうち、KDCM00071-E~KDCM00076-E は出力しません。

出力ファイル名の指定方法の詳細は、「5.2 (3) -o オプションに指定する出力ファイル」を参照してください。

-q

標準出力および標準エラー出力への出力を抑制します。

-e ログファイル名

指定したログファイルに、次の情報を出力します。

- SQL クエリ発行直前および発行直後の SQL クエリ文字列
- SQL クエリ発行時のエラーメッセージ

ログファイル名の指定方法の詳細は、「5.2 (4) -e オプションに指定するログファイル」を参照してください。

-f 共通の役割定義ファイル名

共通の役割定義ファイル (set_role.cfg) に定義されている内容をデータベースのコミュニティロールテーブル (TBL_COMMUROLE) に設定します。

ファイル名の指定方法

共通の役割定義ファイルのファイル名は、絶対パス、またはコマンドを実行するディレクトリからの相対パスで指定します。ファイル名は、220バイト以内の文字列で指定します。ただし、絶対パスで表したときに220バイト以内の文字列になるように指定してください。

ファイルの記述形式

共通の役割定義ファイルの記述形式については、「7.2.5 共通の役割定義ファイル (set_role.cfg)」を参照してください。

サンプルファイルの利用

共通の役割定義ファイルには、サンプルファイル (set_role.cfg.sam) を利用します。サンプルファイルの内容を変更しないで、ファイル名を「set_role.cfg」に変更して保存してください。

-f オプションを省略した場合

デフォルトの共通の役割定義ファイルに定義されている内容が設定されます。デフォルトの共通の役割定義ファイル名は、コマンドプロパティファイル (hptl_clb_ccm_cmd.properties) の hptl_clb_ccm_cmd_set_role_config キーに指定された値となります。

-f オプションを省略し hptl_clb_ccm_cmd_set_role_config キーを指定していない場合

共通の役割定義ファイル名は、プログラムのデフォルトである「set_role.cfg」となります。

戻り値

set_role コマンドの戻り値を次に示します。

表 5-6 set_role コマンドの戻り値

戻り値	意味
0	正常終了しました。
1	ユーザによる強制終了が発生したか、またはコマンド用 jar が見つかりません。
2	指定した共通の役割定義ファイル、または hptl_clb_ccm_cmd.properties が見つかりません。出力ファイル、またはログファイルを生成できません。
12	出力ファイル名、ログファイル名、または共通の役割定義ファイル名が長過ぎます。
13	共通の役割定義ファイルの書式にエラーがあります。
14	共通の役割定義ファイル、または hptl_clb_ccm_cmd.properties の属性値が適切な範囲にありません。
21	データベースからの応答がありません。
22	データベースへの接続に失敗しました。
23	SQL クエリの実行に失敗しました。
24	JDBC ドライバがインストールされていません。または、パスが通っていません。
31	入出力処理中にエラーが発生しました。
32	トレース処理中にエラーが発生しました。
33	コマンドの書式が違います。
34	システム情報の取得に失敗しました。
35	null が指定されました。
36	内部矛盾が発生しました。

戻り値	意味
39	次の意味が考えられます。 <ul style="list-style-type: none"> • コマンドが実行できる状態ではありません。 • 環境変数が設定されていません。 • システムコールでエラーが発生しました。

実行結果

指定した値がデータベースのコミュニティロールテーブル (TBL_COMMUROLE) に設定されます。また、メンバロールテーブル (TBL_MEMBERROLE) の対応する情報が更新されます。

使用例

set_role コマンドの使用例を紹介します。ここでは、次のような環境を想定しています。

- ソフトウェア環境
set_role コマンドを実行できる環境
- コマンドプロンプトのカレントディレクトリ
<Collaboration - Server インストールディレクトリ>%community%command%bin
- 共通の役割定義ファイル
C:%Program Files%Hitachi%Collaboration%community%command%sys%set_role.cfg

共通の役割定義ファイルの内容をコミュニティロールテーブルに登録する場合

共通の役割定義ファイルの内容をデータベースのコミュニティロールテーブル (TBL_COMMUROLE) に登録する場合、set_role コマンドを次のように実行します。

```
set_role
-e "C:%Program Files%Hitachi%Collaboration%community%command%log%set_role.log"
-f "C:%Program Files%Hitachi%Collaboration%community%command%sys%set_role.cfg"
```

この実行例では、set_role を実行すると、エラーログがある場合は-e オプションで指定したログファイル (set_role.log) に出力されます。

実行例は改行されているように表示されていますが、実際に実行するときは、1 行で記述する必要があります。

標準出力に何も出力しない場合

ログをデフォルトのログファイルに出力する場合、set_role コマンドを次のように実行します。

```
set_role -q
```

この実行例は、あらかじめコマンドプロパティファイル (hptl_clb_ccm_cmd.properties) の hptl_clb_ccm_cmd_logfile キーの設定値に、ログファイルとして C:%Program Files%Hitachi%Collaboration%community%log%error_set_role.log を指定していることを想定しています。

注意事項

- set_role コマンドの実行中にエラーが発生した場合、必ず、set_role コマンドが正常終了するまで再実行して、コミュニティロールテーブル (TBL_COMMUROLE) に値を設定してください。

- set_role コマンドは、共通の役割定義ファイルに不正な属性記述子が記述されている場合、メッセージ (KDCM00002-W) を出力して正常終了します。メッセージで提示された属性記述子を含むレコードはデータベースに登録されていないため、メッセージが出なくなるまで再実行してください。

set_member (ユーザの一括登録・変更)

機能

ユーザを一括して登録または変更します。

システム管理者および非ディレクトリユーザの登録・変更ができます。変更のあったユーザがコミュニティに属している場合は、メンバ情報も更新されます。

最初のシステム管理者は、このコマンドで登録します。

形式

```
set_member [-o 出力ファイル名] [-q] [-e ログファイル名] [-u 登録・変更ユーザー一覧ファイル名] [-s]
```

オプション

-o 出力ファイル名

指定したファイルに標準出力データを出力します。ただし、出力メッセージのうち、KDCM00071-E～KDCM00076-E は出力しません。

出力ファイル名の指定方法の詳細は、「5.2 (3) -o オプションに指定する出力ファイル」を参照してください。

-q

標準出力および標準エラー出力への出力を抑制します。

-e ログファイル名

指定したログファイルに、次の情報を出力します。

- SQL クエリ発行直前および発行直後の SQL クエリ文字列
- SQL クエリ発行時のエラーメッセージ

ログファイル名の指定方法の詳細は、「5.2 (4) -e オプションに指定するログファイル」を参照してください。

-u 登録・変更ユーザー一覧ファイル名

登録・変更ユーザー一覧ファイル (set_member.cfg) に定義されている内容をデータベースのユーザ情報テーブル (TBL_USER) に設定します。

登録・変更ユーザー一覧ファイルで指定されたすべてのユーザについて、各ユーザのユーザデータを登録または変更します。

なお、-u オプションでユーザを登録または変更した場合、メンバ登録・変更通知などを通知するインタフェースをコールしません。

ファイル名の指定方法

登録・変更ユーザー一覧ファイルのファイル名は、絶対パス、またはコマンドを実行するディレクトリからの相対パスで指定します。ファイル名は、220 バイト以内の文字列で指定します。ただし、絶対パスで表したときに 220 バイト以内の文字列になるように指定してください。

ファイルの記述形式

登録・変更ユーザー一覧ファイルの記述形式については、「7.2.6 登録・変更ユーザー一覧ファイル (set_member.cfg)」を参照してください。

サンプルファイルの利用

登録・変更ユーザー一覧ファイルに、サンプルファイル (set_member.cfg.sam) を使用する場合は、サンプルファイルの内容を使用する環境に合わせて変更し、ファイル名「set_member.cfg」で保存してください。

-s

set_member.cfg ファイルに指定した userid が兼任ユーザの ID かどうかをチェックします。兼任ユーザとは、本来所属している組織以外の組織に所属するユーザのことです。詳細は、マニュアル「Collaboration 導入ガイド」を参照してください。

チェックの結果、兼任ユーザの ID である場合は、KDCM00078-E のエラーメッセージが出力されます。ファイルに複数のユーザを指定している場合、エラーになる前までのユーザが登録されます。

このオプションを指定した場合は、次のクラスパスを設定してください。

```
SET CLASSPATH=%COSMINEXUS_COLLABORATION_HOME%\%clb_home%\conf;%CLASSPATH%
SET CLASSPATH=%COSMINEXUS_COLLABORATION_HOME%\%clb_home%\lib\hptl_clb_cum.jar;%CLASSPATH%
SET CLASSPATH=%COSMINEXUS_COLLABORATION_HOME%\%clb_home%\lib\hptl_clb_ccu.jar;%CLASSPATH%
```

このオプションは、Collaboration - Directory Access で兼任機能を使用するよう設定されている場合に有効となります。また、指定したユーザがディレクトリサーバに登録されていない場合は、エラーにならないで処理が続行されます。Collaboration - Directory Access の設定については、「Collaboration - Directory Access システム管理者ガイド」を参照してください。

戻り値

set_member コマンドの戻り値を次に示します。

表 5-7 set_member コマンドの戻り値

戻り値	意味
0	正常終了しました。
1	ユーザによる強制終了が発生したか、またはコマンド用 jar が見つかりません。
2	指定した登録・変更ユーザー一覧ファイル、または hptl_clb_ccm_cmd.properties が見つかりません。出力ファイル、またはログファイルを生成できません。
3	必要なオプションが指定されていません。
12	出力ファイル名、ログファイル名、または登録・変更ユーザー一覧ファイル名が長過ぎます。
13	登録・変更ユーザー一覧ファイルの書式にエラーがあります。
14	登録・変更ユーザー一覧ファイルまたは hptl_clb_ccm_cmd.properties の属性値が適切な範囲にありません。
21	データベースからの応答がありません。
22	データベースへの接続に失敗しました。
23	SQL クエリの実行に失敗しました。
24	JDBC ドライバがインストールされていません。または、パスが通っていません。
31	入出力処理中にエラーが発生しました。
32	トレース処理中にエラーが発生しました。

戻り値	意味
33	コマンドの書式が違います。
34	システム情報の取得に失敗しました。
35	null が指定されました。
36	内部矛盾が発生しました。
39	次の意味が考えられます。 <ul style="list-style-type: none"> • コマンドが実行できる状態ではありません。 • 環境変数が設定されていません。 • システムコールでエラーが発生しました。
41	指定したユーザの ID が兼任ユーザの ID です。
42	Collaboration - Directory Access でエラーが発生しました。
43	必要な jar ファイルが見つかりません。

実行結果

データベースのメンバ情報テーブル (TBL_MEMBER), およびユーザ情報テーブル (TBL_USER) の内容が変更されます。

使用例

set_member コマンドの使用例を紹介します。ここでは、次のような環境を想定しています。

- ソフトウェア環境
set_member コマンドを実行できる環境
- コマンドプロンプトのカレントディレクトリ
<Collaboration - Server インストールディレクトリ>%community%command%bin
- 登録・変更ユーザー一覧ファイル
C:%Program Files%Hitachi%Collaboration%community%command%sys%set_member.cfg

登録・変更ユーザー一覧ファイルの内容を基に登録・変更する場合

登録・変更ユーザー一覧ファイルの内容を基にユーザを登録または変更する場合、set_member コマンドを次のように実行します。

```
set_member
-e "C:%Program Files%Hitachi%Collaboration%community%command%log%set_member.log"
-u "C:%Program Files%Hitachi%Collaboration%community%command%sys%set_member.cfg"
```

この実行例では、set_member コマンドを実行すると、エラーログがある場合は-e オプションで指定したログファイル (set_member.log) に出力されます。

実行例は改行されているように表示されていますが、実際に実行するときは、1 行で記述する必要があります。

標準出力に何も出力しない場合

ログをデフォルトのログファイルに出力する場合、set_member コマンドを次のように実行します。

```
set_member -q -u C:%set_member.cfg
```

この実行例は、あらかじめコマンドプロパティファイル (hptl_clb_ccm_cmd.properties) の hptl_clb_ccm_cmd_logfile キーの設定値に、ログファイルとして C:%Program Files%Hitachi %Collaboration%community%log%error_set_member.log を指定していることを想定しています。

注意事項

- set_member コマンドの実行中にエラーが発生した場合、必ず、set_member コマンドを再実行して、ユーザが登録または変更されていることを [コミュニティ管理] ポートレットで確認してください。
- set_member コマンドは、登録・変更ユーザー一覧ファイルに不正な属性記述子が記述されている場合、メッセージ(KDCM00002-W)を出力して正常終了します。メッセージに表示された属性記述子を含むレコードはデータベースに登録されていないため、メッセージが出力されなくなるまで再実行してください。
- 誤って兼任ユーザの ID を set_member に指定し、チェックをしないで登録してしまった場合は、del_member コマンドを実行してユーザを削除してください。

del_member (ユーザおよびメンバの一括削除)

機能

ユーザおよびコミュニティメンバを一括して削除します。コミュニティからメンバを削除したり、Collaboration - Online Community Management の環境からユーザを削除したりできます。

形式

```
del_member [-o 出力ファイル名] [-q] [-e ログファイル名] { -a { u | m } | -u 削除ユーザー一覧ファイル名 | -m 削除メンバー一覧ファイル名 }
```

オプション

-o 出力ファイル名

指定したファイルに標準出力データを出力します。ただし、出力メッセージのうち、KDCM00071-E～KDCM00076-E は出力しません。

出力ファイル名の指定方法の詳細は、「5.2 (3) -o オプションに指定する出力ファイル」を参照してください。

-q

標準出力および標準エラー出力への出力を抑制します。

-e ログファイル名

指定したログファイルに、次の情報を出力します。

- SQL クエリ発行直前および発行直後の SQL クエリ文字列
- SQL クエリ発行時のエラーメッセージ

ログファイル名の指定方法の詳細は、「5.2 (4) -e オプションに指定するログファイル」を参照してください。

-a { u | m }

-a u を指定した場合、各コミュニティに所属しているすべてのコミュニティメンバ、各コミュニティメンバに割り当てられているすべてのコミュニティロール、およびすべてのユーザを削除します。

-a m を指定した場合、各コミュニティに所属しているすべてのコミュニティメンバ、および各コミュニティメンバに割り当てられているすべてのコミュニティロールを削除します。

-a オプションでユーザおよびメンバを削除した場合、ユーザおよびメンバの削除を通知するインタフェースをコールしません。

-a オプションを指定しない場合は、-u オプションまたは-m オプションを指定してください。

-u 削除ユーザー一覧ファイル名

削除ユーザー一覧ファイル (del_member.cfg) に指定されているユーザを削除します。指定したユーザのロール情報とメンバ情報を削除し、最後にユーザ情報を削除します。

なお、-u オプションでユーザを削除した場合、メンバ削除通知をコールしません。

-u オプションを指定しない場合は、-a オプションまたは-m オプションを指定してください。

ファイル名の指定方法

削除ユーザー一覧ファイルのファイル名は、絶対パス、またはコマンドを実行するディレクトリからの相対パスで指定します。ファイル名は、220 バイト以内の文字列で指定します。ただし、絶対パスで表したときに 220 バイト以内の文字列になるように指定してください。

ファイルの記述形式

削除ユーザー一覧ファイルの記述形式については、「7.2.7 削除ユーザー一覧ファイル (del_member.cfg)」を参照してください。

サンプルファイルの利用

削除ユーザー一覧ファイルに、サンプルファイル (del_member.cfg.sam) を使用する場合は、サンプルファイルの内容を使用する環境に合わせて変更し、ファイル名「del_member.cfg」で保存してください。

-m 削除メンバー一覧ファイル名

削除メンバー一覧ファイルで指定されたすべてのコミュニティメンバについて、各コミュニティメンバに割り当てられたすべてのコミュニティロールを削除します。また、各コミュニティメンバ自体をコミュニティから削除します。

なお、-m オプションでメンバを削除した場合、メンバ削除通知をコールしません。-m オプションを指定しない場合は、-a オプションまたは-u オプションを指定してください。

ファイル名の指定方法

削除メンバー一覧ファイルのファイル名は、絶対パス、またはコマンドを実行するディレクトリからの相対パスで指定します。ファイル名は、220 バイト以内の文字列で指定します。ただし、絶対パスで表したときに 220 バイト以内の文字列になるように指定してください。

ファイルの記述形式

削除メンバー一覧ファイルの記述形式については、「7.2.8 削除メンバー一覧ファイル」を参照してください。

戻り値

del_member コマンドの戻り値を次に示します。

表 5-8 del_member コマンドの戻り値

戻り値	意味
0	正常終了しました。
1	ユーザによる強制終了が発生したか、またはコマンド用 jar が見つかりません。

戻り値	意味
2	指定した削除ユーザー一覧ファイル、削除メンバー一覧ファイル、または hptl_clb_ccm_cmd.properties が見つかりません。 出力ファイル、またはログファイルを生成できません。
3	必要なオプションが指定されていません。
4	排他のオプションが重複して指定されています。
12	出力ファイル名、ログファイル名、削除ユーザー一覧ファイル名、または削除メンバー一覧ファイル名が長過ぎます。
13	削除ユーザー一覧ファイルまたは削除メンバー一覧ファイルの書式にエラーがあります。
14	削除ユーザー一覧ファイル、削除メンバー一覧ファイル、または hptl_clb_ccm_cmd.properties の属性値が適切な範囲にありません。
21	データベースからの応答がありません。
22	データベースへの接続に失敗しました。
23	SQL クエリの実行に失敗しました。
24	JDBC ドライバがインストールされていません。または、パスが通っていません。
25	存在しないレコードを指定しました。
31	入出力処理中にエラーが発生しました。
32	トレース処理中にエラーが発生しました。
33	コマンドの書式が違います。
34	システム情報の取得に失敗しました。
35	null が指定されました。
36	内部矛盾が発生しました。
39	次の意味が考えられます。 <ul style="list-style-type: none"> • コマンドが実行できる状態ではありません。 • 環境変数が設定されていません。 • システムコールでエラーが発生しました。

実行結果

データベースのメンバ情報テーブル (TBL_MEMBER)、ユーザ情報テーブル (TBL_USER)、およびメンバロールテーブル (TBL_MEMBERROLE) に削除フラグが設定されます。

使用例

del_member コマンドの使用例を紹介します。ここでは、次のような環境を想定しています。

- ソフトウェア環境
del_member コマンドを実行できる環境
- コマンドプロンプトのカレントディレクトリ
<Collaboration - Server インストールディレクトリ>%community%command%bin

- 削除ユーザー一覧ファイル

C:%Program Files%Hitachi%Collaboration%community%command%sys%del_member.cfg

削除ユーザー一覧ファイルの内容を基にユーザを削除する場合

削除ユーザー一覧ファイルの内容を基にユーザを削除する場合、del_member コマンドを次のように実行します。

```
del_member
-e "C:%Program Files%Hitachi%Collaboration%community%command%log%del_member.log"
-u "C:%Program Files%Hitachi%Collaboration%community%command%sys%del_member.cfg"
```

この実行例では、del_member コマンドを実行すると、エラーログがある場合は-e オプションで指定したログファイル (del_member.log) に出力されます。

実行例は改行されているように表示されていますが、実際に実行するときは、1行で記述する必要があります。

標準出力に何も出力しない場合

ログをデフォルトのログファイルに出力する場合、del_member コマンドを次のように実行します。

```
del_member -q -a u
```

この実行例は、あらかじめコマンドプロパティファイル (hptl_clb_ccm_cmd.properties) の hptl_clb_ccm_cmd_logfile キーの設定値に、ログファイルとして C:%Program Files%Hitachi %Collaboration%community%log%error_del_member.log を指定していることを想定しています。

注意事項

- del_member コマンドの実行中にエラーが発生した場合、必ず、del_member コマンドを再実行して、ユーザまたはメンバが削除されていることを [コミュニティ管理] ポートレットで確認してください。
- 存在しないレコードを del_member で削除しようとした場合は、メッセージ(KDCM00010-W)を出力して正常終了します。

del_record (レコードの削除)

機能

削除フラグが設定されているレコードをテーブルから完全に削除します。

削除フラグが設定されているレコードのうち、削除した日時が、指定した日数以前の日時であるレコードだけをテーブルから削除することもできます。

データベースの容量が少なくなったときに、このコマンドで容量を空けることができます。

形式

```
del_record [-o 出力ファイル名] [-q] [-e ログファイル名] { -a | -d 日数値 } [-t テーブル名] [-b バックアップファイル名]
```

オプション

-o 出力ファイル名

指定したファイルに標準出力データを出力します。ただし、出力メッセージのうち、KDCM00071-E~KDCM00076-E は出力しません。

出力ファイル名の指定方法の詳細は、「5.2 (3) -o オプションに指定する出力ファイル」を参照してください。

-q

標準出力および標準エラー出力への出力を抑制します。

-e ログファイル名

指定したログファイルに、次の情報を出力します。

- SQL クエリ発行直前および発行直後の SQL クエリ文字列
- SQL クエリ発行時のエラーメッセージ

ログファイル名の指定方法の詳細は、「5.2 (4) -e オプションに指定するログファイル」を参照してください。

-a

削除フラグが設定されているすべてのレコードを削除します。

-a オプションを指定しない場合は、-d オプションを指定してください。

-d 日数値

削除フラグが設定されているレコードのうち、削除した日時が、指定した日数以前の日時であるレコードだけをテーブルから削除します。

例えば、コマンドの実行時刻が 2004/08/1 12:30:15 で -d オプションに 1 を設定した場合は、2004/07/31 12:30:15 以前のデータが削除対象となります。また、-d オプションに 0 を設定した場合は、-a オプションと同様に、削除フラグが設定されているすべてのレコードを削除します。

-d オプションを指定しない場合は、-a オプションを指定してください。

-t テーブル名

指定したテーブルの削除フラグをチェックします。削除するテーブルを限定する場合に指定してください。

削除フラグをチェックできるテーブルを次に示します。

- カテゴリ情報テーブル (TBL_CATEGORY)
- コミュニティ情報テーブル (TBL_COMMUNITY)
- コミュニティロールテーブル (TBL_COMMUROLE)
- ワークプレーステーブル (TBL_WORKPLACE)
- アプリケーションテーブル (TBL_APPLICATION)
- メンバ情報テーブル (TBL_MEMBER)
- ユーザ情報テーブル (TBL_USER)
- メンバロールテーブル (TBL_MEMBERROLE)
- テンプレートテーブル (TBL_TEMPLATE)
- ワークプレーステンプレートテーブル (TBL_WORKTEMPLATE)
- システムアプリケーションテーブル (TBL_SYSAPPLI)

このオプションを省略した場合は、すべてのテーブルをチェックします。

-b バックアップファイル名

削除しようとしているデータのバックアップを作成します。

ファイル名の指定方法

バックアップファイルのファイル名は、絶対パス、またはコマンドを実行するディレクトリからの相対パスで指定します。ファイル名は 220 バイト以内の文字列で指定します。ただし、絶対パスで表したときに 220 バイト以内の文字列になるように指定してください。

ファイル名の形式

新規に作成される出力ファイルのファイル名は、次のようになります。

aaa_bbb_yyyyMMdd_HHmms.ccc

文字列の意味

aaa : -b オプションに指定したファイル名から拡張子を除いた文字列

bbb : コマンド名

yyyy : 実行日付 (年)

MM : 実行日付 (月)

dd : 実行日付 (日)

HH : 実行時刻 (時)

mm : 実行時刻 (分)

ss : 実行時刻 (秒)

ccc : -e オプションに指定したファイル名の拡張子

例えば、-b オプションに指定したファイル名が「backup.bak」、コマンドの実行日時が「2003 年 12 月 31 日 20:32:10」の場合、「backup_コマンド名_20031231_203210.bak」となります。

-b オプションを省略した場合

hptl_clb_ccm_cmd.properties ファイルの hptl_clb_ccm_cmd_backupfile の値がファイル名になります。ただし、hptl_clb_ccm_cmd_backupfile の値のファイルがすでに存在する場合は、「(hptl_clb_ccm_cmd_backupfile 指定文字列の拡張子の前)_コマンド名_実行日付_実行時刻.(hptl_clb_ccm_cmd_backupfile オプション指定文字列の拡張子)」となります。

例えば、hptl_clb_ccm_cmd_backupfile の指定文字列が backup.bak、コマンドの実行日時が 2003 年 12 月 31 日 20:32:10 の場合、「backup_コマンド名_20031231_203210.bak」となります。

-b オプションを省略し hptl_clb_ccm_cmd_backupfile キーを指定していない場合

プログラムのデフォルトである「backup」がファイル名となります。カレントディレクトリに「backup」という名前のファイルがすでに存在する場合は、「backup_コマンド名_実行日付_実行時刻」となります。

例えば、コマンドの実行日時が 2003 年 12 月 31 日 20:32:10 の場合、「backup_コマンド名_20031231_203210.bak」となります。

すでに同名のファイルが存在する場合は、追加で書き込みされます。

戻り値

del_record コマンドの戻り値を次に示します。

表 5-9 del_record コマンドの戻り値

戻り値	意味
0	正常終了しました。
1	ユーザによる強制終了が発生したか、またはコマンド用 jar が見つかりません。
2	hptl_clb_ccm_cmd.properties が見つかりません。 出力ファイル、ログファイル、またはバックアップファイルを生成できません。

戻り値	意味
3	必要なオプションが指定されていません。
4	排他のオプションが重複して指定されています。
12	出力ファイル名、ログファイル名、またはバックアップファイル名が長過ぎます。
14	hptl_clb_ccm_cmd.properties の属性値が適切な範囲にありません。
21	データベースからの応答がありません。
22	データベースへの接続に失敗しました。
23	SQL クエリの実行に失敗しました。
24	JDBC ドライバがインストールされていません。または、パスが通っていません。
31	入出力処理中にエラーが発生しました。
32	トレース処理中にエラーが発生しました。
33	コマンドの書式が違います。
34	システム情報の取得に失敗しました。
35	null が指定されました。
36	内部矛盾が発生しました。
39	次の意味が考えられます。 <ul style="list-style-type: none"> • コマンドが実行できる状態ではありません。 • 環境変数が設定されていません。 • システムコールでエラーが発生しました。

実行結果

削除フラグが設定されているレコード (-d オプションを指定した場合は削除日時から指定日数を経過したレコード) が、テーブルから完全に削除されます。

使用例

del_record コマンドの使用例を紹介します。ここでは、次のような環境を想定しています。

- ソフトウェア環境
del_record コマンドを実行できる環境
- コマンドプロンプトのカレントディレクトリ
<Collaboration - Server インストールディレクトリ>%community%command%bin

削除フラグが設定されているすべてのレコードを削除する場合

削除フラグが設定されているすべてのレコードを削除する場合、del_record コマンドを次のように実行します。

```
del_record
-a -e "C:%Program Files%Hitachi%Collaboration%community%command%log%del_record.log"
```


この実行例では、del_record コマンドを実行すると、-e で指定したログファイル (del_record.log) にエラーログが出力されます。

実行例は、紙面の都合上、改行されているように表示されていますが、実際に実行するときは、1 行で記述する必要があります。

標準出力に何も出力しない場合

ログをデフォルトのログファイルに出力する場合、del_record コマンドを次のように実行します。

```
del_record -q -a -b backup
```

この実行例は、あらかじめコマンドプロパティファイル (hptl_clb_ccm_cmd.properties) の hptl_clb_ccm_cmd_logfile キーの設定値に、ログファイルとして C:%Program Files%Hitachi %Collaboration%community%log%error_del_record.log を指定していることを想定しています。

注意事項

del_record 実行時には関連する Portal Framework の不要データの削除も必要となります。Portal Framework の不要データの削除の詳細は、マニュアル「uCosminexus Portal Framework システム管理者ガイド」の「運用後の不要データの削除」を参照してください。

get_community (コミュニティ情報一覧の出力)

機能

データベースのコミュニティ情報の一覧を出力します。コミュニティポリシーでメンバだけ参照できるようにしているコミュニティの情報も出力できます。

形式

```
get_community [-o 出力ファイル名] [-i 文字コード] [-q] [-e ログファイル名] [-c | -l コミュニティ情報一覧ファイル名]
```

オプション

-o 出力ファイル名

指定したファイルに標準出力データを出力します。ただし、出力メッセージのうち、KDCM00071-E~KDCM00076-E は出力しません。

出力ファイル名の指定方法の詳細は、「5.2 (3) -o オプションに指定する出力ファイル」を参照してください。

-i 文字コード

-l オプションを指定した場合や、-l オプションと-c オプションの両方を省略した場合に出力されるコミュニティ情報一覧ファイルを、指定した文字コードでエンコードします。

指定できる文字コードは「Windows-31J」および「UTF-8」です。文字コードは半角英数字で指定してください。Java でサポートされていない文字コードを指定した場合はエラーメッセージが出力され、コミュニティ情報一覧ファイルは出力されません。「Windows-31J」または「UTF-8」以外の Java でサポートされている文字コードを指定した場合は、指定した文字コードでファイルが出力されますが、動作は保障されません。

このオプションを省略した場合は、「Windows-31J」でエンコードされます。

なお、「UTF-8」を指定した場合、UTF-8 エンコード表示に対応しているアプリケーションを使用しないと正しく表示されません。

-q

標準出力および標準エラー出力への出力を抑制します。

-e **ログファイル名**

指定したログファイルに、次の情報を出力します。

- SQL クエリ発行直前および発行直後の SQL クエリ文字列
- SQL クエリ発行時のエラーメッセージ

ログファイル名の指定方法の詳細は、「5.2 (4) -e オプションに指定するログファイル」を参照してください。

-c

現在データベースに登録されているコミュニティの数を標準出力に出力します。ほかのコミュニティ情報は出力しません。

出力例

現在のコミュニティ数：1000

削除済みコミュニティ数：2000

このオプションを指定しない場合は、-l オプションを指定してください。

-l **コミュニティ情報一覧ファイル名**

指定したファイルに、コミュニティ情報の一覧を CSV 形式で出力します。

このオプションを指定しない場合は、-c オプションを指定してください。

ファイル名の指定方法

コミュニティ情報一覧ファイル名は、絶対パス、またはコマンドを実行するディレクトリからの相対パスで指定します。ファイル名は、220 バイト以内の文字列で指定します。ただし、絶対パスで表したときに 220 バイト以内 (CSV ファイルを Microsoft Excel で開く場合は 202 バイト以内) の文字列になるように指定してください。

コミュニティ情報一覧ファイルに出力される項目

コミュニティ情報一覧ファイルには、次の項目が出力されます。

- コミュニティ ID
- コミュニティ名
- 削除フラグ
- コミュニティ作成者 (uniqueid)
- コミュニティ参照可能フラグ (outcommuflag の値)
- ワークスペース ID 一覧
- コミュニティメンバ数
- コミュニティ管理者数
- コミュニティ管理者一覧 (uniqueid)

コミュニティ情報一覧ファイルの出力形式については、「7.2.10 コミュニティ情報一覧ファイル」を参照してください。

ファイル名の形式

新規に作成される出力ファイルのファイル名は、次のようになります。

aaa_yyyyMMdd_HHmms.bbb

文字列の意味

aaa : -l オプションに指定したファイル名から拡張子を除いた文字列

yyyy : 実行日付 (年)

MM : 実行日付 (月)

dd : 実行日付 (日)

HH : 実行時刻 (時)

mm : 実行時刻 (分)

ss : 実行時刻 (秒)

bbb : -l オプションに指定したファイル名の拡張子

例えば、-l で指定したファイル名が「option_community.csv」、コマンドの実行日時が「2003 年 12 月 31 日 20:32:10」の場合、「option_community_20031231_203210.csv」となります。

-l オプションおよび-c オプションの両方を省略した場合

hptl_clb_ccm_cmd.properties ファイルの hptl_clb_ccm_cmd_community_file の値がファイル名となります。

例えば、hptl_clb_ccm_cmd_community_file の指定文字列が property_community.csv、コマンドの実行日時が 2003 年 12 月 31 日 20:32:10 の場合、「property_community_20031231_203210.csv」となります。この場合、ファイルの出力先はコマンドを実行するときのカレントディレクトリになります。同じファイルがすでに存在する場合は、別ファイルに出力します。

-l オプションを省略し hptl_clb_ccm_cmd_community_file を指定していない場合

プログラムのデフォルトである「community.csv」がファイル名となります。

例えば、コマンドの実行日時が 2003 年 12 月 31 日 20:32:10 の場合、「community_20031231_203210.csv」となります。

この場合、ファイルの出力先はコマンドを実行するときのカレントディレクトリになります。

戻り値

get_community コマンドの戻り値を次に示します。

表 5-10 get_community コマンドの戻り値

戻り値	意味
0	正常終了しました。
1	ユーザによる強制終了が発生したか、またはコマンド用 jar が見つかりません。
2	hptl_clb_ccm_cmd.properties が見つかりません。 出力ファイル、ログファイル、またはコミュニティ情報一覧ファイルを生成できません。
4	排他のオプションが重複して指定されています。
12	出力ファイル名、ログファイル名、またはコミュニティ情報一覧ファイル名が長過ぎます。
14	hptl_clb_ccm_cmd.properties の属性値が適切な範囲にありません。
21	データベースからの応答がありません。
22	データベースへの接続に失敗しました。
23	SQL クエリの実行に失敗しました。
24	JDBC ドライバがインストールされていません。または、パスが通っていません。

戻り値	意味
31	入出力処理中にエラーが発生しました。
32	トレース処理中にエラーが発生しました。
33	コマンドの書式が違います。
34	システム情報の取得に失敗しました。
35	null が指定されました。
36	内部矛盾が発生しました。
39	次の意味が考えられます。 <ul style="list-style-type: none"> • コマンドが実行できる状態ではありません。 • 環境変数が設定されていません。 • システムコールでエラーが発生しました。
40	ファイル出力時にエンコードに失敗しました。

実行結果

-c オプションを指定した場合は、データベース上のコミュニティの数が標準出力に出力されます。

-l オプションを指定した場合は、指定したコミュニティ情報一覧ファイルに、コミュニティ情報の一覧が出力されます。

-c オプションおよび-l オプションの両方を省略した場合は、プロパティファイルの hptl_clb_ccm_cmd_community_file の値をファイル名として、コミュニティ情報の一覧が出力されます。

使用例

get_community コマンドの使用例を紹介します。ここでは、次のような環境を想定しています。

- ソフトウェア環境
get_community コマンドを実行できる環境
- コマンドプロンプトのカレントディレクトリ
<Collaboration - Server インストールディレクトリ>%community%command%bin
- コミュニティ情報一覧ファイル
C:%Program Files%Hitachi%Collaboration%community%command%bin%community_list.csv

コミュニティ情報一覧を CSV ファイルに保存する場合

指定した CSV ファイルにコミュニティ情報一覧を出力する場合、get_community コマンドを次のように実行します。

```
get_community -l "C:%Program Files%Hitachi%Collaboration%community%command%bin
%community_list.csv"
```

実行例は、紙面の都合上、改行されているように表示されていますが、実際に実行するときは、1行で記述する必要があります。

現在存在しているコミュニティの個数を表示する場合

現在存在しているコミュニティの個数を表示する場合、`get_community` コマンドを次のように実行します。

```
get_community -c
```

注意事項

- `get_community` コマンドの実行中に作成されたコミュニティについては、コミュニティの情報が出力されないことがあります。
- `get_community` コマンドの実行中にメンバ数やワークスペース数などの情報が変更された場合は、変更前の情報が出力されることがあります。
- `get_community` コマンドの実行中にコミュニティを作成すると、メッセージ (KDCM00037-W や KDCM00038-W) が出力されることがあります。この場合、作成中のコミュニティはコミュニティ情報一覧ファイルに出力されないため、必要に応じて `get_community` コマンドを再度実行してください。再度実行しても同じメッセージが出力される場合は、「付録 F.2 メッセージ一覧」の KDCM00037-W や KDCM00038-W の対処に従って、不正なレコードを削除してください。

6

プロパティファイルとバッチファイル

この章では、プロパティファイルおよびバッチファイルについて説明します。

6.1 プロパティファイルの一覧

プロパティファイルは、コマンド実行時に必要なデータベースサーバの情報やトレースファイルの情報を格納しておくファイルです。

Collaboration - Online Community Management のプロパティファイルには、共通プロパティファイル (hptl_clb_ccm.properties) とコマンドプロパティファイル (hptl_clb_ccm_cmd.properties) があります。それぞれのプロパティファイルのキー情報を次に示します。記述形式については「6.2 プロパティファイルの記述形式」を参照してください。

表 6-1 共通プロパティファイル (hptl_clb_ccm.properties) のキー情報

キー名	説明	デフォルト
hptl_clb_ccm_trace_level	トレースレベルを指定します。指定できる値は、-1, 10, 20, 30, 40 です。	20
hptl_clb_ccm_trace_max_size	トレースファイルのサイズ (バイト) を指定します。指定できる値は、4,096~2,147,483,647 の範囲の整数です。	4000000
hptl_clb_ccm_trace_dir	トレースファイルの出力先を指定します。 出力ファイル名は「hptl_clb_ccmX.log」となります (X: 1~hptl_clb_ccm_trace_page_num で指定した値)。*	C:\Program Files\Hitachi\collaboration\clb_home\log
hptl_clb_ccm_trace_page_num	トレースファイルの面数を指定します。指定できる値は、1~16 の範囲の整数です。	10
hptl_clb_ccm_user_name	データベースのユーザ ID (認可識別子) を指定します。 Collaboration - Forum のコマンドを使用する場合は必ず指定してください。コマンドを使用しない場合は省略できます。 設定例: hptl_clb_ccm_user_name=user	-
hptl_clb_ccm_password	データベースのパスワードを指定します。 Collaboration - Forum のコマンドを使用する場合は必ず指定してください。コマンドを使用しない場合は省略できます。 設定例: hptl_clb_ccm_password=password	-
hptl_clb_ccm_url	データベース接続先情報 URL を指定します。 Collaboration - Forum のコマンドを使用する場合は必ず指定してください。コマンドを使用しない場合は省略できます。 設定例: hptl_clb_ccm_url =jdbc:hitachi:dbplib://DB =HIRDB,DBID=HiRDB のシステムポート番号, ENCODELANG=UTF8, DBHOST=データベースのホスト名 詳細は、マニュアル「DABroker for Java™ Version 2 DABroker Driver for Java™ Technology」を参照してください。 文字コードは UTF8 でも UTF-8 でもかまいません。	-
hptl_clb_ccm_workplaceview	ワークスペースビューの表示方法を設定するためのラジオボタンを、次の画面に表示するかどうかを指定します。 • 【コミュニティ情報】画面 (ワークスペース)	View_Auto

キー名	説明	デフォルト
hptl_clb_ccm_workplaceview	<ul style="list-style-type: none"> • [コミュニティ詳細設定] 画面 (ワークスペース) • [コミュニティ情報変更] 画面 (ワークスペース) また、ワークスペースビューの表示方法を指定します。 Viewless_Default ラジオボタンは表示されません。 ワークスペースビューの表示方法は、ワークスペーステンプレートの設定に従います。 Viewless_Auto ラジオボタンは表示されません。 ワークスペースビューは自動的に表示されます。 Viewless_Userset ラジオボタンは表示されません。 ワークスペースビューは、コミュニティメンバがポータル画面上で操作して表示させます。 View_Default ラジオボタンが表示されます。 どちらのラジオボタンがデフォルトで選択されるかは、ワークスペーステンプレートの設定に従います。 View_Auto ラジオボタンが表示されます。 デフォルトでは、[ワークスペースビューを自動的に表示する] ラジオボタンが選択されます。 View_Userset ラジオボタンが表示されます。 デフォルトでは、[ワークスペースビューはメンバごとに作成してもらう] ラジオボタンが選択されます。	View_Auto
hptl_clb_ccm_telephone_number_kind	ディレクトリサーバから取得する電話番号の種類を指定します。指定できる値は、「telNo」(電話番号) および「extTelNo」(電話番号2) です。 なお、ユーザを追加したあとに電話番号の種類の変更しても、表示される電話番号の種類は変わりません。この場合は、ユーザ情報の電話番号の値を指定し直してください。	telNo
hptl_clb_ccm_mainWindowWidth	[コミュニティ管理] ポートレットの画面を表示させるときの画面の幅 (ピクセル) を指定します。指定できる値は、450~1,500 の範囲の整数です。これ以外の値を指定した場合は、デフォルトが設定されます。	690
hptl_clb_ccm_mainWindowHeight	[コミュニティ管理] ポートレットの画面を表示させるときの画面の高さ (ピクセル) を指定します。指定できる値は、200~1,500 の範囲の整数です。これ以外の値を指定した場合は、デフォルトが設定されます。	570
hptl_clb_ccm_subWindowWidth	会議室やリンク集などのポートレットからコミュニティメンバの一覧を表示させるときの画面の幅 (ピクセル) を指定します。指定できる値は、450~1,500 の範囲の整数です。これ以外の値を指定した場合は、デフォルトが設定されます。	600

キー名	説明	デフォルト
hptl_clb_ccm_subWindowHeight	会議室やリンク集などのポートレットからコミュニティメンバーの一覧を表示させるときの画面の高さ（ピクセル）を指定します。指定できる値は、200～1,500の範囲の整数です。これ以外の値を指定した場合は、デフォルトが設定されます。	500
hptl_clb_ccm_userSelectTab	[簡単コミュニティ作成] 画面や [コミュニティメンバー追加] 画面などのユーザ選択領域に初期表示させるタブを指定します。 address 宛先台帳のタブが初期表示されます。 community コミュニティのタブが初期表示されます。 user ユーザ検索のタブが初期表示されます。 nondirectory 非ディレクトリユーザ検索のタブが初期表示されます。 上記以外の値を指定した場合、または [メール] ポートレットが使用できない場合に「address」を指定した場合は、デフォルトが設定されます。	user
hptl_clb_ccm_userDetail_displayFlag	内部ディレクトリユーザの [コミュニティメンバー情報] 画面や [コミュニティメンバー情報変更] 画面に、[ユーザ情報の表示] アンカーを表示するかどうかを指定します。 1 [ユーザ情報の表示] アンカーは表示されません。 0 [ユーザ情報の表示] アンカーが表示されます。 上記以外の値を指定した場合は、デフォルトが設定されます。	1
hptl_clb_ccm_mail_address_checkFlag	一般ユーザの作成・変更時に、メールアドレスをどのような方法でチェックするかを指定します。 compatible0130 メールアドレスに半角かなが含まれている場合にエラーとなります。 mailCheck メールアドレスに次の文字が含まれている場合にエラーとなります。 <ul style="list-style-type: none"> 下記以外の文字 a-z, A-Z, 0-9, #, \$, %, &, ', *, +, -, /, =, ?, ^, _ , ` , { , , } , ~ , . , " , @ 先頭または最後の@ 二つ以上の@ 半角かな 全角・半角スペース 2バイト文字 mrcCheck メールアドレスに次の文字が含まれている場合にエラーとなります。	compatible0130

キー名	説明	デフォルト
hptl_clb_ccm_mail_address_checkFlag	<ul style="list-style-type: none"> • 下記以外の文字 a-z, A-Z, 0-9, #, \$, %, &, ', *, +, -, /, =, ?, ^, _ ` {, }, ~, ,, @ • 先頭または最後の@ • 二つ以上の@ • 半角かな • 全角・半角スペース • 2バイト文字 • 先頭の . • @. • .. • " <p>また、メールアドレスに@がない場合もエラーとなります。メールアドレスのユーザ部分とドメイン部分の間に必ず@を入れてください。</p> <p>上記以外の値を指定した場合、またはキーが存在しない場合は、デフォルトが設定されます。</p> <p>mailCheck および mrcCheck の場合、テキストボックスは全角禁止モードとなります。</p> <p>なお、[ユーザ検索] 画面や [ユーザ情報] 画面などでメールアドレスが表示されるだけの場合は、チェックは実施されません。</p>	compatible0130
hptl_clb_ccm_initial_memberlist_sort	<p>コミュニティメンバー一覧を初期表示するときに、役職の順に表示するか、メンバ ID の順（登録順）に表示するかを指定します。</p> <p>registrationorder コミュニティメンバがメンバ ID の順（登録順）に表示されます。</p> <p>titleorder コミュニティメンバが役職の順に表示されます。</p> <p>上記以外の値を指定した場合、またはキーが存在しない場合は、デフォルトが設定されます。</p> <p>なお、Collaboration - Directory Access で役職の順位による並べ替えを指定していない場合は、このキーの指定は無視されます。</p>	registrationorder
hptl_clb_ccm_titleorder_sort_user_order	<p>役職の順位で並べ替えをする場合、内部ディレクトリユーザと非ディレクトリユーザのどちらを上位に表示するかを指定します。</p> <p>internalDirectoryUser 内部ディレクトリユーザが役職の順に上位に表示されます。そのあとに非ディレクトリユーザが役職の文字コードの順に表示されます。</p> <p>notDirectoryUser 非ディレクトリユーザが役職の文字コードの順に上位に表示されます。そのあとに内部ディレクトリユーザが役職の順に表示されます。</p> <p>上記以外の値を指定した場合、またはキーが存在しない場合は、デフォルトが設定されます。</p>	internalDirectoryUser

キー名	説明	デフォルト
hptl_clb_ccm_titleorder_sort_user_order	なお、Collaboration - Directory Access で役職の順位による並べ替えを指定していない場合は、このキーの指定は無視されます。	internalDirectoryUser

(凡例)

— : デフォルトはありません。

注※

Collaboration - Forum のコマンドを使用する場合は、出力ファイル名は次の四つになります。

- ・ hptl_clb_ccm_frmopnregistX.log
- ・ hptl_clb_ccm_frmopnmailX.log
- ・ hptl_clb_ccm_frmrestX.log
- ・ hptl_clb_ccm_frminfomailX.log

(X : 1~hptl_clb_ccm_trace_page_num で指定した値)

なお、これらのトレースファイルの属性値は、次に示すように共通プロパティファイルに設定されている値となります。

トレースレベル : hptl_clb_ccm_trace_level キーに設定されている値

トレースファイルのサイズ : hptl_clb_ccm_trace_max_size キーに設定されている値

トレースファイルの出力先 : hptl_clb_ccm_trace_dir キーに設定されている値

トレースファイルの面数 : hptl_clb_ccm_trace_page_num キーに設定されている値

表 6-2 コマンドプロパティファイル (hptl_clb_ccm_cmd.properties) のキー情報

キー名	説明	デフォルト
hptl_clb_ccm_cmd_db_host	データベースサーバのホスト名を指定します。	localhost
hptl_clb_ccm_cmd_dbid	データベース ID を指定します。	22200
hptl_clb_ccm_cmd_set_system_config	システム情報定義ファイルのパスを指定します。	set_system.cfg
hptl_clb_ccm_cmd_set_role_config	共通の役割定義ファイルのパスを指定します。	set_role.cfg
hptl_clb_ccm_cmd_set_template_config	テンプレート定義ファイルのパスを指定します。	set_template.cfg
hptl_clb_ccm_cmd_set_worktemplate_config	ワークプレーステンプレート定義ファイルのパスを指定します。	set_worktemplate.cfg
hptl_clb_ccm_cmd_trace_file	トレースファイル名を指定します。コマンドを実行したディレクトリにファイルを出力します。	trace
hptl_clb_ccm_cmd_trace_fnum	トレースファイルの面数を指定します。指定できる値は、1~16 の範囲の整数です。	4
hptl_clb_ccm_cmd_trace_size	トレースファイルのサイズ (バイト) を指定します。指定できる値は、4,096~2,147,483,647 の範囲の整数です。	1024000
hptl_clb_ccm_cmd_trace_level	トレースレベルを指定します。	20

キー名	説明	デフォルト
hptl_clb_ccm_cmd_logfile	ログファイル名を指定します。	error.log
hptl_clb_ccm_cmd_backupfile	バックアップファイル名を指定します。	backup
hptl_clb_ccm_cmd_commit_num	1 トランザクションでロックを掛けるレコード数を指定します。指定できる値は、1~255 の範囲の整数です。 ただし、アプリケーションテーブル (TBL_APPLICATION)、メンバ情報テーブル (TBL_MEMBER) およびメンバロールテーブル (TBL_MEMBERROLE) を対象とする場合は、「指定した値=ロックを掛けるレコード数」とならない場合があります。	100
hptl_clb_ccm_cmd_community_file	get_community で-l を省略した場合のコミュニティ情報一覧ファイル名を指定します。	community.csv

6.2 プロパティファイルの記述形式

プロパティファイルの記述形式および規則を次に示します。

形式

キー名称=値

記述規則

- キー名称と値は半角の「= (イコール)」でつなぎます。
- 改行までが値になります。
- 行頭が「# (シャープ)」および「! (感嘆符)」の行はコメントと見なされます。
- スペースだけの行は無視されます。
- 行頭および行末には、スペースを指定しないでください。
- 値の後ろには、スペースやコメントなどの文字列を指定しないでください。指定した場合、不正な値と解釈されます。

例：hptl_clb_ccm_cmd_logfile=error.log #ログファイル名です

- ファイルの中に日本語名が含まれる場合は、Cosminexus 付属の JDK コマンド (native2ascii コマンド) を使ってエンコードする必要があります。
- 出力先のディレクトリを指定する場合、区切り文字 (記号) には、「¥¥」または「/」を使用してください。

例：hptl_clb_ccm_trace_dir=C:¥¥tmp¥¥trace

- 値に指定した文字列は大文字、小文字が区別されます。

6.3 プロパティファイルのサンプルファイル

Collaboration - Online Community Management では、次に示すサンプルファイルを用意しています。プロパティファイルを設定する場合は、使用する環境に合わせてサンプルファイルを変更して利用してください。

(1) 共通プロパティファイル

サンプルの格納場所

<Collaboration - Server インストールディレクトリ>%community%conf%hptl_clb_ccm.properties

サンプルの内容

```

hptl_clb_ccm_trace_level=20
hptl_clb_ccm_trace_max_size=4000000
hptl_clb_ccm_trace_dir=C:%Program Files%Hitachi%collaboration%clb_home%log
hptl_clb_ccm_trace_page_num=10
hptl_clb_ccm_user_name=
hptl_clb_ccm_password=
hptl_clb_ccm_url=
hptl_clb_ccm_workplaceview=View_Auto
hptl_clb_ccm_telephone_number_kind=telNo
hptl_clb_ccm_mainWindowWidth=690
hptl_clb_ccm_mainWindowHeight=570
hptl_clb_ccm_subWindowWidth=600
hptl_clb_ccm_subWindowHeight=500
hptl_clb_ccm_userSelectTab=user
hptl_clb_ccm_userDetail_displayFlag=1
hptl_clb_ccm_mail_address_checkFlag=mrcCheck
hptl_clb_ccm_initial_memberList_sort=registrationorder
hptl_clb_ccm_titleorder_sort_user_order=internalDirectoryUser

```

(2) コマンドプロパティファイル

サンプルの格納場所

<Collaboration - Server インストールディレクトリ>%community%command%conf

%hptl_clb_ccm_cmd.properties.sam

サンプルの内容

```

hptl_clb_ccm_cmd_dbhost=localhost
hptl_clb_ccm_cmd_dbid=22200
hptl_clb_ccm_cmd_set_system_config=set_system.cfg
hptl_clb_ccm_cmd_set_role_config=set_role.cfg
hptl_clb_ccm_cmd_set_template_config=set_template.cfg
hptl_clb_ccm_cmd_set_worktemplate_config=set_worktemplate.cfg
hptl_clb_ccm_cmd_trace_file=trace
hptl_clb_ccm_cmd_trace_fnum=4
hptl_clb_ccm_cmd_trace_size=1024000
hptl_clb_ccm_cmd_trace_level=20
hptl_clb_ccm_cmd_logfile=error.log
hptl_clb_ccm_cmd_backupfile=backup
hptl_clb_ccm_cmd_community_file=community.csv
hptl_clb_ccm_cmd_commit_num=100

```

6.4 バッチファイル

バッチファイルを作成しておくことで、コマンドを実行するときに毎回環境変数を指定する必要がなくなります。

Collaboration - Online Community Management では、バッチファイルのサンプルを用意しています。このサンプルファイルの内容を使用する環境に合わせて変更し、利用できます。

サンプルの格納場所

<Collaboration - Server インストールディレクトリ>%community%command%sample

サンプルの内容

```
@echo off

@rem <コマンド名>の部分を実行するコマンド(set_system等)に変更してください。
SET COMMANDNAME=<コマンド名>

@rem 環境変数を一時的に退避
SET CCM_PATH_BACK=%PATH%
SET CCM_CLASSPATH_BACK=%CLASSPATH%

SET CCM_PROGRAMPATH=%ProgramFiles(x86)%
IF NOT EXIST "%CCM_PROGRAMPATH%" SET CCM_PROGRAMPATH=%ProgramFiles%

@rem PATHの設定
SET PATH=
SET PATH=%COSMINEXUS_HOME%#jdk#bin;%PATH%
SET PATH=%COSMINEXUS_HOME%#DAB#Lib;%PATH%
SET PATH=%CCM_PROGRAMPATH%#HITACHI#HiRDB#utl;%PATH%

@rem CLASSPATHの設定
SET CLASSPATH=
SET CLASSPATH=%COSMINEXUS_COLLABORATION_HOME%#community#command#lib#hptl_clb_ccm_cmd.jar;%CLASSPATH%
SET CLASSPATH=%COSMINEXUS_COLLABORATION_HOME%#community#command#conf;%CLASSPATH%
SET CLASSPATH=%CCM_PROGRAMPATH%#HITACHI#HNTRLib2#classes#hntrlib2j.jar;%CLASSPATH%
SET CLASSPATH=%COSMINEXUS_HOME%#DAB#J#JdbcDbpsv.jar;%CLASSPATH%
SET CLASSPATH=%COSMINEXUS_COLLABORATION_HOME%#clb_home#conf;%CLASSPATH%
SET CLASSPATH=%COSMINEXUS_COLLABORATION_HOME%#clb_home#lib#hptl_clb_cum.jar;%CLASSPATH%
SET CLASSPATH=%COSMINEXUS_COLLABORATION_HOME%#clb_home#lib#hptl_clb_ccu.jar;%CLASSPATH%

@rem コマンド実行
%COMMANDNAME% %*

@rem 退避した環境変数を戻す
SET PATH=%CCM_PATH_BACK%
SET CLASSPATH=%CCM_CLASSPATH_BACK%

@pause

@echo on
```

- <コマンド名>部分を set_system など実行したいコマンド名に書き換えてください。
- 環境変数 COSMINEXUS_HOME は、Cosminexus のインストールディレクトリです。環境変数に設定されていない場合は、設定する必要があります。
- 環境変数 COSMINEXUS_COLLABORATION_HOME は、Collaboration のインストールディレクトリです。環境変数に設定されていない場合は、設定する必要があります。
- 環境変数 ProgramFiles は、Program Files ディレクトリです。環境変数に設定されていない場合は、設定する必要があります。
- 環境変数 ProgramFiles (x86)は、Program Files (x86)ディレクトリです。
- sample.bat のファイル名を変更する場合は、<コマンド名>と同じものにしないでください。例えば、<コマンド名>が「set_system」の場合、バッチファイル名を「set_system.bat」にしないでください。
- UAC が有効に設定されている場合、次のどちらかの方法でバッチファイルを実行してください。

- 実行したいバッチファイルを右クリックし、[管理者として実行する] を選択する。
- コマンドプロンプトを右クリックし、[管理者として実行する] を選択し、起動されたコマンドプロンプト上でバッチファイルを実行する。

7

コマンド定義ファイル

この章では、コマンド定義ファイルについて説明します。

コマンド定義ファイルは、各コマンドを実行したときにデータベースに設定される値を定義しておくファイルです。なお、コマンドの詳細は、「5. 運用コマンド」を参照してください。

7.1 コマンド定義ファイルの記述方法

コマンド定義ファイルの記述形式および規則を次に示します。

記述形式

属性記述子:登録時または変更後の値

保存形式

- 文字種別コードは UTF-8 で保存してください。

記述規則

- 行頭が#の行はコメントと見なされます。
- 値を削除する場合は、「属性記述子:」の後ろの値を削除し、何も記述しません。
- 行頭が一つのスペースまたはタブで始まる行は、1 行上の行と連結して扱います。

例 1

```
userid:taro
```

例 2

```
userid:taro
```

上記では例 1 と例 2 は同じ意味になります。

- 属性値の先頭および末尾の半角スペースは削除されます。属性値の先頭や末尾に半角スペースを入れたい場合は、属性値全体を「」（半角引用符）」で囲んでください。

例 1

```
userid:△△taro△△
```

(△:半角スペース)

この場合、「userid」には「taro」が代入されます。

例 2

```
userid:"△△taro△△"
```

(△:半角スペース)

この場合、「userid」には「△△taro△△」が代入されます。

- 改行コードは動作する OS が規定する改行コードとします。Windows の場合、改行コードは「CRLF」です。
- 同じキーが 1 レコード内に複数ある場合は、下に記述されたものを使用します。

例

```
roleid:ROL1
roleid:ROL2
```

上記ではこのレコードを ROL2 として扱います。

- ファイルの 1 行目は空行またはコメント行にしてください。
- ファイルの最終行は空行にしてください。
- 次の形式で記述された行は無視されます。

属性記述子::属性値

属性記述子:<属性値

「: (コロン)」または「< (小なり)」で始まる文字列を指定する場合は、「属性記述子:」と「属性値」の間に一つ以上の半角スペースを入れてください。

例

label1name:△<名前> (△:半角スペース)

label2name:△:英語名: (△:半角スペース)

7.2 各コマンド定義ファイルの詳細

ここでは、各コマンド定義ファイルの詳細について説明します。なお、サンプルファイルのインストール先は「付録 A インストールディレクトリ構成」を参照してください。

7.2.1 システム情報定義ファイル (set_system.cfg)

システム情報定義ファイルには、システム情報テーブル (TBL_SYSTEM) に設定する値を定義します。システム情報定義ファイルのサンプルファイル (set_system.cfg.sam) と設定内容を次に示します。

図 7-1 システム情報定義ファイルのサンプルファイル

1行目	#ファイルを保存する時は、文字コードがUTF-8であることを確認してください。
2行目	#Please open and save this file at UTF-8.
3行目	cmakeperson:1
4行目	cdelperson:32
5行目	cdelcondition:2
6行目	manaddperson:0
7行目	manaddcondition:0
8行目	categoryperson:1
9行目	memberlist:0
10行目	systempolicy:32
11行目	systempolicy2:1000
12行目	systempolicy3:1000
13行目	hitmax:1000
14行目	label1name:日本語名
15行目	label2name:英語名
16行目	label3name:所属組織名
17行目	label4name:役職名
18行目	label5name:メールアドレス
19行目	label6name:電話番号
20行目	label7name:英語役職名
21行目	label8name:英語所属組織名
22行目	effectiveid:1
23行目	空行

表 7-1 システム情報定義ファイルの設定内容

行	設定内容	変更
1行目	改行またはコメント行とします。	×
2行目	コメント行とします。	×
3行目	コミュニティを作成できる人は「1 (システム管理者およびシステム運用者)」で固定です。	×

行	設定内容	変更
4行目	コミュニティを削除できる人は「32 (コミュニティ管理者およびコミュニティ運用者)」で固定です。	×
5行目	コミュニティを削除できる条件は「2 (自分以外のメンバがコミュニティにいない場合)」で固定です。	×
6行目	システム内部情報のため「0」で固定です。	×
7行目	システム内部情報のため「0」で固定です。	×
8行目	コミュニティカテゴリを作成, 変更, 削除できる人は「1 (システム管理者およびシステム運用者)」で固定です。	×
9行目	システム内部情報のため「0」で固定です。	×
10行目	コミュニティを変更できる人は「32 (コミュニティ管理者およびコミュニティ運用者)」で固定です。	×
11行目	ツリー表示時にカテゴリをDBから取得する件数は「1000」で固定です。	×
12行目	ツリー表示時にコミュニティをDBから取得する件数は「1000」で固定です。	×
13行目	一覧に表示できる数の上限は「1000」で固定です。	×
14行目	日本語名欄のタイトルは「日本語名」で固定です。	×
15行目	英語名欄のタイトルは「英語名」で固定です。	×
16行目	所属組織名のタイトルは「所属組織名」で固定です。	×
17行目	役職名のタイトルは「役職名」で固定です。	×
18行目	メールアドレスのタイトルは「メールアドレス」で固定です。	×
19行目	電話番号のタイトルは「電話番号」で固定です。	×
20行目	英語役職名のタイトルは「英語役職名」で固定です。	×
21行目	英語所属組織名のタイトルは「英語所属組織名」で固定です。	×
22行目	システム内部情報のため「1」で固定です。	×
23行目	空行	×

(凡例)

×: 変更できません。

7.2.2 アプリケーションリストファイル (set_application.cfg)

アプリケーションリストファイル (set_application.cfg) には, システムアプリケーションテーブル (TBL_SYSAPPLI) に設定する値を定義します。アプリケーションリストファイルのサンプルファイル (set_application.cfg.sam) と設定内容を次に示します。

図 7-2 アプリケーションリストファイルのサンプルファイル

1行目	#ファイルを保存する時は、文字コードがUTF-8であることを確認してください。
2行目	#Please open and save this file at UTF-8.
3行目	collaboapid:10
4行目	collaboapname:ポータル
5行目	collaboapkana:ぼーたる
6行目	collaboapename:portal
7行目	classname:jp.co.hitachi.soft.portal.services.communitymanager. PortalController
8行目	deleteflag:0
9行目	改行
10行目	collaboapid:20
11行目	portletname:hptlclbcfr
12行目	collaboapname:電子会議室
13行目	collaboapkana:でんしかいぎしつ
14行目	collaboapename:Forum
15行目	classname:jp.co.Hitachi.soft.collaboration.forum.engine.cooperation.Fr GCMEEventManager
16行目	deleteflag:0
17行目	改行
18行目	collaboapid:30
19行目	portletname:hptlclbcfs
20行目	collaboapname:ファイル共有
21行目	collaboapkana:ふあいるきょうゆう
22行目	collaboapename:File Sharing
23行目	classname:jp.co.Hitachi.soft.collaboration.filesharing.external. CfsEventListener
24行目	deleteflag:0
25行目	空行

表 7-2 アプリケーションリストファイルの設定内容

行	設定内容	変更
1行目	改行またはコメント行とします。	×
2行目	コメント行とします。	×
3行目	ポータルを識別するアプリケーション ID は「10 (ポータル)」で固定です。	×
4行目	ポータルの名称は「ポータル」で固定です。	×
5行目	ポータルのふりがなは「ぼーたる」で固定です。	×
6行目	ポータルの英語名は「portal」で固定です。	×
7行目	システム内部情報のため「jp.co.hitachi.soft. portal.services.communitymanager.PortalController」で固定です。	×

行	設定内容	変更
8行目	システム内部情報のため「0」で固定です。	×
9行目	改行	×
10行目	電子会議室を識別するアプリケーションIDは「20（電子会議室）」で固定です。	×
11行目	電子会議室のポートレットとしての名称は「hptlclbcfr」で固定です。	×
12行目	電子会議室のコンポーネントとしての名称は「電子会議室」で固定です。	×
13行目	電子会議室のふりがなは「でんしかいぎしつ」で固定です。	×
14行目	電子会議室の英語名は「Forum」で固定です。	×
15行目	システム内部情報のため「jp.co.Hitachi.soft.collaboration.forum.engine.cooperation.FrCCMEventManager」で固定です。	×
16行目	システム内部情報のため「0」で固定です。	×
17行目	改行	×
18行目	ファイル共有を識別するアプリケーションIDは「30（ファイル共有）」で固定です。	×
19行目	ファイル共有のポートレットとしての名称は「hptlclbcfs」で固定です。	×
20行目	ファイル共有の名前は「ファイル共有」で固定です。	×
21行目	ファイル共有のふりがなは「ふぁいるきょうゆう」で固定です。	×
22行目	ファイル共有の英語名は「File Sharing」で固定です。	×
23行目	システム内部情報のため「jp.co.Hitachi.soft.collaboration.filesharing.external.CfsEventListener」で固定です。	×
24行目	システム内部情報のため「0」で固定です。	×
25行目	空行	×

(凡例)

×：変更できません。

7.2.3 テンプレート定義ファイル (set_template.cfg)

テンプレート定義ファイル (set_template.cfg) には、テンプレートテーブル (TBL_TEMPLATE) に設定する値を定義します。テンプレート定義ファイルのサンプルファイル (set_template.cfg.sam) と設定内容を次に示します。

図 7-3 テンプレート定義ファイルのサンプルファイル

1行目	#ファイルを保存する時は、文字コードがUTF-8であることを確認してください。
2行目	#Please open and save this file at UTF-8.
3行目	templateid:topdown
4行目	templatename:管理者主導型
5行目	templatekana:かんりしやしゅどうがた
6行目	templateename:Top-Down Project Type
7行目	categoryid:CTG0
8行目	addmember:1
9行目	delmember:1
10行目	addreqmember:3
11行目	delreqmember:3
12行目	outcommuflag:3
13行目	outmemflag:3
14行目	ccommuperson:1
15行目	croleperson:1
16行目	lroleperson:1
17行目	workperson:1
18行目	workplacemax:1
19行目	description:コミュニティ管理者だけに、メンバの追加や削除の権限を与えています。コミュニティ管理者が全権を握ってコミュニティを運営するタイプです。最初のコミュニティ管理者には、コミュニティの作成者を登録します。
20行目	deleteflag:0
21行目	改行
22行目	templateid:bottomup
23行目	templatename:現場主導型
24行目	templatekana:げんばしゅどうがた
25行目	templateename:Bottom-Up Project Type
26行目	categoryid:CTG0
27行目	addmember:2
28行目	delmember:2
29行目	addreqmember:2
30行目	delreqmember:2
31行目	outcommuflag:3
32行目	outmemflag:1
33行目	ccommuperson:2

34行目	croleperson:2
35行目	lcroleperson:1
36行目	workperson:1
37行目	workplacemax:1
38行目	description:コミュニティのメンバに、メンバの追加や削除の権限を与えています。コミュニティのメンバは全員対等であり、コミュニティのメンバ全員で運営するタイプです。
39行目	deleteflag:0
40行目	改行
41行目	templateid:interestgroup
42行目	templatename:自由参加型
43行目	templatekana:じゆうさんかがた
44行目	templateename:Interest Group Type
45行目	categoryid:CT60
46行目	addmember:4
47行目	dellmember:4
48行目	addreqmember:0
49行目	dellreqmember:0
50行目	outcommuflag:1
51行目	outmemflag:1
52行目	ccommuperson:2
53行目	croleperson:4
54行目	lcroleperson:1
55行目	workperson:1
56行目	workplacemax:1
57行目	description:メンバの参加や脱退は誰でもできるように権限を与えています。コミュニティへの参加や脱退は、個人に任されているタイプです。他人をメンバにすることも自由にできます。コミュニティ管理者は特別な場合を除き、何もしなくてもコミュニティは運営されていきます。
58行目	deleteflag:0
59行目	空行

表 7-3 テンプレート定義ファイルの設定内容

行	設定内容	変更
1 行目	改行またはコメント行とします。	×
2 行目	コメント行とします。	×
3 行目	管理者主導型のテンプレート ID は「topdown (管理者主導型)」で固定です。	×
4 行目	管理者主導型の名前を設定します。サンプルファイルの初期値は「管理者主導型」です。	○
5 行目	管理者主導型のふりがなを設定します。サンプルファイルの初期値は「かんりしゃしゅどうがた」です。	○
6 行目	管理者主導型の英語名を設定します。サンプルファイルの初期値は「Top-Down Project Type」です。	○

7 コマンド定義ファイル

行	設定内容	変更
7行目	カテゴリ ID は「CTG0」で固定です。	×
8行目	コミュニティにメンバを登録できる人は「1（コミュニティ管理者およびコミュニティ運用者）」で固定です。	×
9行目	コミュニティからメンバを削除できる人は「1（コミュニティ管理者およびコミュニティ運用者）」で固定です。	×
10行目	システム内部情報のため「3」で固定です。	×
11行目	システム内部情報のため「3」で固定です。	×
12行目	コミュニティを公開する対象者は「3（コミュニティメンバだけに見せてもよい）」で固定です。	×
13行目	システム内部情報のため「3」で固定です。	×
14行目	システム内部情報のため「1」で固定です。	×
15行目	コミュニティメンバに役割を割り当てられる人は「1（コミュニティ管理者およびコミュニティ運用者）」で固定です。	×
16行目	コミュニティ内だけで有効な役割を作成および削除できる人は「1（コミュニティ管理者およびコミュニティ運用者）」で固定です。	×
17行目	システム内部情報のため「1」で固定です。	×
18行目	システム内部情報のため「1」で固定です。	×
19行目	管理者主導型の説明を設定します。サンプルファイルの初期値は「コミュニティ管理者だけに、メンバの追加や削除の権限を与えています。コミュニティ管理者が全権を握ってコミュニティを運営するタイプです。最初のコミュニティ管理者には、コミュニティの作成者を登録します。」です。	○
20行目	システム内部情報のため「0」で固定です。	×
21行目	改行	×
22行目	現場主導型のテンプレート ID は「bottomup（現場主導型）」で固定です。	×
23行目	現場主導型の名前を設定します。サンプルファイルの初期値は「現場主導型」です。	○
24行目	現場主導型のふりがなを設定します。サンプルファイルの初期値は「げんばしゅどうがた」です。	○
25行目	現場主導型の英語名を設定します。サンプルファイルの初期値は「Bottom-Up Project Type」です。	○
26行目	カテゴリ ID は「CTG0」で固定です。	×
27行目	コミュニティにメンバを登録できる人は「2（コミュニティメンバ）」で固定です。	×
28行目	コミュニティからメンバを削除できる人は「2（コミュニティメンバ）」で固定です。	×
29行目	システム内部情報のため「2」で固定です。	×
30行目	システム内部情報のため「2」で固定です。	×
31行目	コミュニティを公開する対象者は「3（コミュニティメンバにだけ見せてもよい）」で固定です。	×
32行目	システム内部情報のため「1」で固定です。	×

行	設定内容	変更
33 行目	システム内部情報のため「2」で固定です。	×
34 行目	コミュニティメンバに役割を割り当てられる人は「2 (コミュニティメンバ)」で固定です。	×
35 行目	コミュニティ内だけで有効な役割を作成および削除できる人は「1 (コミュニティ管理者およびコミュニティ運用者)」で固定です。	×
36 行目	システム内部情報のため「1」で固定です。	×
37 行目	システム内部情報のため「1」で固定です。	×
38 行目	現場主導型の説明を設定します。サンプルファイルの初期値は「コミュニティのメンバに、メンバの追加や削除の権限を与えています。コミュニティのメンバは全員対等であり、コミュニティのメンバ全員で運営するタイプです。」です。	○
39 行目	システム内部情報のため「0」で固定です。	×
40 行目	改行	×
41 行目	自由参加型のテンプレート ID は「interestgroup」で固定です。	×
42 行目	自由参加型の名前を設定します。サンプルファイルの初期値は「自由参加型」です。	○
43 行目	自由参加型のふりがなを設定します。サンプルファイルの初期値は「じゅうさんががた」です。	○
44 行目	自由参加型の英語名はサンプルファイルの初期値は「Interest Group Type」です。	○
45 行目	カテゴリ ID は「CTG0」で固定です。	×
46 行目	コミュニティにメンバを登録できる人は「4 (誰でも)」で固定です。	×
47 行目	コミュニティからメンバを削除できる人は「4 (誰でも)」で固定です。	×
48 行目	システム内部情報のため「0」で固定です。	×
49 行目	システム内部情報のため「0」で固定です。	×
50 行目	コミュニティを公開する対象者は「1 (誰に見せてもよい)」で固定です。	×
51 行目	システム内部情報のため「1」で固定です。	×
52 行目	システム内部情報のため「2」で固定です。	×
53 行目	コミュニティメンバに役割を割り当てられる人は「4 (誰でも)」で固定です。	×
54 行目	コミュニティ内だけで有効な役割を作成および削除できる人は「1 (コミュニティ管理者およびコミュニティ運用者)」で固定です。	×
55 行目	システム内部情報のため「1」で固定です。	×
56 行目	システム内部情報のため「1」で固定です。	×
57 行目	自由参加型の説明を設定します。サンプルファイルの初期値は「メンバの参加や脱退は誰でもできるように権限を与えています。コミュニティへの参加や脱退は、個人に任されているタイプです。他人をメンバにすることも自由にできます。コミュニティ管理者は特別な場合を除き、何もなくてもコミュニティは運営されていきます。」です。	○
58 行目	システム内部情報のため「0」で固定です。	×
59 行目	空行	×

(凡例)

- ：変更できます。
- ×：変更できません。

7.2.4 ワークプレーステンプレート定義ファイル (set_worktemplate.cfg)

ワークプレーステンプレート定義ファイル (set_worktemplate.cfg) には、ワークプレーステンプレートテーブル (TBL_WORKTEMPLATE) に設定する値を定義します。ただし、ファイルの内容は変更できません。ワークプレーステンプレート定義ファイルのサンプルファイル (set_worktemplate.cfg.sam) と設定内容を次に示します。

図 7-4 ワークプレーステンプレート定義ファイルのサンプルファイル

1行目	#ファイルを保存する時は、文字コードがUTF-8であることを確認してください。
2行目	#Please open and save this file at UTF-8.
3行目	worktmplid:topdown
4行目	commuid:topdown
5行目	worktmplname:管理者主導型
6行目	worktmplkana:かんりしやしゅどうがた
7行目	worktmplname:Top-Down Project Type
8行目	enforceflag:1
9行目	collaboapid:20,30
10行目	deleteflag:0
11行目	改行
12行目	worktmplid:bottomup
13行目	commuid:bottomup
14行目	worktmplname:現場主導型
15行目	worktmplkana:げんばしゅどうがた
16行目	worktmplname:Bottom-Up Project Type
17行目	enforceflag:1
18行目	collaboapid:20,30
19行目	deleteflag:0
20行目	改行
21行目	worktmplid:interestgroup
22行目	commuid:interestgroup
23行目	worktmplname:自由参加型
24行目	worktmplkana:じゅうさんかがた
25行目	worktmplname:Interest Group Type
26行目	enforceflag:1
27行目	collaboapid:20,30
28行目	deleteflag:0
29行目	空行

表 7-4 ワークプレーステンプレート定義ファイルの設定内容

行	設定内容	変更
1 行目	改行またはコメント行とします。	×
2 行目	コメント行とします。	×
3 行目	管理者主導型のワークプレーステンプレート ID は「topdown (管理者主導型)」で固定です。	×
4 行目	管理者主導型のワークプレース ID は「topdown」で固定です。	×
5 行目	管理者主導型ワークプレーステンプレートの名前は「管理者主導型」で固定です。	×
6 行目	管理者主導型ワークプレーステンプレートのふりがなは「かんりしゃしゅどうがた」で固定です。	×
7 行目	管理者主導型ワークプレーステンプレートの英語名は「Top-Down Project Type」で固定です。	×
8 行目	システム内部情報のため「1」で固定です。	×
9 行目	Collaboration のコンポーネント（電子会議室，ファイル共有）と連携するためのアプリケーション ID は「20,30」で固定です。	×
10 行目	システム内部情報のため「0」で固定です。	×
11 行目	改行	×
12 行目	現場主導型のワークプレーステンプレート ID は「bottomup」で固定です。	×
13 行目	現場主導型のワークプレース ID は「bottomup」で固定です。	×
14 行目	現場主導型ワークプレーステンプレートの名前は「現場主導型」で固定です。	×
15 行目	現場主導型ワークプレーステンプレートのふりがなは「げんばしゅどうがた」で固定です。	×
16 行目	現場主導型ワークプレーステンプレートの英語名は「Bottom-Up Project Type」で固定です。	×
17 行目	システム内部情報のため「1」で固定です。	×
18 行目	Collaboration のコンポーネント（電子会議室，ファイル共有）と連携するためのアプリケーション ID は「20,30」で固定です。	×
19 行目	システム内部情報のため「0」で固定です。	×
20 行目	改行	×
21 行目	自由参加型のワークプレーステンプレート ID は「interestgroup」で固定です。	×
22 行目	自由参加型のワークプレース ID は「interestgroup」で固定です。	×
23 行目	自由参加型ワークプレーステンプレートの名前は「自由参加型」で固定です。	×
24 行目	自由参加型ワークプレーステンプレートのふりがなは「じゅうさんかがた」で固定です。	×
25 行目	自由参加型ワークプレーステンプレートの英語名は「Interest Group Type」で固定です。	×
26 行目	システム内部情報のため「1」で固定です。	×
27 行目	Collaboration のコンポーネント（電子会議室，ファイル共有）と連携するためのアプリケーション ID は「20,30」で固定です。	×
28 行目	システム内部情報のため「0」で固定です。	×

行	設定内容	変更
29 行目	空行	×

(凡例)

×：変更できません。

7.2.5 共通の役割定義ファイル (set_role.cfg)

共通の役割定義ファイル (set_role.cfg) には、コミュニティロールテーブル (TBL_COMMUROLE) に設定する値を定義します。ただし、ファイルの内容は変更できません。共通の役割定義ファイルのサンプルファイル (set_role.cfg.sam) と設定内容を次に示します。

図 7-5 共通の役割定義ファイルのサンプルファイル

```
1行目 #ファイルを保存する時は、文字コードがUTF-8であることを確認してください。
2行目 #Please open and save this file at UTF-8.
3行目 roleid:ROL1
4行目 roletype:1
5行目 roleassort:0
6行目 rolename:コミュニティ管理者
7行目 rolekana:こみゆにていかんりしゃ
8行目 roleename:administrator
9行目 rolecode:"△△△△△△2400011110△△△△△△△△"
10行目 deleteflag:0
11行目 改行
12行目 roleid:ROL2
13行目 roletype:1
14行目 roleassort:0
15行目 rolename:コミュニティ運用者
16行目 rolekana:こみゆにていうんようしゃ
17行目 roleename:manager
18行目 rolecode:"△△△△△△2400010110△△△△△△△△"
19行目 deleteflag:0
20行目 改行
21行目 roleid:ROL11
22行目 roletype:0
23行目 roleassort:0
24行目 rolename:リーダー
25行目 rolekana:リーダ
26行目 roleename:leader
27行目 rolecode:"△△△△△△2400001110△△△△△△△△"
28行目 description:リーダーはコミュニティのリソースに対して何でもできるよう設定されているのが一般的です。
29行目 deleteflag:0
30行目 改行
```

31行目	roleid:ROL12
32行目	roletype:0
33行目	roleassort:0
34行目	rolename:メンバ
35行目	rolekana:めんば
36行目	roleename:member
37行目	rolecode:"△△△△△△2400000110△△△△△△△△"
38行目	description:メンバはコミュニティのリソースに対して書き込みと参照ができるよう設定されているのが一般的です。
39行目	deleteflag:0
40行目	改行
41行目	roleid:ROL13
42行目	roletype:0
43行目	roleassort:0
44行目	rolename:オブザーバ
45行目	rolekana:おぶざーば
46行目	roleename:observer
47行目	rolecode:"△△△△△△2400000010△△△△△△△△"
48行目	description:オブザーバはコミュニティのリソースに対して参照だけできるよう設定されているのが一般的です。
49行目	deleteflag:0
50行目	空行

表 7-5 共通の役割定義ファイルの設定内容

行	設定内容	変更
1行目	改行またはコメント行とします。	×
2行目	コメント行とします。	×
3行目	コミュニティ管理者のロールIDは「ROL1」で固定です。	×
4行目	コミュニティ管理者のロールタイプは「1 (コミュニティ管理ロール)」で固定です。	×
5行目	役割種別は「0 (共通役割)」で固定です。	×
6行目	コミュニティ管理者の名称は「コミュニティ管理者」で固定です。	×
7行目	コミュニティ管理者のふりがなは「こみゆにていかんりしゃ」で固定です。	×
8行目	コミュニティ管理者の英語名は「administrator」で固定です。	×
9行目	アプリケーションに渡す役割のコードは["△△△△△△2400011110△△△△△△△△"] (△:半角スペース) で固定です。※	×
10行目	システム内部情報のため「0」で固定です。	×
11行目	改行	×
12行目	コミュニティ運用者のロールIDは「ROL2」で固定です。	×

行	設定内容	変更
13行目	コミュニティ運用者のロールタイプは「1 (コミュニティ管理ロール)」で固定です。	×
14行目	役割種別は「0 (共通役割)」で固定です。	×
15行目	コミュニティ運用者の名称は「コミュニティ運用者」で固定です。	×
16行目	コミュニティ運用者のふりがなは「こみゆにていうんようしゃ」で固定です。	×
17行目	コミュニティ運用者の英語名は「manager」で固定です。	×
18行目	アプリケーションに渡す役割のコードは["△△△△△△2400011110△△△△△△△△"] (△: 半角スペース) で固定です。※	×
19行目	システム内部情報のため「0」で固定です。	×
20行目	改行	×
21行目	リーダーのロールIDは「ROL11」で固定です。	×
22行目	リーダーのロールタイプは「0 (コミュニティ運用者)」で固定です。	×
23行目	役割種別は「0 (共通役割)」で固定です。	×
24行目	リーダーの名称は「リーダー」で固定です。	×
25行目	リーダーのふりがなは「りーだ」で固定です。	×
26行目	リーダーの英語名は「leader」で固定です。	×
27行目	アプリケーションに渡す役割のコードは["△△△△△△2400011110△△△△△△△△"] (△: 半角スペース) で固定です。※	×
28行目	リーダーの説明は「リーダーはコミュニティのリソースに対して何でもできるよう設定されているのが一般的です。」で固定です。	×
29行目	システム内部情報のため「0」で固定です。	×
30行目	改行	×
31行目	メンバのロールIDは「ROL12」で固定です。	×
32行目	メンバのロールタイプは「0 (コミュニティ運用者)」で固定です。	×
33行目	役割種別は「0 (共通役割)」で固定です。	×
34行目	メンバの名称は「メンバ」で固定です。	×
35行目	メンバのふりがなは「めんば」で固定です。	×
36行目	メンバの英語名は「member」で固定です。	×
37行目	アプリケーションに渡す役割のコードは["△△△△△△2400011110△△△△△△△△"] (△: 半角スペース) で固定です。※	×
38行目	メンバの説明は「メンバはコミュニティのリソースに対して書き込みと参照ができるよう設定されているのが一般的です。」で固定です。	×
39行目	システム内部情報のため「0」で固定です。	×
40行目	改行	×

行	設定内容	変更
41 行目	オブザーバのロールIDは「ROL13」で固定です。	×
42 行目	オブザーバのロールタイプは「0 (コミュニティ運用者)」で固定です。	×
43 行目	役割種別は「0 (共通役割)」で固定です。	×
44 行目	オブザーバの名称は「オブザーバ」で固定です。	×
45 行目	オブザーバのふりがなは「おぶざーば」で固定です。	×
46 行目	オブザーバの英語名は「observer」で固定です。	×
47 行目	アプリケーションに渡す役割のコードは["△△△△△△2400011110△△△△△△△△"] (△：半角スペース) で固定です。※	×
48 行目	オブザーバの説明は「オブザーバはコミュニティのリソースに対して参照だけできるよう設定されているのが一般的です。」で固定です。	×
49 行目	システム内部情報のため「0」で固定です。	×
50 行目	空行	×

(凡例)

×：変更できません。

注※

rolecode には、文字列の先頭と最後に半角スペースを設定する必要があります。半角スペースを指定する場合は、前後に「」（半角引用符）を指定します。

7.2.6 登録・変更ユーザー一覧ファイル (set_member.cfg)

登録・変更ユーザー一覧ファイル (set_member.cfg) には、登録または変更するユーザのユニーク ID の一覧を記述します。登録・変更ユーザー一覧ファイルのサンプルファイル (set_member.cfg.sam) と設定内容を次に示します。

図 7-6 登録・変更ユーザー一覧ファイルのサンプルファイル

1行目	#ファイルを保存する時は、文字コードがUTF-8であることを確認してください。
2行目	#Please open and save this file at UTF-8.
3行目	uniqueid:root
4行目	userid:root
5行目	hosttype:0
6行目	systemrole:2
7行目	label1value:root
8行目	label2value:root
9行目	label3value:
10行目	label4value:
11行目	label5value:
12行目	label6value:
13行目	label7value:
14行目	label8value:
15行目	deleteflag:0
16行目	空行

表 7-6 登録・変更ユーザー一覧ファイルの設定内容

行	設定内容	変更
1 行目	改行またはコメント行とします。	×
2 行目	コメント行とします。	×
3 行目	登録または変更するユーザのユニーク ID を設定します。サンプルデータの初期値は「root」です。ポータルにログインできるユーザのログイン ID と同じ ID を設定してください。	○
4 行目	登録または変更するユーザの UID を設定します。サンプルデータの初期値は「root」です。ポータルにログインできるユーザのログイン ID と同じ ID を設定してください。	○
5 行目	ディレクトリサーバのタイプを設定します。 0：内部ディレクトリサーバのユーザ 2：非ディレクトリサーバのユーザ サンプルデータの初期値は「0」です。	○
6 行目	登録または変更するユーザの管理用の役割を設定します。 0：一般ユーザ 1：システム運用者 2：システム管理者 サンプルデータの初期値は「2」です。	○
7 行目*	登録または変更する非ディレクトリユーザの名前を設定します。サンプルファイルの初期値は「root」です。登録者または変更者に合わせて名前を設定します。ログイン後にポートレット画面で変更できます。	○

行	設定内容	変更
8行目※	登録または変更する非ディレクトリユーザの英語名を設定します。サンプルファイルの初期値は「root」です。登録者に合わせて英語を設定します。ログイン後にポートレット画面で変更できます。	○
9行目※	登録または変更する非ディレクトリユーザの所属組織名を設定します。サンプルファイルの初期値は「なし」です。ログイン後にポートレット画面で設定できます。	○
10行目※	登録または変更する非ディレクトリユーザの役職名を設定します。サンプルファイルの初期値は「なし」です。登録者に合わせて英語を設定します。ログイン後にポートレット画面で変更できます。	○
11行目※	登録または変更する非ディレクトリユーザのメールアドレスを設定します。サンプルファイルの初期値は「なし」です。登録者に合わせて英語を設定します。ログイン後にポートレット画面で変更できます。	○
12行目※	登録または変更する非ディレクトリユーザの電話番号を設定します。サンプルファイルの初期値は「なし」です。登録者に合わせて英語を設定します。ログイン後にポートレット画面で変更できます。	○
13行目※	登録または変更する非ディレクトリユーザの英語役職名を設定します。サンプルファイルの初期値は「なし」です。登録者に合わせて英語を設定します。ログイン後にポートレット画面で変更できます。	○
14行目※	登録または変更する非ディレクトリユーザの英語所属組織名を設定します。サンプルファイルの初期値は「なし」です。登録者に合わせて英語を設定します。ログイン後にポートレット画面で変更できます。	○
15行目	システム内部情報のため「0」で固定です。	×
16行目	空行	×

(凡例)

○：変更できます。

×：変更できません。

注※

登録または変更するユーザが非ディレクトリユーザの場合だけ設定します。

7.2.7 削除ユーザー一覧ファイル (del_member.cfg)

削除ユーザー一覧ファイル (del_member.cfg) には、データベースから完全に削除するユーザのユニーク ID を記述します。削除ユーザー一覧ファイルのサンプルファイル (del_member.cfg.sam) と設定内容を次に示します。

図 7-7 削除ユーザー一覧ファイルのサンプルファイルの一部

1行目	#ファイルを保存する時は、文字コードがUTF-8であることを確認してください。
2行目	#Please open and save this file at UTF-8.
3行目	uniqueid:root
4行目	空行
5行目	uniqueid:root
	:

表 7-7 削除ユーザー一覧ファイルの設定内容

行	設定内容	変更
1 行目	改行またはコメント行とします。	×
2 行目	コメント行とします。	×
3 行目	ユニーク ID を設定します。サンプルファイルの初期値は「root」です。	○
4 行目	空行	×
5 行目	ユニーク ID を設定します。サンプルファイルの初期値は「root」です。	○
:	:	

(凡例)

○：変更できます。

×：変更できません。

7.2.8 削除メンバー一覧ファイル

削除メンバー一覧ファイルには、コミュニティから削除するユーザのユニーク ID とコミュニティ ID を記述します。サンプルファイルはありません。次の形式に従って削除メンバー一覧ファイルを作成してください。

図 7-8 削除メンバー一覧ファイルの例

1行目	#ファイルを保存する時は、文字コードがUTF-8であることを確認してください。
2行目	#Please open and save this file at UTF-8.
3行目	uniqueid:000025
4行目	commuid:COM15
5行目	空行
6行目	uniqueid:taro@hitachi.co.jp
7行目	commuid:COM15
	:

表 7-8 削除メンバー一覧ファイルの設定内容

行	設定内容
1 行目	必要に応じてコメントを記載します。
2 行目	
3 行目	削除するユーザのユニーク ID を設定します。
4 行目	削除するユーザのコミュニティ ID を設定します。
5 行目	空行
:	:

7.2.9 バックアップファイル

バックアップファイルには、#で始まる行にテーブル名が出力されます。次の行から操作対象とするレコードがLDIF形式で出力されます。次のテーブルのバックアップに移るときは、#とテーブル名の行が出力されます。バックアップファイルの例を次に示します。

図 7-9 バックアップファイルの例

1行目	#TBL_USER
2行目	UNIQUEID:10301000
3行目	USERID:10301000
4行目	HOSTNAME:directory.soft.hitachi.co.jp
5行目	HOSTTYPE:0
6行目	SYSTEMROLE:2
7行目	LABEL1VALUE:
8行目	LABEL2VALUE:
9行目	LABEL3VALUE:
10行目	LABEL4VALUE:
11行目	LABEL5VALUE:
12行目	LABEL6VALUE:
13行目	LABEL7VALUE:
14行目	LABEL8VALUE:
15行目	DELETEFLAG:1
16行目	DELETEDATE:2004-02-29 12:34:56
17行目	
18行目	#TBL_MEMBER
19行目	MEMBERID:1035
20行目	UNIQUEID:10301000
	:

7.2.10 コミュニティ情報一覧ファイル

コミュニティ情報一覧ファイルには、get_community コマンドを実行した結果が CSV 形式で出力されます。文字コードは Windows-31J となります。

コミュニティ情報一覧ファイルの出力例を次に示します。

図 7-10 コミュニティ情報一覧ファイルの出力例

1行目	コミュニティID,コミュニティ名,削除フラグ,コミュニティ作成者,コミュニティ参照可能フラグ,ワークスペースID一覧,コミュニティメンバ数,コミュニティ管理者数,コミュニティ管理者一覧
2行目	COM10, コラボコミュニティ, 0, taro, 1, WPL10, 5, 2, "taro, hanako"
3行目	COM20, コマネコミュニティ, 1, jiro, 3, WPL20, 4, 1, "jiro"

注 1行目は折り返していますが、実際は1行で出力されます。

7.2.11 RD エリア用制御文ファイル (hptl_clb_ccm_rdarea_s.def/ hptl_clb_ccm_rdarea_p.def)

RD エリア用制御文ファイルには、HiRDB/シングルサーバ用 (hptl_clb_ccm_rdarea_s.def) と HiRDB/パラレルサーバ用 (hptl_clb_ccm_rdarea_p.def) があり、HiRDB のデータベース構成変更ユーティリティ (pdmod) の制御文として使用します。データベース構成変更ユーティリティの制御文の詳細は、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド(Windows(R)用)」および「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム運用ガイド(Windows(R)用)」を参照してください。

RD エリア用制御文ファイルの記述例を次に示します。

図 7-11 RD エリア用制御文ファイルの記述例

```

1行目 create rdarea CCMRDATA1
2行目     for user used by CCM_USER_ID
3行目     page 4096 characters
4行目     storage control segment 20 pages
5行目     file name "CCM_HIRDB_FILESYSTEM_AREA_NAME/CCM_HIRDB_FILE_NAME"
6行目     initial 1000 segments:
           :
```

7.2.12 テーブル定義ファイル (hptl_clb_ccm_table.sql)

テーブル定義ファイルは、HiRDB のデータベース定義ユーティリティ (pddef) の入力ファイルとして使用します。データベース定義ユーティリティの制御文の詳細は、HiRDB のマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド(Windows(R)用)」および「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム運用ガイド(Windows(R)用)」を参照してください。

テーブル定義ファイルの記述例を次に示します。

図 7-12 テーブル定義ファイルの記述例

```
1行目 CREATE SCHEMA;  
2行目  
3行目 CREATE TABLE TBL_APPLICATION (  
4行目     COLLABOAPID INTEGER NOT NULL,  
5行目     IDTYPE SMALLINT DEFAULT 0 NOT NULL,  
6行目     WORKPLACEID VARCHAR (16) NOT NULL,  
7行目     COMMUID VARCHAR (40) NOT NULL,  
8行目     PORTLETNAME VARCHAR (80) NOT NULL,  
9行目     COLLABOAPNAME MVARCHAR (255) NOT NULL,  
10行目    COLLABOAPKANA MVARCHAR (255),  
11行目    COLLABOAPENAME VARCHAR (255),  
12行目    ENFORCEFLAG SMALLINT DEFAULT 0 NOT NULL,  
13行目    COLLABOAPCON MVARCHAR (511),  
14行目    NOTICEFLAG SMALLINT DEFAULT 0 NOT NULL,  
15行目    CHANGEINFO CHAR (16) DEFAULT '0000000000000000',  
16行目    DELETEDFLAG SMALLINT DEFAULT 0 NOT NULL,  
17行目    DELETEDATE TIMESTAMP,  
18行目    TERMOFVARIDITY TIMESTAMP,  
19行目    CODETYPE VARCHAR (8),  
20行目    PRIMARY KEY(COLLABOAPID,WORKPLACEID) IN CCMRDIDX4)  
21行目    IN CCMRDDATA4;  
:
```

8

Collaboration - Online Community Management の障 害対策

この章では、Collaboration - Online Community Management の障害対策について説明します。

8.1 バックアップとリストア

データベースの障害に備えて、バックアップデータを取得する必要があります。バックアップの対象となるデータは、Collaboration - Online Community Management のデータベースのリソースとシステムのリソースです。

ここでは、バックアップおよびリストアの方法について説明します。

8.1.1 データベースの共通リソースのバックアップ

データベースの運用規定や規模を考慮して、バックアップの対象とする共通リソース（Collaboration - Online Community Management のデータベースリソース以外）を決定します。バックアップの対象とするリソースについては、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム運用ガイド(Windows(R)用)」を参照してください。

8.1.2 Collaboration - Online Community Management のデータのバックアップ

Collaboration - Online Community Management のすべてのデータベースリソース（RD エリア）をバックアップの対象とします。

また、Collaboration - Online Community Management が提供しているデータベースリソース以外の次のファイルもバックアップの対象とします。これらのファイルも同時期にバックアップを取得してください。これらのファイルの格納場所は、「付録 A インストールディレクトリ構成」を参照してください。

- 運用で使用している<Collaboration - Server インストールディレクトリ>%community%conf ディレクトリ内の hptl_clb_ccm.properties ファイルおよび hptl_clb_ccm_ras.conf ファイル
- サンプル提供したファイルをカスタマイズして将来再利用する可能性があるファイル。例えば <Collaboration - Server インストールディレクトリ>%community%sample ディレクトリ内のファイルや、<Collaboration - Server インストールディレクトリ>%community%command%sys%ディレクトリ内のファイルなど。

Collaboration - Online Community Management と連携している製品（ポータル、電子会議室、ファイル共有）のバックアップも同時に取得してください。

8.1.3 コミュニティ情報一覧の出力

リストア時に参考にするため、現時点のコミュニティ情報一覧を get_community コマンドを使って出力します。get_community コマンドについては、「5.3 各コマンドの詳細」の「get_community (コミュニティ情報一覧の出力)」を参照してください。

8.1.4 リストア

バックアップデータをリストアする方法について説明します。

(1) データベースが壊れた場合

バックアップデータをリストアする前に、必ず、次に示すサーバを停止してください。

- Collaboration - Online Community Management が動作しているすべてのアプリケーションサーバ
- ファイル共有のサーバ（ファイル共有のサーバから直接 Collaboration - Online Community Management のデータベースを参照している可能性があるため）

サーバ停止後、バックアップデータ（データベースのリソースおよび Collaboration - Online Community Management のリソース）をリストアします。データベースだけが壊れた場合は、データベースリソース以外のバックアップデータをリストアする必要はありません。

Collaboration - Online Community Management と連携している製品（ポータル、電子会議室、ファイル共有）のバックアップデータは、Collaboration - Online Community Management と同時に取得したものをリストアしてください。

(2) アプリケーションサーバだけが壊れた場合

バックアップデータをリストアする前に、必ず、壊れたアプリケーションサーバを停止してください。

サーバ停止後、Collaboration - Online Community Management のリソースのうち、データベースリソース以外のバックアップデータをリストアします。

(3) Collaboration - Online Community Management のデータベースだけをリストアする方法

この方法でリストアした場合、Collaboration - Online Community Management では削除されたコミュニティが、ポータル、電子会議室およびファイル共有からはまだあるように見えます。このように不整合が発生するため、注意が必要です。

手順

1. Collaboration - Online Community Management が動作しているすべてのアプリケーションサーバを停止します。
2. データベースを起動します。
3. バックアップデータ（データベースのリソースおよび Collaboration - Online Community Management のリソース）をリストアします。ただし、データベースリソース以外のバックアップデータをリストアする必要はありません。
4. 次の SQL を実行して、バックアップ時点のリストア管理番号を取得します。

```
select systempolicy4 from tbl_system where effectiveid=1;
```
5. 次の SQL を実行します。x は手順 4 で出力した数値 + 1 の値です。

```
update tbl_system set systempolicy4=x where effectiveid=1;
commit;
```
6. 次の SQL を実行してリストア管理番号を出力し、手順 5 が正しく実行されたかを確認します。

```
select systempolicy4 from tbl_system where effectiveid=1;
```
7. アプリケーションサーバを起動します。

8.2 RAS 用 Conf ファイルの設定

Collaboration - Online Community Management は、RAS 収集コマンドで RAS 情報を取得するためのファイルとして RAS 用 conf ファイル (hptl_clb_ccm_ras.conf) を用意しています。RAS 用 conf ファイルの保存場所は、「付録 A インストールディレクトリ構成」を参照してください。RAS 用 conf ファイルの定義内容を次に示します。

表 8-1 RAS 用 conf ファイルの定義内容

設定値	内容
#<共通プロパティファイルの hptl_clb_ccm_trace_dir の値>	トレース、ログファイル群

付録

付録 A インストールディレクトリ構成

Collaboration - Online Community Management のインストールディレクトリ構成を次に示します。
なお、インストールディレクトリの絶対パスは、環境変数 COSMINEXUS_COLLABORATION_HOME
に設定されています。

図 A-1 インストールディレクトリ構成

```
インストールディレクトリ/community/  
(デフォルト : Program Files/Hitachi/Collaboration/community/)  
├── portlets/  
│   └── hptl_clb_ccm.par (parファイル)  
├── conf/  
│   ├── hptl_clb_ccm.properties (共通プロパティファイル)  
│   └── hptl_clb_ccm_ras.conf (RAS収集コマンドでRAS情報を取得するためのファイル)  
├── lib/  
│   └── hptl_clb_ccm_if.jar (インタフェースjarファイル)  
├── sample/  
│   ├── clb_ccm_def.txt (サンプルマッピング定義ファイル)  
│   ├── cmpostop.c (サンプルプラグインソース)  
│   ├── cmpostop.ldif (サンプルプラグイン定義ファイル)  
│   ├── hptl_clb_ccm_rdarea_s.def (サンプルRDエリア用制御文ファイル (HiRDB/シングルサーバ用))  
│   ├── hptl_clb_ccm_rdarea_p.def (サンプルRDエリア用制御文ファイル (HiRDB/パラレルサーバ用))  
│   └── hptl_clb_ccm_table.sql (テーブル定義ファイル)
```


インストールディレクトリ/community/

(デフォルト : Program Files/Hitachi/Collaboration/community/)

```

├── command/
│   ├── bin/
│   │   ├── set_system.exe (システム情報設定コマンド)
│   │   ├── set_system.exe.manifest (マニフェストファイル)
│   │   ├── set_role.exe (ロール追加コマンド)
│   │   ├── set_role.exe.manifest (マニフェストファイル)
│   │   ├── set_template.exe (コミュニティテンプレート追加コマンド)
│   │   ├── set_template.exe.manifest (マニフェストファイル)
│   │   ├── set_worktemplate.exe (ワークプレーステンプレート追加コマンド)
│   │   ├── set_worktemplate.exe.manifest (マニフェストファイル)
│   │   ├── set_application.exe (アプリケーション登録・削除コマンド)
│   │   ├── set_application.exe.manifest (マニフェストファイル)
│   │   ├── set_member.exe (ユーザ・メンバー一括登録・変更コマンド)
│   │   ├── set_member.exe.manifest (マニフェストファイル)
│   │   ├── del_record.exe (レコード削除コマンド)
│   │   ├── del_record.exe.manifest (マニフェストファイル)
│   │   ├── del_member.exe (ユーザ・メンバー一括削除コマンド)
│   │   ├── del_member.exe.manifest (マニフェストファイル)
│   │   ├── get_community.exe (コミュニティ情報取得コマンド)
│   │   └── get_community.exe.manifest (マニフェストファイル)
│   ├── conf/
│   │   └── hptl_clb_ccm_cmd.properties.sam (コマンドプロパティファイル)
│   ├── lib/
│   │   └── hptl_clb_ccm_cmd.jar (コマンドjarファイル)
│   ├── sys/
│   │   ├── set_system.cfg.sam (set_systemコマンド用定義ファイルサンプル)
│   │   ├── set_role.cfg.sam (set_roleコマンド用定義ファイルサンプル)
│   │   ├── set_template.cfg.sam (set_templateコマンド用定義ファイルサンプル)
│   │   ├── set_worktemplate.cfg.sam (set_worktemplateコマンド用定義ファイルサンプル)
│   │   ├── set_application.cfg.sam (set_applicationコマンド用定義ファイルサンプル)
│   │   ├── set_member.cfg.sam (set_memberコマンド用定義ファイルサンプル)
│   │   └── del_member.cfg.sam (del_memberコマンド用定義ファイルサンプル)
│   ├── sample/
│   │   └── sample.bat (コマンドのサンプルバッチファイル)
│   └── tool/
│       ├── restore_record.exe (内部コマンド)
│       ├── restore_record.exe.manifest (マニフェストファイル)
│       ├── restore_record.cfg (内部コマンド)
│       ├── change_ldap.exe (ディレクトリサーバ変更コマンド)
│       └── change_ldap.exe.manifest (マニフェストファイル)
└── Readme.txt (Readmeファイル)

```

付録B モデルケースごとのデータベース容量

Collaboration - Online Community Management では、次に示す条件ごとのモデルケースを提供しています。

表 B-1 モデルケースの一覧

モデルケース	UMX	CMX
モデルケース 1	1,000	100
モデルケース 2	1,000	500
モデルケース 3	5,000	500
モデルケース 4	5,000	1,000
モデルケース 5	10,000	500
モデルケース 6	10,000	1,000

(凡例)

UMX：システムを利用するユーザの最大数

CMX：システム内で作成するコミュニティの最大数

ここで示した値と想定値が異なる場合は、想定値より大きい値のモデルケースを使用してください。例えば、UMX の想定値が 2,000 のときは、UMX の値が 5,000 のモデルケースを使用してデータベースを構築してください。

なお、RD エリア、テーブル、およびインデクスの容量は、次の表に示す仮定値を使用して算出しています。

表 B-2 容量見積もりの仮定値

項番	記号	項目	仮定値	単位
1	GNM	カテゴリ名の長さ (平均値)	20	バイト
2	GKN	カテゴリ名ふりがなの長さ (平均値)	30	バイト
3	GEN	カテゴリ英語名の長さ (平均値)	20	バイト
4	GDP	カテゴリの説明の長さ (平均値)	300	バイト
5	GMX	システム内で作成するカテゴリの最大数	50	—
6	GMA	一つのカテゴリに作成するコミュニティの数	CMX ÷ 50*	—
7	CNM	コミュニティ名の長さ (平均値)	20	バイト
8	CKN	コミュニティ名ふりがなの長さ (平均値)	30	バイト
9	CEN	コミュニティ英語名の長さ (平均値)	20	バイト
10	CDP	コミュニティの説明の長さ (平均値)	300	バイト
11	CWP	コミュニティに作成できるワークスペースの最大数	1	—
12	UID	ユニーク ID の長さ (平均値)	8	バイト

項番	記号	項目	仮定値	単位
13	UNM	ユーザの名前 (Label1) の長さ (平均値)	0	バイト
14	UEN	ユーザの英語名 (Label2) の長さ (平均値)	0	バイト
15	UJO	ユーザの所属組織名 (Label3) の長さ (平均値)	0	バイト
16	UJP	ユーザの役職名 (Label4) の長さ (平均値)	0	バイト
17	UEM	ユーザのメールアドレス (Label5) の長さ (平均値)	0	バイト
18	UTL	ユーザの電話番号 (Label6) の長さ (平均値)	0	バイト
19	UEP	ユーザの英語役職 (Label7) の長さ (平均値)	0	バイト
20	UEO	ユーザの英語所属組織名 (Label8) の長さ (平均値)	0	バイト
21	UAD	システム管理者の数	10	—
22	UMN	システム運用者の数	10	—
23	MCA	一人のユーザがコミュニティに所属する数 (平均値)	5	—
24	MRA	一人のユーザが一つのコミュニティで役割を割り当てられる数 (平均値)	2	—
25	RNM	役割名の長さ (平均値)	20	バイト
26	RKN	役割名ふりがなの長さ (平均値)	30	バイト
27	REN	役割英語名の長さ (平均値)	20	バイト
28	RCD	役割コードの長さ (平均値)	50	バイト
29	RDP	役割の説明の長さ (平均値)	300	バイト
30	RCM	一つのコミュニティに作成する役割の数 (平均値)	5	—
31	RMX	システム内で作成する役割の最大数	$5 \times \text{CMX} + 5^*$	—
32	WNM	ワークスペース名の長さ (平均値)	20	バイト
33	WKN	ワークスペース名ふりがなの長さ (平均値)	30	バイト
34	WEN	ワークスペース英語名の長さ (平均値)	20	バイト
35	WMX	システム内で作成するコミュニティの最大数, CMX と同じ	CMX [*]	—
36	AMX	登録するアプリケーションの最大数	3	—
37	LDH	ホスト名の長さ (平均値)	0	バイト
38	LMX	ディレクトリサーバの最大数	0	—
39	LNМ	Label1 から Label15 に設定された文字列の長さ (平均値)	0	バイト
40	TNM	テンプレート名の長さ (平均値)	20	バイト
41	TKN	テンプレート名ふりがなの長さ (平均値)	30	バイト
42	TEN	テンプレート英語名の長さ (平均値)	20	バイト

項番	記号	項目	仮定値	単位
43	TDP	テンプレートの説明の長さ（平均値）	300	バイト
44	TMX	システム内で作成するテンプレートの最大数	3	－
45	VNM	ワークプレーステンプレート名の長さ（平均値）	20	バイト
46	VKN	ワークプレーステンプレート名ふりがなの長さ（平均値）	30	バイト
47	VEN	ワークプレーステンプレート英語名の長さ（平均値）	20	バイト

(凡例)

－：ありません。

注※

システム内で作成するコミュニティの最大数（CMX）の値によって異なります。各変数とCMXの値の対応を次の表に示します。

項番	変数	CMXの値		
		100	500	1,000
1	GMA	2	10	20
2	RMX	505	2,505	5,005
3	WMX	100	500	1,000

ここに示した仮定値より大きい値を想定している場合は、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド（Windows(R)用）」に記載されている見積もり式に「付録C データベース容量の見積もりで使用する値」に示す値を代入して、データベース容量を見積もってください。

付録B.1 モデルケースごとのRDエリアの容量

モデルケースごとのRDエリアの容量を次の表に示します。

表B-3 モデルケースごとのRDエリアの容量

ユーザ数	RDエリア名	コミュニティ数：100		コミュニティ数：500		コミュニティ数：1,000	
		セグメント数	RDエリアの容量 (KB)	セグメント数	RDエリアの容量 (KB)	セグメント数	RDエリアの容量 (KB)
1,000	CCMRDDATA1	66	5,380	66	5,380	－	－
	CCMRDDATA2	33	2,736	33	2,736	－	－
	CCMRDDATA3	9	816	41	3,376	－	－
	CCMRDDATA4	58	4,736	66	5,380	－	－
	CCMRDIDX1	68	5,540	43	3,536	－	－
	CCMRDIDX2	27	2,256	27	2,256	－	－
	CCMRDIDX3	9	2,376	11	2,856	－	－
	CCMRDIDX4	28	2,336	38	3,136	－	－

ユーザ数	RD エリア名	コミュニティ数：100		コミュニティ数：500		コミュニティ数：1,000	
		セグメント数	RD エリアの容量 (KB)	セグメント数	RD エリアの容量 (KB)	セグメント数	RD エリアの容量 (KB)
5,000	CCMRDDATA1	—	—	329	26,436	329	26,436
	CCMRDDATA2	—	—	165	13,304	165	13,304
	CCMRDDATA3	—	—	41	3,376	81	6,580
	CCMRDDATA4	—	—	246	19,788	510	40,928
	CCMRDIDX1	—	—	195	15,708	207	16,668
	CCMRDIDX2	—	—	104	8,420	105	8,500
	CCMRDIDX3	—	—	11	2,856	13	3,336
	CCMRDIDX4	—	—	39	3,216	48	3,936
10,000	CCMRDDATA1	—	—	657	52,696	657	52,696
	CCMRDDATA2	—	—	329	26,436	329	26,436
	CCMRDDATA3	—	—	41	3,376	81	6,580
	CCMRDDATA4	—	—	274	22,032	480	38,524
	CCMRDIDX1	—	—	358	28,756	386	31,000
	CCMRDIDX2	—	—	204	16,428	205	16,508
	CCMRDIDX3	—	—	11	2,856	13	3,336
	CCMRDIDX4	—	—	53	4,336	61	4,976

(凡例)

—：該当しません。

付録 B.2 モデルケースごとのテーブルおよびインデクスのセグメント数

モデルケースごとのテーブルおよびインデクスのセグメント数を次に示します。

(1) モデルケース 1 の場合

モデルケース 1 の場合のテーブルおよびインデクスのセグメント数を次の表に示します。

表 B-4 モデルケース 1 の場合のテーブルおよびインデクスのセグメント数

項番	RD エリア	テーブル/インデクス	セグメント数
1	CCMRDDATA1	TBL_MEMBERROLE	66
2	CCMRDDATA2	TBL_MEMBER	33
3	CCMRDDATA3	TBL_COMMUNITY	9
4	CCMRDDATA4	TBL_SYSTEM	1

項番	RD エリア	テーブル/インデクス	セグメント数
5	CCMRDDATA4	TBL_SYSLIST	0
6		TBL_CATEGORY	4
7		TBL_COMMUROLE	40
8		TBL_WORKPLACE	1
9		TBL_APPLICATION	2
10		TBL_USER	6
11		TBL_TEMPLATE	1
12		TBL_WORKTEMPLATE	1
13		TBL_SYSAPPLI	1
14		TBL_IDMANAGE	1
15		TBL_COMMULIST	0
16		TBL_OUTBOX	0
17		CCMRDIDX1	TBL_MEMBERROLE の主キー
18	IDX_MEMBERROLE1		28
19	IDX_MEMBERROLE2		2
20	IDX_MEMBERROLE3		4
21	IDX_MEMBERROLE4		11
22	IDX_MEMBERROLE5		10
23	CCMRDIDX2	TBL_MEMBER の主キー	4
24		IDX_MEMBER1	3
25		IDX_MEMBER2	2
26		IDX_MEMBER4	10
27		IDX_MEMBER5	1
28		IDX_MEMBER6	1
29		IDX_MEMBER7	1
30		IDX_MEMBER8	1
31		IDX_MEMBER9	1
32		IDX_MEMBER10	1
33		IDX_MEMBER11	1
34		IDX_MEMBER12	1
35	CCMRDIDX3	TBL_COMMUNITY の主キー	1

項番	RD エリア	テーブル/インデクス	セグメント数
36	CCMRDIDX3	IDX_COMMUNITY1	1
37		IDX_COMMUNITY2	1
38		IDX_COMMUNITY3	1
39		IDX_COMMUNITY4	1
40		IDX_COMMUNITY5	1
41		IDX_COMMUNITY6	1
42		IDX_COMMUNITY7	1
43		IDX_COMMUNITY8	1
44	CCMRDIDX4	TBL_SYSTEM の主キー	1
45		IDX_SYSLIST1	1
46		TBL_CATEGORY の主キー	1
47		IDX_CATEGORY1	1
48		TBL_COMMUROLE の主キー	1
49		IDX_COMMUROLE1	1
50		IDX_COMMUROLE2	1
51		TBL_WORKPLACE の主キー	1
52		IDX_WORKPLACE1	1
53		TBL_APPLICATION の主キー	1
54		IDX_APPLICATION1	1
55		IDX_APPLICATION2	1
56		TBL_USER の主キー	2
57		IDX_USER1	1
58		IDX_USER2	1
59		IDX_USER3	1
60		IDX_USER4	1
61		IDX_USER5	1
62		IDX_USER6	1
63		IDX_USER7	1
64		IDX_USER8	1
65		IDX_USER9	1
66		TBL_TEMPLATE の主キー	1

項番	RD エリア	テーブル/インデクス	セグメント数
67	CCMRDIDX4	TBL_WORKTEMPLATE の主キー	1
68		TBL_SYSAPPLI の主キー	1
69		TBL_COMMULIST の主キー	1
70		IDX_COMMULIST1	1

(2) モデルケース 2 の場合

モデルケース 2 の場合のテーブルおよびインデクスのセグメント数を次の表に示します。

表 B-5 モデルケース 2 の場合のテーブルおよびインデクスのセグメント数

項番	RD エリア	テーブル/インデクス	セグメント数
1	CCMRDDATA1	TBL_MEMBERROLE	66
2	CCMRDDATA2	TBL_MEMBER	33
3	CCMRDDATA3	TBL_COMMUNITY	41
4	CCMRDDATA4	TBL_SYSTEM	1
5		TBL_SYSLIST	0
6		TBL_CATEGORY	4
7		TBL_COMMUROLE	40
8		TBL_WORKPLACE	3
9		TBL_APPLICATION	8
10		TBL_USER	6
11		TBL_TEMPLATE	1
12		TBL_WORKTEMPLATE	1
13		TBL_SYSAPPLI	1
14		TBL_IDMANAGE	1
15		TBL_COMMULIST	0
16	TBL_OUTBOX	0	
17	CCMRDIDX1	TBL_MEMBERROLE の主キー	13
18		IDX_MEMBERROLE1	3
19		IDX_MEMBERROLE2	3
20		IDX_MEMBERROLE3	3
21		IDX_MEMBERROLE4	11
22		IDX_MEMBERROLE5	10
23	CCMRDIDX2	TBL_MEMBER の主キー	4

項番	RD エリア	テーブル/インデクス	セグメント数
24	CCMRDIDX2	IDX_MEMBER1	3
25		IDX_MEMBER2	2
26		IDX_MEMBER4	10
27		IDX_MEMBER5	1
28		IDX_MEMBER6	1
29		IDX_MEMBER7	1
30		IDX_MEMBER8	1
31		IDX_MEMBER9	1
32		IDX_MEMBER10	1
33		IDX_MEMBER11	1
34		IDX_MEMBER12	1
35		CCMRDIDX3	TBL_COMMUNITY の主キー
36	IDX_COMMUNITY1		1
37	IDX_COMMUNITY2		1
38	IDX_COMMUNITY3		1
39	IDX_COMMUNITY4		3
40	IDX_COMMUNITY5		1
41	IDX_COMMUNITY6		1
42	IDX_COMMUNITY7		1
43	IDX_COMMUNITY8	1	
44	CCMRDIDX4	TBL_SYSTEM の主キー	1
45		IDX_SYSLIST1	1
46		TBL_CATEGORY の主キー	1
47		IDX_CATEGORY1	1
48		TBL_COMMUROLE の主キー	3
49		IDX_COMMUROLE1	2
50		IDX_COMMUROLE2	1
51		TBL_WORKPLACE の主キー	1
52		IDX_WORKPLACE1	1
53		TBL_APPLICATION の主キー	3
54		IDX_APPLICATION1	5

項番	RD エリア	テーブル/インデクス	セグメント数
55	CCMRDIDX4	IDX_APPLICATION2	2
56		TBL_USER の主キー	2
57		IDX_USER1	1
58		IDX_USER2	1
59		IDX_USER3	1
60		IDX_USER4	1
61		IDX_USER5	1
62		IDX_USER6	1
63		IDX_USER7	1
64		IDX_USER8	1
65		IDX_USER9	1
66		TBL_TEMPLATE の主キー	1
67		TBL_WORKTEMPLATE の主キー	1
68		TBL_SYSAPPLI の主キー	1
69		TBL_COMMULIST の主キー	1
70		IDX_COMMULIST1	1

(3) モデルケース 3 の場合

モデルケース 3 の場合のテーブルおよびインデクスのセグメント数を次の表に示します。

表 B-6 モデルケース 3 の場合のテーブルおよびインデクスのセグメント数

項番	RD エリア	テーブル/インデクス	セグメント数
1	CCMRDDATA1	TBL_MEMBERROLE	329
2	CCMRDDATA2	TBL_MEMBER	165
3	CCMRDDATA3	TBL_COMMUNITY	41
4	CCMRDDATA4	TBL_SYSTEM	1
5		TBL_SYSLIST	0
6		TBL_CATEGORY	4
7		TBL_COMMUROLE	198
8		TBL_WORKPLACE	3
9		TBL_APPLICATION	8
10		TBL_USER	28
11		TBL_TEMPLATE	1

項番	RD エリア	テーブル/インデクス	セグメント数
12	CCMRDDATA4	TBL_WORKTEMPLATE	1
13		TBL_SYSAPPLI	1
14		TBL_IDMANAGE	1
15		TBL_COMMULIST	0
16		TBL_OUTBOX	0
17	CCMRDIDX1	TBL_MEMBERROLE の主キー	63
18		IDX_MEMBERROLE1	14
19		IDX_MEMBERROLE2	9
20		IDX_MEMBERROLE3	11
21		IDX_MEMBERROLE4	51
22		IDX_MEMBERROLE5	47
23	CCMRDIDX2	TBL_MEMBER の主キー	17
24		IDX_MEMBER1	11
25		IDX_MEMBER2	5
26		IDX_MEMBER4	47
27		IDX_MEMBER5	3
28		IDX_MEMBER6	3
29		IDX_MEMBER7	3
30		IDX_MEMBER8	3
31		IDX_MEMBER9	3
32		IDX_MEMBER10	3
33		IDX_MEMBER11	3
34		IDX_MEMBER12	3
35	CCMRDIDX3	TBL_COMMUNITY の主キー	1
36		IDX_COMMUNITY1	1
37		IDX_COMMUNITY2	1
38		IDX_COMMUNITY3	1
39		IDX_COMMUNITY4	3
40		IDX_COMMUNITY5	1
41		IDX_COMMUNITY6	1
42		IDX_COMMUNITY7	1

項番	RD エリア	テーブル/インデクス	セグメント数
43	CCMRDIDX3	IDX_COMMUNITY8	1
44	CCMRDIDX4	TBL_SYSTEM の主キー	1
45		IDX_SYSLIST1	1
46		TBL_CATEGORY の主キー	1
47		IDX_CATEGORY1	1
48		TBL_COMMUROLE の主キー	3
49		IDX_COMMUROLE1	2
50		IDX_COMMUROLE2	1
51		TBL_WORKPLACE の主キー	1
52		IDX_WORKPLACE1	1
53		TBL_APPLICATION の主キー	3
54		IDX_APPLICATION1	2
55		IDX_APPLICATION2	2
56		TBL_USER の主キー	5
57		IDX_USER1	2
58		IDX_USER2	1
59		IDX_USER3	1
60		IDX_USER4	1
61		IDX_USER5	1
62		IDX_USER6	1
63		IDX_USER7	1
64	IDX_USER8	1	
65	IDX_USER9	1	
66	TBL_TEMPLATE の主キー	1	
67	TBL_WORKTEMPLATE の主キー	1	
68	TBL_SYSAPPLI の主キー	1	
69	TBL_COMMULIST の主キー	1	
70	IDX_COMMULIST1	1	

(4) モデルケース 4 の場合

モデルケース 4 の場合のテーブルおよびインデクスのセグメント数を次の表に示します。

表 B-7 モデルケース 4 の場合のテーブルおよびインデクスのセグメント数

項番	RD エリア	テーブル/インデクス	セグメント数
1	CCMRDDATA1	TBL_MEMBERROLE	329
2	CCMRDDATA2	TBL_MEMBER	165
3	CCMRDDATA3	TBL_COMMUNITY	81
4	CCMRDDATA4	TBL_SYSTEM	1
5		TBL_SYSLIST	0
6		TBL_CATEGORY	4
7		TBL_COMMUROLE	395
8		TBL_WORKPLACE	5
9		TBL_APPLICATION	73
10		TBL_USER	28
11		TBL_TEMPLATE	1
12		TBL_WORKTEMPLATE	1
13		TBL_SYSAPPLI	1
14		TBL_IDMANAGE	1
15		TBL_COMMULIST	0
16		TBL_OUTBOX	0
17	CCMRDIDX1	TBL_MEMBERROLE の主キー	63
18		IDX_MEMBERROLE1	21
19		IDX_MEMBERROLE2	10
20		IDX_MEMBERROLE3	15
21		IDX_MEMBERROLE4	51
22		IDX_MEMBERROLE5	47
23	CCMRDIDX2	TBL_MEMBER の主キー	17
24		IDX_MEMBER1	11
25		IDX_MEMBER2	6
26		IDX_MEMBER4	47
27		IDX_MEMBER5	3
28		IDX_MEMBER6	3
29		IDX_MEMBER7	3
30		IDX_MEMBER8	3

項番	RD エリア	テーブル/インデクス	セグメント数
31	CCMRDIDX2	IDX_MEMBER9	3
32		IDX_MEMBER10	3
33		IDX_MEMBER11	3
34		IDX_MEMBER12	3
35	CCMRDIDX3	TBL_COMMUNITY の主キー	1
36		IDX_COMMUNITY1	1
37		IDX_COMMUNITY2	1
38		IDX_COMMUNITY3	1
39		IDX_COMMUNITY4	5
40		IDX_COMMUNITY5	1
41		IDX_COMMUNITY6	1
42		IDX_COMMUNITY7	1
43		IDX_COMMUNITY8	1
44	CCMRDIDX4	TBL_SYSTEM の主キー	1
45		IDX_SYSLIST1	1
46		TBL_CATEGORY の主キー	1
47		IDX_CATEGORY1	1
48		TBL_COMMUROLE の主キー	5
49		IDX_COMMUROLE1	3
50		IDX_COMMUROLE2	2
51		TBL_WORKPLACE の主キー	2
52		IDX_WORKPLACE1	2
53		TBL_APPLICATION の主キー	4
54		IDX_APPLICATION1	3
55		IDX_APPLICATION2	3
56		TBL_USER の主キー	5
57		IDX_USER1	2
58		IDX_USER2	1
59		IDX_USER3	1
60		IDX_USER4	1
61	IDX_USER5	1	

項番	RD エリア	テーブル/インデクス	セグメント数
62	CCMRDIDX4	IDX_USER6	1
63		IDX_USER7	1
64		IDX_USER8	1
65		IDX_USER9	1
66		TBL_TEMPLATE の主キー	1
67		TBL_WORKTEMPLATE の主キー	1
68		TBL_SYSAPPLI の主キー	1
69		TBL_COMMULIST の主キー	1
70		IDX_COMMULIST1	1

(5) モデルケース 5 の場合

モデルケース 5 の場合のテーブルおよびインデクスのセグメント数を次の表に示します。

表 B-8 モデルケース 5 の場合のテーブルおよびインデクスのセグメント数

項番	RD エリア	テーブル/インデクス	セグメント数
1	CCMRDDATA1	TBL_MEMBERROLE	657
2	CCMRDDATA2	TBL_MEMBER	329
3	CCMRDDATA3	TBL_COMMUNITY	41
4	CCMRDDATA4	TBL_SYSTEM	1
5		TBL_SYSLIST	0
6		TBL_CATEGORY	4
7		TBL_COMMUROLE	198
8		TBL_WORKPLACE	3
9		TBL_APPLICATION	8
10		TBL_USER	56
11		TBL_TEMPLATE	1
12		TBL_WORKTEMPLATE	1
13		TBL_SYSAPPLI	1
14		TBL_IDMANAGE	1
15		TBL_COMMULIST	0
16		TBL_OUTBOX	0
17		CCMRDIDX1	TBL_MEMBERROLE の主キー
18	IDX_MEMBERROLE1		3

項番	RD エリア	テーブル/インデクス	セグメント数
19	CCMRDIDX1	IDX_MEMBERROLE2	18
20		IDX_MEMBERROLE3	18
21		IDX_MEMBERROLE4	100
22		IDX_MEMBERROLE5	93
23	CCMRDIDX2	TBL_MEMBER の主キー	33
24		IDX_MEMBER1	21
25		IDX_MEMBER2	9
26		IDX_MEMBER4	93
27		IDX_MEMBER5	6
28		IDX_MEMBER6	6
29		IDX_MEMBER7	6
30		IDX_MEMBER8	6
31		IDX_MEMBER9	6
32		IDX_MEMBER10	6
33		IDX_MEMBER11	6
34		IDX_MEMBER12	6
35	CCMRDIDX3	TBL_COMMUNITY の主キー	1
36		IDX_COMMUNITY1	1
37		IDX_COMMUNITY2	1
38		IDX_COMMUNITY3	1
39		IDX_COMMUNITY4	3
40		IDX_COMMUNITY5	1
41		IDX_COMMUNITY6	1
42		IDX_COMMUNITY7	1
43	IDX_COMMUNITY8	1	
44	CCMRDIDX4	TBL_SYSTEM の主キー	1
45		IDX_SYSLIST1	1
46		TBL_CATEGORY の主キー	1
47		IDX_CATEGORY1	1
48		TBL_COMMUROLE の主キー	3
49		IDX_COMMUROLE1	2

項番	RD エリア	テーブル/インデクス	セグメント数
50	CCMRDIDX4	IDX_COMMUROLE2	1
51		TBL_WORKPLACE の主キー	2
52		IDX_WORKPLACE1	3
53		TBL_APPLICATION の主キー	1
54		IDX_APPLICATION1	2
55		IDX_APPLICATION2	2
56		TBL_USER の主キー	10
57		IDX_USER1	2
58		IDX_USER2	2
59		IDX_USER3	2
60		IDX_USER4	2
61		IDX_USER5	2
62		IDX_USER6	2
63		IDX_USER7	2
64		IDX_USER8	2
65		IDX_USER9	2
66		TBL_TEMPLATE の主キー	1
67		TBL_WORKTEMPLATE の主キー	1
68		TBL_SYSAPPLI の主キー	1
69		TBL_COMMULIST の主キー	1
70	IDX_COMMULIST1	1	

(6) モデルケース 6 の場合

モデルケース 6 の場合のテーブルおよびインデクスのセグメント数を次の表に示します。

表 B-9 モデルケース 6 の場合のテーブルおよびインデクスのセグメント数

項番	RD エリア	テーブル/インデクス	セグメント数
1	CCMRDDATA1	TBL_MEMBERROLE	657
2	CCMRDDATA2	TBL_MEMBER	329
3	CCMRDDATA3	TBL_COMMUNITY	81
4	CCMRDDATA4	TBL_SYSTEM	1
5		TBL_SYSLIST	0
6		TBL_CATEGORY	4

項番	RD エリア	テーブル/インデクス	セグメント数
7	CCMRDDATA4	TBL_COMMUROLE	395
8		TBL_WORKPLACE	5
9		TBL_APPLICATION	15
10		TBL_USER	56
11		TBL_TEMPLATE	1
12		TBL_WORKTEMPLATE	1
13		TBL_SYSAPPLI	1
14		TBL_IDMANAGE	1
15		TBL_COMMULIST	0
16		TBL_OUTBOX	0
17	CCMRDIDX1	TBL_MEMBERROLE の主キー	126
18		IDX_MEMBERROLE1	28
19		IDX_MEMBERROLE2	18
20		IDX_MEMBERROLE3	21
21		IDX_MEMBERROLE4	100
22		IDX_MEMBERROLE5	93
23	CCMRDIDX2	TBL_MEMBER の主キー	33
24		IDX_MEMBER1	21
25		IDX_MEMBER2	10
26		IDX_MEMBER4	93
27		IDX_MEMBER5	6
28		IDX_MEMBER6	6
29		IDX_MEMBER7	6
30		IDX_MEMBER8	6
31		IDX_MEMBER9	6
32		IDX_MEMBER10	6
33		IDX_MEMBER11	6
34		IDX_MEMBER12	6
35	CCMRDIDX3	TBL_COMMUNITY の主キー	1
36		IDX_COMMUNITY1	1
37		IDX_COMMUNITY2	1

項番	RD エリア	テーブル/インデクス	セグメント数
38	CCMRDIDX3	IDX_COMMUNITY3	1
39		IDX_COMMUNITY4	5
40		IDX_COMMUNITY5	1
41		IDX_COMMUNITY6	1
42		IDX_COMMUNITY7	1
43		IDX_COMMUNITY8	1
44		CCMRDIDX4	TBL_SYSTEM の主キー
45	IDX_SYSLIST1		1
46	TBL_CATEGORY の主キー		1
47	IDX_CATEGORY1		1
48	TBL_COMMUROLE の主キー		5
49	IDX_COMMUROLE1		3
50	IDX_COMMUROLE2		2
51	TBL_WORKPLACE の主キー		2
52	IDX_WORKPLACE1		2
53	TBL_APPLICATION の主キー		4
54	IDX_APPLICATION1		3
55	IDX_APPLICATION2		3
56	TBL_USER の主キー		10
57	IDX_USER1		2
58	IDX_USER2		2
59	IDX_USER3		2
60	IDX_USER4		2
61	IDX_USER5		2
62	IDX_USER6		2
63	IDX_USER7		2
64	IDX_USER8		2
65	IDX_USER9		2
66	TBL_TEMPLATE の主キー		1
67	TBL_WORKTEMPLATE の主キー		1
68	TBL_SYSAPPLI の主キー	1	

項番	RD エリア	テーブル/インデクス	セグメント数
69	CCMRDIDX4	TBL_COMMULIST の主キー	1
70		IDX_COMMULIST1	1

付録 C データベース容量の見積もりで使用する値

ここではデータベース容量を詳細に見積もる際に使用する値について説明します。データベース容量を見積もる場合は、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に、ここで説明している値を代入してください。

付録 C.1 容量見積もりの前提条件

データベース容量を見積もる際の前提条件を次に示します。

- Collaboration - Online Community Management のデータベースでは、ノースプリットオプションを使用しません。データ長を算出する場合は、ノースプリットオプションを使用しない場合の値を参照してください。
- Collaboration - Online Community Management のデータベースでは、リバランス機能を使用しません。
- Collaboration - Online Community Management のテーブルには、抽象データ型の列や繰り返し列は存在しません。

マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」を参照する際は、これらの条件を考慮してください。

付録 C.2 値の説明で使用する記号

値の説明で使用する記号を次の表に示します。

表 C-1 値の説明で使用する記号

分類	記号	項目	単位
カテゴリ	GNM	カテゴリ名の長さ (平均値)	バイト
	GKN	カテゴリ名ふりがなの長さ (平均値)	バイト
	GEN	カテゴリ英語名の長さ (平均値)	バイト
	GDP	カテゴリの説明の長さ (平均値)	バイト
	GMX	システム内で作成するカテゴリの最大数 ^{*1}	なし
	GMA	一つのカテゴリに作成するコミュニティの数	なし
コミュニティ	CNM	コミュニティ名の長さ (平均値)	バイト
	CKN	コミュニティ名ふりがなの長さ (平均値)	バイト
	CEN	コミュニティ英語名の長さ (平均値)	バイト
	CDP	コミュニティの説明の長さ (平均値)	バイト
	CWP	コミュニティに作成できるワークスペースの最大数	なし
	CMX	システム内で作成するコミュニティの最大数	なし
ユーザ	UID	ユニーク ID の長さ (平均値)	バイト
	UNM	ユーザの名前 (Label1) の長さ (平均値)	バイト

分類	記号	項目	単位
ユーザ	UEN	ユーザの英語名 (Label2) の長さ (平均値)	バイト
	UJO	ユーザの所属組織名 (Label3) の長さ (平均値)	バイト
	UJP	ユーザの役職名 (Label4) の長さ (平均値)	バイト
	UEM	ユーザのメールアドレス (Label5) の長さ (平均値)	バイト
	UTL	ユーザの電話番号 (Label6) の長さ (平均値)	バイト
	UEP	ユーザの英語役職 (Label7) の長さ (平均値)	バイト
	UEO	ユーザの英語所属組織名 (Label8) の長さ (平均値)	バイト
	UMX	システムを利用するユーザの最大数	なし
	UAD	システム管理者の数	なし
	UMN	システム運用者の数	なし
メンバ	MCA	一人のユーザがコミュニティに所属する数 (平均値)	なし
	MRA	一人のユーザが一つのコミュニティで役割を割り当てられる数 (平均値)	なし
役割	RNM	役割名の長さ (平均値)	バイト
	RKN	役割名ふりがなの長さ (平均値)	バイト
	REN	役割英語名の長さ (平均値)	バイト
	RCD	役割コードの長さ (平均値) ※2	バイト
	RDP	役割の説明の長さ (平均値)	バイト
	RCM	一つのコミュニティに作成する役割の数 (平均値) ※3	なし
	RMX	システム内で作成する役割の最大数※4	なし
ワークスペース	WNM	ワークスペース名の長さ (平均値)	バイト
	WKN	ワークスペース名ふりがなの長さ (平均値)	バイト
	WEN	ワークスペース英語名の長さ (平均値)	バイト
	WMX	システム内で作成するコミュニティの最大数, CMX と同じ	なし
アプリケーション	AMX	登録するアプリケーションの最大数	なし
システム	LDH	ホスト名の長さ (平均値)	バイト
	LMX	ディレクトリサーバの最大数	なし
	LNМ	Label1 から Label15 に設定された文字列の長さ (平均値)	バイト
テンプレート	TNM	テンプレート名の長さ (平均値)	バイト
	TKN	テンプレート名ふりがなの長さ (平均値)	バイト
	TEN	テンプレート英語名の長さ (平均値)	バイト

分類	記号	項目	単位
テンプレート	TDP	テンプレートの説明の長さ (平均値)	バイト
	TMX	システム内で作成するテンプレートの最大数	なし
ワークスペース テンプレート	VNM	ワークスペーステンプレート名の長さ (平均値)	バイト
	VKN	ワークスペーステンプレート名ふりがなの長さ (平均値)	バイト
	VEN	ワークスペーステンプレート英語名の長さ (平均値)	バイト

注※1

カテゴリの階層の数は、1 と仮定しています。

注※2

Collaboration - Online Community Management のデータベースでは、50 を指定します。

注※3

共通の役割の数は除きます。

注※4

次の計算式で算出します。

$RCM \times CMX + 5$ (共通の役割の数)

付録 C.3 ユーザ用 RD エリアの容量見積もりで使用する値

ユーザ用 RD エリアの容量見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

表 C-2 ユーザ用 RD エリアの容量見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	RD エリア	容量見積もりで使用する変数と代入値								
		n^{*1}	P	e	k	S	d_i	α_i	β_i	γ_i
1	CCMRDDATA1	1	4,096	1	0	20	別途算 出※2	別途算 出※3	別途算 出※3	別途算 出※4
2	CCMRDDATA2	1	4,096	1	0	20				
3	CCMRDDATA3	1	4,096	1	0	20				
4	CCMRDDATA4	1	4,096	13	0	20				
5	CCMRDIDX1	1	4,096	0	6	20				
6	CCMRDIDX2	1	4,096	0	12	20				
7	CCMRDIDX3	1	12,288	0	9	20				
8	CCMRDIDX4	1	4,096	0	27	20				

注※1

ユーザ用 RD エリアを構成する HiRDB ファイルの数です。実際のユーザ環境に合わせて変更してください。詳細はマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」を参照してください。

注※2

HiRDB ファイルごとのセグメント数です。 α_i 、 β_i および γ_i の値を基にして算出してください。

注※3

表ごとの格納ページ数です。表の格納ページ数の算出方法については、「付録 C.4 表の格納ページ数の見積もりで使用する値」を参照してください。

注※4

インデクスごとの格納ページ数です。インデクスの格納ページ数の算出方法については、「付録 C.5 インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する値」を参照してください。

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

付録 C.4 表の格納ページ数の見積もりで使用する値

表の格納ページ数の見積もりで使用する値について説明します。

なお、計算式中の「↑」は、「↑」で挟まれている数値の小数点以下を切り上げることを示します。

(1) システム情報テーブル (TBL_SYSTEM)

システム情報テーブル (TBL_SYSTEM) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

表 C-3 システム情報テーブル (TBL_SYSTEM) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	テーブル名	表の格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d _i	e _i	f	g	h
1	TBL_SYSTEM	1	4,096	30	別途算出※1	別途算出※2	37	20	10

注※1

表の各列のデータ長です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

注※2

列のデータ長の平均値です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

システム情報テーブル (TBL_SYSTEM) の FIX 指定の有無を次に示します。

FIX 指定の有無：なし

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(a) d_i および e_i の値の算出方法

d_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」のデータ長一覧に記載されている見積もり式に代入します。

また、e_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」の可変長文字列型データ長一覧 (抽象データ型および繰り返し列を除く場合) に記載されている見積もり式に代入します。

表 C-4 d_i および e_i の値 (システム情報テーブル (TBL_SYSTEM) の場合)

項番	カラム名	データ型	定義長 (バイト)	d _i の値	e _i の値
1	CMAKEPERSON	SMALLINT	—	2	0
2	CDELPERSON	SMALLINT	—	2	0
3	CDELCONDITION	SMALLINT	—	2	0
4	MANADDPERSON	SMALLINT	—	2	0
5	MANADDCONDITION	SMALLINT	—	2	0
6	CATEGORYPERSON	SMALLINT	—	2	0
7	CATEGORYCONDITION	SMALLINT	—	2	0
8	MEMBERLIST	SMALLINT	—	2	0
9	APDUPLICATION	SMALLINT	—	2	0
10	LDAPCONDITION	SMALLINT	—	2	0
11	SYSTEMPOLICY1	SMALLINT	—	2	0
12	SYSTEMPOLICY2	SMALLINT	—	2	0
13	SYSTEMPOLICY3	SMALLINT	—	2	0
14	SYSTEMPOLICY4	SMALLINT	—	2	0
15	SYSTEMPOLICY5	SMALLINT	—	2	0
16	SYSTEMPOLICY6	SMALLINT	—	2	0
17	SYSTEMPOLICY7	SMALLINT	—	2	0
18	INTRALDAP	VARCHAR	3,200	1	0
19	INTERLDAP	VARCHAR	3,200	1	0
20	HITMAX	SMALLINT	—	2	0
21	LABEL1NAME	MVARCHAR	80	UNM + 1	0
22	LABEL2NAME	MVARCHAR	80	UEN + 1	0
23	LABEL3NAME	MVARCHAR	80	UJO + 1	0
24	LABEL4NAME	MVARCHAR	80	UJP + 1	0
25	LABEL5NAME	MVARCHAR	80	UEM + 1	0
26	LABEL6NAME	MVARCHAR	80	UTL + 1	0
27	LABEL7NAME	MVARCHAR	80	UEP + 1	0
28	LABEL8NAME	MVARCHAR	80	UEO + 1	0
29	LABEL9NAME	MVARCHAR	80	1	0
30	LABEL10NAME	MVARCHAR	80	1	0

項番	カラム名	データ型	定義長 (バイト)	d _i の値	e _i の値
31	LABEL11NAME	MVARCHAR	80	1	0
32	LABEL12NAME	MVARCHAR	80	1	0
33	LABEL13NAME	MVARCHAR	80	1	0
34	LABEL14NAME	MVARCHAR	80	1	0
35	LABEL15NAME	MVARCHAR	80	1	0
36	CODETYPE	VARCHAR	8	5 + 1	0
37	EFFECTIVEID	SMALLINT	—	2	0

(凡例)

—：該当しません。

(2) システム条件リストテーブル (TBL_SYSLIST)

システム条件リストテーブル (TBL_SYSLIST) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

表 C-5 システム条件リストテーブル (TBL_SYSLIST) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	テーブル名	表の格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d _i	e _i	f	g	h
1	TBL_SYSLIST	0	4,096	30	別途算出※1	別途算出※2	9	20	10

注※1

表の各列のデータ長です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

注※2

列のデータ長の平均値です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

システム条件リストテーブル (TBL_SYSLIST) の FIX 指定の有無を次に示します。

FIX 指定の有無：なし

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(a) d_i および e_i の値の算出方法

d_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」のデータ長一覧に記載されている見積もり式に代入します。

また、e_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」の可変長文字列型データ長一覧 (抽象データ型および繰り返し列を除く場合) に記載されている見積もり式に代入します。

表 C-6 d_i および e_i の値 (システム条件リストテーブル (TBL_SYSLIST) の場合)

項番	カラム名	データ型	定義長 (バイト)	d_i の値	e_i の値
1	POLICYOBJECT	SMALLINT	—	2	0
2	INFOFLAG	SMALLINT	—	2	0
3	THINGS	MVARCHAR	255	1	0
4	NOTICEFLAG	SMALLINT	—	2	0
5	CHANGEINFO	CHAR	16	16	0
6	DELETEFLAG	SMALLINT	—	2	0
7	DELETEDATE	TIMESTAMP	0	7	0
8	TERMOFVARIDITY	TIMESTAMP	0	7	0
9	CODETYPE	VARCHAR	8	1	0

(凡例)

— : 該当しません。

(3) カテゴリ情報テーブル (TBL_CATEGORY)

カテゴリ情報テーブル (TBL_CATEGORY) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

表 C-7 カテゴリ情報テーブル (TBL_CATEGORY) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	テーブル名	表の格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d_i	e_i	f	g	h
1	TBL_CATEGORY	GMX	4,096	30	別途算出 ^{※1}	別途算出 ^{※2}	12	20	10

注※1

表の各列のデータ長です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

注※2

列のデータ長の平均値です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

カテゴリ情報テーブル (TBL_CATEGORY) の FIX 指定の有無を次に示します。

FIX 指定の有無：なし

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(a) d_i および e_i の値の算出方法

d_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」のデータ長一覧に記載されている見積もり式に代入します。

また、 e_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」の可変長文字列型データ長一覧 (抽象データ型および繰り返し列を除く場合) に記載されている見積もり式に代入します。

表 C-8 d_i および e_i の値 (カテゴリ情報テーブル (TBL_CATEGORY) の場合)

項番	カラム名	データ型	定義長 (バイト)	d_i の値	e_i の値
1	CATEGORYID	VARCHAR	40	11 + 1	0
2	CATEGORYNAME	MVARCHAR	255	GNM + 1	0
3	CATEGORYKANA	MVARCHAR	255	GKN + 1	0
4	CATEGORYENAME	VARCHAR	255	GEN + 1	0
5	UPPERID	VARCHAR	40	11 + 1	0
6	DESCRIPTION	MVARCHAR	3,200	GDP から算出*	GDP から算出*
7	NOTICEFLAG	SMALLINT	—	2	0
8	CHANGEINFO	CHAR	16	16	0
9	DELETEFLAG	SMALLINT	—	2	0
10	DELETEDATE	TIMESTAMP	0	7	0
11	TERMOFVARIDITY	TIMESTAMP	0	7	0
12	CODETYPE	VARCHAR	8	1	0

(凡例)

— : 該当しません。

注※

変数 d に GDP の値を代入して算出してください。算出方法については、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」を参照してください。値を算出する場合は、分岐が起こるかどうかを考慮してください。

(4) コミュニティ情報テーブル (TBL_COMMUNITY)

コミュニティ情報テーブル (TBL_COMMUNITY) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

表 C-9 コミュニティ情報テーブル (TBL_COMMUNITY) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	テーブル名	表の格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d_i	e_i	f	g	h
1	TBL_COMMUNITY	CMX	4,096	30	別途算出*1	別途算出*2	42	20	10

注※1

表の各列のデータ長です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

注※2

列のデータ長の平均値です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

コミュニティ情報テーブル (TBL_COMMUNITY) の FIX 指定の有無を次に示します。

FIX 指定の有無：なし

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(a) d_i および e_i の値の算出方法

d_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」のデータ長一覧に記載されている見積もり式に代入します。

また、 e_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」の可変長文字列型データ長一覧 (抽象データ型および繰り返し列を除く場合) に記載されている見積もり式に代入します。

表 C-10 d_i および e_i の値 (コミュニティ情報テーブル (TBL_COMMUNITY) の場合)

項番	カラム名	データ型	定義長 (バイト)	d_i の値	e_i の値
1	COMMUID	VARCHAR	40	11 + 1	0
2	COMMUNAME	MVARCHAR	255	CNM + 1	0
3	COMMUKANA	MVARCHAR	255	CKN + 1	0
4	COMMUENAME	VARCHAR	255	CEN + 1	0
5	CATEGORYID	VARCHAR	40	11 + 1	0
6	PCOMMUID	VARCHAR	40	1	0
7	HONERID	MVARCHAR	255	8 + 1	0
8	ADDMEMBER	SMALLINT	—	2	0
9	DELMEMBER	SMALLINT	—	2	0
10	ADDREQMEMBER	SMALLINT	—	2	0
11	DELREQMEMBER	SMALLINT	—	2	0
12	OUTCOMMUFLAG	SMALLINT	—	2	0
13	OUTMEMFLAG	SMALLINT	—	2	0
14	CCOMMUPERSON	SMALLINT	—	2	0
15	CROLEPERSON	SMALLINT	—	2	0
16	LCROLEPERSON	SMALLINT	—	2	0
17	MEMBERSORT	SMALLINT	—	2	0
18	WORKPERSON	SMALLINT	—	2	0
19	MEMDELCONDITION	SMALLINT	—	2	0

項番	カラム名	データ型	定義長 (バイト)	d _i の値	e _i の値
20	COMMUNITYPOLICY0	SMALLINT	—	2	0
21	COMMUNITYPOLICY1	SMALLINT	—	2	0
22	COMMUNITYPOLICY2	SMALLINT	—	2	0
23	COMMUNITYPOLICY3	SMALLINT	—	2	0
24	COMMUNITYPOLICY4	SMALLINT	—	2	0
25	COMMUNITYPOLICY5	SMALLINT	—	2	0
26	COMMUNITYPOLICY6	SMALLINT	—	2	0
27	COMMUNITYPOLICY7	SMALLINT	—	2	0
28	COMMUNITYPOLICY8	SMALLINT	—	2	0
29	WORKPLACEMAX	SMALLINT	—	2	0
30	WORKPLACELIST	VARCHAR	3,200	11	0
31	SUCCESSION	SMALLINT	—	2	0
32	NOTICEFLAG	SMALLINT	—	2	0
33	CHANGEINFO	CHAR	16	16	0
34	DESCRIPTION	MVARCHAR	3,200	CDP から算出 ※	CDP から算出 ※
35	PARENTCID	VARCHAR	3,200	1	0
36	CHILDCID	VARCHAR	3,200	1	0
37	INFOSIZE	INTEGER	—	4	0
38	COMMUINFO	MVARCHAR	20,000	1	0
39	DELETEFLAG	SMALLINT	—	2	0
40	DELETEDATE	TIMESTAMP	0	7	0
41	TERMOFVARIDITY	TIMESTAMP	0	7	0
42	CODETYPE	VARCHAR	8	1	0

(凡例)

—：該当しません。

注※

変数 d に CDP の値を代入して算出してください。算出方法については、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」を参照してください。値を算出する場合は、分岐が起こるかどうかを考慮してください。

(5) コミュニティロールテーブル (TBL_COMMUROLE)

コミュニティロールテーブル (TBL_COMMUROLE) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

表 C-11 コミュニティロールテーブル (TBL_COMMUROLE) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	テーブル名	表の格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d _i	e _i	f	g	h
1	TBL_COMMUROLE	RMX	4,096	30	別途算出*1	別途算出*2	16	20	10

注※1

表の各列のデータ長です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

注※2

列のデータ長の平均値です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

コミュニティロールテーブル (TBL_COMMUROLE) の FIX 指定の有無を次に示します。

FIX 指定の有無：なし

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(a) d_i および e_i の値の算出方法

d_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」のデータ長一覧に記載されている見積もり式に代入します。

また、e_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」の可変長文字列型データ長一覧 (抽象データ型および繰り返し列を除く場合) に記載されている見積もり式に代入します。

表 C-12 d_i および e_i の値 (コミュニティロールテーブル (TBL_COMMUROLE) の場合)

項番	カラム名	データ型	定義長 (バイト)	d _i の値	e _i の値
1	ROLEID	VARCHAR	16	11 + 1	0
2	ROLETYPE	SMALLINT	—	2	0
3	ROLEASSORT	SMALLINT	—	2	0
4	COMMUID	VARCHAR	40	11 + 1	0
5	ROLENAME	MVARCHAR	255	RNM + 1	0
6	ROLEKANA	MVARCHAR	255	RKN + 1	0
7	ROLEENAME	VARCHAR	255	REN + 1	0
8	ROLECODE	MVARCHAR	32,000	RCD + 1	0
9	STDCODE	CHAR	8	8	0
10	DESCRIPTION	MVARCHAR	3,200	RDP から算出*	RDP から算出*
11	NOTICEFLAG	SMALLINT	—	2	0
12	CHANGEINFO	CHAR	16	16	0

項番	カラム名	データ型	定義長 (バイト)	d _i の値	e _i の値
13	DELETEFLAG	SMALLINT	—	2	0
14	DELETEDATE	TIMESTAMP	0	7	0
15	TERMOFVARIDITY	TIMESTAMP	0	7	0
16	CODETYPE	VARCHAR	8	1	0

(凡例)

—：該当しません。

注※

変数 d に RDP の値を代入して算出してください。算出方法については、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」を参照してください。値を算出する場合は、分岐が起こるかどうかを考慮してください。

(6) ワークプレーステーブル (TBL_WORKPLACE)

ワークプレーステーブル (TBL_WORKPLACE) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

表 C-13 ワークプレーステーブル (TBL_WORKPLACE) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	テーブル名	表の格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d _i	e _i	f	g	h
1	TBL_WORKPLACE	WMX	4,096	30	別途算出※1	別途算出※2	13	20	10

注※1

表の各列のデータ長です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

注※2

列のデータ長の平均値です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

ワークプレーステーブル (TBL_WORKPLACE) の FIX 指定の有無を次に示します。

FIX 指定の有無：なし

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(a) d_i および e_i の値の算出方法

d_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」のデータ長一覧に記載されている見積もり式に代入します。

また、e_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」の可変長文字列型データ長一覧 (抽象データ型および繰り返し列を除く場合) に記載されている見積もり式に代入します。

表 C-14 d_i および e_i の値 (ワークプレーステーブル (TBL_WORKPLACE) の場合)

項番	カラム名	データ型	定義長 (バイト)	d _i の値	e _i の値
1	WORKPLACEID	VARCHAR	16	11 + 1	0
2	COMMUID	VARCHAR	40	11 + 1	0
3	WORKPLACENAME	MVARCHAR	255	WNM + 1	0
4	WORKPLACEKANA	MVARCHAR	255	WKN + 1	0
5	WORKPLACEENAME	VARCHAR	255	WEN + 1	0
6	ENFORCEFLAG	SMALLINT	—	2	0
7	VIEWMAX	SMALLINT	—	2	0
8	NOTICEFLAG	SMALLINT	—	2	0
9	CHANGEINFO	CHAR	16	16	0
10	DELETEFLAG	SMALLINT	—	2	0
11	DELETEDATE	TIMESTAMP	0	7	0
12	TERMOFVARIDITY	TIMESTAMP	0	7	0
13	CODETYPE	VARCHAR	8	1	0

(凡例)

— : 該当しません。

(7) アプリケーションテーブル (TBL_APPLICATION)

アプリケーションテーブル (TBL_APPLICATION) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

表 C-15 アプリケーションテーブル (TBL_APPLICATION) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	テーブル名	表の格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d _i	e _i	f	g	h
1	TBL_APPLICATION	AMX× CMX	4,096	30	別途算 出※1	別途算 出※2	16	20	10

注※1

表の各列のデータ長です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

注※2

列のデータ長の平均値です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

アプリケーションテーブル (TBL_APPLICATION) の FIX 指定の有無を次に示します。

FIX 指定の有無：なし

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(a) d_i および e_i の値の算出方法

d_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」のデータ長一覧に記載されている見積もり式に代入します。

また、 e_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」の可変長文字列型データ長一覧 (抽象データ型および繰り返し列を除く場合) に記載されている見積もり式に代入します。

表 C-16 d_i および e_i の値 (アプリケーションテーブル (TBL_APPLICATION) の場合)

項番	カラム名	データ型	定義長 (バイト)	d_i の値	e_i の値
1	COLLABOAPID	INTEGER	—	4	0
2	IDTYPE	SMALLINT	—	2	0
3	WORKPLACEID	VARCHAR	16	11 + 1	0
4	COMMUID	VARCHAR	40	11 + 1	0
5	PORTLETNAME	VARCHAR	80	10 + 1	0
6	COLLABOAPNAME	MVARCHAR	255	20 + 1	0
7	COLLABOAPKANA	MVARCHAR	255	30 + 1	0
8	COLLABOAPENAME	VARCHAR	255	8 + 1	0
9	ENFORCEFLAG	SMALLINT	—	2	0
10	COLLABOAPCON	MVARCHAR	511	1	0
11	NOTICEFLAG	SMALLINT	—	2	0
12	CHANGEINFO	CHAR	16	16	0
13	DELETEFLAG	SMALLINT	—	2	0
14	DELETEDATE	TIMESTAMP	0	7	0
15	TERMOFVARIDITY	TIMESTAMP	0	7	0
16	CODETYPE	VARCHAR	8	1	0

(凡例)

— : 該当しません。

(8) メンバ情報テーブル (TBL_MEMBER)

メンバ情報テーブル (TBL_MEMBER) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

表 C-17 メンバ情報テーブル (TBL_MEMBER) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	テーブル名	表の格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d _i	e _i	f	g	h
1	TBL_MEMBER	MCA× UMX	4,096	30	別途算 出*1	別途算 出*2	50	20	10

注※1

表の各列のデータ長です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

注※2

列のデータ長の平均値です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

メンバ情報テーブル (TBL_MEMBER) の FIX 指定の有無を次に示します。

FIX 指定の有無：なし

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(a) d_i および e_i の値の算出方法

d_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」のデータ長一覧に記載されている見積もり式に代入します。

また、e_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」の可変長文字列型データ長一覧 (抽象データ型および繰り返し列を除く場合) に記載されている見積もり式に代入します。

表 C-18 d_i および e_i の値 (メンバ情報テーブル (TBL_MEMBER) の場合)

項番	カラム名	データ型	定義長 (バイト)	d _i の値	e _i の値
1	MEMBERID	INTEGER	—	4	0
2	UNIQUEID	MVARCHAR	255	UID + 1	0
3	USERID	MVARCHAR	255	8 + 1	0
4	HOSTNAME	VARCHAR	255	1	0
5	HOSTTYPE	SMALLINT	—	2	0
6	COMMUID	VARCHAR	40	11 + 1	0
7	MEMSTATE	SMALLINT	—	2	0
8	VEWMAX	SMALLINT	—	2	0
9	MEMBERNAME	MVARCHAR	255	1	0
10	MEMBERKANA	MVARCHAR	255	1	0
11	MEMBERENAME	VARCHAR	255	1	0
12	LABEL1VALUE	MVARCHAR	255	1	0

項番	カラム名	データ型	定義長 (バイト)	d _i の値	e _i の値
13	LABEL2VALUE	MVARCHAR	255	1	0
14	LABEL3VALUE	MVARCHAR	255	1	0
15	LABEL4VALUE	MVARCHAR	255	1	0
16	LABEL5VALUE	MVARCHAR	255	1	0
17	LABEL6VALUE	MVARCHAR	255	1	0
18	LABEL7VALUE	MVARCHAR	255	1	0
19	LABEL8VALUE	MVARCHAR	255	1	0
20	LABEL9VALUE	MVARCHAR	255	1	0
21	LABEL10VALUE	MVARCHAR	255	1	0
22	LABEL11VALUE	MVARCHAR	255	1	0
23	LABEL12VALUE	MVARCHAR	255	1	0
24	LABEL13VALUE	MVARCHAR	255	1	0
25	LABEL14VALUE	MVARCHAR	255	1	0
26	LABEL15VALUE	MVARCHAR	255	1	0
27	LABEL1FLAG	SMALLINT	—	2	0
28	LABEL2FLAG	SMALLINT	—	2	0
29	LABEL3FLAG	SMALLINT	—	2	0
30	LABEL4FLAG	SMALLINT	—	2	0
31	LABEL5FLAG	SMALLINT	—	2	0
32	LABEL6FLAG	SMALLINT	—	2	0
33	LABEL7FLAG	SMALLINT	—	2	0
34	LABEL8FLAG	SMALLINT	—	2	0
35	LABEL9FLAG	SMALLINT	—	2	0
36	LABEL10FLAG	SMALLINT	—	2	0
37	LABEL11FLAG	SMALLINT	—	2	0
38	LABEL12FLAG	SMALLINT	—	2	0
39	LABEL13FLAG	SMALLINT	—	2	0
40	LABEL14FLAG	SMALLINT	—	2	0
41	LABEL15FLAG	SMALLINT	—	2	0
42	MEMPOLICYCODE	MVARCHAR	32,000	1	0
43	NOTICEFLAG	SMALLINT	—	2	0

項番	カラム名	データ型	定義長 (バイト)	d _i の値	e _i の値
44	CHANGEINFO	CHAR	16	16	0
45	DELETEFLAG	SMALLINT	—	2	0
46	DELETEDATE	TIMESTAMP	0	7	0
47	INFOSIZE	INTEGER	—	4	0
48	ANOTHERINFO	MVARCHAR	20,000	1	0
49	TERMOFVARIDITY	TIMESTAMP	0	7	0
50	CODETYPE	VARCHAR	8	1	0

(凡例)

— : 該当しません。

(9) ユーザ情報テーブル (TBL_USER)

ユーザ情報テーブル (TBL_USER) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

表 C-19 ユーザ情報テーブル (TBL_USER) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	テーブル名	表の格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d _i	e _i	f	g	h
1	TBL_USER	UMX	4,096	30	別途算出 ※1	別途算出 ※2	44	20	10

注※1

表の各列のデータ長です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

注※2

列のデータ長の平均値です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

ユーザ情報テーブル (TBL_USER) の FIX 指定の有無を次に示します。

FIX 指定の有無：なし

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(a) d_i および e_i の値の算出方法

d_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」のデータ長一覧に記載されている見積もり式に代入します。

また、e_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」の可変長文字列型データ長一覧 (抽象データ型および繰り返し列を除く場合) に記載されている見積もり式に代入します。

表 C-20 d_i および e_i の値 (ユーザ情報テーブル (TBL_USER) の場合)

項番	カラム名	データ型	定義長 (バイト)	d _i の値	e _i の値
1	UNIQUEID	MVARCHAR	255	UID + 1	0
2	USERID	MVARCHAR	255	8 + 1	0
3	HOSTNAME	VARCHAR	255	1	0
4	HOSTTYPE	SMALLINT	—	2	0
5	SYSTEMROLE	SMALLINT	—	2	0
6	USERNOTICEFLAG	SMALLINT	—	2	0
7	LABEL1VALUE	MVARCHAR	255	1	0
8	LABEL2VALUE	MVARCHAR	255	1	0
9	LABEL3VALUE	MVARCHAR	255	1	0
10	LABEL4VALUE	MVARCHAR	255	1	0
11	LABEL5VALUE	MVARCHAR	255	1	0
12	LABEL6VALUE	MVARCHAR	255	1	0
13	LABEL7VALUE	MVARCHAR	255	1	0
14	LABEL8VALUE	MVARCHAR	255	1	0
15	LABEL9VALUE	MVARCHAR	255	1	0
16	LABEL10VALUE	MVARCHAR	255	1	0
17	LABEL11VALUE	MVARCHAR	255	1	0
18	LABEL12VALUE	MVARCHAR	255	1	0
19	LABEL13VALUE	MVARCHAR	255	1	0
20	LABEL14VALUE	MVARCHAR	255	1	0
21	LABEL15VALUE	MVARCHAR	255	1	0
22	LABEL1UFLAG	SMALLINT	—	2	0
23	LABEL2UFLAG	SMALLINT	—	2	0
24	LABEL3UFLAG	SMALLINT	—	2	0
25	LABEL4UFLAG	SMALLINT	—	2	0
26	LABEL5UFLAG	SMALLINT	—	2	0
27	LABEL6UFLAG	SMALLINT	—	2	0
28	LABEL7UFLAG	SMALLINT	—	2	0
29	LABEL8UFLAG	SMALLINT	—	2	0
30	LABEL9UFLAG	SMALLINT	—	2	0

項番	カラム名	データ型	定義長 (バイト)	d _i の値	e _i の値
31	LABEL10UFLAG	SMALLINT	—	2	0
32	LABEL11UFLAG	SMALLINT	—	2	0
33	LABEL12UFLAG	SMALLINT	—	2	0
34	LABEL13UFLAG	SMALLINT	—	2	0
35	LABEL14UFLAG	SMALLINT	—	2	0
36	LABEL15UFLAG	SMALLINT	—	2	0
37	NOTICEFLAG	SMALLINT	—	2	0
38	CHANGEINFO	CHAR	16	16	0
39	DELETEFLAG	SMALLINT	—	2	0
40	DELETEDATE	TIMESTAMP	0	7	0
41	INFOSIZE	INTEGER	—	4	0
42	ANOTHERINFO	MVARCHAR	20,000	1	0
43	TERMOFVARIDITY	TIMESTAMP	0	7	0
44	CODETYPE	VARCHAR	8	1	0

(凡例)

— : 該当しません。

(10) メンバロールテーブル (TBL_MEMBERROLE)

メンバロールテーブル (TBL_MEMBERROLE) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

表 C-21 メンバロールテーブル (TBL_MEMBERROLE) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	テーブル名	表の格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d _i	e _i	f	g	h
1	TBL_MEMBERROLE	MCA×UMX×MRA	4,096	30	別途算出 ※1	別途算出 ※2	16	20	10

注※1

表の各列のデータ長です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

注※2

列のデータ長の平均値です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

メンバロールテーブル (TBL_MEMBERROLE) の FIX 指定の有無を次に示します。

FIX 指定の有無：なし

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(a) d_i および e_i の値の算出方法

d_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」のデータ長一覧に記載されている見積もり式に代入します。

また、 e_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」の可変長文字列型データ長一覧 (抽象データ型および繰り返し列を除く場合) に記載されている見積もり式に代入します。

表 C-22 d_i および e_i の値 (メンバロールテーブル (TBL_MEMBERROLE) の場合)

項番	カラム名	データ型	定義長 (バイト)	d_i の値	e_i の値
1	MEMBERID	INTEGER	—	4	0
2	UNIQUEID	MVARCHAR	255	UID + 1	0
3	COMMUID	VARCHAR	40	11 + 1	0
4	ROLEID	VARCHAR	16	11 + 1	0
5	ROLETYPE	SMALLINT	—	2	0
6	ROLENAME	MVARCHAR	255	RNM + 1	0
7	ROLEKANA	MVARCHAR	255	RKN + 1	0
8	ROLEENAME	VARCHAR	255	REN + 1	0
9	ROLECODE	MVARCHAR	32,000	RCD + 1	0
10	STDCODE	CHAR	8	8	0
11	NOTICEFLAG	SMALLINT	—	2	0
12	CHANGEINFO	CHAR	16	16	0
13	DELETEFLAG	SMALLINT	—	2	0
14	DELETEDATE	TIMESTAMP	0	7	0
15	TERMOFVARIDITY	TIMESTAMP	0	7	0
16	CODETYPE	VARCHAR	8	1	0

(凡例)

— : 該当しません。

(11) テンプレートテーブル (TBL_TEMPLATE)

テンプレートテーブル (TBL_TEMPLATE) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

表 C-23 テンプレートテーブル (TBL_TEMPLATE) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	テーブル名	表の格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d _i	e _i	f	g	h
1	TBL_TEMPLATE	TMX	4,096	30	別途算出 ^{*1}	別途算出 ^{*2}	42	20	10

注※1

表の各列のデータ長です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

注※2

列のデータ長の平均値です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

テンプレートテーブル (TBL_TEMPLATE) の FIX 指定の有無を次に示します。

FIX 指定の有無：なし

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(a) d_i および e_i の値の算出方法

d_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」のデータ長一覧に記載されている見積もり式に代入します。

また、e_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」の可変長文字列型データ長一覧 (抽象データ型および繰り返し列を除く場合) に記載されている見積もり式に代入します。

表 C-24 d_i および e_i の値 (テンプレートテーブル (TBL_TEMPLATE) の場合)

項番	カラム名	データ型	定義長 (バイト)	d _i の値	e _i の値
1	TEMPLATEID	VARCHAR	40	11	0
2	TEMPLATENAME	MVARCHAR	255	TNM + 1	0
3	TEMPLATEKANA	MVARCHAR	255	TKN + 1	0
4	TEMPLATEENAME	VARCHAR	255	TEN + 1	0
5	CATEGORYID	VARCHAR	40	5	0
6	PCOMMUID	VARCHAR	40	1	0
7	HONERID	MVARCHAR	255	1	0
8	ADDMEMBER	SMALLINT	—	2	0
9	DELMEMBER	SMALLINT	—	2	0
10	ADDREQMEMBER	SMALLINT	—	2	0
11	DELREQMEMBER	SMALLINT	—	2	0
12	OUTCOMMUFLAG	SMALLINT	—	2	0

項番	カラム名	データ型	定義長 (バイト)	d _i の値	e _i の値
13	OUTMEMFLAG	SMALLINT	—	2	0
14	CCOMMUPERSON	SMALLINT	—	2	0
15	CROLEPERSON	SMALLINT	—	2	0
16	LCROLEPERSON	SMALLINT	—	2	0
17	WORKPERSON	SMALLINT	—	2	0
18	COMMUNITYPOLICY0	SMALLINT	—	2	0
19	COMMUNITYPOLICY1	SMALLINT	—	2	0
20	COMMUNITYPOLICY2	SMALLINT	—	2	0
21	COMMUNITYPOLICY3	SMALLINT	—	2	0
22	COMMUNITYPOLICY4	SMALLINT	—	2	0
23	COMMUNITYPOLICY5	SMALLINT	—	2	0
24	COMMUNITYPOLICY6	SMALLINT	—	2	0
25	COMMUNITYPOLICY7	SMALLINT	—	2	0
26	COMMUNITYPOLICY8	SMALLINT	—	2	0
27	COMMUNITYPOLICY9	SMALLINT	—	2	0
28	WORKPLACEMAX	SMALLINT	—	2	0
29	PARENTCID	VARCHAR	3,200	1	0
30	CHILDCID	VARCHAR	3,200	1	0
31	DESCRIPTION	MVARCHAR	3,200	TDP から算出 ※	TDP から算出 ※
32	INFOSIZE	SMALLINT	—	2	0
33	COMMUINFO	VARCHAR	20,000	1	0
34	WORKTMLPLIDLIST	MVARCHAR	3,200	1	0
35	ROLEIDLIST	MVARCHAR	3,200	1	0
36	SUCCESSION	SMALLINT	—	2	0
37	NOTICEFLAG	SMALLINT	—	2	0
38	CHANGEINFO	CHAR	16	16	0
39	DELETEFLAG	SMALLINT	—	2	0
40	DELETEDATE	TIMESTAMP	0	7	0
41	TERMOFVARIDITY	TIMESTAMP	0	7	0
42	CODETYPE	VARCHAR	8	1	0

(凡例)

- : 該当しません。

注※

変数 d に TDP の値を代入して算出してください。算出方法については、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」を参照してください。値を算出する場合は、分岐が起こるかどうかを考慮してください。

(12) ワークプレーステンプレートテーブル (TBL_WORKTEMPLATE)

ワークプレーステンプレートテーブル (TBL_WORKTEMPLATE) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

表 C-25 ワークプレーステンプレートテーブル (TBL_WORKTEMPLATE) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	テーブル名	表の格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d _i	e _i	f	g	h
1	TBL_WORKTEMPLATE	TMX	4,096	30	別途 算出※ 1	別途 算出※ 2	14	20	10

注※1

表の各列のデータ長です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

注※2

列のデータ長の平均値です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

ワークプレーステンプレートテーブル (TBL_WORKTEMPLATE) の FIX 指定の有無を次に示します。

FIX 指定の有無：なし

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(a) d_i および e_i の値の算出方法

d_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」のデータ長一覧に記載されている見積もり式に代入します。

また、e_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」の可変長文字列型データ長一覧 (抽象データ型および繰り返し列を除く場合) に記載されている見積もり式に代入します。

表 C-26 d_i および e_i の値 (ワークプレーステンプレートテーブル (TBL_WORKTEMPLATE) の場合)

項番	カラム名	データ型	定義長 (バイト)	d _i の値	e _i の値
1	WORKTMPLID	VARCHAR	16	10 + 1	0
2	COMMUID	VARCHAR	40	10 + 1	0
3	WORKTMPLNAME	MVARCHAR	255	VNM + 1	0
4	WORKTMPLKANA	MVARCHAR	255	VKN + 1	0

項番	カラム名	データ型	定義長 (バイト)	d_i の値	e_i の値
5	WORKTMPLNAME	VARCHAR	255	VEN + 1	0
6	ENFORCEFLAG	SMALLINT	—	2	0
7	COLLABOAPID	MVARCHAR	10,000	5 + 1	0
8	WORKPLACEMAX	SMALLINT	—	2	0
9	NOTICEFLAG	SMALLINT	—	2	0
10	CHANGEINFO	CHAR	16	16	0
11	DELETEFLAG	SMALLINT	—	2	0
12	DELETEDATE	TIMESTAMP	0	7	0
13	TERMOFVARIDITY	TIMESTAMP	0	7	0
14	CODETYPE	VARCHAR	8	1	0

(凡例)

— : 該当しません。

(13) システムアプリケーションテーブル (TBL_SYSAPPLI)

システムアプリケーションテーブル (TBL_SYSAPPLI) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

表 C-27 システムアプリケーションテーブル (TBL_SYSAPPLI) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	テーブル名	表の格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d_i	e_i	f	g	h
1	TBL_SYSAPPLI	AMX	4,096	30	別途算出※1	別途算出※2	13	20	10

注※1

表の各列のデータ長です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

注※2

列のデータ長の平均値です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

システムアプリケーションテーブル (TBL_SYSAPPLI) の FIX 指定の有無を次に示します。

FIX 指定の有無：なし

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(a) d_i および e_i の値の算出方法

d_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」のデータ長一覧に記載されている見積もり式に代入します。

また、 e_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」の可変長文字列型データ長一覧（抽象データ型および繰り返し列を除く場合）に記載されている見積もり式に代入します。

表 C-28 d_i および e_i の値（システムアプリケーションテーブル (TBL_SYSAPPLI) の場合)

項番	カラム名	データ型	定義長 (バイト)	d_i の値	e_i の値
1	COLLABOAPID	INTEGER	—	4	0
2	PORTLETNAME	VARCHAR	80	10 + 1	0
3	COLLABOAPNAME	MVARCHAR	255	20 + 1	0
4	COLLABOAPKANA	MVARCHAR	255	30 + 1	0
5	COLLABOAPENAME	VARCHAR	255	20 + 1	0
6	INTERFACENAME	VARCHAR	80	1	0
7	CLASSNAME	VARCHAR	255	72 + 1	0
8	NOTICEFLAG	SMALLINT	—	2	0
9	CHANGEINFO	CHAR	16	16	0
10	DELETEDFLAG	SMALLINT	—	2	0
11	DELETEDDATE	TIMESTAMP	0	7	0
12	TERMOFVARIDITY	TIMESTAMP	0	7	0
13	CODETYPE	VARCHAR	8	1	0

(凡例)

—：該当しません。

(14) ID 管理テーブル (TBL_IDMANAGE)

ID 管理テーブル (TBL_IDMANAGE) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

表 C-29 ID 管理テーブル (TBL_IDMANAGE) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	テーブル名	表の格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d_i	e_i	f	g	h
1	TBL_IDMANAGE	8	4,096	30	別途算出※1	別途算出※2	2	20	10

注※1

表の各列のデータ長です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

注※2

列のデータ長の平均値です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

ID 管理テーブル (TBL_IDMANAGE) の FIX 指定の有無を次に示します。

FIX 指定の有無：あり

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(a) d_i および e_i の値の算出方法

d_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」のデータ長一覧に記載されている見積もり式に代入します。

また、 e_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」の可変長文字列型データ長一覧 (抽象データ型および繰り返し列を除く場合) に記載されている見積もり式に代入します。

表 C-30 d_i および e_i の値 (ID 管理テーブル (TBL_IDMANAGE) の場合)

項番	カラム名	データ型	定義長 (バイト)	d_i の値	e_i の値
1	IDASSORT	CHAR	3	3	0
2	IDNUMBER	INTEGER	—	4	0

(凡例)

—：該当しません。

(15) コミュニティ条件リストテーブル (TBL_COMMULIST)

コミュニティ条件リストテーブル (TBL_COMMULIST) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

表 C-31 コミュニティ条件リストテーブル (TBL_COMMULIST) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	テーブル名	表の格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d_i	e_i	f	g	h
1	TBL_COMMULIST	0	4,096	30	別途算出※1	別途算出※2	10	20	10

注※1

表の各列のデータ長です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

注※2

列のデータ長の平均値です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

コミュニティ条件リストテーブル (TBL_COMMULIST) の FIX 指定の有無を次に示します。

FIX 指定の有無：なし

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(a) d_i および e_i の値の算出方法

d_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」のデータ長一覧に記載されている見積もり式に代入します。

また、 e_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」の可変長文字列型データ長一覧（抽象データ型および繰り返し列を除く場合）に記載されている見積もり式に代入します。

表 C-32 d_i および e_i の値（コミュニティ条件リストテーブル (TBL_COMMULIST) の場合)

項番	カラム名	データ型	定義長 (バイト)	d_i の値	e_i の値
1	COMMUID	VARCHAR	40	1	0
2	POLICYOBJECT	SMALLINT	—	2	0
3	INFOFLAG	SMALLINT	—	2	0
4	THINGS	MVARCHAR	255	1	0
5	NOTICEFLAG	SMALLINT	—	2	0
6	CHANGEINFO	CHAR	16	16	0
7	DELETEDFLAG	SMALLINT	—	2	0
8	DELETEDATE	TIMESTAMP	0	7	0
9	TERMOFVARIDITY	TIMESTAMP	0	7	0
10	CODETYPE	VARCHAR	8	1	0

(凡例)

—：該当しません。

(16) 通知情報テーブル (TBL_OUTBOX)

通知情報テーブル (TBL_OUTBOX) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

表 C-33 通知情報テーブル (TBL_OUTBOX) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	テーブル名	表の格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d_i	e_i	f	g	h
1	TBL_OUTBOX	0	4,096	30	別途算出 ^{※1}	別途算出 ^{※2}	6	20	10

注※1

表の各列のデータ長です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

注※2

列のデータ長の平均値です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

通知情報テーブル (TBL_OUTBOX) の FIX 指定の有無を次に示します。

FIX 指定の有無：なし

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(a) d_i および e_i の値の算出方法

d_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」のデータ長一覧に記載されている見積もり式に代入します。

また、 e_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」の可変長文字列型データ長一覧 (抽象データ型および繰り返し列を除く場合) に記載されている見積もり式に代入します。

表 C-34 d_i および e_i の値 (通知情報テーブル (TBL_OUTBOX) の場合)

項番	カラム名	データ型	定義長 (バイト)	d_i の値	e_i の値
1	UNIQUEID	MVARCHAR	255	UID + 1	0
2	EMAIL	MVARCHAR	255	64 + 1	0
3	NOTICEINFO	MVARCHAR	3,200	1	0
4	DELETEFLAG	SMALLINT	—	2	0
5	DELETEDATE	TIMESTAMP	0	7	0
6	TERMOFVARIDITY	TIMESTAMP	0	7	0

(凡例)

— : 該当しません。

付録 C.5 インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する値

インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する値について説明します。

なお、計算式中の「↑」は、「↑」で挟まれている数値の小数点以下を切り上げることを示します。

(1) システム情報テーブル (TBL_SYSTEM)

システム情報テーブル (TBL_SYSTEM) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

なお、システム情報テーブル (TBL_SYSTEM) のインデクスはユニークインデクスです。

表 C-35 システム情報テーブル (TBL_SYSTEM) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	インデクス名	インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d	e	f	g	h
1	<u>主キー (EFFECTIVEID) に定義されたインデクス</u>	4,096	30	1	1	0	0	4	1

(凡例)

下線 : ユニークインデクスです。

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(2) システム条件リストテーブル (TBL_SYSLIST)

システム条件リストテーブル (TBL_SYSLIST) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

なお、システム条件リストテーブル (TBL_SYSLIST) のインデクスはユニークインデクスではありません。

表 C-36 システム条件リストテーブル (TBL_SYSLIST) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	インデクス名	インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d	e	f	g	h
1	IDX_SYSLIST1	4,096	30	0	0	0	0	28	0

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(3) カテゴリ情報テーブル (TBL_CATEGORY)

カテゴリ情報テーブル (TBL_CATEGORY) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

なお、項番 1 のインデクスはユニークインデクスです。それ以外のインデクスはユニークインデクスではありません。

表 C-37 カテゴリ情報テーブル (TBL_CATEGORY) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応 (1/2)

項番	インデクス名	インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数				条件
		a	b	c	d	
1	<u>主キー (CATEGORYID) に定義されたインデクス</u>	4,096	30	GMX	1	—
2	IDX_CATEGORY1	4,096	30	1	GMX	GMX ≤ 200 の場合
		4,096	30	0	0	GMX > 200 の場合

(凡例)

下線：ユニークインデクスです。

—：該当しません。

表 C-38 カテゴリ情報テーブル (TBL_CATEGORY) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応 (2/2)

項番	インデクス名	インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数				条件
		e	f	g	h	
1	<u>主キー (CATEGORYID) に定義されたインデクス</u>	0	0	12	GMX	—

項番	インデクス名	インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数				条件
		e	f	g	h	
2	IDX_CATEGORY1	0	0	20	0	GMX ≤ 200 の場合
		1	GMX	20	0	GMX > 200 の場合

(凡例)

下線：ユニークインデクスです。

－：該当しません。

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(4) コミュニティ情報テーブル (TBL_COMMUNITY)

コミュニティ情報テーブル (TBL_COMMUNITY) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

なお、項番 1 のインデクスはユニークインデクスです。それ以外のインデクスはユニークインデクスではありません。

表 C-39 コミュニティ情報テーブル (TBL_COMMUNITY) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応 (1/2)

項番	インデクス名	インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数				条件
		a	b	c	d	
1	<u>主キー (COMMUID) に定義されたインデクス</u>	12,288	30	CMX	1	－
2	IDX_COMMUNITY1	12,288	30	CMX	1	－
3	IDX_COMMUNITY2	12,288	30	CMX	1	－
4	IDX_COMMUNITY3	12,288	30	CMX	1	－
5	IDX_COMMUNITY4	12,288	30	CMX	1	－
6	IDX_COMMUNITY5	12,288	30	CMX	1	－
7	IDX_COMMUNITY6	12,288	30	GMX	GMA	－
8	IDX_COMMUNITY7	12,288	30	1	CMX	CMX ≤ 200 の場合
		12,288	30	0	0	CMX > 200 の場合
9	IDX_COMMUNITY8	12,288	30	CMX	1	－

(凡例)

下線：ユニークインデクスです。

－：該当しません。

表 C-40 コミュニティ情報テーブル (TBL_COMMUNITY) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応 (2/2)

項番	インデクス名	インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数				条件
		e	f	g	h	
1	<u>主キー (COMMUID) に定義されたインデクス</u>	0	0	12	CMX	—
2	IDX_COMMUNITY1	0	0	$\uparrow (\text{CNM} + 8) \div 4$ $\uparrow \times 4$	0	—
3	IDX_COMMUNITY2	0	0	$\uparrow (\text{CKN} + 8) \div 4$ $\uparrow \times 4$	0	—
4	IDX_COMMUNITY3	0	0	$\uparrow (\text{CEN} + 8) \div 4$ $\uparrow \times 4$	0	—
5	IDX_COMMUNITY4	0	0	$\uparrow \text{CDP} + 10 \div 4 \uparrow$ $\times 4$	0	—
6	IDX_COMMUNITY5	0	0	16	0	—
7	IDX_COMMUNITY6	0	0	20	0	—
8	IDX_COMMUNITY7	0	0	8	0	CMX ≤ 200 の場合
		1	CMX	8	0	CMX > 200 の場合
9	IDX_COMMUNITY8	0	0	20	0	—

(凡例)

下線：ユニークインデクスです。

—：該当しません。

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(5) コミュニティロールテーブル (TBL_COMMUROLE)

コミュニティロールテーブル (TBL_COMMUROLE) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

なお、項番 1 のインデクスはユニークインデクスです。それ以外のインデクスはユニークインデクスではありません。

表 C-41 コミュニティロールテーブル (TBL_COMMUROLE) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応 (1/2)

項番	インデクス名	インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数				条件
		a	b	c	d	
1	<u>主キー (ROLEID) に定義されたインデクス</u>	4,096	30	RMX	1	—
2	IDX_COMMUROLE1	4,096	30	CMX + 1	↑RMX ÷ (CMX + 1) ↑	—
3	IDX_COMMUROLE2	4,096	30	1	5	RMX-5 > 200 の場合
		4,096	30	2	↑RMX ÷ 2 ↑	RMX-5 ≤ 200 の場合

(凡例)

下線：ユニークインデクスです。

—：該当しません。

表 C-42 コミュニティロールテーブル (TBL_COMMUROLE) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応 (2/2)

項番	インデクス名	インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数				条件
		e	f	g	h	
1	<u>主キー (ROLEID) に定義されたインデクス</u>	0	0	12	RMX	—
2	IDX_COMMUROLE1	0	0	20	0	—
3	IDX_COMMUROLE2	1	RMX-5	8	0	RMX-5 > 200 の場合
		0	0	8	0	RMX-5 ≤ 200 の場合

(凡例)

下線：ユニークインデクスです。

—：該当しません。

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(6) ワークプレーステーブル (TBL_WORKPLACE)

ワークプレーステーブル (TBL_WORKPLACE) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

なお、項番 1 のインデクスはユニークインデクスです。それ以外のインデクスはユニークインデクスではありません。

表 C-43 ワークプレーステーブル (TBL_WORKPLACE) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	インデクス名	インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d	e	f	g	h
1	<u>主キー (WORKPLACEID) に定義されたインデクス</u>	4,096	30	WMX	1	0	0	12	WMX
2	IDX_WORKPLACE1	4,096	30	WMX	1	0	0	20	0

(凡例)

下線：ユニークインデクスです。

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(7) アプリケーションテーブル (TBL_APPLICATION)

アプリケーションテーブル (TBL_APPLICATION) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

なお、項番 1 のインデクスはユニークインデクスです。それ以外のインデクスはユニークインデクスではありません。

表 C-44 アプリケーションテーブル (TBL_APPLICATION) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	インデクス名	インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d	e	f	g	h
1	<u>主キー (COLLABOAPID および WORKPLACEID) に定義されたインデクス</u>	4,096	30	CMX ×AM X	1	0	0	20	CMX ×AM X
2	IDX_APPLICATION1	4,096	30	CMX	AMX	0	0	20	0
3	IDX_APPLICATION2	4,096	30	CMX	AMX	0	0	28	0

(凡例)

下線：ユニークインデクスです。

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(8) メンバ情報テーブル (TBL_MEMBER)

メンバ情報テーブル (TBL_MEMBER) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

なお、項番 1 のインデクスはユニークインデクスです。それ以外のインデクスはユニークインデクスではありません。

表 C-45 メンバ情報テーブル (TBL_MEMBER) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応 (1/2)

項番	インデクス名	インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数				条件
		a	b	c	d	
1	<u>主キー (MEMBERID) に定義されたインデクス</u>	4,096	30	UMX×MCA	1	—
2	IDX_MEMBER1	4,096	30	UMX	MCA	MCA ≤ 200 の場合
		4,096	30	0	0	MCA > 200 の場合
3	IDX_MEMBER2	4,096	30	CMX	UMX×MCA÷CMX	—
4	IDX_MEMBER4	4,096	30	UMX×MCA	1	—
5	IDX_MEMBER5	4,096	30	0	0	UMX×MCA > 200 の場合
		4,096	30	1	UMX×MCA	UMX×MCA ≤ 200 の場合
6	IDX_MEMBER6	4,096	30	0	0	UMX×MCA > 200 の場合
		4,096	30	1	UMX×MCA	UMX×MCA ≤ 200 の場合
7	IDX_MEMBER7	4,096	30	0	0	UMX×MCA > 200 の場合
		4,096	30	1	UMX×MCA	UMX×MCA ≤ 200 の場合
8	IDX_MEMBER8	4,096	30	0	0	UMX×MCA > 200 の場合
		4,096	30	1	UMX×MCA	UMX×MCA ≤ 200 の場合
9	IDX_MEMBER9	4,096	30	0	0	UMX×MCA > 200 の場合
		4,096	30	1	UMX×MCA	UMX×MCA ≤ 200 の場合
10	IDX_MEMBER10	4,096	30	0	0	UMX×MCA > 200 の場合
		4,096	30	1	UMX×MCA	UMX×MCA ≤ 200 の場合
11	IDX_MEMBER11	4,096	30	0	0	UMX×MCA > 200 の場合
		4,096	30	1	UMX×MCA	UMX×MCA ≤ 200 の場合
12	IDX_MEMBER12	4,096	30	0	0	UMX×MCA > 200 の場合
		4,096	30	1	UMX×MCA	UMX×MCA ≤ 200 の場合

(凡例)

下線：ユニークインデクスです。

-：該当しません。

表 C-46 メンバ情報テーブル (TBL_MEMBER) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応 (2/2)

項番	インデクス名	インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数				条件
		e	f	g	h	
1	<u>主キー (MEMBERID) に定義されたインデクス</u>	0	0	4	UMX×MCA	-
2	IDX_MEMBER1	0	0	16	0	MCA ≤ 200 の場合
		UMX	MCA	16	0	MCA > 200 の場合
3	IDX_MEMBER2	0	0	20	0	-
4	IDX_MEMBER4	0	0	28	0	-
5	IDX_MEMBER5	1	UMX×MCA	4	0	UMX×MCA > 200 の場合
		0	0	4	0	UMX×MCA ≤ 200 の場合
6	IDX_MEMBER6	1	UMX×MCA	4	0	UMX×MCA > 200 の場合
		0	0	4	0	UMX×MCA ≤ 200 の場合
7	IDX_MEMBER7	1	UMX×MCA	4	0	UMX×MCA > 200 の場合
		0	0	4	0	UMX×MCA ≤ 200 の場合
8	IDX_MEMBER8	1	UMX×MCA	4	0	UMX×MCA > 200 の場合
		0	0	4	0	UMX×MCA ≤ 200 の場合
9	IDX_MEMBER9	1	UMX×MCA	4	0	UMX×MCA > 200 の場合
		0	0	4	0	UMX×MCA ≤ 200 の場合
10	IDX_MEMBER10	1	UMX×MCA	4	0	UMX×MCA > 200 の場合
		0	0	4	0	UMX×MCA ≤ 200 の場合
11	IDX_MEMBER11	1	UMX×MCA	4	0	UMX×MCA > 200 の場合
		0	0	4	0	UMX×MCA ≤ 200 の場合
12	IDX_MEMBER12	1	UMX×MCA	4	0	UMX×MCA > 200 の場合
		0	0	4	0	UMX×MCA ≤ 200 の場合

(凡例)

下線：ユニークインデクスです。

－：該当しません。

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(9) ユーザ情報テーブル (TBL_USER)

ユーザ情報テーブル (TBL_USER) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

なお、項番 1 のインデクスはユニークインデクスです。それ以外のインデクスはユニークインデクスではありません。

表 C-47 ユーザ情報テーブル (TBL_USER) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応 (1/2)

項番	インデクス名	インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数				条件
		a	b	c	d	
1	<u>主キー</u> (UNIQUEID) に 定義されたインデ クス	4,096	30	UMX	1	－
2	IDX_USER1	4,096	30	2	↑ (UAD + UMN) ÷ 2 ↑	UMX - UAD - UMN > 200 の場合
		4,096	30	3	↑ UMX ÷ 3 ↑	UMX - UAD - UMN ≤ 200 の場合
3	IDX_USER2	4,096	30	0	0	UMX > 200 の場合
		4,096	30	1	UMX	UMX ≤ 200 の場合
4	IDX_USER3	4,096	30	0	0	UMX > 200 の場合
		4,096	30	1	UMX	UMX ≤ 200 の場合
5	IDX_USER4	4,096	30	0	0	UMX > 200 の場合
		4,096	30	1	UMX	UMX ≤ 200 の場合
6	IDX_USER5	4,096	30	0	0	UMX > 200 の場合
		4,096	30	1	UMX	UMX ≤ 200 の場合
7	IDX_USER6	4,096	30	0	0	UMX > 200 の場合
		4,096	30	1	UMX	UMX ≤ 200 の場合
8	IDX_USER7	4,096	30	0	0	UMX > 200 の場合
		4,096	30	1	UMX	UMX ≤ 200 の場合
9	IDX_USER8	4,096	30	0	0	UMX > 200 の場合

項番	インデクス名	インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数				条件
		a	b	c	d	
9	IDX_USER8	4,096	30	1	UMX	UMX ≤ 200 の場合
10	IDX_USER9	4,096	30	0	0	UMX > 200 の場合
		4,096	30	1	UMX	UMX ≤ 200 の場合

(凡例)

下線：ユニークインデクスです。

-：該当しません。

表 C-48 ユーザ情報テーブル (TBL_USER) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応 (2/2)

項番	インデクス名	インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数				条件
		e	f	g	h	
1	<u>主キー (UNIQUEID) に定義されたインデクス</u>	0	0	12	UMX	-
2	IDX_USER1	1	UMX -UAD -UMN	8	0	UMX - UAD - UMN > 200 の場合
		0	0	8	0	UMX - UAD - UMN ≤ 200 の場合
3	IDX_USER2	1	UMX	8	0	UMX > 200 の場合
		0	0	8	0	UMX ≤ 200 の場合
4	IDX_USER3	1	UMX	8	0	UMX > 200 の場合
		0	0	8	0	UMX ≤ 200 の場合
5	IDX_USER4	1	UMX	8	0	UMX > 200 の場合
		0	0	8	0	UMX ≤ 200 の場合
6	IDX_USER5	1	UMX	8	0	UMX > 200 の場合
		0	0	8	0	UMX ≤ 200 の場合
7	IDX_USER6	1	UMX	8	0	UMX > 200 の場合
		0	0	8	0	UMX ≤ 200 の場合
8	IDX_USER7	1	UMX	8	0	UMX > 200 の場合
		0	0	8	0	UMX ≤ 200 の場合
9	IDX_USER8	1	UMX	8	0	UMX > 200 の場合
		0	0	8	0	UMX ≤ 200 の場合
10	IDX_USER9	1	UMX	8	0	UMX > 200 の場合

項番	インデクス名	インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数				条件
		e	f	g	h	
10	IDX_USER9	0	0	8	0	UMX ≤ 200 の場合

(凡例)

下線：ユニークインデクスです。

－：該当しません。

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(10) メンバロールテーブル (TBL_MEMBERROLE)

メンバロールテーブル (TBL_MEMBERROLE) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

なお、項番 1 のインデクスはユニークインデクスです。それ以外のインデクスはユニークインデクスではありません。

表 C-49 メンバロールテーブル (TBL_MEMBERROLE) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応 (1/2)

項番	インデクス名	インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数				条件
		a	b	c	d	
1	<u>主キー (MEMBERID および ROLEID) に定義されたインデクス</u>	4,096	30	UMX × MC A × MRA	1	－
2	IDX_MEMBERROLE1	4,096	30	0	0	MCA × MRA > 200 の場合
		4,096	30	UMX	MCA × MRA	MCA × MRA ≤ 200 の場合
3	IDX_MEMBERROLE2	4,096	30	CMX	↑ UMX × MC A × MRA ÷ C MX ↑	－
4	IDX_MEMBERROLE3	4,096	30	RMX-5	↑ UMX × MCA ÷ CMX × MRA ÷ (RCM + 5) ↑	－
5	IDX_MEMBERROLE4	4,096	30	UMX × MC A	MRA	－
6	IDX_MEMBERROLE5	4,096	30	UMX × MC A	MRA	－

(凡例)

下線：ユニークインデクスです。

－：該当しません。

表 C-50 メンバロールテーブル (TBL_MEMBERROLE) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応 (2/2)

項番	インデクス名	インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数				条件
		e	f	g	h	
1	<u>主キー (MEMBERID および ROLEID) に定義されたインデクス</u>	0	0	20	UMX×MCA×MRA	—
2	IDX_MEMBERROLE1	UMX	MCA×MRA	16	0	MCA×MRA > 200 の場合
		0	0	16	0	MCA×MRA ≤ 200 の場合
3	IDX_MEMBERROLE2	0	0	20	0	—
4	IDX_MEMBERROLE3	5	↑UMX×MCA ÷CMX×MRA ÷(RCM+5) ×CMX↑	20	0	—
5	IDX_MEMBERROLE4	0	0	28	0	—
6	IDX_MEMBERROLE5	0	0	24	0	—

(凡例)

下線：ユニークインデクスです。

—：該当しません。

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(11) テンプレートテーブル (TBL_TEMPLATE)

テンプレートテーブル (TBL_TEMPLATE) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

なお、テンプレートテーブル (TBL_TEMPLATE) のインデクスはユニークインデクスです。

表 C-51 テンプレートテーブル (TBL_TEMPLATE) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	インデクス名	インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d	e	f	g	h
1	<u>主キー (TEMPLATEID) に定義されたインデクス</u>	4,096	30	TMX	1	0	0	12	TMX

(凡例)

下線：ユニークインデクスです。

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(12) ワークプレーステンプレートテーブル (TBL_WORKTEMPLATE)

ワークプレーステンプレートテーブル (TBL_WORKTEMPLATE) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

なお、ワークプレーステンプレートテーブル (TBL_WORKTEMPLATE) のインデクスはユニークインデクスです。

表 C-52 ワークプレーステンプレートテーブル (TBL_WORKTEMPLATE) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	インデクス名	インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d	e	f	g	h
1	<u>主キー (WORKTMPLID) に定義されたインデクス</u>	4,096	30	TMX	1	0	0	12	TMX

(凡例)

下線：ユニークインデクスです。

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(13) システムアプリケーションテーブル (TBL_SYSAPPLI)

システムアプリケーションテーブル (TBL_SYSAPPLI) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

なお、システムアプリケーションテーブル (TBL_SYSAPPLI) のインデクスはユニークインデクスです。

表 C-53 システムアプリケーションテーブル (TBL_SYSAPPLI) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	インデクス名	インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d	e	f	g	h
1	<u>主キー (COLLABOAPID) に定義されたインデクス</u>	4,096	30	AMX	1	0	0	4	AMX

(凡例)

下線：ユニークインデクスです。

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(14) コミュニティ条件リストテーブル (TBL_COMMULIST)

コミュニティ条件リストテーブル (TBL_COMMULIST) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

なお、項番 1 のインデクスはユニークインデクスです。それ以外のインデクスはユニークインデクスではありません。

表 C-54 コミュニティ条件リストテーブル (TBL_COMMULIST) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	インデクス名	インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d	e	f	g	h
1	<u>主キー (COMMUID)</u> <u>に定義されたインデクス</u>	4,096	30	0	0	0	0	12	0
2	IDX_COMMULIST1	4,096	30	0	0	0	0	4	0

(凡例)

下線：ユニークインデクスです。

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

付録 D 使用できる文字種

Collaboration - Online Community Management で使用できる文字種を次に示します。

表 D-1 使用できる文字種

項目	使用できる文字種	使用できない文字種
各言語の表示領域 各種説明部分 コミュニティ名, ワークスペース名	全角文字 半角数字 半角英大文字 半角英小文字 半角スペース 半角記号 半角かな	Unicode に変換できない文字*3 制御文字*3
メールアドレス*1 ユニーク ID*2 UID*2	全角文字 半角数字 半角英大文字 半角英小文字 半角スペース 半角記号	半角かな Unicode に変換できない文字*3 制御文字*3
電話番号	半角数字 半角記号 (次の記号だけ使用できます) - (ハイフン) # (シャープ) * (アスタリスク) + (プラス) ((開き括弧)) (閉じ括弧) 半角スペース	全角文字 半角英大文字 半角英小文字 半角かな 半角記号 (使用できる文字種以外) Unicode に変換できない文字*3 制御文字*3
各種英語名部分	半角数字 半角英大文字 半角英小文字 半角スペース 半角記号	全角文字 半角かな Unicode に変換できない文字*3 制御文字*3

注※1

一般ユーザの作成・変更時にチェックされるメールアドレスは、共通プロパティファイル (hptl_clb_ccm.properties) の hptl_clb_ccm_mail_address_checkFlag キーの設定によって、使用できる文字が異なります。

注※2

UID は Cosminexus にログインするときの UID でもあるため、Cosminexus のログイン ID に使用できる文字列を指定してください。ユニーク ID と UID は同じ文字列を指定することになるため、UID を設定したときは、ユニーク ID も Cosminexus のログイン ID に使用できる文字列を指定してください。なお、非ディレクトリユーザのユニーク ID は上記の使用できる文字種を使うことができます。

注※3

使用できない文字であるかどうかはチェックされません。

付録 E Collaboration - Online Community Management の監査ログ

ここでは、Collaboration - Online Community Management が対象としている監査事象、および監査ログが出力される操作とコマンドについて説明します。Collaboration - Online Community Management の監査ログに出力されるメッセージの詳細は、「付録 G 監査ログのメッセージ」を参照してください。

次の項目の詳細は、マニュアル「Collaboration 導入ガイド」を参照してください。

- 監査ログの出力先
- 監査ログの出力形式
- 監査ログの各項目の意味

Collaboration - Online Community Management で監査ログの取得対象となるのは、次の監査事象に関する操作とコマンドです。

表 E-1 Collaboration - Online Community Management の監査ログの取得対象となる監査事象

項番	監査事象	説明
1	StartStop	コマンドの開始および終了を示します。
2	Authentication	コマンドの実行時、データベースとの接続に成功または失敗したことを示します。
3	AccessControl	セキュリティリソースへのアクセスが成功または失敗したことを示します。 次に示す操作が対象となります。 <ul style="list-style-type: none"> • コミュニティカテゴリに対する操作 • システム管理者・運用者に対する操作 • ユーザに対する操作 • コミュニティに対する操作 • コミュニティメンバに対する操作 • コミュニティの役割に対する操作
4	ConfigurationAccess	アクセス制御に関する設定を参照したことを示します。 次に示す操作が対象となります。 <ul style="list-style-type: none"> • システム管理者・運用者に対する操作 • システムポリシーに対する操作 • コミュニティポリシーに対する操作
5	Failure	次の事象が発生したことを示します。 <ul style="list-style-type: none"> • システムに異常が発生した • プロパティファイルの読み込みに失敗した • プロパティファイルのキーに指定されている値の読み込みに失敗した 対象のプロパティファイルを次に示します。 <ul style="list-style-type: none"> • hptl_clb_ccm.properties • hptl_clb_ccm.cmd.properties
6	ContentAccess	操作の成功または失敗を示します。

付録 E.1 監査ログが出力される操作

監査ログが出力される操作と、監査事象の対応を次の表に示します。

表 E-2 監査ログが出力される監査事象と操作の対応

監査事象	操作
AccessControl	ログイン
	コミュニティカテゴリの作成
	コミュニティカテゴリの変更
	コミュニティカテゴリの削除
	システム管理者・運用者専用メニューの表示
	システム管理者・運用者の登録
	システム管理者・運用者の登録内容の変更
	システム管理者・運用者の削除
	ユーザの作成
	ユーザ情報の変更
	ユーザの削除
	システムポリシーの参照
	システムポリシーの変更
	コミュニティ一覧の表示
	コミュニティの設定内容の参照
	[簡単コミュニティ作成] 画面の表示
	コミュニティの作成
	コミュニティの設定内容の変更
	コミュニティの削除
	コミュニティメンバー一覧の表示
	コミュニティメンバの詳細情報の参照
	コミュニティメンバの追加
	[コミュニティメンバ追加] 画面の表示
	[コミュニティメンバ変更] 画面の表示
	コミュニティメンバの詳細情報の変更
	コミュニティメンバの削除
	コミュニティ内の役割一覧の表示
	コミュニティ内の役割の参照

監査事象	操作
AccessControl	コミュニティ内の役割の作成
	コミュニティ内の役割の変更
	コミュニティ内の役割の削除
	他コンポーネントからコミュニティ管理へのアクセスがあった場合
ConfigurationAccess	システム管理者・運用者一覧の表示
	システム管理者・運用者の登録
	システム管理者・運用者の登録内容の参照
	システム管理者・運用者の登録内容の変更
	システム管理者・運用者の削除
	システムポリシーの参照
	システムポリシーの変更
	コミュニティの設定内容の参照
	コミュニティの作成
	コミュニティの設定内容の変更
	コミュニティの削除
	他コンポーネントからコミュニティ管理へのアクセスがあった場合
	ContentAccess
コミュニティテンプレート一覧の表示	
コミュニティテンプレートの設定内容の参照	
共通の役割一覧の表示	
コミュニティカテゴリの作成	
コミュニティカテゴリの変更	
コミュニティカテゴリの削除	
システム管理者・運用者一覧の表示	
システム管理者・運用者の登録	
システム管理者・運用者の登録内容の参照	
システム管理者・運用者の登録内容の変更	
システム管理者・運用者の削除	
ユーザの作成	
ユーザ情報一覧の表示	
ユーザ情報の参照	

監査事象	操作
ContentAccess	ユーザ情報の変更
	ユーザの削除
	コミュニティ一覧の表示
	コミュニティの設定内容の参照
	[簡単コミュニティ作成] 画面の表示
	コミュニティの作成
	コミュニティの設定内容の変更
	コミュニティの削除
	コミュニティメンバー一覧の表示
	コミュニティメンバの詳細情報の参照
	コミュニティメンバの追加
	[コミュニティメンバ変更] 画面の表示
	コミュニティメンバの詳細情報の変更
	コミュニティメンバの削除
	コミュニティ内の役割一覧の表示
	コミュニティ内の役割の参照
	コミュニティ内の役割の作成
	コミュニティ内の役割の変更
	コミュニティ内の役割の削除
	他コンポーネントからコミュニティ管理へのアクセスがあった場合

注

Failure はエラーが発生した時に出力されます。

付録 E.2 監査ログが出力されるコマンド

監査ログが出力されるコマンドと、監査事象の対応を次の表に示します。

表 E-3 コマンドの監査事象

監査事象	コマンド名
StartStop	set_system
	set_application
	set_template
	set_worktemplate
	set_role

監査事象	コマンド名
StartStop	set_member
	del_member
	del_record
	get_community
Authentication	set_system
	set_application
	set_template
	set_worktemplate
	set_role
	set_member
	del_member
	del_record
	get_community
ConfigurationAccess	set_system
Failure	set_system
	set_application
	set_template
	set_worktemplate
	set_role
	set_member
	del_member
	del_record
ContentAccess	set_application
	set_template
	set_worktemplate
	set_role
	set_member
	del_member
	del_record
	get_community

付録 E.3 監査ログに出力されるオブジェクト情報と動作情報

監査ログに出力されるオブジェクト情報と動作情報を次に示します。

(1) 監査ログに出力されるオブジェクト情報

監査ログに出力されるオブジェクト情報を次の表に示します。

表 E-4 監査ログに出力されるオブジェクト情報 (ポートレット)

項番	オブジェクト情報	意味
1	All_MemberRole	すべてのメンバの役割
2	Category	コミュニティカテゴリ
3	Community	コミュニティ
4	CommunityTemplate	コミュニティテンプレート
5	Member	メンバ
6	MemberRole	メンバの役割
7	Role	役割
8	System	システム
9	SystemAdministrators/Managers	システム管理者・運用者
10	User	ユーザ
11	Workplace	ワークスペース
12	カテゴリ ID	コミュニティカテゴリの ID
13	キー名	プロパティファイルのキー名
14	コミュニティ ID	コミュニティの ID
15	テンプレート ID	コミュニティテンプレートの ID
16	メンバ ID	メンバの ID
17	ワークスペース ID	ワークスペースの ID
18	ユニーク ID	ユーザの ID
19	ロール ID	役割の ID

表 E-5 監査ログに出力されるオブジェクト情報 (コマンド)

項番	オブジェクト情報	意味
1	All_Member	すべてのメンバ
2	All_User	すべてのユーザ
3	Community	コミュニティ
4	DB	データベース

項番	オブジェクト情報	意味
5	Role	役割
6	System	システム
7	キー名	プロパティファイルのキー名
8	コマンド名	コマンド
9	コラボレーションアプリケーション ID	アプリケーションの ID
10	テンプレート ID	コミュニティテンプレートの ID
11	ワークスペース ID	ワークスペースの ID
12	ユニーク ID	ユーザの ID

(2) 監査ログに出力される動作情報

監査ログに出力される動作情報を次の表に示します。

表 E-6 監査ログに出力される動作情報（ポートレット）

項番	動作情報	意味
1	Add	<ul style="list-style-type: none"> 追加 作成 登録
2	Delete	削除
3	Enforce	実施
4	Occur	エラーの発生
5	Refer	参照
6	Update	更新

表 E-7 監査ログに出力される動作情報（コマンド）

項番	動作情報	意味
1	Add	<ul style="list-style-type: none"> 追加 作成 登録
2	Delete	削除
3	Enforce	実施
4	Occur	エラーの発生
5	Refer	参照
6	Start	開始
7	Stop	終了

項番	動作情報	意味
8	Update	更新

付録 F コマンド実行時に出力されるメッセージ

コマンド実行時に Collaboration - Online Community Management が出力するメッセージについて説明します。なお、[コミュニティ管理] ポートレットの操作中に画面に表示されるメッセージについては、マニュアル「Collaboration - Online Community Management ユーザーズガイド」を参照してください。

付録 F.1 メッセージの形式

(1) 出力形式

メッセージの出力形式は次のとおりです。

メッセージ *ID* メッセージテキスト

ただし、メッセージ ID がないメッセージもあります。

(2) 記載形式

このマニュアルでのメッセージの記載形式を次に示します。

KDCMnnnnnn-x

メッセージテキスト

メッセージの内容を補完して説明します。

(S)

メッセージを出力したあとにシステムがする主な処理を示します。

(O)

メッセージを確認したあとにユーザがする処理を説明します。この説明に従って対処してください。

(3) メッセージ ID の説明

メッセージ ID の意味を次に示します。

KDCM

Collaboration - Online Community Management が出力するメッセージであることを示します。

nnnnn

メッセージの通し番号を示します。

x

メッセージの種類を示します。

E：エラーメッセージであることを表します。

W：警告メッセージであることを表します。

I：付加情報メッセージであることを表します。

付録 F.2 メッセージ一覧

なし

コマンドの実行を開始します。

コマンドを実行したことを示します。

(O)

必要ありません。

なし

コマンドの実行が正常に終了しました。

コマンドが正常に終了したことを示します。

(O)

必要ありません。

KDCM00001-E

指定したファイルの書式に誤りがあります。(filename:n)

指定したファイルが LDIF 形式ではありません。filename はフルパスです。

(O)

指定したファイル filename の n 行目の書式を見直してください。ただし、間違っている行のレコードが複数行にわたっている場合は、n には最後の行数が表示されます。また、有効なエントリが一つもないときは n には 0 が表示されます。

KDCM00002-W

存在しない属性記述子を指定しました。(XXXX) エラーのあるレコード:カラム名と値のリスト

指定したファイルに誤った属性記述子を指定しています。XXXX は属性記述子です。

(S)

カラム名と値のリストを「id1=value1 , id2=value2 , …」の形式で出力します。

(O)

指定したファイルの属性記述子に間違いがないかを確認してください。

KDCM00004-E

ファイル名が長すぎます。

引数やプロパティで指定したファイル名が 220 バイトを超えています。

(O)

指定したファイル名の長さが 220 バイトを超えている場合は、ファイル名を検討し、220 バイトを超えないように変更してください。

KDCM00005-E

指定したファイルにアクセスできません。(XXXX)

実行したコマンドの引数やプロパティファイルに、指定したファイルが存在しないか、指定したファイルにアクセス権がないか、またはディスク容量が不足しています。XXXX はフルパスです。

(O)

指定したファイル名が正しいか、指定したファイルにアクセス権があるか、およびディスク容量は不足していないかを確認してください。XXXX が「hptl_clb_ccm_cmd.properties」の場合は、CLASSPATH が設定されたフォルダに hptl_clb_ccm_cmd.properties が存在するかを確認してください。

KDCM00008-E

必要なオプションが指定されていません。

必ず指定しなければならないオプションが指定されていません。

(O)

必要なオプションを指定し、再度実行してください。

KDCM00009-E

オプションが重複して指定されています。

重複して指定できないオプションを同時に複数指定しています。

(O)

オプションを指定し直し、再度実行してください。

KDCM00010-E

存在しないデータを指定しました。(XXXX)

データベースに存在しないデータが指定されています。XXXX は「エラーが発生したレコード:主キー=値」です。

(O)

引数で指定した定義ファイルに記述したデータが正しいかどうかを確認し、コマンドを再度実行してください。

KDCM00010-W

存在しないデータを指定しました。(XXXX)

データベースに存在しないデータが指定されています。XXXX は「エラーが発生したレコード:主キー=値」です。

(O)

引数で指定した定義ファイルのデータが正しいかどうかを確認し、原因を確認してください。必要に応じて該当箇所を修正し、コマンドを再度実行してください。

KDCM00013-E

対象ユーザが指定されていません。

実行したコマンドの引数に、ユーザー一覧を記述したファイル名が指定されていません。

(O)

ユーザー一覧ファイルを指定するか、全ユーザを対象とするオプションを追加してください。

KDCM00014-E

対象メンバが指定されていません。

実行したコマンドの引数に、メンバー一覧を記述したファイル名が指定されていません。

(O)

メンバー一覧ファイルを指定するか、全メンバを対象とするオプションを追加してください。

KDCM00015-E

指定したファイルの書式に誤りがあります。(filename:属性名:属性値)

指定したファイルの書式に誤りがあります。filename はフルパスです。

(O)

指定したファイル filename の属性名および属性値を見直してください。

KDCM00021-I

メソッド XXXX の実行を開始しました。

メソッドが呼び出されたことを示します。XXXX はメソッド名です。

(O)

必要ありません。

KDCM00022-I

メソッド XXXX の実行を終了しました。

メソッドが終了したことを示します。XXXX はメソッド名です。

(O)

必要ありません。

KDCM00023-I

DB に接続します。

DB 接続処理を実行することを示します。

(O)

必要ありません。

KDCM00024-I

DB への接続に成功しました。

DB 接続処理が成功したことを示します。

(O)

必要ありません。

KDCM00025-I

DB から切断します。

DB 切断処理を実行することを示します。

- (O)
必要ありません。

KDCM00026-I

DB からの切断に成功しました。

DB 切断処理が成功したことを示します。

- (O)
必要ありません。

KDCM00027-I

以下のクエリを実行します。:XXXX

クエリが呼び出されたことを示します。XXXX はクエリ名です。

- (O)
必要ありません。

KDCM00028-I

以下のクエリの実行を終了しました。:XXXX

クエリが終了したことを示します。XXXX はクエリ名です。

- (O)
必要ありません。

KDCM00031-E

JDBC ドライバが見つかりません。

JDBC ドライバがインストールされていないか、または環境変数「CLASSPATH」に JDBC ドライバが含まれていません。

- (O)
JDBC ドライバをインストールするか、または環境変数「CLASSPATH」に JDBC ドライバを追加してください。

KDCM00032-E

DB アクセスに失敗しました。(XXXX)

XXXX は「エラーが発生したレコード:主キー=値」です。

DB 接続用のユーザ名、パスワードが間違っているか、または hptl_clb_ccm_cmd.properties ファイルの次の値が不正の場合があります。

- hptl_clb_ccm_cmd_jdbcclassname
- hptl_clb_ccm_cmd_dbvendor
- hptl_clb_ccm_cmd_dbprotocol
- hptl_clb_ccm_cmd_dbhost
- hptl_clb_ccm_cmd_dbport
- hptl_clb_ccm_cmd_dbap

- hptl_clb_ccm_cmd_dbid

(O)

次の対処をしてください。

- コマンド実行時に指定したユーザ名、パスワードが正しいかどうかを確認する
- hptl_clb_ccm_cmd.properties ファイルの設定が正しいかどうかを確認する
- -e オプションで指定したログファイルの内容を基にエラーの原因を特定する

KDCM00033-E

指定したテーブル名が不正です。(table :XXXX)

指定したテーブルがデータベースに存在しません。XXXX はテーブル名です。

(O)

指定したテーブル名が正しいかどうかを確認してください。また、必要なテーブルがデータベースに作られているかどうかを確認してください。

KDCM00036-E

設定が適切な値ではありません。(XXXX)

次の要因が考えられます。XXXX は「エラーが発生したレコード:主キー=値」です。

- 設定値が適切でないか、NULL が指定できない個所に NULL を指定しようとしている
- 値が大き過ぎる
- 数値を指定する個所に、文字列を指定している
- 文字列が長過ぎる
- 型が異なる
- 主キーが衝突するデータを指定している

(O)

設定値を見直して再度実行してください。

KDCM00037-W

TBL_MEMBER に不正なレコードが存在します。(commuid='XXXX', uniqueid='YYYY')

TBL_MEMBER に不正なレコードが存在します。または、コミュニティが作成中です。XXXX はコミュニティ ID, YYYY はユニーク ID です。

(O)

必要に応じてコマンドを再度実行してください。

再度実行しても同じメッセージが出力される場合は、メッセージ中の XXXX および YYYY を del_member.cfg に指定し、「del_member -m del_member.cfg」を実行してください。

KDCM00038-W

TBL_MEMBERROLE に不正なレコードが存在します。(commuid='XXXX', uniqueid='YYYY')

TBL_MEMBERROLE に不正なレコードが存在します。または、コミュニティが作成中です。XXXX はコミュニティ ID, YYYY はユニーク ID です。

(O)

必要に応じてコマンドを再度実行してください。

再度実行しても同じメッセージが出力される場合は、メッセージ中の XXXX および YYYY を del_member.cfg に指定し、「del_member -m del_member.cfg」を実行してください。このとき、メッセージ KDCM00010-W が出力されることがありますが、「del_member -m del_member.cfg」は実行されます。

KDCM00041-E

システム情報の取得に失敗しました。

権限のないファイル操作処理を実行しようとしています。

(O)

ファイルのアクセス権がありません。セキュリティの設定を見直してください。

KDCM00043-W

HNTRLib2 が見つかりません。

HNTRLib2 を利用するための JAR ファイル (hntrlib2j.jar) が指定されたフォルダにありません。

(S)

コマンドの処理は正常に終了します。トレースは出力しません。

(O)

hntrlib2j.jar を環境変数「CLASSPATH」に追加してください。hntrlib2j.jar は uCosminexus Application Server に含まれています。

KDCM00051-E

主キーの値が指定されていません。(key:XXXX) エラーのあるレコード:カラム名と値のリスト

設定ファイル内で各テーブルの主キーに対応する属性が指定されていません。

XXXX は「エラーが発生したレコード:主キー=値」です。

(S)

カラム名と値のリストを「id1=value1 , id2=value2 , …」の形式で出力します。

(O)

設定ファイルの内容が正しいかを確認してください。解決しない場合は、システム管理者に連絡してください。

KDCM00052-E

予想外の場所で null が参照されました。(method:XXXX)

コマンドの中で内部エラーが発生しています。XXXX はメソッド名です。

(O)

システム管理者に連絡してください。

KDCM00053-E

メソッド呼び出しの際の引数が不正です。(method:XXXX)

メソッドの呼び出し時に渡す引数の値が不正です。XXXX はメソッド名です。

(O)

設定ファイルやコマンド引数の設定が正しいかを確認してください。解決しない場合はシステム管理者に連絡してください。

KDCM00061-E

入出力処理中にエラーが発生しました。(method:XXXX)

入出力処理中に例外が発生しました。XXXX はメソッド名です。

(O)

具体的な原因はメッセージに続く StackTrace に記述されているので、これを参照して対処してください。わからない場合は、システム管理者に連絡してください。

KDCM00062-E

トレース処理中にエラーが発生しました。:XXXX

トレースファイルにアクセス権限がない、またはディスク容量が不足していてトレースファイルに出力できないなどの要因が考えられます。XXXX は詳細情報です。

(O)

XXXX を見て原因を特定し、問題を取り除いたあと、再度実行してください。

KDCM00063-E

その他のエラーです。(method:XXXX)

コマンドの中で内部エラーが発生しています。XXXX はメソッド名です。

(O)

システム管理者に連絡してください。

KDCM00065-E

予想外のエラーが発生しました。

予想外のエラーが発生しました。

(O)

システム管理者に連絡してください。

KDCM00071-E

他のコマンドを実行中です。

二つ以上のコマンドを同時に実行しようとしてしました。

(O)

コマンドを二つ以上実行していないかを確認してください。

KDCM00072-E

他のコマンドの実行状況確認中にエラーが発生しました。(function : XXXX , errno : YYYY)

ほかのコマンドの実行状況確認中に、システム関数でエラーが発生しました。XXXX は関数名、YYYY はエラーの詳細情報です。

(O)

XXXX および YYYYY からエラーが発生した原因を特定し、問題を取り除いたあとで再度実行してください。

KDCM00073-E

パスワード入力処理中にエラーが発生しました。(function : XXXX , ermo : YYYYY)

パスワード入力部で使用しているシステム関数でエラーが発生しました。XXXX は関数名、YYYY はエラーの詳細情報です。

(O)

XXXX および YYYYY からエラーが発生した原因を特定し、問題を取り除いたあとで再度実行してください。

KDCM00074-E

プロセスの開始に失敗しました。(function : XXXX , ermo : YYYYY)

コマンドの起動処理を制御するシステム関数でエラーが発生しました。XXXX は関数名、YYYY はエラーの詳細情報です。

(O)

XXXX および YYYYY からエラーが発生した原因を特定し、問題を取り除いたあとで再度実行してください。

KDCM00075-E

強制終了しました。

ユーザによってコマンドが強制終了されました。

(O)

必要ありません。

KDCM00076-E

メモリが不足しています。

メモリ不足が発生しました。

(O)

不要なプロセスを終了させるか、またはスワップ領域を増やしたあと、再度実行してください。

KDCM00077-E

指定した文字コードが不正です。(CharacterCode : 指定した文字コード)

get_community コマンドの -i オプションで指定した文字コードが Java でサポートされている文字コードではありません。

(O)

get_community コマンドの実行時に指定した文字コードが正しいかを確認してください。

KDCM00078-E

兼任ユーザの ID を指定しています。主体ユーザの ID を指定してください。(userid=指定したユーザID)

set_member コマンドの-s オプション実行時に、set_member.cfg で指定したユーザ ID に兼任ユーザの ID を指定しています。

(O)

指定したユーザ ID を主体ユーザの ID に変更したあと、set_member コマンドを再度実行してください。

主体ユーザは本来所属している組織のユーザ、兼任ユーザは本来所属している組織以外の組織に所属するユーザのことです。詳細は、マニュアル「Collaboration 導入ガイド」を参照してください。

KDCM00079-E

Directory Access でエラーが発生しました。

set_member コマンドの実行時に Collaboration - Directory Access でエラーが発生しました。

(O)

Collaboration - Directory Access のエラーに関するログが出力されるので、ログを見て原因を調査し、対処してください。対処方法が不明な場合は、システム管理者に連絡してください。

KDCM00080-E

XXX

エラーが発生しました。XXX は、発生した Error クラスのスタックトレース情報です。

(O)

出力されたエラー情報を基に対処してください。

set_member コマンドで兼任ユーザの ID かどうかをチェックする場合 (-s オプション指定時)、set_member コマンドは hntplib2j.jar, hptl_clb_cum.jar および hptl_clb_ccu.jar を使用します。hntplib2j.jar, hptl_clb_cum.jar および hptl_clb_ccu.jar がクラスパスから見つからない場合、NoClassDefFoundError が発生します。兼任ユーザの ID かどうかをチェックする場合は、必ず hntplib2j.jar, hptl_clb_cum.jar および hptl_clb_ccu.jar をクラスパスに設定してください。

付録 G 監査ログのメッセージ

監査ログに出力されるメッセージについて説明します。

付録 G.1 監査ログのメッセージの記載形式

このマニュアルでの監査ログのメッセージの記載形式について説明します。

KDCMnnnnn-Y

メッセージの内容		
出力項目名	出力項目の意味	出力内容
メッセージの出力項目名	メッセージの出力項目の意味	メッセージの出力内容

(凡例)

可変値に関する説明

コマンド

メッセージが出力される契機となるコマンド

出力ポイント

メッセージが出力されるタイミング

各項目の詳細を次に示します。

KDCMnnnnn-Y

メッセージ ID は、次の内容を示しています。

KDCM

Collaboration - Online Community Management が出力するメッセージであることを示します。

nnnnn

メッセージの番号を示します。

Y

メッセージの種類を示します。

E：エラーメッセージであることを表します。

W：警告メッセージであることを表します。

I：付加情報メッセージであることを表します。

メッセージの内容

メッセージに出力される項目の内容を表に示します。

ここでは、メッセージごとに固有の意味を持つ項目、または固有の値が出力される項目について説明します。すべてのメッセージで共通の意味を持つ項目、または共通の値が出力される項目については、マニュアル「Collaboration 導入ガイド」を参照してください。

可変値に関する説明

文字列が斜体になっている項目は、可変の文字列を表します。

また、メッセージテキストの自由記述中の可変値に表示される情報を「AA...AA：表示される情報」（AA...AA は任意の英字）の形式で示します。可変値に関する説明の記述例を次に示します。

(例)

AA...AA：プロセス ID

BB...BB：コマンド名

コマンド

メッセージが出力される契機となるコマンドを示します。

出力ポイント

メッセージが出力されるタイミングを示します。

付録 G.2 監査ログのメッセージの詳細

KDCM13000-I

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCM13000-I
compid	コンポーネント名	Community_コマンド名
ctgry	監査事象の種別	StartStop
result	監査事象の結果	Occurrence
subj:pid	サブジェクト識別情報	プロセス ID
obj	オブジェクト情報	コマンド名
op	動作情報	Start
msg	自由記述	プロセス(AA...AA)がコマンド(BB...BB)をオプション(CC...CC)で開始しました。

(凡例)

AA...AA：プロセス ID

BB...BB：コマンド名

CC...CC：各コマンドで指定したオプション※

注※ オプションを指定していない場合は、空文字列が出力されます。

コマンド

- set_system
- set_application
- set_template
- set_worktemplate
- set_role
- set_member
- del_member
- del_record

- get_community

出力ポイント

コマンドの実行

KDCM13001-I

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCM13001-I
compid	コンポーネント名	Community_コマンド名
ctgry	監査事象の種別	StartStop
result	監査事象の結果	Occurrence
subj:pid	サブジェクト識別情報	プロセス ID
obj	オブジェクト情報	コマンド名
op	動作情報	Stop
msg	自由記述	プロセス(AA...AA)がコマンド(BB...BB)を戻り値(CC...CC)で終了しました。

(凡例)

AA...AA：プロセス ID

BB...BB：コマンド名

CC...CC：コマンドの戻り値※

注※ 「5.3 各コマンドの詳細」の各コマンドの戻り値を参照してください。

コマンド

- set_system
- set_application
- set_template
- set_worktemplate
- set_role
- set_member
- del_member
- del_record
- get_community

出力ポイント

コマンドの実行

KDCM13002-I

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCM13002-I
compid	コンポーネント名	Community_コマンド名
ctgry	監査事象の種別	Authentication
result	監査事象の結果	Success
subj:pid	サブジェクト識別情報	プロセス ID
obj	オブジェクト情報	DB
op	動作情報	Enforce
to:host	リクエスト送信先ホスト*	DB サーバのホスト名
to:IPv4		IPv4 アドレス (IPv4 形式)
to:IPv6		IPv6 アドレス (IPv6 形式)
to:port	リクエスト送信先ポート番号	接続先ホストのポート番号
msg	自由記述	プロセス(AA...AA)が DB サーバ(BB...BB)*に接続しました。(成功)

(凡例)

AA...AA：プロセス ID

BB...BB：接続先の IP アドレスまたはホスト名

注※

接続先ホストの取得に失敗した場合は空文字列になります。

コマンド

- set_system
- set_application
- set_template
- set_worktemplate
- set_role
- set_member
- del_member
- del_record
- get_community

出力ポイント

コマンドの実行

KDCM13003-E

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCM13003-E
compid	コンポーネント名	Community_コマンド名
ctgry	監査事象の種別	Authentication
result	監査事象の結果	Failure
subj:pid	サブジェクト識別情報	プロセス ID
obj	オブジェクト情報	DB
op	動作情報	Enforce
to:host	リクエスト送信先ホスト*	DB サーバのホスト名
to:IPv4		IPv4 アドレス (IPv4 形式)
to:IPv6		IPv6 アドレス (IPv6 形式)
to:port	リクエスト送信先ポート番号	接続先ホストのポート番号
msg	自由記述	プロセス(AA...AA)が DB サーバ(BB...BB)*に接続しました。(失敗)

(凡例)

AA...AA：プロセス ID

BB...BB：接続先の IP アドレスまたはホスト名

注※

接続先ホストの取得に失敗した場合は空文字列になります。

コマンド

- set_system
- set_application
- set_template
- set_worktemplate
- set_role
- set_member
- del_member
- del_record
- get_community

出力ポイント

コマンドの実行

KDCM13004-I

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCM13004-I
compid	コンポーネント名	Community_Portlet
ctgry	監査事象の種別	AccessControl
result	監査事象の結果	Success
subj:uid	サブジェクト識別情報	ユニーク ID
obj	オブジェクト情報	出力される内容は「付録 G.3(1) オブジェクト情報の詳細」を参照してください。
op	動作情報	Enforce
after	変更後情報	出力される内容は「付録 G.3(4) 変更後情報の詳細」を参照してください。
auth	権限情報	出力される内容は「付録 G.3(5) 権限情報の詳細」を参照してください。
msg	自由記述	ユーザ(AA...AA)が BB...BB に対して CC...CC のアクセスコントロールチェックを行いました。(成功)

(凡例)

AA...AA：ユニーク ID

BB...BB：ユーザが実行した操作の対象

CC...CC：ユーザが実行した操作の内容

出力ポイント

- ログイン
- コミュニティカテゴリの作成
- コミュニティカテゴリの変更
- コミュニティカテゴリの削除
- システム管理者・運用者専用メニューの表示
- システム管理者・運用者の登録
- システム管理者・運用者の登録内容の変更
- システム管理者・運用者の削除
- ユーザの作成
- ユーザ情報の変更
- ユーザの削除
- システムポリシーの参照
- システムポリシーの変更
- コミュニティー一覧の表示
- コミュニティの設定内容の参照
- [簡単コミュニティ作成] 画面の表示
- コミュニティの作成
- コミュニティの設定内容の変更

- コミュニティの削除
- コミュニティメンバー一覧の表示
- コミュニティメンバの詳細情報の参照
- コミュニティメンバの追加
- [コミュニティメンバ追加] 画面の表示
- [コミュニティメンバ変更] 画面の表示
- コミュニティメンバの詳細情報の変更
- コミュニティメンバの削除
- コミュニティ内の役割一覧の表示
- コミュニティ内の役割の参照
- コミュニティ内の役割の作成
- コミュニティ内の役割の変更
- コミュニティ内の役割の削除
- 他コンポーネントからコミュニティ管理へのアクセスがあった場合

KDCM13005-E

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCM13005-E
compid	コンポーネント名	Community_Portlet
ctgry	監査事象の種別	AccessControl
result	監査事象の結果	Failure
subj:uid	サブジェクト識別情報	ユニーク ID
obj	オブジェクト情報	出力される内容は「付録 G.3(1) オブジェクト情報の詳細」を参照してください。
op	動作情報	Enforce
after	変更後情報	出力される内容は「付録 G.3(4) 変更後情報の詳細」を参照してください。
auth	権限情報	出力される内容は「付録 G.3(5) 権限情報の詳細」を参照してください。
msg	自由記述	ユーザ(AA...AA)が BB...BB に対して CC...CC のアクセスコントロールチェックを行いました。(失敗)

(凡例)

AA...AA：ユニーク ID

BB...BB：ユーザが実行した操作の対象

CC...CC：ユーザが実行した操作の内容

出力ポイント

- ログイン
- コミュニティカテゴリの作成

- コミュニティカテゴリの変更
- コミュニティカテゴリの削除
- システム管理者・運用者の登録
- システム管理者・運用者の登録内容の変更
- システム管理者・運用者の削除
- ユーザの作成
- ユーザ情報の変更
- ユーザの削除
- システムポリシーの参照
- システムポリシーの変更
- コミュニティの設定内容の参照
- [簡単コミュニティ作成] 画面の表示
- コミュニティの作成
- コミュニティの設定内容の変更
- コミュニティの削除
- コミュニティメンバー一覧の表示
- コミュニティメンバーの詳細情報の参照
- コミュニティメンバーの追加
- [コミュニティメンバー追加] 画面の表示
- [コミュニティメンバー変更] 画面の表示
- コミュニティメンバーの詳細情報の変更
- コミュニティメンバーの削除
- コミュニティ内の役割一覧の表示
- コミュニティ内の役割の参照
- コミュニティ内の役割の作成
- コミュニティ内の役割の変更
- コミュニティ内の役割の削除
- 他コンポーネントからコミュニティ管理へのアクセスがあった場合

KDCM13008-I

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCM13008-I
compid	コンポーネント名	Community_Portlet
ctgry	監査事象の種別	ConfigurationAccess
result	監査事象の結果	Success

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
subj:uid	サブジェクト識別情報	ユニーク ID
obj	オブジェクト情報	出力される内容は「付録 G.3(1) オブジェクト情報の詳細」を参照してください。
op	動作情報	出力される内容は「付録 G.3(2) 動作情報の詳細」を参照してください。
objloc	オブジェクトロケーション情報	出力される内容は「付録 G.3(3) オブジェクトロケーションの詳細」を参照してください。
after	変更後情報	出力される内容は「付録 G.3(4) 変更後情報の詳細」を参照してください。
msg	自由記述	ユーザ(AA...AA)が BB...BB の CC...CC を行いました。(成功)

(凡例)

AA...AA：ユニーク ID

BB...BB：ユーザが実行した操作の対象

CC...CC：ユーザが実行した操作の内容

出力ポイント

- ・ システム管理者・運用者一覧の表示
- ・ システム管理者・運用者の登録
- ・ システム管理者・運用者の登録内容の参照
- ・ システム管理者・運用者の登録内容の変更
- ・ システム管理者・運用者の削除
- ・ システムポリシーの参照
- ・ システムポリシーの変更
- ・ コミュニティの設定内容の参照
- ・ コミュニティの作成
- ・ コミュニティの設定内容の変更
- ・ コミュニティの削除

KDCM13009-E

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCM13009-E
compid	コンポーネント名	Community_Portlet
ctgry	監査事象の種別	ConfigurationAccess
result	監査事象の結果	Failure
subj:uid	サブジェクト識別情報	ユニーク ID
obj	オブジェクト情報	出力される内容は「付録 G.3(1) オブジェクト情報の詳細」を参照してください。
op	動作情報	出力される内容は「付録 G.3(2) 動作情報の詳細」を参照してください。

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
objloc	オブジェクトロケーション情報	出力される内容は「付録 G.3(3) オブジェクトロケーションの詳細」を参照してください。
after	変更後情報	出力される内容は「付録 G.3(4) 変更後情報の詳細」を参照してください。
msg	自由記述	ユーザ(AA...AA)が BB...BB の CC...CC を行いました。(失敗)

(凡例)

AA...AA：ユニーク ID

BB...BB：ユーザが実行した操作の対象

CC...CC：ユーザが実行した操作の内容

出力ポイント

- システム管理者・運用者一覧の表示
- システム管理者・運用者の登録
- システム管理者・運用者の登録内容の参照
- システム管理者・運用者の登録内容の変更
- システム管理者・運用者の削除
- システムポリシーの参照
- システムポリシーの変更
- コミュニティの設定内容の参照
- コミュニティの作成
- コミュニティの設定内容の変更
- コミュニティの削除

KDCM13010-I

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCM13010-I
compid	コンポーネント名	Community_set_system
ctgry	監査事象の種類別	ConfigurationAccess
result	監査事象の結果	Success
subj:pid	サブジェクト識別情報	プロセス ID
obj	オブジェクト情報	System
op	動作情報	出力される内容は「付録 G.3(2) 動作情報の詳細」を参照してください。
objloc	オブジェクトロケーション情報	System
after	変更後情報	SystemPolicy

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msg	自由記述	プロセス(AA...AA)がシステムの BB...BB を行いました。(成功)

(凡例)

AA...AA：プロセス ID

BB...BB：ユーザが実行した操作の内容

コマンド

set_system

出力ポイント

コマンドの実行

KDCM13011-E

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCM13011-E
compid	コンポーネント名	Community_set_system
ctgry	監査事象の種別	ConfigurationAccess
result	監査事象の結果	Failure
subj:pid	サブジェクト識別情報	プロセス ID
obj	オブジェクト情報	System
op	動作情報	出力される内容は「付録 G.3(2) 動作情報の詳細」を参照してください。
objloc	オブジェクトロケーション情報	System
after	変更後情報	SystemPolicy
msg	自由記述	プロセス(AA...AA)がシステムの BB...BB を行いました。(失敗)

(凡例)

AA...AA：プロセス ID

BB...BB：ユーザが実行した操作の内容

コマンド

set_system

出力ポイント

コマンドの実行

KDCM13012-I

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCM13012-I
compid	コンポーネント名	Community_Portlet
ctgry	監査事象の種別	ContentAccess
result	監査事象の結果	Success
subj:uid	サブジェクト識別情報	ユニーク ID
obj	オブジェクト情報	出力される内容は「付録 G.3(1) オブジェクト情報の詳細」を参照してください。
obj:uid		ユニーク ID
op	動作情報	出力される内容は「付録 G.3(2) 動作情報の詳細」を参照してください。
objloc	オブジェクトロケーション情報	出力される内容は「付録 G.3(3) オブジェクトロケーションの詳細」を参照してください。
after	変更後情報	出力される内容は「付録 G.3(4) 変更後情報の詳細」を参照してください。
msg	自由記述	ユーザ(AA...AA)が BB...BB の CC...CC を行いました。(成功)

(凡例)

AA...AA：ユニーク ID

BB...BB：ユーザが実行した操作の対象

CC...CC：ユーザが実行した操作の内容

出力ポイント

- ログイン
- コミュニティテンプレート一覧の表示
- コミュニティテンプレートの設定内容の参照
- 共通の役割一覧の表示
- コミュニティカテゴリの作成
- コミュニティカテゴリの変更
- コミュニティカテゴリの削除
- システム管理者・運用者一覧の表示
- システム管理者・運用者の登録
- システム管理者・運用者の登録内容の参照
- システム管理者・運用者の登録内容の変更
- システム管理者・運用者の削除
- ユーザの作成
- ユーザ情報一覧の表示
- ユーザ情報の参照
- ユーザ情報の変更

- ユーザの削除
- コミュニティ一覧の表示
- コミュニティの設定内容の参照
- [簡単コミュニティ作成] 画面の表示
- コミュニティの作成
- コミュニティの設定内容の変更
- コミュニティの削除
- コミュニティメンバー一覧の表示
- コミュニティメンバーの詳細情報の参照
- コミュニティメンバーの追加
- [コミュニティメンバー変更] 画面の表示
- コミュニティメンバーの詳細情報の変更
- コミュニティメンバーの削除
- コミュニティ内の役割一覧の表示
- コミュニティ内の役割の参照
- コミュニティ内の役割の作成
- コミュニティ内の役割の変更
- コミュニティ内の役割の削除
- 他コンポーネントからコミュニティ管理へのアクセスがあった場合

KDCM13013-E

メッセージの内容		
出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCM13013-E
compid	コンポーネント名	Community_Portlet
ctgry	監査事象の種別	ContentAccess
result	監査事象の結果	Failure
subj:uid	サブジェクト識別情報	ユニーク ID
obj	オブジェクト情報	出力される内容は「付録 G.3(1) オブジェクト情報の詳細」を参照してください。
obj:uid		ユニーク ID
op	動作情報	出力される内容は「付録 G.3(2) 動作情報の詳細」を参照してください。
objloc	オブジェクトロケーション情報	出力される内容は「付録 G.3(3) オブジェクトロケーションの詳細」を参照してください。
after	変更後情報	出力される内容は「付録 G.3(4) 変更後情報の詳細」を参照してください。
msg	自由記述	ユーザ(AA...AA)が BB...BB の CC...CC を行いました。(失敗)

(凡例)

AA...AA：ユニーク ID

BB...BB：ユーザが実行した操作の対象

CC...CC：ユーザが実行した操作の内容

出力ポイント

- ログイン
- コミュニティテンプレート一覧の表示
- コミュニティテンプレートの設定内容の参照
- 共通の役割一覧の表示
- コミュニティカテゴリの作成
- コミュニティカテゴリの変更
- コミュニティカテゴリの削除
- システム管理者・運用者一覧の表示
- システム管理者・運用者の登録
- システム管理者・運用者の登録内容の参照
- システム管理者・運用者の登録内容の変更
- システム管理者・運用者の削除
- ユーザの作成
- ユーザ情報一覧の表示
- ユーザ情報の参照
- ユーザ情報の変更
- ユーザの削除
- コミュニティ一覧の表示
- コミュニティの設定内容の参照
- [簡単コミュニティ作成] 画面の表示
- コミュニティの作成
- コミュニティの設定内容の変更
- コミュニティの削除
- コミュニティメンバー一覧の表示
- コミュニティメンバーの詳細情報の参照
- コミュニティメンバーの追加
- [コミュニティメンバー変更] 画面の表示
- コミュニティメンバーの詳細情報の変更
- コミュニティメンバーの削除
- コミュニティ内の役割一覧の表示
- コミュニティ内の役割の参照
- コミュニティ内の役割の作成
- コミュニティ内の役割の変更

- コミュニティ内の役割の削除
- 他コンポーネントからコミュニティ管理へのアクセスがあった場合

KDCM13014-I

メッセージの内容		
出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCM13014-I
compid	コンポーネント名	Community_コマンド名
ctgry	監査事象の種別	ContentAccess
result	監査事象の結果	Success
subj:pid	サブジェクト識別情報	プロセス ID
obj	オブジェクト情報	出力される内容は「付録 G.3(1) オブジェクト情報の詳細」を参照してください。
op	動作情報	出力される内容は「付録 G.3(2) 動作情報の詳細」を参照してください。
objloc	オブジェクトロケーション情報	出力される内容は「付録 G.3(3) オブジェクトロケーションの詳細」を参照してください。
after	変更後情報	出力される内容は「付録 G.3(4) 変更後情報の詳細」を参照してください。
msg	自由記述	プロセス(AA...AA)が BB...BB の CC...CC を行いました。(成功)

(凡例)

AA...AA：プロセス ID

BB...BB：ユーザが実行した操作の対象

CC...CC：ユーザが実行した操作の内容

コマンド

- set_application
- set_template
- set_worktemplate
- set_role
- set_member
- del_member
- del_record
- get_community

出力ポイント

コマンドの実行

KDCM13015-E

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCM13015-E
compid	コンポーネント名	Community_コマンド名
ctgry	監査事象の種別	ContentAccess
result	監査事象の結果	Failure
subj:pid	サブジェクト識別情報	プロセス ID
obj	オブジェクト情報	出力される内容は「付録 G.3(1) オブジェクト情報の詳細」を参照してください。
op	動作情報	出力される内容は「付録 G.3(2) 動作情報の詳細」を参照してください。
objloc	オブジェクトロケーション情報	出力される内容は「付録 G.3(3) オブジェクトロケーションの詳細」を参照してください。
after	変更後情報	出力される内容は「付録 G.3(4) 変更後情報の詳細」を参照してください。
msg	自由記述	プロセス(AA...AA)が BB...BB の CC...CC を行いました。(失敗)

(凡例)

AA...AA：プロセス ID

BB...BB：ユーザが実行した操作の対象

CC...CC：ユーザが実行した操作の内容

コマンド

- set_application
- set_template
- set_worktemplate
- set_role
- set_member
- del_member
- del_record
- get_community

出力ポイント

コマンドの実行

KDCM13016-E

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCM13016-E
compid	コンポーネント名	Community_Portlet
ctgry	監査事象の種別	Failure

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
result	監査事象の結果	Occurrence
subj:uid	サブジェクト識別情報	ユニーク ID
obj	オブジェクト情報	System
op	動作情報	Occur
msg	自由記述	システムで異常が発生しました。

出力ポイント

システムの異常

KDCM13017-E

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCM13017-E
compid	コンポーネント名	Community_Portlet
ctgry	監査事象の種別	Failure
result	監査事象の結果	Occurrence
subj:pid	サブジェクト識別情報	プロセス ID
obj	オブジェクト情報	キー名
op	動作情報	Occur
msg	自由記述	プロセス(AA...AA)がプロパティファイル(BB...BB)のキー(CC...CC)を読み込みました。(失敗)

(凡例)

AA...AA：プロセス ID

BB...BB：プロパティファイル名

CC...CC：プロパティファイルのキー名

出力ポイント

プロパティファイルの読み込み

KDCM13018-E

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCM13018-E
compid	コンポーネント名	Community_コマンド名
ctgry	監査事象の種別	Failure

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
result	監査事象の結果	Occurrence
subj:pid	サブジェクト識別情報	プロセス ID
obj	オブジェクト情報	DB
op	動作情報	Occur
msg	自由記述	DB アクセスで異常が発生しました。

コマンド

- set_system
- set_application
- set_template
- set_worktemplate
- set_role
- set_member
- del_member
- del_record
- get_community

出力ポイント

コマンドの実行

KDCM13019-E

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCM13019-E
compid	コンポーネント名	Community_コマンド名
ctgry	監査事象の種別	Failure
result	監査事象の結果	Occurrence
subj:pid	サブジェクト識別情報	プロセス ID
obj	オブジェクト情報	キー名
op	動作情報	Occur
msg	自由記述	プロセス(AA...AA)がプロパティファイル(BB...BB)のキー(CC...CC)を読み込みました。(失敗)

(凡例)

AA...AA：プロセス ID

BB...BB：プロパティファイル名

CC...CC：プロパティファイルのキー名

コマンド

- set_system
- set_application
- set_template
- set_worktemplate
- set_role
- set_member
- del_member
- del_record
- get_community

出力ポイント

コマンドの実行

付録 G.3 監査ログに出力される値の一覧

この節では、メッセージに出力される次の項目について説明します。

- オブジェクト情報
- 動作情報
- オブジェクトロケーション情報
- 変更後情報
- 権限情報

(1) オブジェクト情報の詳細

メッセージに出力されるオブジェクト情報と操作またはコマンドの対応を次の表に示します。

表 G-1 オブジェクト情報に出力される項目と操作またはコマンドの対応一覧

項番	オブジェクト情報	操作／コマンド
1	All_Member	del_member
2	All_MemberRole	コミュニティメンバの削除
3	All_User	del_member
4	Category	コミュニティカテゴリの変更
		コミュニティカテゴリの削除
5	Community	コミュニティ一覧の表示
		コミュニティの設定内容の参照
		コミュニティの作成 (失敗)
		コミュニティの設定内容の変更
		コミュニティの削除

項番	オブジェクト情報	操作/コマンド
5	Community	コミュニティメンバー一覧の表示
		コミュニティメンバの詳細情報の参照
		コミュニティメンバの追加
		[コミュニティメンバ追加] 画面の表示
		[コミュニティメンバ変更] 画面の表示
		コミュニティメンバの詳細情報の変更
		コミュニティメンバの削除
		コミュニティ内の役割一覧の表示
		コミュニティ内の役割の作成
		他コンポーネントからコミュニティ管理へのアクセスがあった場合
		get_community
6	CommunityTemplate	コミュニティテンプレート一覧の表示
		[簡単コミュニティ作成] 画面の表示
7	DB	del_record
8	Member	ログイン
		コミュニティメンバー一覧の表示
		他コンポーネントからコミュニティ管理へのアクセスがあった場合
9	MemberRole	ログイン
		コミュニティメンバー一覧の表示
		コミュニティメンバの詳細情報の参照
		[コミュニティメンバ変更] 画面の表示
		他コンポーネントからコミュニティ管理へのアクセスがあった場合
10	Role	共通の役割一覧の表示
		コミュニティ内の役割一覧の表示
		コミュニティ内の役割の参照
		コミュニティ内の役割の変更
		コミュニティ内の役割の削除
		他コンポーネントからコミュニティ管理へのアクセスがあった場合
		set_role
11	System	コミュニティカテゴリの作成
		システム管理者・運用者専用メニューの表示

項番	オブジェクト情報	操作/コマンド
11	System	システム管理者・運用者の登録
		システム管理者・運用者の登録内容の変更
		システム管理者・運用者の削除
		ユーザの作成
		システムポリシーの参照
		システムポリシーの変更
		[簡単コミュニティ作成] 画面の表示
		コミュニティの作成
		set_system
12	SystemAdministrators/Managers	システム管理者・運用者一覧の表示
13	User	ユーザ情報一覧の表示
		ユーザ情報の変更
		ユーザの削除
14	Workplace	ログイン
		他コンポーネントからコミュニティ管理へのアクセスがあった場合
15	カテゴリ ID	コミュニティカテゴリの作成
		コミュニティカテゴリの変更
		コミュニティカテゴリの削除
16	コミュニティ ID	コミュニティの設定内容の参照
		コミュニティの作成 (成功)
		コミュニティの設定内容の変更
		コミュニティの削除
17	コラボレーションアプリケーション ID	set_application
18	テンプレート ID	コミュニティテンプレートの設定内容の参照
		set_template
19	メンバ ID	コミュニティの作成
20	ワークスペース ID	コミュニティの設定内容の参照
		コミュニティの作成
		コミュニティの設定内容の変更
		set_worktemplate
21	ユニーク ID	システム管理者・運用者の登録

項番	オブジェクト情報	操作/コマンド
21	ユニーク ID	システム管理者・運用者の登録内容の参照
		システム管理者・運用者の登録内容の変更
		システム管理者・運用者の削除
		ユーザの作成
		ユーザ情報の参照
		ユーザ情報の変更
		ユーザの削除
		コミュニティの作成
		コミュニティメンバの詳細情報の参照
		コミュニティメンバの追加
		[コミュニティメンバ変更] 画面の表示
		コミュニティメンバの削除
		他コンポーネントからコミュニティ管理へのアクセスがあった場合 set_member
22	ロール ID	コミュニティメンバの追加
		コミュニティメンバの詳細情報の変更
		コミュニティの作成
		コミュニティ内の役割の参照
		コミュニティ内の役割の作成
		コミュニティ内の役割の変更
		コミュニティ内の役割の削除
		del_member

(2) 動作情報の詳細

メッセージに出力される動作情報と操作またはコマンドの対応を次の表に示します。

表 G-2 動作情報に出力される項目と操作またはコマンドの対応一覧

項番	動作情報	操作/コマンド
1	Add	コミュニティカテゴリの作成
		システム管理者・運用者の登録
		ユーザの作成
		コミュニティの作成
		コミュニティメンバの追加

項番	動作情報	操作/コマンド
1	Add	コミュニティメンバの詳細情報の変更
		コミュニティ内の役割の作成
		set_system
		set_application
		set_template
		set_worktemplate
		set_role
		set_member
2	Delete	コミュニティカテゴリの削除
		システム管理者・運用者の削除
		ユーザの削除
		コミュニティの削除
		コミュニティメンバの詳細情報の変更
		コミュニティメンバの削除
		コミュニティ内の役割の削除
		set_system
		set_application
		del_member
		del_record
		3
コミュニティカテゴリの作成		
コミュニティカテゴリの変更		
コミュニティカテゴリの削除		
システム管理者・運用者専用メニューの表示		
システム管理者・運用者の登録		
システム管理者・運用者の登録内容の変更		
システム管理者・運用者の削除		
ユーザの作成		
ユーザ情報の変更		
ユーザの削除		
システムポリシーの参照		

項番	動作情報	操作/コマンド
3	Enforce	システムポリシーの変更 コミュニティ一覧の表示 コミュニティの設定内容の参照 [簡単コミュニティ作成] 画面の表示 コミュニティの作成 コミュニティの設定内容の変更 コミュニティの削除 コミュニティメンバー一覧の表示 コミュニティメンバーの詳細情報の参照 コミュニティメンバーの追加 [コミュニティメンバー追加] 画面の表示 [コミュニティメンバー変更] 画面の表示 コミュニティメンバーの詳細情報の変更 コミュニティメンバーの削除 コミュニティ内の役割一覧の表示 コミュニティ内の役割の参照 コミュニティ内の役割の作成 コミュニティ内の役割の変更 コミュニティ内の役割の削除 他コンポーネントからコミュニティ管理へのアクセスがあった場合
4	Refer	ログイン コミュニティテンプレート一覧の表示 コミュニティテンプレートの設定内容の参照 共通の役割一覧の表示 システム管理者・運用者一覧の表示 システム管理者・運用者の登録内容の参照 ユーザ情報一覧の表示 ユーザ情報の参照 システムポリシーの参照 コミュニティ一覧の表示 コミュニティの設定内容の参照

項番	動作情報	操作/コマンド
4	Refer	[簡単コミュニティ作成] 画面の表示
		コミュニティメンバー一覧の表示
		コミュニティメンバーの詳細情報の参照
		[コミュニティメンバー変更] 画面の表示
		コミュニティ内の役割一覧の表示
		コミュニティ内の役割の参照
		他コンポーネントからコミュニティ管理へのアクセスがあった場合
		get_community
5	Update	コミュニティカテゴリの変更
		システム管理者・運用者の登録内容の変更
		ユーザ情報の変更
		システムポリシーの変更
		コミュニティの設定内容の変更
		コミュニティ内の役割の変更
		set_system
		set_application
		set_template
		set_worktemplate
		set_role
		set_member

(3) オブジェクトロケーションの詳細

メッセージに出力されるオブジェクトロケーション情報と操作またはコマンドの対応を次の表に示します。

表 G-3 オブジェクトロケーション情報に出力される項目と操作またはコマンドの対応一覧

項番	オブジェクトロケーション情報	操作/コマンド
1	Category	コミュニティカテゴリの作成
		コミュニティカテゴリの変更
		コミュニティカテゴリの削除
2	Community	コミュニティ一覧の表示
		コミュニティの設定内容の参照
		コミュニティの作成
		コミュニティの設定内容の変更

項番	オブジェクトロケーション情報	操作/コマンド
2	Community	コミュニティの削除
		get_community
3	CommunityTemplate	コミュニティテンプレートの設定内容の参照
4	Member	コミュニティの作成
		コミュニティメンバの追加
		set_member
		del_member
5	MemberRole	コミュニティの作成
		コミュニティメンバの追加
		コミュニティメンバの詳細情報の変更
		del_member
6	System	システム管理者・運用者一覧の表示
		システム管理者・運用者の登録
		システム管理者・運用者の登録内容の参照
		システム管理者・運用者の登録内容の変更
		システム管理者・運用者の削除
		システムポリシーの参照
		システムポリシーの変更
		他コンポーネントからコミュニティ管理へのアクセスがあった場合
		set_system
		set_member
		7
ユーザ情報一覧の表示		
ユーザ情報の参照		
ユーザ情報の変更		
ユーザの削除		
コミュニティの作成		
コミュニティメンバの追加		
set_member		
del_member		
8	Workplace	コミュニティの設定内容の参照

項番	オブジェクトロケーション情報	操作/コマンド
8	Workplace	コミュニティの作成
		コミュニティの設定内容の変更
9	コミュニティ ID	コミュニティメンバー一覧の表示
		コミュニティメンバーの詳細情報の参照
		[コミュニティメンバー変更] 画面の表示
		コミュニティメンバーの削除
		コミュニティ内の役割一覧の表示
		コミュニティ内の役割の参照
		コミュニティ内の役割の作成
		コミュニティ内の役割の変更
		コミュニティ内の役割の削除
		他コンポーネントからコミュニティ管理へのアクセスがあった場合

(4) 変更後情報の詳細

メッセージに出力される変更後情報と操作またはコマンドの対応を次の表に示します。

表 G-4 変更後情報に出力される項目と操作またはコマンドの対応一覧

項番	変更後情報	操作/コマンド
1	categoryid	コミュニティカテゴリの変更
2	collaboapid	set_application
3	commuid	コミュニティの設定内容の変更
4	memberid	コミュニティメンバーの詳細情報の変更
5	roleid	コミュニティ内の役割の変更
		set_role
6	SystemPolicy	システムポリシーの変更
		set_system
7	systemrole	システム管理者・運用者の登録内容の変更
8	templateid	set_template
9	uniqueid	ユーザ情報の変更
		set_member
10	workplaceid	コミュニティの設定内容の変更
11	worktplid	set_worktemplate

(5) 権限情報の詳細

メッセージに出力される権限情報と操作の対応を次の表に示します。

表 G-5 権限情報に出力される項目と操作の対応一覧

項番	権限情報	操作
1	システム管理者	システム管理者・運用者の登録
		システム管理者・運用者の登録内容の変更
		システム管理者・運用者の削除
2	システム管理者/運用者	コミュニティカテゴリの作成
		コミュニティカテゴリの変更
		コミュニティカテゴリの削除
		システム管理者・運用者専用メニューの表示
		ユーザの作成
		ユーザ情報の変更
		ユーザの削除
		システムポリシーの参照
		システムポリシーの変更
		[簡単コミュニティ作成] 画面の表示
		コミュニティの作成
3	コミュニティ管理者/運用者	コミュニティの設定内容の変更
		[コミュニティメンバ情報変更] 画面の表示
		コミュニティの削除
		コミュニティメンバの追加
		[コミュニティメンバ追加] 画面の表示
		コミュニティメンバの削除
		コミュニティ内の役割の作成
		コミュニティ内の役割の変更
コミュニティ内の役割の削除		
4	コミュニティ作成者	コミュニティ内の役割一覧の表示
		コミュニティ内の役割の参照
		他コンポーネントからコミュニティ管理へのアクセスがあった場合
5	メンバ	コミュニティ一覧の表示
		コミュニティの設定内容の参照

項番	権限情報	操作
5	メンバ	コミュニティメンバー一覧の表示
		コミュニティメンバの詳細情報の参照
		コミュニティメンバの追加
		[コミュニティメンバ追加] 画面の表示
		[コミュニティメンバ変更] 画面の表示
		コミュニティメンバの削除
		コミュニティ内の役割一覧の表示
		コミュニティ内の役割の参照
		他コンポーネントからコミュニティ管理へのアクセスがあった場合
6	自分	コミュニティメンバの追加
		[コミュニティメンバ追加] 画面の表示
		[コミュニティメンバ情報変更] 画面の表示
		コミュニティメンバの削除
7	メンバ情報	コミュニティメンバの詳細情報の変更
8	誰でも	コミュニティの設定内容の参照
		コミュニティ一覧の表示
		コミュニティメンバー一覧の表示
		コミュニティメンバの詳細情報の参照
		コミュニティメンバの追加
		[コミュニティメンバ追加] 画面の表示
		[コミュニティメンバ変更] 画面の表示
		コミュニティメンバの削除
		コミュニティ内の役割一覧の表示
		コミュニティ内の役割の参照
		他コンポーネントからコミュニティ管理へのアクセスがあった場合
9	参加中	ログイン

付録 H 用語解説

(英字)

UID (User ID)

ディレクトリサーバに登録されているユーザのユーザ ID です。

(ア行)

オブザーバ

コミュニティを利用するための役割の一つです。システムで決められた権限はありません。どのような権限を与えるかは、コミュニティの目的に合わせて自由に設定できます。一般的には、コミュニティのリソースに対して参照だけを許可するように設定します。

(カ行)

カテゴリ

コミュニティカテゴリの略称です。

管理者主導型

コミュニティ管理者がすべての権限を持って運営するタイプのコミュニティです。メンバの追加および削除の権限もコミュニティ管理者およびコミュニティ運用者だけが持ちます。最初のコミュニティ管理者には、コミュニティの作成者が登録されます。

共通ルール一覧

すべてのコミュニティで利用する役割の一覧です。

現場主導型

すべてのメンバが対等で、メンバ全員で運営するタイプのコミュニティです。メンバの追加および削除の権限をメンバ全員が持ちます。最初のコミュニティ管理者には、コミュニティの作成者が登録されます。

コミュニティ

コミュニティとは、同じ目的や問題意識を持つ人の集まりです。コミュニティに参加している人々は相互に情報交換や情報共有し、目的の実現を目指します。

コミュニティ ID

コミュニティを一意に識別できる文字列です。新規にコミュニティを作成したときに、システムによって自動的に付けられます。

コミュニティ運用者

コミュニティを管理するための役割の一つです。コミュニティ運用者は、コミュニティポリシーを変更できます。

コミュニティカテゴリ

コミュニティが多くなった場合に、コミュニティを分類してツリー形式で表示すると見やすくなります。このようなコミュニティを分類したときの一まとまりをコミュニティカテゴリといいます。

コミュニティ管理者

コミュニティを管理するための役割の一つです。コミュニティを作成したユーザが最初のコミュニティ管理者となります。コミュニティ管理者は、コミュニティポリシーを変更できます。また、コミュニティ管理者とコミュニティ運用者を任命できます。

[コミュニティ管理] ポートレット

Collaboration - Online Community Management のポートレットです。

コミュニティテンプレート

Collaboration - Online Community Management で提供している、コミュニティを作成するためのひな形です。コミュニティテンプレートには、コミュニティポリシーやワークスペースなどの必要な情報が設定されているため、コミュニティ名を設定するだけで、コミュニティを作成できます。コミュニティテンプレートには、管理者主導型、現場主導型、自由参加型があります。

コミュニティポリシー

コミュニティの属性の一つです。コミュニティを運用する上でどのユーザにどのような権限を与えるかを設定したものです。コミュニティポリシーは、コミュニティ管理者およびコミュニティ運用者が変更できます。

コミュニティメンバ

コミュニティに参加中の人です。コミュニティメンバとして登録すると、Collaboration - Online Community Management のデータベースサーバに登録されていないユーザも自動的に Collaboration - Online Community Management のデータベースサーバに登録されます。

(サ行)

削除状態レコード

データベースのユーザ情報テーブルやメンバ情報テーブルなどの削除フラグが設定されているレコードです。

システム運用者

システムを管理するための役割です。システム運用者はシステムポリシーを変更できます。システム運用者は、システム管理者によって任命されます。

システム管理者

システムを管理するための役割です。システム管理者はシステムポリシーを変更できます。また、システム管理者は、システム管理者とシステム運用者を任命できます。

システム管理ロール

システム管理者またはシステム運用者を表す役割です。

システムポリシー

システムを管理する上で、どのユーザにどのような権限を与えるかを設定したものです。システムポリシーは、システム管理者およびシステム運用者が変更できます。

自由参加型

参加や脱退が、個人に任されているタイプのコミュニティです。メンバではない人も自由に参加できます。メンバの追加および削除の権限をメンバ全員が持ちます。特別な場合を除き、コミュニティ管理者が何もしなくてもコミュニティは運営されます。最初のコミュニティ管理者には、コミュニティの作成者が登録されます。

(タ行)

ディレクトリサーバ

ディレクトリデータベース用のサーバです。ディレクトリデータベースにはネットワークを利用するユーザのユーザ ID やメールアドレスなどの情報が格納されています。

(マ行)

メンバ

- コミュニティを利用するための役割の一つです。コミュニティ利用者用の役割としてのメンバの場合、システムで決められた権限はありません。どのような権限を与えるかは、コミュニティの目的に合わせて自由に設定できます。一般的には、コミュニティのリソースに対して参照、書き込みができるように設定します。
- コミュニティメンバの略称です。

(ヤ行)

役割

役割には、コミュニティを利用するための役割とコミュニティを管理するための役割があります。

- **コミュニティを利用するための役割**
コミュニティを利用するための役割には、リーダー、メンバ、およびオブザーバがあります。これらの役割にはシステムで決められた権限はありません。各コミュニティで利用するアプリケーションごとに自由に使い分けられます。
また、コミュニティ独自の役割を作成することもできます。
- **コミュニティを管理するための役割**
コミュニティを管理するための役割には、コミュニティ管理者とコミュニティ運用者があります。コミュニティを作成したユーザが最初のコミュニティ管理者となります。コミュニティ管理者およびコミュニティ運用者は、コミュニティポリシーを変更できます。また、コミュニティ管理者は、コミュニティ管理者およびコミュニティ運用者を任命できます。

ユニーク ID

システムの利用者を一意に識別できる文字列です。通常はディレクトリサーバの UID とします。ただし、ディレクトリサーバに登録されていないユーザの場合は、E-mail アドレスなど一意であるものを指定します。

(ラ行)

リーダー

コミュニティを利用するための役割の一つです。システムで決められた権限はありません。どのような権限を与えるかは、コミュニティの目的に合わせて自由に設定できます。一般的には、コミュニティのリソースに対して参照、書き込み、管理のすべてができるように設定します。

ローカルロール一覧

各コミュニティに登録されている役割の一覧です。

(ワ行)

ワークスペース

同じコミュニティに参加しているコミュニティメンバ間で共有する作業場です。

ワークスペースビュー

ワークスペースの情報を基に、アプリケーション（ポートレット）を使いやすいようにレイアウトしたユーザインタフェースです。

索引

C

Collaboration - Directory Access との連携 11
Collaboration - File Sharing との連携 11
Collaboration - Forum との連携 11
Collaboration - Mail との連携 11
Collaboration - Online Community Management
2
Collaboration - Online Community Management
とは 2
Collaboration - Online Community Management
の運用 33
Collaboration - Online Community Management
の概要 1
Collaboration - Online Community Management
の環境設定 13
Collaboration - Online Community Management
の環境設定の流れ 14
Collaboration - Online Community Management
の監査ログ 229
Collaboration - Online Community Management
のシステム構成 12
Collaboration - Online Community Management
の障害対策 161
Collaboration - Online Community Management
のデータのバックアップ 162
create rdarea 文 17

D

DB Connector の設定 27
del_member 112
del_member.cfg 156
del_record 115

E

-e オプションに指定するログファイル 91

G

get_community 119

H

HiRDB ファイルシステム領域の見積もり 20
hptl_clb_ccm_cmd.properties 28
hptl_clb_ccm_rdarea_p.def 159

hptl_clb_ccm_rdarea_s.def 159
hptl_clb_ccm_table.sql 159
hptl_clb_ccm.properties 28
HPTLCLBCCM 26

J

J2EE Resources のデータベースへの指定 27

O

-o オプションに指定する出力ファイル 90

P

PDBLKF 26
PDCLTCNVMODE 26
PDCWAITTIME 26
PDHOST 26
PDLOCKSKIP 26
PDNAMEPORT 26
PDSWAITTIME 26
PDSWATCHTIME 26
PDUSER 26

R

RAS 用 Conf ファイルの設定 164
RD エリアごとのテーブル一覧 16
RD エリアの設計 15
RD エリアの容量計算 16
RD エリア用制御文ファイル 16, 159

S

set_application 97
set_application.cfg 141
set_member 109
set_member.cfg 154
set_role 106
set_role.cfg 150
set_system 94
set_system.cfg 140
set_template 100
set_template.cfg 143
set_worktemplate 103
set_worktemplate.cfg 148
SQL オブジェクト用バッファ長の見積もり 20

U

UID 276

あ

値の説明で使用する記号 187
 アプリケーション情報の登録 30
 アプリケーションの登録・削除 97
 アプリケーションリストファイル 141

い

[一般ユーザ] 画面 78
 インストール 25
 インストールディレクトリ構成 166
 インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する値
 214

う

運用コマンド 87

お

オブザーバ 5, 276
 オブジェクト情報の詳細 265
 オブジェクトロケーションの詳細 271
 オプションの指定方法 89

か

各コマンド定義ファイルの詳細 140
 各コマンドに共通の条件および規則 89
 各コマンドの詳細 94
 カテゴリ 276
 必ず設定する環境変数 26
 環境変数グループの登録 26
 監査ログが出力されるコマンド 232
 監査ログが出力される操作 230
 監査ログに出力される値の一覧 265
 監査ログに出力されるオブジェクト情報 234
 監査ログに出力されるオブジェクト情報と動作情報
 234
 監査ログに出力される動作情報 235
 監査ログのメッセージ 247
 監査ログのメッセージの記載形式 247
 監査ログのメッセージの詳細 248
 管理者主導型 6, 276

き

[共通の役割一覧] 画面 55

共通の役割一覧の表示 37
 共通の役割関連の画面 55
 [共通の役割情報] 画面 56
 共通の役割情報の登録 31
 共通の役割定義ファイル 150
 共通の役割の参照 37
 共通の役割の設定内容の参照 37
 共通プロパティファイル 28
 共通プロパティファイル (hptl_clb_ccm.properties)
 のキー情報 126
 共通ローラー一覧 276

<

グローバルバッファ 19
 グローバルバッファの計算と目安 19

け

権限情報の詳細 274
 現場主導型 6, 276

こ

コマンド一覧 88
 コマンド実行時に出力されるメッセージ 237
 コマンド定義ファイル 137
 コマンド定義ファイルの記述方法 138
 コマンドの実行条件 89
 コマンドの実行方法 92
 コマンドプロパティファイル 28
 コマンドプロパティファイル
 (hptl_clb_ccm_cmd.properties) のキー情報 130
 コミュニティ 2, 276
 コミュニティ ID 276
 コミュニティ運用者 5, 276
 コミュニティカテゴリ 10, 276
 [コミュニティカテゴリ] 画面 57
 コミュニティカテゴリ関連の画面 57
 [コミュニティカテゴリ作成] 画面 58
 [コミュニティカテゴリ情報] 画面 58
 コミュニティカテゴリの概念と対応するツリー 10
 コミュニティカテゴリの削除 39
 コミュニティカテゴリの作成 38
 コミュニティカテゴリの設定内容の表示 38
 コミュニティカテゴリの操作 38
 コミュニティカテゴリの表示 38
 コミュニティカテゴリの変更 39
 [コミュニティカテゴリ変更] 画面 60
 コミュニティ管理者 5, 277
 [コミュニティ管理] ポートレット 277

[コミュニティ管理] ポートレットの画面 49
 コミュニティ情報一覧の出力 119
 コミュニティ情報一覧ファイル 158
 コミュニティで使用する役割 5
 コミュニティテンプレート 6, 277
 コミュニティテンプレート一覧の表示 36
 コミュニティテンプレート関連の画面 52
 コミュニティテンプレート情報の登録 30
 コミュニティテンプレートに設定されているコミュニティポリシー 6
 コミュニティテンプレートの参照 36
 コミュニティテンプレートの設定内容の参照 36
 コミュニティテンプレートの追加 100
 コミュニティとワークスペース, ワークスペースビュー 4
 コミュニティの一覧 72
 コミュニティのユーザ 7
 コミュニティポリシー 5, 277
 コミュニティメンバ 2, 277
 コミュニティメンバの一覧 72
 コミュニティメンバの登録 8
 コミュニティを管理するための役割 5
 コミュニティを利用するための役割 5
 コンフィグレーションプロパティの設定項目 27

さ

削除状態レコード 277
 削除メンバー一覧ファイル 157
 削除ユーザー一覧ファイル 156

し

システム運用者 9, 277
 システム管理者 9, 277
 システム管理者および運用者一覧の表示 41
 システム管理者および運用者関連の画面 62
 システム管理者および運用者の検索 41
 システム管理者および運用者の削除 43
 システム管理者および運用者の情報の参照 42
 システム管理者および運用者の登録 41
 システム管理者および運用者の登録内容の変更 42
 システム管理者とシステム運用者 9
 システム管理者の登録 32
 [システム管理者・運用者] 画面 62
 [システム管理者・運用者検索] 画面 63
 [システム管理者・運用者情報] 画面 75
 [システム管理者・運用者登録] 画面 64
 [システム管理者・運用者変更] 画面 75
 システム管理ロール 277

システム情報 (システムポリシー) の登録 30
 システム情報定義ファイル 140
 システム情報の設定 94
 システムの管理者および運用者に関する操作 41
 システムポリシー 9, 277
 [システムポリシー] 画面 84
 システムポリシー関連の画面 84
 システムポリシーに関する操作 47
 システムポリシーの参照 47
 システムポリシーの変更 47
 [システムポリシー変更] 画面 85
 実行時プロパティの設定項目 27
 自由参加型 6, 277
 使用できる文字種 228

せ

前提プログラム 12

そ

操作と実行できるユーザ 35

た

他ポートレットとの連携 11

て

ディレクトリサーバ 278
 データベースサーバの構築 15
 データベースサーバの設定 30
 データベースの共通リソースのバックアップ 162
 データベース容量の見積もり 15
 データベース容量の見積もりで使用される値 187
 テーブル定義ファイル 159
 テーブル定義ファイルの作成 21
 テーブルの生成 21
 [テンプレート一覧] 画面 52
 [テンプレート情報] 画面 (基本情報) 53
 [テンプレート情報] 画面 (コミュニティポリシー) 53
 テンプレート定義ファイル 143

と

統合インストーラ 25
 動作情報の詳細 268
 登録・変更ユーザー一覧ファイル 154

な

内部ディレクトリユーザ 7

は

バックアップとリストア 162
 バックアップファイル 158
 バッチファイル 134

ひ

非ディレクトリユーザ 7
 表の格納ページ数の見積もりで使用する値 190

ふ

プロパティファイルとバッチファイル 125
 プロパティファイルの一覧 126
 プロパティファイルの記述形式 132
 プロパティファイルのサンプルファイル 133
 プロパティファイルの設定 28

へ

変更後情報の詳細 273

め

メッセージ一覧 238
 メッセージの形式 237
 メニュー 50
 メニューの表示 34
 メニュー領域 34
 メンバ 5, 278

も

モデルケースごとの RD エリアの容量 170
 モデルケースごとのデータベース容量 168
 モデルケースごとのテーブルおよびインデックスのセグメント数 171

や

役割 278

ゆ

ユーザおよびメンバの一括削除 112
 [ユーザ検索] 画面 77
 [ユーザ作成] 画面 80
 [ユーザ情報] 画面 81
 ユーザ情報の参照 45
 ユーザ情報の変更 45
 ユーザ操作関連の画面 77
 ユーザに関する操作 44
 ユーザの一括登録・変更 109

ユーザの検索 44
 ユーザの削除 46
 ユーザの作成 44
 [ユーザ変更] 画面 82
 ユーザ用 RD エリアの容量見積もりで使用する値 189
 [ユーザを探す] 画面 (簡易検索) 66
 [ユーザを探す] 画面 (詳細検索) 68
 [ユーザを探す] 画面 (ツリー表示) 70
 ユニーク ID 7, 278

よ

用語解説 276
 容量見積もりの前提条件 187

り

リーダー 5, 278
 リストア 162

れ

レコードの削除 115

ろ

ローカルロール一覧 278
 ロールの追加 106

わ

ワークスペース 2, 278
 ワークスペーステンプレート情報の登録 31
 ワークスペーステンプレート定義ファイル 148
 ワークスペーステンプレートの追加 103
 ワークスペースビュー 4, 279